

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9

多通貨処理

PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
多通貨処理 PeopleBook
SKU FM89JMC0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失および故意を含む）のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

多通貨処理の概要	1
例:多通貨処理	3
単一通貨から多通貨環境への変更	4
国内通貨コードの更新	5
チェックリスト:一般会計システムの多通貨の設定	8
多通貨の基本設定	8
為替レートの設定	9
未実現為替差損益用 AAI	10
通貨別残高の転記	10
多通貨会社間決済	10
詳細再換算	11
残高再換算	12
仮定再換算	12
多通貨固定情報の設定	13
通貨コードの設定	16
通貨の小数点以下桁数の取扱方法	18
会社の多通貨の設定	18
通貨別残高と集計残高	19
集計残高から通貨別残高への変更	22
多通貨元帳タイプの検討	23
通貨勘定への通貨コードの割当て	23
一般会計システムの多通貨用 AAI の設定	25
通貨銀行勘定の未実現為替差損益 AAI	25
通貨別残高転記用 AAI	26
為替レート	28
為替レート計算方法	28
逆換算方法	29
逆換算禁止方法	30
間接為替方法	31
為替レートの設定とスポット・レート	33
逆換算方法用の為替レートの設定	33

逆換算禁止方法用の為替レートの設定	36
間接為替方法用の為替レートの設定	38
処理オプション: 為替レートの入力(P0015A)	41
単一通貨に対する複数為替レートの設定	42
為替レートの検討	45
為替レート・レポートの印刷	47
通貨クロス・レート相互関係の作成	48
通貨クロス・レート相互関係の関連タスク	50
通貨クロス・レート関係に基づく為替レートの計算	51
処理オプション: クロス通貨レートの計算(P11153)	51
[日付の一致]処理オプションの一時変更	52
外部ソースからの為替レートのアップロード	53
F0015Z1 ワークテーブルのフィールド	54
外部為替レートの改訂	57
外部為替レートの処理	63
処理オプション: 外部為替レートの処理(R0015Z1)	64
処理オプション: 外部為替レートの除去(R0015Z1P)	64
チェックリスト: 売掛管理システムの多通貨セットアップ	65
外貨建て顧客レコード	65
外貨建て請求書	65
外貨および代替通貨建ての入金	66
外貨建て手形	67
外貨建て自動引落し処理	68
仮定通貨処理	68
外貨による実現および未実現為替差損益 AAI	69
代替通貨建て実現為替差損益 AAI	70
顧客レコードへの通貨コードの割当て	70
顧客マスター情報(P03013)の多通貨処理オプション	72
固定情報での集計方式の設定	73
売掛管理システムの多通貨用 AAI の設定	75

外貨建て請求書の未実現為替差損益 AAI.....	75
外貨建て入金の実現為替差益 AAI.....	77
代替通貨建て入金の実現為替差益 AAI.....	78
外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI.....	79
代替通貨建て入金 of 仮勘定 AAI.....	79
外貨建て売掛勘定 AAI.....	80
外貨建て受取銀行勘定 AAI.....	81
顧客通貨の換算	82
住所録換算プログラムの処理内容.....	82
例:顧客金額の換算.....	83
例:異なる通貨の親/子構造.....	85
処理オプション:住所録換算 – F03012(R8903012E).....	86
多通貨請求書	87
国内通貨対外貨建て取引.....	87
税抜き外貨建て取引における国内通貨建て金額の計算.....	87
例:複数の支払項目に分割される外貨建て取引.....	88
例:複数の支払項目で入力された外貨建て取引(分割支払項目なし).....	88
税込み外貨建て取引における国内通貨建て金額の計算.....	89
例:税込み外貨建て取引.....	90
四捨五入と集計四捨五入.....	91
多通貨バッチ合計.....	92
外貨建て請求書の入力.....	92
請求書入力時に更新される AID フィールド.....	95
外貨建て請求書の関連タスク.....	95
外貨建て請求書の検討.....	95
表示される取引金額に影響する日付.....	95
多通貨処理オプション:請求書入力 MBF (P03B0011).....	99
外貨建て請求書の印刷.....	101
多通貨バッチ請求書の処理.....	101
バッチ請求書用の金額、為替レートおよび通貨モード・フィールドのガイドライン.....	102
F03B11Z1 および F0911Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド.....	103
仮定通貨建て請求書の検討.....	105
多通貨処理オプション:売掛金元帳照会(P03B2002).....	109
外貨建て請求書の転記.....	110
多通貨による入金	111
総勘定元帳入金.....	113
外貨および代替通貨建て入金用プログラム.....	113

外貨によるキャッシュフロー予測	113
外貨による入金入力	114
外貨建て入金の関連トピック	120
入金入力(P03B102)の多通貨処理オプション	120
代替通貨での入金入力	122
例:代替通貨建て入金の T 勘定	122
入金および手形入力時に更新される多通貨フィールド	129
外貨建ての自動入金処理	132
F03B13Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド	133
外貨または代替通貨建て入金の検討	134
国内通貨または外貨による計算書の検討	134
国内通貨または外貨による計算書の生成	136
外貨建ての自動引落し処理	137
外貨および代替通貨建て入金の転記	138
通貨銀行勘定への入金の転記	139
入金と手形の転記時に作成される多通貨自動仕訳	140
入金転記時に記録される四捨五入差異	142
入金および手形の転記によって作成される多通貨仕訳	142
外貨建て払戻しの作成	143
外貨建て受取手形の処理	144
偶発債務を伴う手形の取立	145
外貨建て手形および処理オプション	146
多通貨与信および回収管理	147
多通貨での延滞通知の印刷	151
多通貨での延滞利息金の生成	151
与信分析データの再作成の実行	151
多通貨での顧客勘定の検討	152
多通貨での顧客統計情報の更新	154
売掛金の為替差損益	155
未実現為替差損益の計算	155
未実現為替差損益レポートの実行	156
例:外貨建て請求書の未実現為替差損益	157
処理オプション:未実現為替差損益レポート(R03B426)	157
実現為替差損益の計算	158

例: 外貨建て請求書および入金による実現為替差益	160
例: 代替通貨建て請求書および入金による実現為替差益	160

売掛管理システムの多通貨レポート 162

多通貨用未決済売掛金明細レポート	162
処理オプション: 通貨明細 - 外貨と国内通貨(R03B429A)	163
処理オプション: 通貨明細 - 年齢調べ付き(R03B429B)	163
処理オプション: 通貨明細(外貨/国内通貨) - 年齢調べ(R03B429C)	166
未決済売掛金 - 外貨建て集計レポート(R03B413B)	169
処理オプション: 未決済売掛金(外貨建て集計)レポート(R03B413B)	169
未決済売掛金(備考)レポート(R03B4201A)	171
未決済売掛金(備考)レポートの多通貨に関する考慮事項	171
処理オプション: 請求書明細レポート(R03B4201A)	172
未決済売掛金(年齢調べ)レポート(R03B4201B)	173
未決済売掛金(年齢調べ)レポートの多通貨に関する考慮事項	173
処理オプション: 未決済売掛金(年齢調べ)レポート(R03B4201B)	174
未決済売掛金集計分析レポート(R03B155)	179
処理オプション: 未決済売掛金集計分析レポート(R03B155)	179
売掛管理システムのその他の多通貨レポート	181

チェックリスト: 買掛管理システムの多通貨の設定 182

外貨建て仕入先レコード	182
外貨建て伝票	182
外貨および代替通貨建ての支払	183
外貨建て手形	184
仮定通貨処理	184
外貨による実現および未実現為替差損益 AAI	184
代替通貨建て実現為替差損益 AAI	185
仕入先レコードへの通貨コードの割当て	185
仕入先マスター情報(P04012)の多通貨処理オプション	187
固定情報での集計方式の設定	187
買掛管理システムの多通貨用 AAI の設定	190
外貨建て伝票の未実現為替差損益 AAI	190
外貨建て支払の実現為替差損益 AAI	192
代替通貨建て支払の実現為替差損益 AAI	193
代替通貨建て支払の仮勘定 AAI	194
支払銀行勘定の AAI	195
買掛金勘定の AAI	197
支払テキスト化コード	198

仕入先通貨の換算	199
住所録換算プログラムの処理内容	199
例: 仕入先金額の換算	201
例: 異なる通貨の親/子構造	202
処理オプション: 住所録換算 – F0401(R890401E)	203
多通貨伝票	204
国内通貨対外貨建て取引	204
税抜き外貨建て取引における国内通貨建て金額の計算	204
税込み外貨建て取引における国内通貨建て金額の計算	206
四捨五入と集計四捨五入	207
多通貨バッチ合計	208
外貨建て伝票入力	209
外貨建て伝票の関連タスク	211
伝票入力 MBF (P0400047)の多通貨処理オプション	212
外貨建て伝票の検討	214
表示される取引金額に影響する日付	214
多通貨バッチ伝票の処理	218
バッチ伝票用の金額、為替レートおよび通貨モード・フィールドのガイドライン	218
F0411Z1 および F0911Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド	219
多通貨での受信 EDI 伝票の処理	222
F47041、F47042、F47044 テーブルの多通貨必須フィールド	222
仮定通貨建て伝票の検討	225
伝票入力(P0411)の多通貨処理オプション	228
外貨建て伝票の転記	229
多通貨による支払	231
外貨および代替通貨建て支払用プログラム	233
外貨によるキャッシュフロー予測	233
外貨建て支払用支払予定レポート	234
外貨による支払入力	234
支払入力(P0413M)の多通貨処理オプション	238
代替通貨建て支払の入力	239
外貨または代替通貨建て自動支払の書込み	243
外貨または代替通貨建て支払グループの作成	244
外貨または代替通貨建て支払の書込み	248
買掛金元帳の更新	252
外貨または代替通貨建て支払の検討	252
外貨および代替通貨建て支払の転記	253

支払転記時に記録される四捨五入差異	255
外貨建て支払手形の処理	255
買掛金の為替差損益	257
未実現為替差損益の計算	257
未実現為替差損益レポートの実行	258
例: 外貨建て伝票の未実現為替差損益	259
処理オプション: 買掛金未実現為替差損益レポート(R04425)	259
実現為替差損益の計算	260
例: 外貨建て伝票および支払による実現為替差損益	262
例: 代替通貨建て支払による実現為替差損益	262
買掛管理システムの多通貨レポート	264
多通貨用未決済買掛金明細レポート	264
処理オプション: 通貨明細 - 外貨と国内通貨(R04427A)	265
処理オプション: 通貨明細 - 年齢調べ付き(R04427B)	266
処理オプション: 未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き(R04427C)	268
多通貨用未決済買掛金明細レポートのデータ順序	270
多通貨用未決済買掛金集計レポート	271
処理オプション: 外貨建て買掛金集計(R04413A)	271
多通貨用未決済買掛金集計レポートのデータ順序	273
承認者別買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き	273
処理オプション: 承認者別買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き(R04428C)	273
買掛管理システムのその他の多通貨レポート	276
多通貨仕訳	277
多通貨バッチ合計	277
外貨建て仕訳の入力	277
多通貨バッチ仕訳処理	282
バッチ仕訳用の金額、為替レートおよび通貨モード・フィールドのガイドライン	282
F0911Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド	283
多通貨仕訳の転記	284
勘定残高テーブルでの残高の保存方法	285
多通貨会社間決済	287
多通貨会社間決済のAAI	287
多通貨による会社間仕訳	288
多通貨を含む会社間仕訳の改訂	288
例: 多通貨会社間決済	288
例: 多通貨会社間決済の T 勘定	290

貸借一致の会社間勘定レポート	291
一般会計システムの未実現為替差損益	292
通貨勘定評価	292
例:通貨勘定評価.....	294
通貨勘定の未実現為替差損益の計算	294
処理オプション:通貨勘定評価(R09415).....	295
通貨勘定評価のデータ選択	300
銀行残高照合表処理における実現為替差損益	301
銀行残高照合表処理の多通貨に関する考慮事項	303
通貨再換算	307
通貨再換算方法	308
例:通貨再換算.....	309
詳細再換算	310
詳細再換算および使用する元帳.....	310
国内通貨建て取引の詳細再換算による為替差損益.....	313
外貨建て取引の詳細再換算による為替差損益.....	314
詳細再換算の設定	315
詳細再換算仕訳の処理	322
詳細再換算の計算	324
詳細通貨取引の検討と承認.....	328
詳細通貨取引の転記	329
残高再換算	330
残高再換算および使用する元帳.....	332
残高再換算の設定	332
残高再換算のための計算	346
連結元帳での繰越利益の計算	353
仮定再換算	353
仮定再換算および使用する元帳.....	354
仮定再換算のための計算	356
多通貨の複数サイト集計	358
多通貨を使用した複数サイト集計の基本ステップ	360
一般会計システムの多通貨用照会プログラムおよびレポート	363
仮定通貨処理について	363
国内通貨、外貨、仮定通貨建て金額の検討	364
外貨建て勘定残高レポート.....	372
処理オプション:外貨建て勘定残高(R09707).....	373

多通貨処理の概要

国際的にビジネスを展開している企業では、各取引でさまざまな通貨を使用します。多通貨を扱う企業の会計システムでは、複雑な処理を行うためのセットアップが必要となります。事業を行う国での報告要件および会計基準に従って、各通貨での取引を処理する必要があります。

国際企業における基本的な業務要件として、次のような処理は必要不可欠です。

- 外貨建て金額から国内通貨建て金額への換算
- 国内通貨または外貨、および代替通貨（外貨/国内通貨以外の通貨）での入金または支払
- 為替レートの変動に応じた通貨の再評価
- 連結財務報告用に1つの共通通貨を使った金額換算

外貨および代替通貨を処理するには、多通貨プログラムを使用します。多通貨を扱う場合にのみ使用されるプログラムもありますが、多通貨機能が備わっている標準のプログラムもあります。たとえば、外貨建ての請求書を入力する場合、国内通貨建ての請求書を入力するのと同じプログラムを使用します。

多通貨処理によって、あらゆる通貨の連結や再換算、比較を行うことができ、その他にもさまざまな処理が可能となります。多通貨機能については、次の表を参照してください。

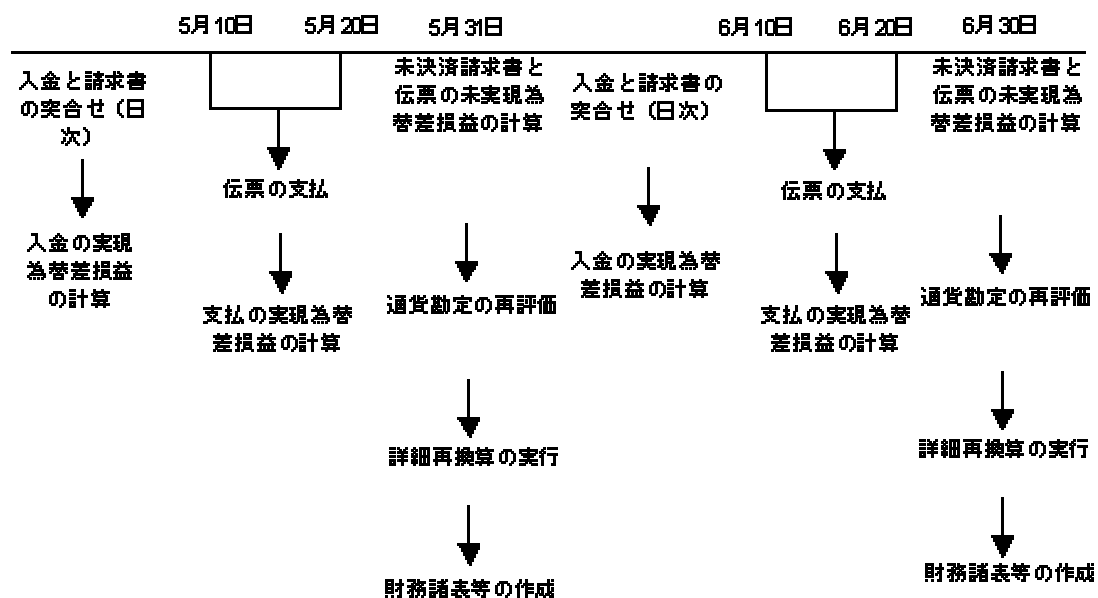
多通貨機能	記述
多通貨	世界中のすべての通貨に対応します。外貨建てで作成した取引が、自動的に国内通貨に換算されます。また代替通貨を使用して、入金の入力および支払の作成ができます。
通貨優先情報	会社、仕入先、顧客、勘定科目、従業員のそれぞれに異なる通貨を指定できます。
為替レート	使用する各通貨に対して為替レートを設定、制御します。取引を入力すると為替レートが自動的に検索されますが、必要に応じて為替レートを変更することもできます。
為替レート方法	各通貨関係に対して為替レート方法を設定します。 為替レートを扱うすべてのプログラムには、為替レートの計算方式として乗数および除数方法（逆換算方法とも呼びます）または逆換算禁止方法があります。また、間接為替換算によりすべてのプログラムで第3通貨を通して為替レートを計算できます。
取引入力	取引を入力すると、取引通貨と会社の基本通貨が比較されます。会社の通貨と異なる取引は、外貨建て取引と見なされます。外貨金額から国内通貨金額への換算は、取引通貨およびその取引と関連する会社に基づいて行われます。 請求書、伝票、その他の取引は、国内通貨と外貨のどちらかに関係なく、受け取った請求書や送付した請求書の通貨（取引通貨）で入力します。入金および支払については、代替通貨も使用できます。

多通貨機能	記述
代替通貨処理	代替通貨処理を使用すると、どの通貨で入金されても、当初の請求書を無効にして支払通貨で新しく請求書を作成する必要がありません。支払を行う場合も同様です。
仮定通貨	取引金額を、実際にデータとして持っている以外の通貨で表示することができます。仮定通貨処理を使用すると、当初取引入力時の通貨に関係なく取引金額を代替通貨で検討することができます。
為替差損益	支払や入金を入力すると、最新の為替レートを使って自動的にが計算されます。為替差損益は、請求書や伝票の入力時の為替レートと入金や支払時の為替レートが異なる場合に計算されます。
通貨再評価	会計期間の終わりに未決済取引を再評価するには為替差損益レポートを使用します。また、未実現為替差損益仕訳を作成するプログラムを使用して、通貨勘定(特定の通貨を指定した勘定科目)の再評価を行うこともできます。
通貨再換算	<p>会計期間末に財務諸表等を作成する前に、次の処理を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 連結財務諸表を作成するために、基本通貨が異なる会社の勘定残高を1つの通貨で再換算する 取引レベルで金額を再換算する 予算分析や作業原価計算のために、新しい為替レートで外貨建て取引を再換算する
連結レポート作成	<p>連結レポート作成機能によって、次の処理を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外子会社から親会社の通貨への換算調整を自動的に計算できます。 為替レートを期間平均、期末、期首、実績、または予算為替レートから選択できます。通貨再換算の柔軟性を最大限に生かせます。 <p>現地と親会社両方の会計処理方法に基づくデータ管理により、財務会計基準書(SFAS) 52 や国際会計基準(IAS)などの会計基準に対応できます。</p>
インフレ経済	高インフレ経済下では、2通りの帳簿を管理することができます。使用するの、現地通貨と安定通貨です。
柔軟なレポート作成機能	レポートおよび照会機能により、さまざまな通貨で残高を表示することが可能です。たとえば、取引通貨での銀行勘定の詳細な動きや為替リスクを分析することができます。
通貨別勘定残高	通貨別に保管する勘定残高を指定できます。会社別または勘定科目コード範囲別に勘定科目を指定します。
仮定再転記	仮定再転記は、同じ日の為替レートで入力したと仮定して外貨取引を再換算する機能で、為替変動に左右されない予算分析が可能です。
銀行残高照合表処理	磁気メディアによる処理や電子資金決済(銀行振込)など、支払処理に銀行が関与するケースが頻繁にあります。銀行残高照合表には、銀行でのすべての資金の動きが示されます。銀行残高照合表にある取引を入力したり残高調整を行うには、銀行残高照合表処理を使用します。

例:多通貨処理

次の例は、2 か月の会計周期と、多通貨環境で取引を処理する際のさまざまなタスクを示しています。

多通貨処理



単一通貨から多通貨環境への変更

多通貨機能を有効にしないでこのソフトウェアを使用していて、これから多通貨処理に移行する場合、「はじめる前に」のチェックリストを確認してください。チェックリストに記載されているすべての設定を行った後、国内通貨コードを更新する処理を実行して、すべての取引の通貨コードを空白から有効な通貨コードに更新します。国内通貨コードを更新した後、最後に3つの処理を実行する必要があります。これで、多通貨建て取引の処理を開始することができます。

はじめる前に

- 通貨の換算方法を選択し、基本通貨が異なる会社間の仕訳の許可を指定します。
『多通貨処理』ガイドの「多通貨固定情報の設定」を参照してください。
- 使用する各通貨の通貨コードを指定します。
『多通貨処理』ガイドの「通貨コードの設定」を参照してください。
- 通貨再換算を使用するかどうか、使用する場合はどの方法を使用するかを決定します。
『多通貨処理』ガイドの「通貨再換算方法」を参照してください。
- 通貨別に勘定残高を管理するかどうかを決定します。
『多通貨処理』ガイドの「通貨別残高と集計残高」を参照してください。
- 組織内の各会社に対して、通貨コード、再換算方法、および通貨別に勘定残高を管理するかどうかを指定します。
『多通貨処理』ガイドの「会社の多通貨の設定」を参照してください。
- ユーザー定義テーブル 03/LT および 09/LA で元帳タイプを検討する。元帳を追加設定するか、追加する元帳に単一の通貨のみ設定するかどうかを決定します。
『多通貨処理』ガイドの「多通貨元帳タイプの検討」を参照してください。
- 特定の通貨での取引のみを記録する勘定科目を指定し、それらの勘定科目に通貨コードを割り当てます。
『多通貨処理』ガイドの「通貨勘定への通貨コードの割当て」を参照してください。
- 多通貨用 AAI(自動仕訳)を設定します。『多通貨処理』ガイドの次のトピックを参照してください。
 - 売掛管理システムの多通貨用 AAI の設定
 - 買掛管理システムの多通貨用 AAI の設定
 - 一般会計システムの多通貨用 AAI の設定
- 会社の国内通貨とその他すべての通貨間の初期為替レートを入力します。
- 『多通貨処理』ガイドの「逆換算方式用為替レートの設定」または「逆換算禁止方式用為替レートの設定」を参照してください。

金融市場で公開されていない為替レートを作成するには、『多通貨処理』ガイドの「通貨クロス・レート相互関係の作成」を参照してください。

- 顧客と仕入先に通貨コードを割り当てて、請求書と伝票の通貨を指定します。『多通貨処理』ガイドの次のトピックを参照してください。
- 顧客レコードへの通貨コードの割当て
- 仕入先レコードへの通貨コードの割当て

国内通貨コードの更新

〈多通貨上級操作〉メニュー(G1131)から〈国内通貨コードの導入〉プログラムを選択します。

多通貨機能を有効にしない状態でこのソフトウェアを使用していて、これから多通貨処理に変更する場合、既存のすべての取引を有効なコード(ブランク以外)に更新するために〈国内通貨コードの導入〉プログラムを実行する必要があります。このプログラムを実行する前は、すべてのレコードの通貨コードがブランクになっている必要があります。通貨コードのフィールドに値が含まれているレコードがある場合、プログラムは完了しません。

既存の取引の通貨コードを更新する場合、使用している各システムに対して〈国内通貨コードの導入〉プログラムを実行します。これらのバッチ・プログラムによって取引のモードが更新されますが、次のいずれかの状況が発生した場合はエラー・レポートが印刷されます。

- 会社が会社固定情報テーブル(F0010)に存在しない。
- 会社に国内通貨コードが指定されていない。会社に通貨コードを割り当てるには、〈会社名および番号〉プログラム(P0010)を使用します。

注:

このソフトウェアの初期設定で多通貨処理をオンにした場合は、〈国内通貨コードの導入〉プログラムを実行しないでください。

次の表は、〈国内通貨コードの導入〉プログラムの一覧とそれによって更新されるテーブルを示します。

プログラム	更新されるテーブル
国内通貨コードの導入 - 一般会計 (R11809)	取引明細(F0911)
国内通貨コードの導入 - 買掛管理 (R11804)	買掛金元帳(F0411) 支払見出し(F0413) 支払明細(F0414)

プログラム	更新されるテーブル
国内通貨コードの導入 - 売掛管理 (R11803)	売掛金元帳(F03B11) 請求書の改訂(F03B112) 入金見出し(F03B13) 入金明細(F03B14) 与信/資金管理(F03B15) 売掛金統計実績 (F03B16) 売掛金統計集計 (F03B16S) 延滞通知実績(F03B20) 延滞通知実績明細(F03B21) 延滞利息金仕訳履歴(F03B22) 延滞利息金仕訳履歴明細(F03B23) 損金管理(F03B40) 損金活動(F03B41)
国内通貨コードの導入 - 税(R11818)	税 (F0018)
国内通貨コードの導入 - 勘定残高 (R11802)	勘定残高(F0902)の CRCX フィールド
国内通貨コードの導入 - システム 48S/52 (R11848S)	サービス請求ワークテーブル(F4812) 請求ワークテーブル履歴(F4812H) 請求書集計ワークテーブル(F4822) 契約マスター (F5201) 契約請求行明細テーブル(F5202)
国内通貨コードの導入 - 不動産管理 (R11815)	テナント/賃貸契約請求明細マスター(F1511B) 定期請求マスター(F1502B) 歩合請求マスター(F15013B) テナント経費分担クラス・マスター(F15012B) テナント賃料増額マスター(F15016B) 保証金マスター(F1565)

〈国内通貨コードの導入〉プログラムを実行して取引を有効な通貨コードで更新した後、次のことを行う必要があります。

- ・ 〈表示小数点以下桁数の更新〉プログラムを実行する必要があるかどうかを判断します。
- ・ 取引明細を再転記して、勘定残高テーブル(F0902)の通貨コード・フィールドを更新します。
- ・ 会計年度を締め、F0902 テーブルの繰越残高フィールドを更新します。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「表示小数点以下桁数の更新」
- 『一般会計』ガイドの「取引明細の再転記」
- 『一般会計』ガイドの「会計年度の締め」

チェックリスト: 一般会計システムの多通貨の設定

一般会計システムで多通貨を処理できるように設定する場合、次のチェックリストを参考にしてください。

多通貨の基本設定

多通貨処理を使用するには、システム全体で使用される基本的な情報を設定する必要があります。

タスクおよび記述	プログラム	V
固定情報で多通貨を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [多通貨換算]フィールドに"Y"または"Z"を入力して多通貨機能をオンにする ・ [多通貨会社間取引の許可]オプションをオンにする ・ [詳細会社間決済]フィールドで方法 2(詳細)または 3(構成ハブ)を指定する 『多通貨処理』ガイドの「多通貨固定情報の設定」を参照してください。	一般会計固定情報 (P0000)	
使用する通貨コードを設定します。取引で使用される各通貨の通貨コードを入力します。 『多通貨処理』ガイドの「通貨コードの設定」を参照してください。	通貨コードの指定(P0013)	
会社の多通貨を設定します。各会社に対して次のことを行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内通貨コードの割当て『多通貨処理』ガイドの「多通貨のための会社の設定」を参照してください。 ・ 通貨別に勘定残高を転記するかどうかを決め、転記する場合は[通貨別残高の転記]オプションをオンにします。『多通貨処理』ガイドの「通貨別残高と集計残高」を参照してください。 ・ 詳細再換算を許可するかどうかを決め、許可する場合は[詳細再換算]フィールドに"1"を入力します。『多通貨処理』ガイドの「詳細再換算」を参照してください。 ・ 該当する場合は、[再換算]フィールドに計算 ID を入力します。『多通貨処理』ガイドの「会社」に計算 ID を割り当てるには」を参照してください。 	会社名および番号(P0010)	
各(通貨)勘定科目に通貨コードを割り当てて、通貨指定の勘定科目を設定します。 『多通貨処理』ガイドの「通貨勘定への通貨コードの割当て」を参照してください。	勘定科目の改訂 (P0901)	

為替レートの設定

為替レートの初期設定をした後、定期的に通貨換算レートを更新して、各取引および実現/未実現為替差損益のデフォルトの為替レートを設定する必要があります。

タスクおよび記述	プログラム	V
金額を逆換算(乗数または除数)方式を使用して別の通貨に換算する場合、換算元と換算先通貨の関係、および各通貨関係に使用する為替レート(乗数または除数)を設定します。 『多通貨処理』ガイドの「逆換算方法用為替レートの設定」を参照してください。	為替レート入力(P0015A)	
金額を逆換算禁止方式を使用して別の通貨に換算する場合、換算元と換算先通貨の関係、および各通貨関係に使用する逆換算禁止方法用の為替レートを設定します。 『多通貨処理』ガイドの「逆換算禁止方法用為替レートの設定」を参照してください。	為替レート入力(P0015A)	
株式市場で公開されていない為替レートで金額を換算する場合、共通通貨に基づいたクロス・レート関係を作成します。 『多通貨処理』ガイドの「通貨クロス・レート相互関係の作成」を参照してください。	クロス・レート計算の設定(P111511) クロス通貨レートの計算(P11153)	
間接換算通貨を使って換算を行う場合: <ul style="list-style-type: none"> 間接換算通貨を使用して換算元と換算先通貨の関係を設定する。 通貨関係の第1辺に対して換算方法を指定する。乗数または除数(逆換算)方法を指定する場合は、第2辺に対して逆換算方法が使用されます。 通貨関係の第1辺に対して為替レートを設定する。第2辺には、逆数レート(逆換算方法)または同じレート(逆換算禁止方法)が使用されます。 『多通貨処理』ガイドの「間接為替換算方法用為替レートの設定」を参照してください。	為替レート入力(P0015A)	
為替レートを、入力する代わりにウェブサイトからアップロードします。 『多通貨処理』ガイドの「外部ソースからの為替レートのアップロード」を参照してください。	外部為替レートの改訂(P0015Z1) 外部為替レートの処理(R0015Z1)	

未実現為替差損益用 AAI

正しい勘定科目への金額の計上は、AAI(自動仕訳)を使って自動的に行われます。

タスクおよび記述	プログラム	V
通貨勘定の未実現為替差損益を計上する場合、次の AAI 項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none">GVxxx - 未実現為替差益GWxxx - 未実現為替差損GRxxx - 未実現為替差損益の相手勘定 『多通貨処理』ガイドの「通貨銀行勘定の未実現為替差損益 AAI の設定」を参照してください。	AAI (P0012)	

通貨別残高の転記

通貨別に残高を転記する場合、勘定残高テーブル(F0902)で合計額ではなく通貨別に勘定残高を検討でき便利です。

タスクおよび記述	プログラム	V
通貨別に勘定残高を転記する場合: <ul style="list-style-type: none">該当する会社に対して[通貨別残高の転記]オプションをオンします。『多通貨処理』ガイドの「通貨別残高と集計残高」を参照してください。通貨別に残高を転記する勘定科目の範囲(開始と終了)を示す AAI 項目 PBCxx を設定します。『多通貨処理』ガイドの「通貨別残高転記用 AAI」を参照してください。	会社名および番号(P0010) AAI (P0012)	

多通貨会社間決済

異なる通貨を使用した会社間取引を実際に作成するかどうかにかかわらず、会社間取引および決済用にシステムを設定する必要があります。多通貨による会社間取引を作成する場合、会社間の残高を一致させる仕訳が転記時に作成されます。

タスクおよび記述	プログラム	V
固定情報で多通貨会社間取引および決済を設定する場合: <ul style="list-style-type: none">[詳細会社間決済]フィールドで方法 2(詳細)または方法 3(構成ハブ)を指定します。[多通貨会社間取引の許可]オプションをオンにします。 『多通貨処理』ガイドの「多通貨固定情報の設定」を参照してください。	一般会計固定情報 (P0000)	

タスクおよび記述	プログラム	V
<p>各詳細レコードに対して仕訳(勘定科目レコード)を作成するよう固定情報を設定します。[買掛金勘定集計方式]および[売掛金勘定集計方式]をY(各伝票に1つのレコード)に設定します。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「多通貨固定情報の設定」を参照してください。</p>	<p>売掛管理固定情報(P0000)</p> <p>買掛管理固定情報(P0000)</p>	

詳細再換算

この通貨再換算方法を使用すると、財務諸表等の作成のために、取引通貨以外の安定通貨でも取引を管理することができます。

タスクおよび記述	プログラム	V
<p>[会社間決済]フィールドで方法2(詳細)または3(構成ハブ)を指定します。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「固定情報で詳細再換算を設定するには」を参照してください。</p>	詳細再換算の設定 (P11410)	
<p>詳細再換算用に会社を設定します。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「会社を詳細再換算用に設定するには」を参照してください。</p>	会社名および番号(P0010)	
<p>代替通貨(XA)、そして任意で当初国内通貨(YA)および当初外貨(ZA)に対して、各元帳タイプおよび規則を設定します。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「詳細再換算の元帳タイプ規則を設定するには」を参照してください。</p>	<p>ユーザー定義コード (P0004A)</p> <p>元帳タイプ規則の設定(P0025)</p>	
<p>国内通貨と財務諸表等用の通貨間の為替レートを設定します。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「詳細再換算の為替レートを設定するには」を参照してください。</p>	為替レート入力(P0015A)	
<p>次の AAI 項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> CRxx - 詳細再換算のための勘定科目範囲(開始と終了) CR - 詳細再換算用の相手科目 <p>『多通貨処理』ガイドの「詳細再換算 AAI」を参照してください。</p>	AAI (P0012)	
<p>代替(安定)通貨で取引を再計算する場合、く詳細再換算プログラム)を実行します。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「通貨再換算の計算」を参照してください。</p>	詳細再換算(R11411)	

残高再換算

この通貨再換算方法を使用すると、連結財務諸表等の作成のために、残高を 1 つの通貨に換算できます。

タスクおよび記述	プログラム	V
連結(AC)元帳の元帳タイプと規則を設定します。 『多通貨処理』ガイドの「残高再換算の元帳タイプ規則を設定するには」を参照してください。	ユーザー定義コード (P0004A) 元帳タイプ規則の設定 (P0025)	
国内通貨から連結財務諸表等用の通貨に換算するための為替レートを設定します。 『多通貨処理』ガイドの「残高再換算のための再換算レートの設定」を参照してください。	残高再換算レート(P1113)	
各会社に対して、〈再換算残高の計算〉プログラムで使用する計算方法を設定します。 『多通貨処理』ガイドの「残高再換算のための計算を設定するには」を参照してください。	会社通貨換算の改訂(P1114)	
各会社にデフォルトの計算 ID を割り当てます。代わりに、〈再換算残高の計算〉プログラムの実行時に計算 ID を割り当てることもできます。 『多通貨処理』ガイドの「会社に計算 ID を割り当てるには」を参照してください。	会社名および番号(P0010)	
連結元帳に対して残高を再換算する場合、〈再換算残高の計算〉プログラムを実行します。 『多通貨処理』ガイドの「残高再換算のための計算」を参照してください。	残高再換算(R11414)	

仮定再換算

この通貨再換算方法を使用すると、為替レートの変動に影響されないで期間や年度の比較を行うことができます。

タスクおよび記述	プログラム	V
仮定再換算(AD)元帳の元帳タイプと規則を設定します。 『多通貨処理』ガイドの「仮定再換算の元帳タイプ規則を設定するには」を参照してください。	ユーザー定義コード (P0004A) 元帳タイプ規則の設定(P0025)	
取引レベルで残高を再計算する場合、〈仮定再転記〉プログラムを実行します。 『多通貨処理』ガイドの「仮定再換算のための計算」を参照してください。	仮定再転記(R11415)	

多通貨固定情報の設定

多通貨機能を使用する前に、〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)でシステム全体に適用される次の固定情報を設定する必要があります。

- 多通貨換算
- 多通貨会社間取引
- 会社間決済方式

これらの固定情報で、多通貨処理のデフォルト換算方法の指定、多通貨会社間取引の許可、会社間決済方式の指定を行います。多通貨に関するこれらの情報は、一般会計固定情報テーブル(F0009)に保管されます。

多通貨換算固定情報

多通貨処理をオンにするには、[多通貨換算]フィールドの固定情報を、使用するデフォルト換算方法によって Y(乗数)または Z(除数)に設定します。

- Y - 乗数を使用して、ある通貨から別の通貨に換算する。外貨金額に為替レートを乗算して国内通貨金額を計算します。
- Z - 除数を使用して、ある通貨から別の通貨に換算する。外貨金額を為替レートで除算して国内通貨金額を計算します。

デフォルトの換算方式は通貨関係設定時に一時変更できます。

多通貨処理をオンにすると、さまざまな入力および照会プログラムに通貨フィールドが表示されるようになります。

注意:

多通貨処理の使用を開始したら、多通貨換算固定情報を変更しないようにしてください。次のようなエラーが生じます。

- 入金および支払時の為替差損益が正しくない
 - 無効仕訳および逆仕訳が正しくない
 - 通貨勘定評価が正しくない
 - 通貨再換算に影響する
-

多通貨会社間取引および決済の固定情報

通常、基本通貨が異なる会社間で取引を行うと、会社間の残高を一致させる仕訳が作成されます。これは会社間取引と呼ばれています。〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)で、基本通貨が異なるさまざまな会社の請求書、伝票、仕訳を入力するためのオプションをオンにする必要があります。また会社間決済方式を指定する必要もあります。多通貨処理で有効な方式は、2(詳細)および3(構成ハブ)です。会社間決済方式 1、*、N は多通貨処理に対応していません。

注:

会社間取引を入力しない場合も、このソフトウェアは多通貨での会社間取引と決済が行えるように設計されていることに注意してください。会社間取引を実際に入力するかどうかにかかわらず、〈一般会計固定情報〉プログラムで多通貨会社間取引を許可するオプションを設定し、会社間決済方式を2または3に指定します。会社間取引を含むバッチを入力しない限り、会社間取引および決済レコードは作成されません。

〈一般会計固定情報〉で指定する会社間決済方式は、〈売掛管理固定情報〉と〈買掛管理固定情報〉プログラムで指定した集計方式と対応している必要があります。対応していない場合、総勘定元帳に取引を転記したときにエラー・メッセージが表示されます。

転記プログラムで使用する集計方式により、各明細レコードの相手科目をバッチ、取引、支払項目別のいずれで作成するかが決まります。転記プログラムで外貨または代替通貨を含む請求書、伝票、入金、支払バッチを転記することができないため、多通貨処理ではバッチ集計方式(B)は使用できません。

次の表は、方式およびその対応状況を示しています。

多通貨用の会社間決済方式	売掛金/買掛金集計方式 B = バッチごとに1レコード Y = 取引ごとに1レコード S = 支払項目ごとに1レコード		
	B	Y	S
2 = 詳細方式	対応しない	対応する	対応する
3 = 構成ハブ	対応しない	対応する	対応する

詳細再換算を使用する場合、買掛金および売掛金集計方式はY(取引ごとに1レコード)を指定する必要があります。

▶ 多通貨固定情報を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈多通貨処理システム・セットアップ〉メニュー(G1141)から〈多通貨オプションの設定〉を選択します。

〈一般会計システム・セットアップ〉メニュー(G0941)から〈一般会計固定情報〉を選択します。

1. 〈システム・セットアップ〉で、[一般会計固定情報]を選択します。

2. 〈一般会計固定情報〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 多通貨換算(Y/N/Z)

Y(乗数)またはZ(除数)の値によりデフォルトの換算レートが指定され、多通貨処理がオンになります。多通貨処理をオンにすると、入力および照会プログラムに通貨フィールドが表示されるようになります。

この値は変更しないでください。このフィールドの値が誤って変更されないよう、〈一般会計固定情報〉プログラムにアクセス制限を設定することをお勧めします。

3. 次のオプションをオンにします。

- 多通貨会社間取引の許可

多通貨での会社間取引を許可するかどうかにかかわらず、このオプションをオンにしてください。

4. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 会社間決済

詳細再換算を使用する場合は、このフィールドに2(詳細方法)または3(構成ハブ方法)を入力します。その他の方法は有効ではありません。

参照

- 通貨に関係しない固定情報の設定については、『一般会計』ガイドの「一般会計固定情報の設定」

通貨コードの設定

各通貨建ての金額に小数点を正しく表示するには、各通貨に対して通貨コードを設定する必要があります。また、小切手を印刷する場合は、金額から文字に変換するプログラムを各通貨コードに割り当ててください。

通貨コードを設定した後、通貨コードを次の項目に割り当ててください。

- 会社
- 通貨勘定(通常、銀行勘定)
- 仕入先および顧客
- 元帳タイプ

通貨コード情報は通貨コード・テーブル(F0013)に保管されています。

デモ・データには、国際標準化機構(ISO)で認定されている通貨コードが提供されています。

▶ 通貨コードを設定するには

〈多通貨処理システム・セットアップ〉メニュー(G1141)から〈通貨コード情報〉を選択します。

1. 〈通貨コードおよびレート処理〉で、[追加]をクリックします。

通貨コードの設定	
通貨コード	EUR
記述	Euro
小数点以下桁数	2
金額から文字列への変換	

2. 〈通貨コードの設定〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 通貨コード
- 記述
- 小数点以下桁数

注意:

一度定義した[小数点以下桁数]フィールドの桁数は変更しないでください。変更すると、既に処理されている取引の金額が正しくなくなります。

3. 次のフィールドに変換プログラム番号を入力して[OK]をクリックします。

- 金額から文字列への変換

このフィールドには、ユーザー定義テーブル 98/CT にある変換プログラム番号を入力してください。各プログラム番号はハードコード化されており、ユーザー・プロファイルで指定されている言語に関係なく、変換プログラムで指定した言語の文字に数字が変換されます。小数点以下桁数も変換プログラムではハードコード化されています。

たとえば変換プログラム X00500FR はフランス語用のプログラムで、2,454.25 EUR を「DEUX MILLE QUATRE CENT CINQUANTE QUATRE ET 25/100*****」と変換します。

通貨に割り当てられた変換プログラム番号は、支払印刷プログラム(R04572 など)の処理オプションで一時変更できます。[金額から文字列への変換]フィールドを空白にして変換プログラム番号を割り当てない場合、数値は自動的に英語に変換されます。

フィールド記述

記述	用語解説
通貨コード	取引通貨を識別するコード。 --- フォーム固有 --- 通貨コードは通常 3 桁です。J.D. Edwards では、国際標準化機構(ISO)認定のコードなど、国際的に認められたコードを使用するようお勧めします。
記述	ユーザー定義名称または備考。
小数点以下桁数	通貨金額フィールドで使用される表示小数点桁数を示す値。たとえば、小数点以下表示桁数が 2 の場合は米国ドル、0 は日本円、3 はカメルーンのフラン、などです。 データ辞書の小数点以下表示桁数のデフォルト値は 2 です。データ辞書を変更することで、フォームおよびレポートでの表示を変更して小数点なしまたは小数点第 3 位の通貨を表示できます。
金額から文字列への変換	数値を文字に変換するため買掛金支払プログラムで使用されるプログラム番号。

通貨の小数点以下桁数の取扱方法

金額に表示される小数点以下桁数は、取引で使用される通貨コードと元帳タイプによって異なります。次の表は、多通貨環境で小数点以下桁数がどのように扱われるかを示しています。

小数点以下桁数	記述
会社番号なしで表示される金額	金額フィールドのデータ辞書の小数点以下桁数フィールド(CDEC)によって決まります。
AA 元帳タイプ(国内通貨)	基本(会社)通貨コードによって決まります。通貨の表示小数点以下桁数は通貨コード・テーブル(F0013)で定義されています。
数量元帳(Uで終わる元帳)の金額	金額フィールドのデータ辞書の小数点以下桁数フィールド(CDEC)によって決まります。
CA 元帳タイプ(外貨) 通貨別勘定残高の転記: オン	取引の通貨コードによって決まります。通貨の小数点以下桁数は F0013 テーブルで定義されています。
CA 元帳タイプ(外貨) 通貨別勘定残高の転記: オフ	<p>総勘定元帳の通貨コード(該当する場合)または特定の合計金額に関連付けられた取引通貨コードによって制御されます。</p> <p>次の順序で通貨コードが取り込まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 勘定残高(F0902)および固定資産残高(F1202) 取引明細(F0911) 売掛金元帳(F03B11)および買掛金元帳(F0411)
数量、AA、CA 元帳タイプ以外	<p>基本(会社)通貨コードによって決まります。通貨の小数点以下桁数は F0013 テーブルで定義されています。</p> <p>注:</p> <p>元帳タイプ・マスター(F0025)で元帳タイプに通貨が割り当てられている場合を除きます。この場合は、会社ではなく元帳タイプに割り当てられている通貨によって金額の表示小数点以下桁数が決まります。</p>

会社の多通貨の設定

組織内の各会社に対して、次のような多通貨に関する情報を設定する必要があります。

- 国内通貨。国内通貨を割り当てて会社の基本通貨を指定します。AA 元帳の金額は、通貨コードに指定された正しい小数点以下桁数を使ってこの通貨で管理されます。
- 再換算。残高の通貨再換算に使用する計算方法を指定します。
- 詳細再換算。詳細再換算を許可するかどうかを指定します。
- 通貨別残高。勘定残高テーブル(F0902)の外貨(CA)元帳に対して、通貨別に勘定残高を転記するかどうかを指定します。

多通貨用に会社を設定するには、〈会社名および番号〉プログラム(P0010)を使用してください。会社の通貨情報は、会社固定情報テーブル(F0010)に保管されます。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「通貨再換算方法」

通貨別残高と集計残高

さまざまな通貨で勘定残高を表示できるかどうかは、勘定残高テーブル(F0902)に通貨別に転記するかどうかによります。〈会社名および番号〉プログラム(P0010)を使って、各会社に対して[通貨別勘定残高の転記]オプションをオンにするかどうかを選択してください。このオプションをオフにすると、すべての通貨の金額は1つの合計金額に集計されます。この合計金額は、異なる通貨の合計になるため意味をなしません。

次の表は、通貨別に残高を転記する場合としない場合(集計残高)の違いを説明しています。

通貨別残高	CA(外貨)元帳およびAA(実績金額)元帳の両方で、取引金額を取引通貨別に転記します。取引通貨で残高を表示するには、通貨別に残高を転記するようにシステムを設定します。 カナダ・ドル、米ドル、英ポンドで売上勘定に転記した金額を通貨別に検討することができます。これは、補助科目を使わずに各国の売上を見ることができることを意味します。
集計残高	CA元帳では取引金額が通貨別に区別されません。通貨別に残高を転記しないと、CA元帳にはさまざまな通貨が含まれ、CA元帳の合計は意味をなさず、貸借も一致しません。 集計した残高を転記すると、通貨別に残高を転記するよりも勘定残高テーブル(F0902)に作成されるレコードが少ないため、必要とするディスク容量が小さくなります。ほとんどのレポートの通貨合計は取引明細を使って計算されます。

勘定残高テーブルの通貨フィールドの更新方法

多通貨環境で取引を転記すると、レポート作成のために勘定残高テーブル(F0902)の2つの通貨フィールドが更新されます。

- CRCD -このフィールドのコードは取引通貨、つまり取引が入力された通貨を示します。
- CRCX -このフィールドのコードは会社(指定)通貨、つまり取引で入力された会社割り当てられた通貨を示します。

[通貨別勘定残高の転記]オプションがオンになっているかどうかによって、CRCDとCRCXフィールドは異なる値に更新されます。次の表では、オプションに基づいて自動的に更新されるフィールドを示しています。

通貨別勘定残高転記オプション	元帳タイプ	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
オン(通貨別に残高を転記する)	AA	取引通貨	会社割り当てられた通貨
オン	CA	取引通貨	取引通貨
オフ(通貨別に残高を転記しない)	AA	blank	会社割り当てられた通貨

通貨別勘定残高転記オプション	元帳タイプ	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
オフ	CA	blank	会社に割り当てられた通貨
オフ	その他すべての元帳タイプ	blank	元帳タイプの通貨(指定されていない場合は会社に割り当てられた通貨)

▶ 会社に多通貨を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈多通貨処理システム・セットアップ〉メニュー(G1141)から〈会社別通貨の指定〉を選択します。

〈組織と勘定科目の設定〉メニュー(G09411)から〈会社名および番号〉を選択します。

1. 〈会社の処理〉で、会社を選んで[選択]をクリックします。
2. 〈会社の設定〉で、[通貨]タブをクリックします。

3. 次のフィールドに値を入力します。

- 国内通貨

注意:

会社に通貨コードを割り当てて、取引を入力した後は、通貨コードを変更しないでください。通貨を変更すると、データの整合性に影響します。

4. 必要に応じて次のフィールドに値を入力します。

- 再換算

残高再換算に使用する計算 ID を入力します。

- 詳細再換算

詳細再換算に使用する方法を入力します。

5. 通貨別に勘定残高を転記するには、次のオプションをオンにします。

- 通貨別勘定残高の転記

〈確認 - AAI の設定〉フォームは、会社またはデフォルト会社 00000 の AAI 項目 PBCxx に対して必要な勘定科目範囲を設定していない場合に表示されます。このフォームが表示されたら、[はい]をクリックして〈複数 AAI 項目の設定〉フォームを表示して PBCxx の範囲を指定します。次に[OK]をクリックして〈会社の設定〉フォームに戻ります。

[いいえ]をクリックして必要な AAI 項目範囲を設定しない場合は、転記プログラムで会社の仕訳が通貨別詳細残高ではなく異なる通貨が混じった集計残高で転記されることに注意してください。転記プログラムにより、「AAI 項目 PBC が見つからないため残高が転記されていません」という警告メッセージが〈従業員ワークセンター〉に送信されます。

6. [OK]をクリックします。

参照

『多通貨処理』ガイドの次のトピックを参照してください。

- [再換算]フィールドについては、「会社計算 ID を割り当てるには」
- [詳細再換算]フィールドについては、「会社を詳細再換算用に設定するには」
- 「通貨別残高転記用 AAI」

フィールド記述

記述	用語解説
国内通貨	取引通貨を識別するコード。
再換算	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>〈会社の設定〉フォームで、このコードは会社の基本通貨を示します。残高再換算用の計算を識別する文字もしくは数字。</p>
詳細再換算	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>[会社の設定]フォームを使用して、会社の特定の計算 ID を割り当てます。同一の ID を複数の会社に割り当てることができます。割り当てられた計算 ID を一時変更するため、残高再換算プログラムの処理オプションで別の ID を指定できます。</p> <p>会社が詳細再換算を許可するかどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 許可しない。</p> <p>1 許可する。Y(乗数)か Z(除算)のどちらを使用するかを自動的に決定します。この方法は、一般会計固定情報で設定された多通貨換算方法とは逆になります。</p> <p>Y 許可する。一般会計固定情報の多通貨換算方法が Z(除算)の場合、Y(乗数)を入力してください。</p> <p>Z 許可する。一般会計固定情報の多通貨換算方法が Y(乗数)の場合、Z(除算)を入力してください。</p>
通貨別残高	<p>注: 1、Y、Z はすべて詳細再換算を許可します。基本的な違いは、1 を選択するとシステムによって自動的に値が決定されるのに対し、Y または Z を選択すると値を手動で入力する必要があることです。</p> <p>この会社についての勘定残高テーブル(F0902)のレコードを通貨別に転記するかどうかを示します。</p>

集計残高から通貨別残高への変更

システムの初期設定で通貨別転記を行わない(集計残高を転記する)ように設定していて、後で通貨別転記に切り替える場合、次のステップを実行します。最初はテスト環境で実行します。本稼働環境で実行する前に、結果が正しいかどうかを確認してください。

1. 通貨別に残高をトラッキングするために、AAI 項目 PBCxx の勘定科目範囲を設定します。
2. 〈会社の設定〉フォームの[通貨]タブで[通貨別勘定残高の転記]オプションをオンにします。
3. 〈取引明細の再転記〉プログラム(R099102)をテスト・モードで実行して、レポートのみ印刷します。レポートの一番右側のカラムに通貨コードが表示されていることを確認してください。

4. 〈取引明細の再転記〉プログラムを最終モードで実行して、レポートを印刷して勘定残高テーブル(F0902)を更新します。この処理により F0902 テーブルに新しいレコードが作成されます。次のステップに従って当初レコードを削除してください。
5. F0902 テーブルの当初レコードを削除します。これらのレコードは、[通貨別残高の転記]オプションをオンにする前に作成されたものです。データベース管理者に相談してください。

参照

- ステップ 1 の詳細については『多通貨処理』ガイドの「通貨別残高転記用 AAI」
- ステップ 2 の詳細については『多通貨処理』ガイドの「会社が多通貨を設定するには」
- ステップ 3 の詳細については『一般会計』ガイドの「取引明細の再転記」

多通貨元帳タイプの検討

複数の通貨を処理する場合、元帳タイプ AA(実績金額)と CA(外貨金額)以外に、任意で次の再換算用の元帳タイプが使用されます。

- XA(詳細再換算)
- YA(詳細再換算)
- ZA(詳細再換算)
- AC(残高再換算)
- AD(仮定再換算)

ユーザー定義コード 09/LT でこれらの元帳タイプが設定されていることを確認してください。上記以外の元帳を持つ必要があるかどうか検討してください。上記以外の元帳が必要な場合、ユーザー定義コード 09/LT に元帳タイプを追加します。次に〈元帳タイプ規則の設定〉フォームで元帳タイプの会計規則を定義して、必要に応じて通貨コードを割り当ててください。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「詳細再換算の元帳タイプ規則を設定するには」
- 『多通貨処理』ガイドの「残高再換算の元帳タイプ規則を設定するには」
- 『多通貨処理』ガイドの「仮定再換算の元帳タイプ規則を設定するには」

通貨勘定への通貨コードの割当て

ほとんどの勘定科目は、どんな通貨でも取引を入力できるように設定する必要があります。勘定科目に通貨コードを割り当てなければ、あらゆる通貨の取引を入力できます。特定の通貨での取引のみを許可する勘定科目には、通貨コードを割り当てる必要があります。このような勘定科目を通貨勘定と呼びます。通貨、銀行勘定や現金勘定を通貨勘定として設定します。

たとえば、日本円が基本通貨である日本の会社が、カナダ・ドル(CAD)建ての銀行口座を持っているとします。この銀行勘定に CAD を割り当てた場合、カナダ・ドル建ての取引のみ入力できる通貨勘定となります。

通貨勘定の通貨コードは、勘定科目マスター(F0901)に保管されます。

注意:

既に取り引が転記されている勘定科目を通貨勘定から非通貨勘定に変更したり、またはその逆への変更は行わないでください。通貨を変更すると、データの整合性に影響します。

▶ **通貨勘定に通貨コードを割り当てるには**

〈多通貨 セットアップ〉メニュー(G1141)から〈通貨勘定の指定〉を選択します。

1. 〈勘定科目の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 会社
2. 通貨コードを割り当てる通貨勘定を検索するための値を QBE に入力して[検索]をクリックします。
3. 勘定科目を選んで[選択]をクリックします。

4. 〈単一勘定科目の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 通貨コード

一般会計システムの多通貨用 AAI の設定

一般会計システムの多通貨処理用に勘定科目を定義する AAI を設定して、次の処理を実行できるようにします。

- 通貨勘定の未実現為替差損益(再評価)
- 通貨別残高の転記
- 詳細再換算

通貨勘定の未実現為替差損益の計算、通貨別勘定残高の転記、別の通貨への金額換算時には、AAI によって正しい勘定科目に金額が計上されます。

いくつかの AAI には、3 文字の通貨コードに対応する xxx サフィックスがあります。各会社で特定の通貨を指定する AAI はこの xxx サフィックスを使って設定してください。通貨コードを指定しない場合は、会社の通貨コードがデフォルトとして使用されます。

会社 00000 に対して AAI を設定することも、個々の会社にて特定の AAI を設定することもできます。各 AAI 項目には、システムが勘定科目を検索するための順序が設定されています。次は順序の一例です。

1. xxx(通貨コード)を伴う AAI 項目。見つからない場合は次の AAI 項目を検索します。
2. 特定の会社の AAI 項目見つからない場合は次の AAI 項目を検索します。
3. 会社 00000 の AAI 項目

参照

- AAI の設定方法については『一般会計』ガイドの「AAI を設定するには」

通貨銀行勘定の未実現為替差損益 AAI

通貨銀行勘定と外貨を扱っている場合、最新の為替レートを反映するために定期的に銀行勘定残高を評価する必要があります。システムによって外貨建ての残高が国内通貨に換算され、未実現為替差損益が確定されます。このように、外貨建ての銀行勘定の残高を国内通貨に換算した場合の未実現為替差損益を見ることができます。

次の AAI 項目では、通貨勘定の未実現為替差損益を計上する勘定科目を定義します。

- GVxxx - 未実現為替差益
- GWxxx - 未実現為替差損
- GRxxx - 未実現為替差損益の相手勘定

GV、GW、GR には次のような特徴があります。

- GV と GW に割り当てられた勘定科目コードを使って、通貨勘定の未実現為替差損益が作成されます。
- GR に割り当てられた勘定科目コードを使って、未実現為替差損益の相手勘定が作成されます。

為替差損益の相手勘定を通貨勘定にする場合（通常そのように設定します）、AAI 項目 GR を削除する必要があります。削除しないと、AAI 項目 GR が検索され、設定されている場合は GR が使用されます。設定が正しくない場合は、エラー・メッセージが表示されます。

- ビジネスユニットは任意です。ビジネスユニットが含まれない場合、通貨勘定に関連付けられた会社のビジネスユニットが使用されます。
- xxx は通貨コードを表します（任意）。

次の表は、システムが GV、GW、GR を検索する順序を示しています。

AAI 項目	記述	順序
GV	通貨勘定の未実現為替差益	システムは次の順序で検索します。 <ul style="list-style-type: none"> • GVxxx (xxx は通貨勘定に割り当てられている会社の通貨) • 通貨勘定に割り当てられている会社の GV • 会社 00000 の GV
GW	通貨勘定の未実現為替差損	システムは次の順序で検索します。 <ul style="list-style-type: none"> • GWxxx (xxx は通貨勘定に割り当てられている会社の通貨) • 通貨勘定に割り当てられている会社の GW • 会社 00000 の GW
GR	通貨勘定の未実現為替差損益の相手勘定	システムは次の順序で検索します。 <ul style="list-style-type: none"> • GRxxx (xxx は通貨勘定に割り当てられている会社の通貨) • 通貨勘定に割り当てられている会社の GR • 会社 00000 の GR

通貨別残高転記用 AAI

AAI 項目 PBCxx では、通貨別に残高をトラッキングして勘定残高テーブル(F0902)に転記する勘定科目の範囲を定義します。通貨別に残高を転記する会社の場合、この PBCxx を設定するだけでなく、〈会社名および番号〉プログラム(P0010)で[通貨別残高の転記]オプションをオンにする必要があります。

PBCxx で勘定科目の範囲を設定する場合、繰越利益勘定 (AAI 項目 GLG4) を含めないようにすることをお勧めします。繰越利益が PBCxx の勘定科目範囲に含まれていると、〈年次締め〉プログラム (R098201) を実行したときに勘定残高テーブル(F0902)で繰越残高勘定のレコードが重複して作成される場合があります。

AAI 項目 PBCxx には次のような特徴があります。

- PBCxx に割り当てられた範囲の勘定科目を使って通貨別に残高が転記されます。
- xx は AAI 範囲の開始と終了の両方に使用します。たとえば、PBC01 を最初の勘定科目、PBC02 を最後の勘定科目として AAI を設定します。
- AAI の範囲をスキップすることはできません。次のように数字の小さい順にしてください。
 - 01 - 02: 勘定科目の最初の範囲

- 03 - 04:勘定科目の2番目の範囲
- 範囲には該当する会社の勘定科目を指定してください。各会社ごとに範囲を設定します。

例:PBCxx の設定

会社 0070 では、すべての勘定科目の残高を通貨別に転記しています。繰越利益の勘定科目コードは 4980 です。

繰越利益勘定の 4980 を除外するために、次のように 4 つの AAI 項目 PBCxx と 2 つの範囲を設定します。

AAI	記述	主科目	補助科目
PBC01	通貨別転記 - 範囲 1 の開始勘定科目	1000	
PBC02	通貨別転記 - 範囲 1 の終了勘定科目	4979	99999999 または ZZZZZZZZ
PBC03	通貨別転記 - 範囲 2 の開始勘定科目	4981	
PBC04	通貨別転記 - 範囲 2 の終了勘定科目	9999	99999999 または ZZZZZZ

為替レート

多通貨処理の一環として、国際金融市場で公開された最新の為替レートに基づいて取引を入力していることを確認してください。為替レートは次のように使用されます。

- 取引入力時にデフォルトの為替レートを提供する
- 外貨および代替通貨での入金と支払によって生じた実現為替差損益の計算に使用する
- 未決済の外貨建て請求書および伝票の未実現為替差損益の計算に使用する
- 通貨銀行勘定の未決済取引の評価に使用する

次は、Web 上の国際通貨サイトで公開された米ドル(USD)からユーロ(EUR)の為替レートの一例です。EUR から USD の逆換算(逆数)レートも公開されていることに留意してください。

1 米ドル = 1.00334 ユーロ

1 ユーロ(EUR)=0.99667 米ドル(USD)

最初に多通貨処理の設定を行う際、取引を行う会社の通貨(換算元通貨)と国内通貨(換算先通貨)間の為替レートを設定します。多通貨処理システム全体において、換算元通貨は外貨を意味し、換算先通貨は国内通貨を意味します。

他のセットアップとは違い、為替レートは定期的に変更する必要があります。初期設定時だけでなく、その後も〈為替レートの入力〉プログラム(P0015A)を使って定期的に変更を設定してください。一度に多数の為替レートを設定する場合は、〈為替レートのスピード改訂〉プログラム(P11154)または〈外部為替レートの改訂〉プログラム(R0015ZI)を使用すると便利です。

為替レート計算方法

通貨関係に対して為替レートを入力する際、次の計算方法のうちいずれかを指定します。

- 逆換算方法。この方法では、外貨金額と為替レートを乗算するか、または外貨金額を為替レートで割って国内通貨金額を計算します。乗数および除数に使う為替レートはお互いの逆数です。
- 逆換算禁止方法。この方法では、外貨金額と為替レートを乗算するか、または外貨金額を為替レートで割って国内通貨金額を計算します。乗数および除数の為替レートは、お互いの逆数ではなく同じレートを使用します。
- 間接為替方法。この方法では、外貨金額を外貨と間接通貨間の為替レートで乗算または除算し、次にその金額を間接通貨と国内通貨間の為替レートで乗算または除算して国内金額を算出します。この方法は逆換算禁止方法と合わせて使用してください。これは、通貨クロス・レート相互関係を作成するもう1つの方法として使用できます。

通貨関係の計算方法は、新しい方法と為替レートの有効開始日付を指定することにより随時変更できます。これにより、逆換算方法と逆換算禁止方法を切り替えたり、ある通貨関係に対して間接為替方法の使用を開始したり中止することができます。通貨関係の計算方法を変更しても、過去の為替レートと計算方法を参照することができます。

計算方法のほかに、各通貨関係に対しては換算方法も指定します。デフォルトの換算方法は〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)で設定します。このデフォルト換算方法は、〈為替レートの入力〉プログラム(P0015A)で通貨関係を設定する際にそのまま使用することも一時変更することもできます。各通貨関係の換算方法は為替レート・テーブル(F0015)に保管され、通貨計算の際に使用されます。〈一般会計固定情報〉プログラムで指定したデフォルト換算方法は使用されません。

逆換算方法

為替レート計算の逆換算方法では、1つの通貨から別の通貨への換算時に逆換算(逆数)レートを使用します。逆換算方法の場合、乗数および除数はもう一方の逆数になります。

逆換算方法を使って為替レートを設定する場合、ある通貨に換算する際は除算方法で、ある通貨から換算する際は乗数方法を指定したり、またはその逆の指定ができます。唯一の制約は、この方法は間接為替方法と合わせては使用できないことです。

例:逆換算方法

次の例は、逆換算方法を使ったカナダ・ドルと米ドルの関係に対して設定された為替レートを示しています。逆換算方法では、次のいずれかの換算方法を使用します。

- 乗数
- 除数

乗数方式を使った逆換算

次の例は、逆換算方法と乗数方式を使ってカナダ・ドルと米ドルの関係に設定された為替レートを示しています。

乗数方式(Y)では、外貨金額に為替レートを乗算して国内通貨金額を計算します。

通貨関係	乗数方式(Y)とレート	除数方式(Z)とレート
CAD から USD	1.60420	0.62336
USD から CAD	0.62336	1.60420

カナダ・ドル(CAD)から米ドル(USD)には乗数が、USD から CAD には逆換算が使用されます。米ドルからカナダ・ドルへの乗数レート($1/1.60420 = 0.62336$)は、カナダ・ドルから米ドルへの換算レート(1.60420)の逆換算レートです。

除数方式を使った逆換算

次の例は、逆換算方法と除数方式を使ったカナダ・ドルと米ドルの関係に対して設定された為替レートを示しています。

除数方式(Z)では、外貨金額を為替レートで除算して国内通貨金額を計算します。

通貨関係	乗数方式(Y)とレート	除数方式(Z)とレート
CAD から USD	1.60420	0.62336
USD から CAD	0.62336	1.60420

カナダ・ドル(CAD)から米ドル(USD)には除数が、USD から CAD には逆換算が使用されます。カナダ・ドルから米ドルへの除数レート($1/1.60420 = 0.62336$)は、米ドルからカナダ・ドルへの除数レート(1.60420)の逆換算レートです。

逆換算禁止方法

逆換算禁止方法では、ある通貨から別の通貨に換算するのに逆換算(逆数)レートは使用しません。逆換算禁止方法では乗数レートと除数レートは同じで、お互いの逆数(1 で割った数)ではありません。

逆換算禁止方法では、逆換算方法および逆数レートを使って大きな金額を処理した場合に四捨五入によって生じる誤差を減らすことができます。ほとんどの場合、逆換算禁止方法で生じる誤差はごくわずかです。

逆換算禁止方法を使って為替レートを設定する場合、ある通貨に換算する際は除数方式、ある通貨から換算する際は乗数方式を指定したり、またはその逆の指定ができます。ただし、逆換算禁止方法と間接換算方法を組み合わせて使用する場合例外です。この場合、間接通貨に換算するには除数方式、間接通貨から換算するには乗数方式を指定する必要があります。

例:逆換算禁止方法

次の例は、逆換算方法を使ったカナダ・ドルと米ドルの関係に対して設定された為替レートを示しています。

この例では、カナダ・ドルから米ドルへの換算方法は Z(除数)で米ドルからカナダ・ドルへの換算方法は Y(乗数)です。

逆換算禁止方法では、乗数および除数方法の為替レートは 0.62336 で同じです。各為替レートの反対レートはブランクになります。これは、逆換算禁止を使用するとこのレートには意味がなくなるためです。

通貨関係	乗数方式(Y)と逆換算レート	除数方式(Z)と逆換算レート
CAD から USD	ブランク	0.62336
USD から CAD	0.62336	ブランク

注:

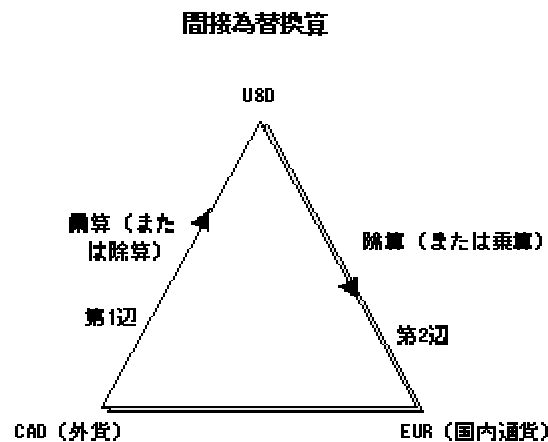
カナダ・ドルから米ドルへの換算は、米ドルからカナダ・ドルへの換算に反対の方法を使用する限り、乗数と除数方式のどちらでも使用できます。

間接為替方法

為替レート換算の間接為替方法では、1つの通貨から第3(間接)通貨を経由して別の通貨に換算します。間接為替方法を使用する場合は、同時に逆換算禁止方法を使用する必要があります。逆換算方法と合わせて使用することはできません。

間接為替は、国内通貨建ての金額を計算するために、第3の通貨を使って乗算または除算された2つの為替レートを合わせたものです。最初の為替レートは外貨から間接通貨への換算レートで、2番目は間接通貨から国内通貨への換算レートです。会社によって、間接為替換算を採用する場合もあれば、同じような結果になる通貨クロス・レートの設定を設定する場合があります。

次は間接為替換算のプロセスを示しています。



間接為替方法で通貨関係を設定する際、第1辺(外貨から間接通貨への関係)に対する換算方法(乗数または除数)を指定すると、第2辺(間接通貨から国内通貨への関係)に対しては自動的に反対の換算方法が使用されます。

複数の通貨関係に対して間接為替方法を設定する場合、すべての通貨関係について設定する必要はありません。通貨関係に逆換算方法や逆換算禁止方法を使用するかどうかを決定できるのと同様に、間接為替方法を使用するかどうかも決定できます。

例：間接為替方法

次の例は、間接為替方法を使ったカナダ・ドルとユーロの関係に対して設定された為替レートを示しています。間接通貨は米ドル(USD)です。この例に示すように、間接為替方法には逆換算禁止方法を合わせて使用する必要があります。

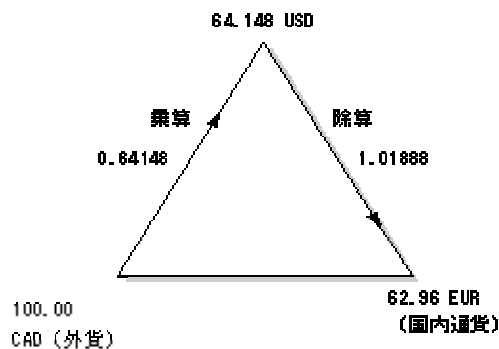
米ドルを間接通貨としてカナダ・ドルからユーロに換算する場合、乗数方式(ステップ 1)を使用してカナダ・ドルから米ドルへの換算が行われ、次に除数方式(ステップ 2)を使用して米ドルからユーロへの換算が行われます。

通貨関係	乗数方式(Y)と逆換算レート	除数方式(Z)と逆換算レート
CAD から USD	0.64148	ブランク
USD から EUR	ブランク	1.01888

カナダ・ドルから米ドルへの換算には乗数方式と逆換算禁止レートが使用され、米ドルからユーロへの換算には除数方式と逆換算禁止レートが使用されます。

次の図は間接為替方法を示しています。

例：間接為替換算



1 CAD = 0.64148 USD
1 USD = 1.01888 EUR

FC = 外貨
ER = 為替レート
DC = 国内通貨

ステップ1:
FCにERを乗算してUSDに換算する
 $100.00 \text{ CAD} \times 0.64148 = 64.148 \text{ USD}$

ステップ2:
USDをERで除算してDCに換算する
 $64.148 / 1.01888 = 62.96 \text{ EUR}$

為替レートの設定とスポット・レート

通貨関係の為替レートを設定する場合、それらの通貨間の取引でスポット・レートを認めるかどうかを指定する必要があります。通貨関係にスポット・レートを認めるかどうかは、〈為替レートの改訂〉フォームで[スポット・レートの許可]オプションで指定します。

請求書や伝票にスポット・レートを入力すると、為替レート・テーブル(F0015)に保管された換算方法(Y または Z)が使用されます。〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)で指定したデフォルト換算方法は使用されません。この場合、請求書または伝票の元帳日付以前の有効日付を持つ特定の通貨関係に対して設定された換算方法が使用されます。

スポット・レートを使用すると、換算した金額と実際の為替レートを使って算出した金額が比較されます。システムによってこの 2 つの金額の差額が計算され、〈伝票入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P0400047)、〈請求書入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P03B0011)、〈仕訳入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P0900049)の処理オプションで指定された許容限度に基づいてレコードが検証されます。差額が許容限度の範囲を超えている場合、警告メッセージが表示されます。

たとえば、為替レートの変更を 5%まで認める場合は"5"と指定します。実際の為替レートを使って換算した金額よりも 6%以上大きい小さい金額になるスポット・レートを入力すると、警告が表示されます。このように、データ入力エラーの可能性がある場合に、入力したスポット・レートが正しいかどうかを確認することができます。

逆換算方法用の為替レートの設定

逆換算方法は、乗数および除数レートの逆数(逆換算)為替レートを使用して換算する方法です。

逆換算方法の為替レートを設定する際、2 つのレート(乗数および除数)を入力し、特定の通貨関係で換算を行うときにどちらの換算方法を使用するかを指定します。乗数と除数レートはお互いに逆数の関係にあります。

逆換算方法と逆換算禁止方法の違いは、逆換算方法が乗数と除数レートの逆数レートを使用するのに対して、逆換算禁止方法は同じレートを使用する点にあります。

為替レートは、為替レート・テーブル(F0015)に保管されています。

▶ 逆換算方法用為替レートを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈多通貨処理〉メニュー(G11)から〈為替レートの入力〉を選択します。

〈多通貨セットアップ〉メニュー(G1141)から〈為替レートの設定〉を選択します。

1. 〈為替レートの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

為替レートの改訂

OK キャンセル ツール

換算元通貨コード <input type="text" value="CAD"/> 換算先通貨コード <input type="text" value="JPY"/> 有効開始日付 <input type="text" value="05/06/01"/>	連絡先 <input type="text"/> 為替レートタイプ <input type="text"/>
--	---

計算方法

<input checked="" type="radio"/> 逆換算方法 <input type="radio"/> 逆換算禁止方法 <input type="radio"/> 間接換算方法 <input checked="" type="checkbox"/> スポット・レートの許可	換算方法 (Y/Z) <input type="text" value="Z"/> 乗算レート <input type="text" value="85.2189781"/> 除算レート <input type="text" value="0.0117345"/>
--	--

2. 〈為替レートの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 換算元通貨コード
- 換算先通貨コード
- 有効開始日付

3. 次のフィールドに値を入力します（任意）。

- 連絡先

経費管理システムで使用する支払方法のために為替レートを設定するには、為替レートID に対して入力した住所番号を入力してください。異なる通貨間の為替レートに同じ住所番号を使用できます。たとえば、住所番号 12345 に対して米ドルとカナダ・ドルの換算レートを設定し、同じ 12345 に対して米ドルとユーロの換算レートも設定することができます。

4. [計算方法]の下にある次のオプションをオンにします。

- 逆換算方法

既存の通貨関係に新しい為替レートを設定する場合、前の為替レート・レコードからデフォルトの計算方法が取り込まれます。

5. 通貨関係に対してスポット・レートを許可する場合、次のオプションをオンにします。

- スポット・レートの許可

6. 次のフィールドに値を入力します。

- 換算方法 (Y/Z)

既存の通貨関係に新しい為替レートを設定する場合、前の為替レート・レコードからデフォルトの換算方法が取り込まれます。

新規の通貨関係に対して為替レートを設定する場合、〈一般会計固定情報〉プログラム (P0000)からデフォルトの換算方法が取り込まれます。

7. 次のいずれかのフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 乗算レート
- 除算レート

ブランクにしたフィールドは、システムによって値が自動的に計算されます。つまり、乗数レートを入力すると除数レートが自動的に計算されます。除数レートを入力した場合は乗数レートが自動的に計算されます。お互いの逆数がレートとして使われます。

警告およびエラー・メッセージ

前の為替レートと比較して、処理オプションで指定された許容限度を超える為替レートを入力すると、警告メッセージが表示されます。警告メッセージを一時変更して新しい為替レートを設定するには、[OK]を2回クリックします。

入力した有効日付およびレート・タイプ(該当する場合)にレートが既にある場合、エラー・メッセージが表示されます。

8. 自動計算された逆換算レートを検討するには、〈為替レートの処理〉で次の QBE フィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 換算元通貨
- 換算先通貨

9. レコードをハイライトして[選択]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
換算元通貨コード	通貨を示すコード
換算先通貨コード	通貨を表すコードです。
有効開始日付 連絡先	為替レートがある通貨関係で有効になる最初の日。 住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
為替レート・タイプ	為替レートの種類を指定するユーザー定義コード(11/RT)。デフォルトの値(ブランク)は標準為替レートです。
逆換算方法	為替レートに関する計算方法を指定します。計算方法には逆換算方法、逆換算禁止方法、間接為替方法があります。

換算方法 (Y/Z)	ある通貨から別の通貨に換算する際使用する方法を指定する値。有効な値は次のとおりです。
乗算レート	Y 乗数方式 外貨金額に為替レートを乗算して国内通貨金額を計算します。
	Z 除数方式 外貨金額を為替レートで除算して国内通貨金額を計算します。 外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。
除算レート	このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。 --- フォーム固有 --- 計算方法に従って、次のうちいずれかを実行してください。 逆換算方法では、通貨の換算レートを入力します。 逆換算禁止方法では、換算方法が Y(乗数)なら通貨関係の乗数換算レートを、換算方法が Z(除数)なら除数換算レートを入力します。
	間接為替換算方式では、間接為替換算関係の第 1 区間の逆換算禁止為替レートを入力します。 外貨建ての金額をこの除数で割って国内通貨建て金額を計算します。 --- フォーム固有 --- 計算方法により、次の事項が適用されます。 逆換算方法では、通貨の換算レートを入力します。 間接為替換算方式では、間接為替換算関係の 2 番目の逆換算禁止為替レートを入力します。
スポット・レートの許可	特定の通貨関係についてスポット・レートが適用可能かどうかを示すオプション。スポット・レートは取引入力時に入力する為替レートです。

逆換算禁止方法用の為替レートの設定

逆換算方法は、乗数および除数レートと同じ為替レートを使用して換算する方法です。

逆換算禁止方法の為替レートを設定する際、1 つのレートを入力して、特定の通貨関係で換算を行うときに乗数と除数どちらの換算方法を使用するかを指定します。逆換算禁止方法の為替レートを設定するのに、ある通貨から換算する際には乗数方式を使用し、ある通貨に換算する際には除数方式を使用することができます。

逆換算禁止方法と逆換算方法の違いは、逆換算禁止方法は同じレートを使用するのに対して、逆換算方法が乗数と除数レートの逆数レートを使用する点にあります。

逆換算禁止方法に対して為替レートを設定すると、対応する逆のレコードが自動的に作成されます。たとえば、逆換算禁止方法でカナダ・ドルから日本円への為替レート・レコードを設定し、換算方法 Z(除数)を指定した場合、換算方法 Y(乗数)を使用して日本円からカナダ・ドルへの為替レート・レコードが自動的に作成されます。これらの為替レート・レコードのレートは 2 つとも同じです。1 つは除数レート、もう 1 つは乗数レートです。各レコードの反対レートはブランクになります。これは、逆換算禁止を使用するとそのレートには意味がなくなるためです。

逆換算禁止方法は、間接為替方法と合わせて使用できます。

為替レートは、為替レート・テーブル(F0015)に保管されています。

▶ 逆換算禁止方法用為替レートを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈多通貨処理〉メニュー(G11)から〈為替レートの入力〉を選択します。

〈多通貨セットアップ〉メニュー(G1141)から〈為替レートの設定〉を選択します。

1. 〈為替レートの処理〉で、[追加]をクリックします。

2. 〈為替レートの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 換算元通貨コード
- 換算先通貨コード
- 有効開始日付

3. 次のフィールドに値を入力します(任意)。

- 連絡先

経費管理システムで使用する支払方法のために為替レートを設定するには、為替レートID に対して入力した住所番号を入力してください。異なる通貨間の為替レートに同じ住所番号を使用できます。たとえば、住所番号 12345 に対して米ドルとカナダ・ドルの換算レートを設定し、同じ 12345 に対して米ドルとユーロの換算レートも設定することができます。

4. [計算方法]の下にある次のオプションをオンにします。
 - 逆換算禁止方法
既存の通貨関係に新しい為替レートを設定する場合、前の為替レート・レコードからデフォルトの計算方法が取り込まれます。
5. 通貨関係に対してスポット・レートを許可する場合、次のオプションをオンにします。
 - スポット・レートの許可
6. 次のフィールドに値を入力します。
 - 換算方法 (Y/Z)
既存の通貨関係に新しい為替レートを設定する場合、前の為替レート・レコードからデフォルトの換算方法が取り込まれます。

新規の通貨関係に対して為替レートを設定する場合、〈一般会計固定情報〉プログラム (P0000)からデフォルトの換算方法が取り込まれます。
7. [逆換算禁止レート]フィールドに為替レートを入力し[OK]をクリックします。
対応する逆のレコードが自動的に作成されます。たとえば、逆換算禁止方法で換算方法 Z (除数)を使ってカナダ・ドルから日本円への為替レート・レコードを設定した場合、換算方法 Y(乗数)を使用した日本円からカナダ・ドルへの為替レート・レコードが自動的に作成されます。レコードの為替レートは両方とも同じです。

警告およびエラー・メッセージ

前の為替レートと比較して、処理オプションで指定された許容限度を超える為替レートを入力すると、警告メッセージが表示されます。警告メッセージを一時変更して新しい為替レートを設定するには、[OK]を 2 回クリックします。

入力した有効日付およびレート・タイプ(該当する場合)にレートが既にある場合、エラー・メッセージが表示されます。

間接為替方法用の為替レートの設定

間接為替方法は、ある通貨から別の通貨へ第 3 通貨(間接通貨)を経由して金額換算を行う換算方法です。間接為替方法の為替レートを設定する場合、その通貨関係に対して逆換算禁止方法も使用する必要があります。逆換算方法は間接為替方法と合わせて使用できません。

間接通貨を通して換算するには、外貨から間接通貨への換算(第 1 辺)に乗数(Y)と除数(Z)方法のどちらを使用するかを指定します。間接通貨から国内通貨への換算(第 2 辺)にはその逆の方法が使用されます。

外貨から国内通貨への関係に対して為替レートを設定し、そのレコードに間接通貨を割り当てます。対応する逆の為替レート・レコードが自動的に作成されます。たとえば、米ドルを間接通貨としてカナダ・ドルからユーロへの為替レートを設定すると、米ドルを間接通貨としたユーロからカナダ・ドルへのレコードが自動的に作成されます。

間接為替換算では、2 つのレートを使った除算と乗算によって国内通貨建ての金額が計算されます。取引レコードに両方のレートを保存することはできません。このため、為替レート 0 は保存することはできませんが、使用することはできません。

▶ 間接為替方法用為替レートを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈多通貨処理〉メニュー(G11)から〈為替レートの入力〉を選択します。

〈多通貨セットアップ〉メニュー(G1141)から〈為替レートの設定〉を選択します。

1. 〈為替レートの処理〉で、[追加]をクリックします。

2. 〈為替レートの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 換算元通貨コード
- 換算先通貨コード
- 有効開始日付

3. 次のフィールドに値を入力します(任意)。

- 連絡先

4. [計算方法]の下にある次のオプションをオンにします。
 - 間接換算方法
既存の通貨関係に新しい為替レートを設定する場合、前の為替レート・レコードからデフォルトの計算方法が取り込まれます。
5. 通貨間でスポット・レートを許可する場合、次のオプションをオンにします。
 - スポット・レートの許可
6. 次のフィールドに”Y”または”Z”を入力します。
 - 間接換算レート 1 の換算方法
既存の通貨関係に新しい為替レートを設定する場合、前の為替レート・レコードからデフォルトの換算方法が取り込まれます。

新規の通貨関係に対して為替レートを設定する場合、〈一般会計固定情報〉プログラム (P0000)からデフォルトの換算方法が取り込まれます。
7. 次のフィールドに値を入力します。
 - 間接為替通貨
8. 次のフィールドに外貨と間接通貨間の為替レートを入力します。
 - 間接換算レート 1
9. 次のフィールドに間接通貨と国内通貨間の為替レートを入力します。
 - 間接換算レート 2
10. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
間接為替通貨 乗算レート	間接為替計算用の決済通貨コード。 外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。 このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。 --- フォーム固有 --- 計算方法に従って、次のうちいずれかを実行してください。 逆換算方法では、通貨の換算レートを入力します。 逆換算禁止方法では、換算方法が Y(乗数)なら通貨関係の乗数換算レートを、換算方法が Z(除数)なら除数換算レートを入力します。 間接為替換算方式では、間接為替換算関係の第 1 区間の逆換算禁止為替レートを入力します。 外貨建ての金額をこの除数で割って国内通貨建て金額を計算します。
除算レート	--- フォーム固有 --- 計算方法により、次の事項が適用されます。 逆換算方法では、通貨の換算レートを入力します。 間接為替換算方式では、間接為替換算関係の 2 番目の逆換算禁止為替レートを入力します。

処理オプション: 為替レートの入力(P0015A)

限度タブ

1. 許容限度率

為替レートの変更に対して許容範囲を指定します。指定した許容範囲は、請求書、伝票、仕訳などの個々の取引の日付入力フォームに為替レートを入力した際に適用されます。

たとえば、為替レートの変更を 5%まで認める場合は“5.0”と指定します。前回入力した為替レートと比べて 6%を超える変更を入力すると、警告メッセージが表示されます。

表示タブ

1. レート・タイプ

0 またはブランク = 表示しない

1 = 表示する

レート・タイプ・フィールドを表示するかどうかを指定します。レート・タイプは、残高再換算プログラムで使用され、月平均、月締め、予算、実績履歴などが含まれます。有効な値は次のとおりです。

0 またはブランク
表示しない

1
レート・タイプ・フィールドを表示する

単一通貨に対する複数為替レートの設定

単一通貨に対して複数の為替レートを設定する場合、〈為替レートの入力〉プログラム(P0015A)と〈為替レートのスピード改訂〉プログラムのどちらでも使用できます。〈為替レートのスピード改訂〉プログラムには次のような利点があります。

- 関連した為替レートを入力するのに換算元通貨をその都度検索する必要がありません。その代わりに、同フォームで複数の換算元通貨から1つの換算先通貨への為替レートを入力することができます。
- このプログラムは既存の通貨関係に対する新しい為替レートを入力する場合にのみ使用し、迅速なデータ入力と通常の使用に適しています。

新規に通貨関係を設定したり、既存の通貨関係に対する計算方法、換算方法、その他の値を変更するには、〈為替レートの入力〉プログラムを使用する必要があります。

- 特定の通貨に関連するすべての通貨を同時に表示できます。

〈為替レートのスピード改訂〉プログラムにより、為替レート・テーブル(F0015)に保管された為替レートが更新されます。

▶ 単一通貨に対して複数の為替レートを設定するには

〈多通貨処理〉メニュー(G11)から〈為替レートのスPEED入力〉を選択します。

1. 〈為替レートの処理〉で、複数の為替レートを設定する換算先通貨が表示されたローを選択します。

PeopleSoft
為替レートの処理

選択 検索 追加 開じる ロー レポート ツール

レコード 1 - 10

換算元通貨	換算元通貨名	換算先通貨	換算先通貨名	連絡先 (住所No.)	記述
<input type="checkbox"/> AUD	Australian Dollar	USD	U.S. Dollar		
<input type="checkbox"/> BRL	Brazilian Real	USD	U.S. Dollar		
<input type="checkbox"/> CAD	Canadian Dollar	EUR	Euro		
<input checked="" type="checkbox"/> CAD	Canadian Dollar	JPY	Japanese Yen		
<input type="checkbox"/> CAD	Canadian Dollar	MXF	Mexican Peso		
<input type="checkbox"/> CAD	Canadian Dollar	USD	U.S. Dollar		
<input type="checkbox"/> CAD	Canadian Dollar	USD	U.S. Dollar	4356 American Express Co	
<input type="checkbox"/> CHF	Swiss Franc	USD	U.S. Dollar		
<input type="checkbox"/> COP	Colombian Peso	EUR	Euro		
<input type="checkbox"/> COP	Colombian Peso	USD	U.S. Dollar		

2. [ロー]メニューから[スピード為替レート]を選択します。

換算先通貨コードと、該当する場合は連絡先(住所)が〈為替レートのスPEED改訂〉フォームの見出しにコピーされます。

見出しの[有効日付]フィールドにはシステム日付がデフォルトで表示されます。その日付以前の最新レートが表示されます。

PeopleSoft®

為替レートのスピード改訂

OK 検索 キャンセル ツール

換算元通貨コード JPY Japanese Yen 連絡先(住所No.)

有効開始日付 05/06/01 日

グリッドのカスタマイズ											
	換算元通貨	為替レート乗数/間接レート 1	為替レート除数/間接レート 2	有効開始日付	計算方法	換算方法	有効レート乗数/間接レート 1	有効レート除数/間接レート 2	間接通貨	スポットレート	
<input checked="" type="radio"/>	CAD			05/06/01	1	Z	87.8063431	0.0113687		1	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	EUR			05/06/01	2	Y	100.8102955	0.0099196		0	
<input type="radio"/>	USD			05/06/01	1	Z	120.1345507	0.0083246		1	

3. <為替レートのスピード改訂>で、必要に応じて見出しの次のフィールドを必要な日付に変更します。

- 有効開始日付

[為替レート乗数/間接レート 1]および[為替レート除数/間接レート 2]フィールド

[為替レート乗数/間接レート 1]と[為替レート除数/間接レート 2]は、すべての計算方法に使用されるためフィールド名は普遍的なものになっています。[換算方法]と[計算方法]フィールドの値により、2つのフィールドのいずれかまたは両方が入力可能となります。

4. 各換算元通貨に対して、グリッドにある次のブランクのフィールドのうち1つに新規レートを入力します。

- 為替レート乗数/間接レート 1
- 為替レート除数/間接レート 2

計算方法が1(逆換算)で、換算方法がY(乗数)の場合、[為替レート乗数/間接レート 1]フィールドに新規レートを入力します。換算方法がZ(除数)の場合、[為替レート乗数/間接レート 2]フィールドに新規レートを入力します。[OK]をクリックするか次のローにタブ移動すると、ブランクにしたフィールドに対して逆のレートが自動計算されます。

計算方法が2(逆換算禁止)で換算方法がYの場合、[為替レート乗数/間接レート 1]フィールドに新規レートを入力します。換算方法がZの場合、[為替レート乗数/間接レート 2]フィールドに新規レートを入力します。

計算方法が3(間接為替)で換算方法がYまたはZの場合、[為替レート乗数/間接レート1]フィールドに外貨から間接通貨へのレートを入力し、[為替レート乗数/間接レート2]フィールドに間接通貨から国内通貨へのレートを入力します。

5. すべての新規レートを入力して[OK]をクリックします。
〈為替レートの処理〉フォームに戻ります。
6. 設定した新規レートを検討するには、[ロー]メニューから[複数レート]を選択します。
7. 〈為替レートのスピード改訂〉で、見出しの有効日付を変更して[検索]をクリックし、新規レートを検討します。

為替レートの検討

設定した為替レートはオンラインまたは印刷したフォーマットで検討できます。オンラインで検討する情報に応じて、次のうちいずれかを実行します。

- 〈為替レートのスピード改訂〉フォームで特定の換算先通貨に対する為替レートを検討する
- 〈為替レートの検討〉フォームで特定の換算元/換算先通貨関係に対する為替レートを検討する

また、特定の為替レートまたは為替レート関係は〈為替レート〉レポート(R00151P)を印刷して検討することもできます。

▶ 特定の換算先通貨の為替レートを検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈多通貨処理〉メニュー(G11)から〈為替レートの入力〉を選択します。

〈多通貨セットアップ〉メニュー(G1141)から〈為替レートの設定〉を選択します。

1. 〈為替レートの処理〉で、複数の為替レートを検討する換算先通貨が表示されたローを選択します。
2. [ロー]メニューから、[スピード為替レート]を選択します。

PeopleSoft®

為替レートのスปีド改訂

OK 検索 キャンセル ツール

換算先通貨コード: USD U.S. Dollar 連絡先(住所No.):

有効開始日付: 05/01/01 日

レコード 1 - 10

	換算元通貨	為替レート 乗数/割増レート 1	為替レート 除数/割増レート 2	有効開始 日付	計算 方法	換算 方法	有効レート 乗数/割増レート 1	有効レート 除数/割増レート 2	間接 通貨	スポット レート	
<input checked="" type="radio"/>	AUD			02/04/01	1	Z	0.5305012	1.8850100	1		<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	BRL			05/01/01	1	Z	0.9090909	1.1000000	1		
<input type="radio"/>	CAD			05/01/01	2	Z		1.4988010	1		
<input type="radio"/>	CHF			02/04/01	1	Z	0.6004563	1.6654000	1		
<input type="radio"/>	COP			05/01/01	1	Z	0.0009940	1006.0362173	1		
<input type="radio"/>	DKK			02/04/01	1	Z	0.1180289	8.4725000	1		
<input type="radio"/>	EUR			05/01/01	2	Z		1.1000000	0		
<input type="radio"/>	GBP			05/01/01	1	Z	1.5827794	0.6318000	1		
<input type="radio"/>	JPY			05/01/01	1	Z	0.0087680	114.0510948	1		
<input type="radio"/>	MXP			02/04/01	1	Z	0.1105278	9.0475000	1		

3. 〈為替レートのスปีド改訂〉で見出しの次のフィールドに値を入力し、特定の日付で為替レートを検討してから[検索]をクリックします。

- 有効開始日付

▶ 特定の換算元と換算先通貨の為替レートを検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈多通貨処理〉メニュー(G11)から〈為替レートの入力〉を選択します。

〈多通貨セットアップ〉メニュー(G1141)から〈為替レートの設定〉を選択します。

1. 〈為替レートの処理〉で、次の QBE フィールドに値を入力し、特定の通貨関係に対する為替レートを検討します。

- 換算元通貨
- 換算先通貨

2. [検索]をクリックします。

3. 通貨関係を含むローをハイライトして[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

為替レートの検討

選択 検索 追加 削除 開く ツール

検索
 検索元通貨コード
 検索先通貨コード
 有効開始日付

連絡先

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	有効開始 日付	計算 方法	換算 方法	乗算 レート	除算 レート	間接 通貨	間接為替レート 1	間接為替レート 2	スポット レート
<input checked="" type="radio"/>	05/01/01 3	Z	Z			USD	1.4988010	1.1000000 1	
<input type="radio"/>	05/02/01 3	Z				USD	1.4988010	1.0676917 1	
<input type="radio"/>	05/03/01 3	Z				USD	1.5363343	1.0831889 1	
<input type="radio"/>	05/04/01 3	Z				USD	1.5760441	1.1389522 1	
<input type="radio"/>	05/05/01 3	Z				USD	1.5368065	1.1271416 1	
<input type="radio"/>	05/06/01 3	Z				USD	1.5384615	1.1820331 1	
<input type="radio"/>	05/07/01 3	Z				USD	1.5146925	1.1760555 1	
<input type="radio"/>	05/08/01 3	Z				USD	1.5335071	1.1420740 1	
<input type="radio"/>	05/09/01 3	Z				USD	1.5506280	1.0968520 1	
<input type="radio"/>	05/10/01 3	Z				USD	1.5792798	1.0970927 1	

4. 〈為替レートの検討〉で見出しの次のフィールドに値を入力し、特定の日付で為替レートを検討してから[検索]をクリックします。

- 有効開始日付

為替レート・レポートの印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈多通貨処理〉メニュー(G11)から〈為替レートの入力〉を選択します。〈為替レートの処理〉で、[レポート]メニューから[為替レート・レポート]を選択します。

〈多通貨セットアップ〉メニュー(G1141)から〈為替レートの設定〉を選択します。〈為替レートの処理〉で、[レポート]メニューから[為替レート・レポート]を選択します。

オンラインで為替レートを検討する代わりに、〈為替レート〉レポートを印刷することもできます。

データ選択を使用して〈為替レート〉レポートに印刷する情報を制限してください。そうしないと、為替レート・テーブル(F0015)の全情報が印刷されます。たとえば、データ選択を使用して、特定の日付で特定の通貨に対する為替レートを印刷するようにしたり、特定の日付の為替レートをすべて印刷したりできます。

通貨クロス・レート相互関係の作成

金融市場で公開されていない為替レートを処理するには、既存の為替レートとそれを互いに関連付ける通貨関係を設定する必要があります。これは通貨クロス・レート相互関係と呼ばれます。

まず最初に、為替レートが必要な2つの通貨に対して公開されている一般的な通貨を検索します。次にクロス・レート相互関係を作成すると、それに基づいて為替レートが自動的に計算されます。クロス・レート相互関係は、通貨クロス・レート計算マスター(F11151)に保管されます。

メキシコ・ペソ(MXP)とコロンビア・ペソ(COP)の間の為替レートは金融市場で公開されていないと仮定します。ただし、この2つの通貨と米ドル(USD)との為替レートは公開されています。メキシコ・ペソとコロンビア・ペソの間で取引を行うには、次の為替レートに基づいて米ドルに対する通貨クロス・レート相互関係を設定する必要があります。

MXP → USD	ロンドン・フィナンシャル・タイムズ
USD → COP	ウォール・ストリート・ジャーナル

〈為替レート計算の設定〉フォームで換算元と換算先通貨を識別して通貨クロス・レート相互関係を作成したら、〈通貨クロス・レートの計算〉プログラムを実行して為替レートを計算します。前の例を使用してメキシコ・ペソからコロンビア・ペソへのレートが計算されます。

通貨クロス・レート相互関係を作成する代わりに、間接為替換算方法を使用して通貨関係を設定することも可能です。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「間接為替換算方法用為替レートの設定」

▶ 通貨クロス・レート相互関係を作成するには

〈多通貨処理〉メニュー(G11)から〈クロス・レート計算の設定〉を選択します。

1. 〈為替レート計算の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

為替レート計算の処理

OK 削除 キャンセル ツール

換算元通貨 MXP Mexican Peso
 換算先通貨コード COP Colombian Peso

連絡先(住所No.)
 順序No.

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 有効 日付	換算元 通貨 1	換算先 通貨 1	住所 No. 1	換算元 通貨 2	換算先 通貨 2	住所 No. 2	状況
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 05/06/15	MXP	USD		USD	COP		A
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

2. 〈為替レート計算の設定〉で、見出しの次のフィールドに値を入力します。
 - 換算元通貨
 - 換算先通貨コード
3. 契約上の為替レートに適用するクロス・レート相互関係を設定するには、次のフィールドの両方または 1 つに値を入力します。
 - 連絡先(住所 No.)
 - 順序 No.
4. 次のグリッドのフィールドに値を入力します。
 - 有効開始日付
5. 次のフィールドに共通通貨のコードを入力します。
 - 換算先通貨 1

次のローにタブ移動するか[OK]をクリックすると、このフィールドに入力した値が[通貨 2]フィールドにコピーされます。また、見出しの通貨コードが[換算元通貨 1]フィールドと[換算先通貨 2]フィールドにコピーされます。

6. 計算のために契約上の為替レートを指定するには、次のフィールドの 1 つまたは両方に値を入力します。

- 住所 No.1
- 住所 No. 2

7. [OK]をクリックします。

通貨クロス・レート関係を作成して検討したら、〈通貨クロス・レートの計算〉プログラム (R11153)を実行して新規の為替レートを計算します。

フィールド記述

記述 順序 No.	用語解説 出力フィールドの相対順序を定義する番号。たとえば、順序番号 10 は順序番号 20 より前に来ます。
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>通貨クロスレート計算用の番号。為替レートに対する通貨レート順序を指定します。ある通貨でのレートを計算するために、別通貨への為替レートが必要な場合、つまり特別な順序で計算する必要がある場合に、この番号を入力します。</p>
住所 No.1	[換算元通貨 1]と[換算先通貨 1]フィールドの通貨の契約上の為替レートに関連する住所番号を入力します。[換算元通貨 1]、[換算先通貨 1]、および使用されている場合は[住所番号 1]で定義されている為替レートを使用してクロス・レートが計算されます。
住所 No. 2	このフィールドには、[換算元通貨 2]フィールドと[換算先通貨 2]フィールドで指定した通貨についての、契約上の為替レートに関連する住所番号を入力します。[換算元通貨 2]、[換算先通貨 2]、[住所番号 2]で定義されている為替レートを使用してクロスレートが計算されます。

通貨クロス・レート相互関係の関連タスク

別の通貨クロス・レート関係の設定	別の通貨を共通通貨として指定するなど、同じ 2 つの通貨に対して複数の関係を設定する場合、異なる有効日付を使用するか、〈為替レート計算の設定〉フォームの見出しの住所番号を使用してください。
通貨クロス・レート関係の検討と改訂	<p>クロス・レート関係を検討および改訂するには、〈為替レート計算の処理〉フォームと〈為替レート計算の設定〉フォームを使用してください。</p> <p>たとえば、クロス・レート相互関係を無効にするには、〈為替レート計算の設定〉フォームでグリッドの[状況]フィールドを有効(A)から無効(I)に変更してください。</p>

通貨クロス・レート関係に基づく為替レートの計算

〈多通貨処理〉メニュー(G11)から〈為替クロス・レートの計算〉を選択します。

作成された通貨クロス・レート相互関係を検討した後、共通通貨に基づいて新しい為替レートを計算します。〈通貨クロス・レートの計算〉プログラム(R11153)では、通貨クロス・レート計算マスター(F11151)のクロス・レート相互関係および為替レート・テーブル(F0015)の為替レートに基づいて新しい為替レートが計算されます。

逆換算禁止方法を使用する通貨関係の場合、間接通貨が設定されているかどうかにかかわらずクロス・レートが計算されます。

〈通貨クロス・レートの計算〉プログラムは、次の表に示すようにテスト・モードまたは最終モードで実行できます。

テスト・モード	<p>すべての通貨相互関係および最終モードで計算される為替レートをリストしたレポートが印刷されます。レポートに印刷されるエラーと警告メッセージは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• 組合せが見つかりません。通貨関係に対する為替レートが存在しません。• 通貨コードが正しくありません。• 住所番号が正しくありません。• 警告 - レートが許容限度を超えています。• 警告 - この日付の為替レートがあります。• 月/年の照合エラー。このエラーは、処理オプションの有効日付を、その通貨の為替レートの有効日付と一致するように指定した場合に発生することがあります。 <p>このレポートを使ってエラーを修正し、〈通貨クロス・レートの計算〉プログラムを再度実行してください。</p>
最終モード	<p>通貨クロス・レート関係に基づいて計算された新しい為替レートをレポートに印刷します。F0015 テーブルが新しい為替レートと有効日付で更新されます。</p> <p>前回の為替レートと新しい為替レートの差が、〈通貨クロス・レートの計算〉プログラムの処理オプションで指定された許容限度を超えている場合、レポートに警告メッセージが印刷されます。為替レートは新しいレートに更新されます。</p>

処理オプション: クロス通貨レートの計算(P11153)

モード

1. 最終モードで通貨計算を処理するには、“1”を入力してください。空白の場合は、テスト・モードで処理されます。

モード

作成日付

2. 為替レート入力を作成するのに使用する日付を入力してください。空白の場合は、システム日付がデフォルトとして使用されます。

日付

3. オプション 2 と相互参照通貨の為替レートで入力した日付が同じであることが必須な場合、“1”を入力してください。空白の場合は、日付が一致する必要はありません。

日付の一致

許容度

4. 為替レートの急激な変動を警告する基準となる許容限度を指定してください。(例: 15.0 は 15% +/- の変動を示します。)

許容限度

[日付の一致]処理オプションの一時変更

〈通貨クロス・レートの計算〉プログラム(R11153)の処理オプションでは、入力した通貨クロス・レート相互関係に基づいて為替レートを計算する前に、完全に一致する日付を検索するように設定できます。

日付の一致が必須となるよう処理オプションを設定すると、換算元と換算先通貨の有効日付がこの処理オプションの日付と一致しない限り為替レートは計算されません。この規則を適用しない通貨がある場合、処理オプションを変更して再度プログラムを実行する必要はありません。代わりに、ユーザー定義コード 11/CS で日付の一致が必須でないコードを設定して処理オプションを一時変更することができます。

例: メキシコ・ペソからコロンビア・ペソに対する日付の一致の一時変更

ある会社が、メキシコ・ペソ(MXP)からコロンビア・ペソ(COP)以外のすべての通貨クロス・レートについて日付の一致を必須条件とする方針であるとして、この例外については、ユーザー定義コード・テーブルで 2 つの連結コードを設定する必要があります。

- MXPUSD - メキシコ・ペソから米ドルへのクロス・レート相互関係
- USDCOP - 米ドルからコロンビア・ペソへのクロス・レート相互関係

〈通貨クロスレートの計算〉プログラムの実行時に、レート作成日付として 05/6/30 を入力し、処理オプションで日付の一致を設定します。メキシコ・ペソから米ドル、米ドルからコロンビア・ペソに対して 05/6/30 の日付の為替レートは為替レート・テーブル(F0015)に存在しません。最も近い有効日付は 05/6/28 です。システムはこの日付に関連付けられたレートを使用してメキシコ・ペソからコロンビア・ペソへの為替レートを計算します。ユーザー定義コード 11/CS でメキシコ・ペソからコロンビア・ペソへのクロス・レート相互関係が設定されていないため、日付の一致処理オプションは一時変更されます。

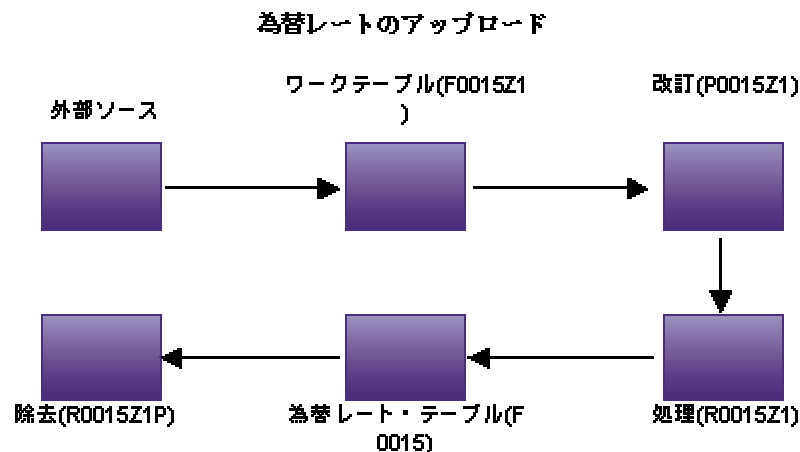
外部ソースからの為替レートのアップロード

複数の通貨を使って取引を行っている場合、日々発生する為替レートの変動に対応する必要があります。現行の為替レートを手入力する代わりに、ウェブサイトのような外部ソースから J.D. Edwards のワークファイルにアップロードすることができます。

まず最初に、外部ソースの為替レートを外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)にロードするカスタム・プログラムを作成する必要があります。為替レートをアップロードした後、次のプログラムを使用してください。

- 外部為替レートの改訂(P0015Z1)。必要に応じて、F0015Z1 ワークファイルで未処理の為替レートを修正してください。
- 外部為替レートの処理(R0015Z1)。F0015Z1 ワークファイルの為替レート・レコードを処理して、為替レート・テーブル(F0015)に保存します。
- 外部為替レートの除去(R0015Z1P)。F0015Z1 ワークファイルから為替レート・レコードを削除します。

次の図は、外部ソースから為替レートをアップロードして多通貨システムで処理するプロセスを示しています。



外部ソースから為替レートをロードするには、為替レートをコピーして外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)のフィールドに必要なデータを書き込むフォーマットでカスタム・プログラムを作成する必要があります。

外部ソースから為替レートをアップロードする処理に必須のフィールドがある一方で、任意または使用しないフィールドもあります。

F0015Z1 ワークテーブルのフィールド

外部為替レート・ワークテーブル(F0015Z1)の必須フィールド、任意フィールド、および使用しないフィールドについては、次の表を参照してください。ワークテーブルのフィールド名は、対話型フォームのフィールド名に対応しています。

F0015Z1 ワークテーブルの必須フィールド

〈外部為替レートの処理〉プログラム(R0015Z1)に対する必須フィールドは次のとおりです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - ユーザーID	ZEEDUS	文字	10	ユーザー定義の ID 番号。プロセスを実行している人のユーザーID、または従業員ワーク・センターにメッセージを受け取る人のユーザーIDを入力します。 ZEEDBT と ZEEDTN と組み合わせて、特定のトランザクションのグループを示します。
EDI - バッチ番号	ZEEDBT	文字	15	処理するトランザクションをグループ化する番号。 ZEEDUS と ZEEDTN と組み合わせて、特定のトランザクションのグループを示します。
EDI - トランザクション番号	ZEEDTN	文字	22	ZEEDLN と組み合わせて、各トランザクションを区別します。 ZEEDUS と ZEEDBT と組み合わせて、特定のトランザクションのグループを示します。
EDI - 行番号	ZEEDLN	数字	7	ZEEDTN と組み合わせて、トランザクションの各明細行を区別します。
EDI - 処理済み	ZEEDSP	文字	1	このフィールドは空白にしてください。システムによって次の値が入力されます。 <ul style="list-style-type: none"> 0(ゼロ) - アップロードされていないか、処理中にエラーが発生したことを示します。 1 - 正常に処理されたことを示します。
換算元通貨コード	ZECRCD	文字	3	取引の換算元通貨を示します。このコードは、為替レート・テーブル(F0013)に設定されている必要があります。
有効日付	ZEEFT	日付	6	取引の有効日付。
換算レート(乗数)	ZECRR	数字	15	取引の為替レート(乗数)

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
換算先通貨コード	ZECRDC	文字	3	取引の換算先通貨を示します。このコードは、為替レート・テーブル(F0013)に設定されている必要があります。
換算レート(除数)	ZECRRD	数字	15	取引の為替レート(除数)
計算方法	ZECLMETH	文字	1	<p>為替レートの計算に使う方法。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 = 逆換算方法 • 2 = 逆換算禁止方法 • 3 = 間接為替方法

F0015Z1 ワークテーブルの任意フィールド

〈外部為替レートの処理〉プログラム(R0015Z1)に対する任意フィールドは次のとおりです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	ZEAN8	数字	8	<p>顧客または仕入先の住所番号。契約上の為替レートが適用される場合に使用します。住所録マスター(F0101)にある番号を使用してください。</p> <p>取引上の為替レートのそれぞれの顧客と仕入先に対してパッチを作成する必要があります。パッチ番号が必要な理由は、銃番号ではなくパッチ番号に基づいてF0015Z1 ワークテーブルの為替レートを検討したり変更するためです。</p>
通貨換算 Y/Z	GRCM	文字	1	<p>為替レート計算に使用する乗数(Y)または除数(Z)方法。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、〈一般会計固定情報〉で設定した換算方法が使用されます。</p>
間接通貨コード	TRCR	文字列	3	2つの通貨間の換算に使用する第3通貨。
通貨スポット・レート	CSR	文字	1	<p>取引の入力時に F0015 テーブルの為替レートを一時変更できるオプション。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スポット・レートを許可する • スポット・レートを許可しない

F0015Z1 ワークテーブルで自動更新されるフィールド値

〈外部為替レート処理〉プログラム(R0015Z1)により自動更新されるフィールドは次のとおりです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ユーザーID	ZEUSER	文字列	10	処理を実行しているユーザーを識別するユーザー定義番号。
プログラム ID	ZEPID	文字列	10	バッチ・アプリケーションを識別するプログラム番号。
更新日付	ZEUPMJ	日付	6	F0015Z1 が最後に更新された日付。
最終更新時刻	ZEUPMT	数字	6	F0015Z1 が最後に更新された時刻。
ワークステーション ID	ZEJOBN	文字列	10	F0015Z1 ワークテーブルが更新されているワークステーションのID番号。

F0015Z1 ワークテーブルで使用されないフィールド

次のフィールドは、〈外部為替レート処理〉プログラムで現在使用しないフィールドなので、空白にしてください。これらのフィールドに値を入力しても、プログラムは無視します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	フィールドはblank
EDI - 伝票タイプ	ZEEDCT	文字	2	
トランザクション・タイプ	ZETYN	文字	8	
EDI - 変換フォーマット	ZEEDFT	文字	10	
EDI - アップロード日付	ZEEDDT	日付	6	
送受信インジケータ	ZEDRIN	文字	1	
EDI - 明細行処理済み	ZEEDDL	数字	5	
取引先 ID	ZEPNID	文字	15	
トランザクション・アクション	ZETNAC	文字	2	
レコード・タイプ	ZEEDTY	文字	1	
レコード順序	ZEEDSQ	数字	2	
EDI - トランザクション・セット番号	ZEEDTS	文字	6	
EDI - 送受信インジケータ	ZEEDER	文字	1	

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	フィールドはブランク
EDI - トランザクション・アクション	ZEEDTC	文字	1	
EDI - トランザクション・タイプ	ZEEDTR	文字	1	
バッチ・ファイル - 取引明細レコード作成	ZEEDGL	文字	1	
バッチ・ファイル割引処理フラグ	ZEEDDH	文字	1	
ユーザー住所番号	ZEEDAN	数字	8	
為替レート・タイプ	ZERTTYP	文字列	2	

外部為替レートの改訂

外部ソースから外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)にアップロードした為替レートを処理する前に、レコードの追加、変更、削除が必要な場合があります。

身処理レコードの改訂を行うには、〈外部為替レートの改訂〉プログラム(P0015Z1)を使用します。このプログラムは、次のキー・フィールドキーに基づいて F0015Z1 ワークファイルにアクセスします。

- ユーザーID
- バッチ番号
- トランザクション番号
- 行番号

行番号を除くすべてのキー・フィールドは〈外部為替レートの改訂〉フォームに表示されます。行番号フィールドは各レコードに固有の番号で、F0015Z1 ワークファイルのみに存在します。

また、〈外部為替レートの改訂〉プログラムを使用して、F0015Z1 テーブルに新しい為替レートのバッチを作成することもできます。

F0015Z1 ワークファイルの為替レートは、システムによって検証されません。その代わりに、F0015Z1 から F0015 テーブルにレコードを移動する際に検証が行われます。

注:

間違った有効日付で外部為替レートをアップロードした場合は、正しい有効日付を使ってアップロードし直してください。次に必要に応じて、〈外部為替レートの検討〉フォームを使用してレートを改訂します。

▶ 既存バッチの未処理為替レートを改訂するには

〈外部為替レート〉メニュー(G11311)から〈外部為替レートの改訂〉を選択します。

1. 〈外部為替レートの処理〉で、次のフィールドに検索を絞り込む値を入力します。

- ユーザーID
- EDI バッチ No.

2. 既存のバッチの未処理レコードを表示するには、次のオプションをオンにします。

- 処理済み(Y/N)オプション

このフォームでは処理済みのレコードを表示できますが、修正することはできません。代わりに、〈為替レートの改訂〉フォームで処理済みレコードを改訂する必要があります。

3. [検索]をクリックします。

PeopleSoft. 外部為替レートの処理

選択 検索 追加 削除 閉じる ツール

ユーザーID: [] 換算元通貨コード: []

EDI バッチ No.: [62] 換算先通貨コード: []

レコード No.: []

☐ 処理済み

ユーザーID	EDI バッチ No.	レコード No.	行 No.	住所 No.	処理済み	換算元通貨	換算先通貨	為替レート
AL5572711	62	1	1,000			USD	EUR	
AL5572711	62	1	2,000			CAD	EUR	1.8311150
AL5572711	62	1	3,000			GBP	EUR	0.6044297

4. 未処理レコードを改訂するには、レコードをハイライトして[選択]をクリックします。

そのレコードに関連するすべてのバッチが表示されます。

PeopleSoft®

外部為替レートの改訂

OK 削除 キャンセル ツール

ユーザー: AL5572711 EDI バッチNo.: 62 レコードNo.: 1

住所No.:

	換算元通貨	換算先通貨	有効開始日付	計算方法	通貨換算方法(Y/Z)	乗算レート	除算レート	間接レート 1	間接レート 2	間接通貨	スポットレート	処理済み
<input checked="" type="radio"/>	USD	EUR	05/06/15	2	Y	1.1790121					1	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	CAD	EUR	05/06/15	3				1.5471200	1.8311150	USD	0	
<input type="radio"/>	GBP	EUR	05/06/15	1		1.6544521	0.6044297				1	

〈外部為替レートの検討〉で、既存のバッチを変更、削除したり、レコードを追加することができます。

- レコードの為替レートを変更するには、グリッドの既存値を変更して[OK]をクリックします。
- 為替レート・レコードを削除するには、レコードをハイライトして[削除]をクリックします。〈削除の確認〉ウィンドウで[OK]をクリックします。
- 既存のバッチに為替レートを追加するには、グリッドの最初の空白行の次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 換算先通貨
- 換算元通貨
- 有効開始日付
- 計算方法

逆換算禁止方法を使用する場合は、このフィールドに 2(逆換算禁止)を入力します。または、このフィールドを空白にすると、他のフィールドに入力する値に基づいて計算方法が自動入力されます。

計算方法から判断して、次のフィールドに値を入力します。

- 通貨換算方法(Y/Z)
- 乗算レート
- 除算レート
- 間接レート 1

- 間接レート 2
- 間接通貨
- スポットレート

[処理済み]フィールドには値を入力しないようにしてください。〈外部為替レートの処理〉プログラムを実行すると、システムによって 1(処理済み)に更新されます。ブランクの場合は、レコードがまだ処理されていないことを示します。

8. 改訂内容を表示するには、[キャンセル]をクリックします。
9. 〈外部為替レートの処理〉で、[検索]をクリックしてフォームをリフレッシュします。

▶ F0015Z1 テーブルで為替レート・レコードのバッチを作成するには

〈外部為替レート〉メニュー(G11311)から〈外部為替レートの改訂〉を選択します。

1. 〈外部為替レートの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 各通貨関係について、グリッドの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 換算先通貨
 - 換算元通貨
 - 有効開始日付
 - 計算方法

逆換算禁止方法を使用する場合は、このフィールドに 2(逆換算禁止)を入力します。または、このフィールドをブランクにすると、他のフィールドに入力する値に基づいて計算方法が自動入力されます。
3. 使用する計算方法によって、次のフィールドに値を入力します。
 - 通貨換算方法(Y/Z)
 - 乗算レート
 - 除算レート
 - 間接レート 1
 - 間接レート 2
 - 間接通貨
 - スポットレート

[処理済み]フィールドには値を入力しないようにしてください。〈外部為替レートの処理〉プログラムを実行すると、システムによって 1(処理済み)に更新されます。ブランクの場合は、レコードがまだ処理されていないことを示します。
4. 各為替レート・レコードについてステップ 2 と 3 を繰り返します。
5. [OK]をクリックします。
6. 作成したバッチを表示するには、[キャンセル]をクリックします。
7. 〈外部為替レートの処理〉で、[検索]をクリックしてフォームをリフレッシュします。

フィールド記述

記述	用語解説
換算先通貨	通貨を表すコードです。
換算元通貨	通貨を示すコード
有効開始日付 乗算レート	<p>為替レートがある通貨関係で有効になる最初の日。 外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。</p> <p>このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。</p> <p>--- フォーム固有 --- 〈外部為替レートの改訂〉フォームで、間接為替換算通貨関係での換算元通貨を示す外貨の通貨コード。たとえば、外貨がカナダ・ドル、米ドルは間接為替換算通貨、ユーロが国内通貨の場合、このフィールドの値はカナダ・ドルとなります。</p>
除算レート	<p>外貨建ての金額をこの除数で割って国内通貨建て金額を計算します。</p> <p>--- フォーム固有 --- 〈外部為替レートの改訂〉フォームで、間接為替換算通貨関係での換算先通貨を識別する国内通貨コード。たとえば、外貨がカナダ・ドル、米ドルは間接為替換算通貨、ユーロが国内通貨の場合、このフィールドの値はユーロとなります。</p>
処理済み	<p>レコードの処理が適切に行われたどうかを示すオプション。アプリケーションによりませんが、次の値のいずれかでテーブルの [EDSP] フィールドが更新されます。</p> <p>1 または Y</p> <p>正常に処理済み</p> <p>ブランクまたは N</p> <p>未処理</p> <p>--- フォーム固有 --- 通常、[処理済み] フィールドには値を入力しません。〈外部為替レートの処理〉プログラム(R0015Z1)を実行すると、システムによって 1 (処理済み) に更新されます。ブランクは未処理を示します。</p>
間接レート 1	<p>外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。</p> <p>このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。</p> <p>--- フォーム固有 --- 〈外部為替レートの改訂〉フォームで、間接為替換算通貨関係での換算元通貨を示す外貨の通貨コード。たとえば、外貨がカナダ・ドル、米ドルは間接為替換算通貨、ユーロが国内通貨の場合、このフィールドの値はカナダ・ドルとなります。</p>

間接レート 2	外貨建ての金額をこの除数で割って国内通貨建て金額を計算します。
計算方法	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>〈外部為替レートの改訂〉フォームで、間接為替換算通貨関係での換算先通貨を識別する国内通貨コード。たとえば、外貨がカナダ・ドル、米ドルは間接為替換算通貨、ユーロが国内通貨の場合、このフィールドの値はユーロとなります。</p> <p>為替レートに関する計算方法を指定します。計算方法には逆換算方法、逆換算禁止方法、間接為替方法があります。</p>
通貨換算方法(Y/Z)	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>〈外部為替レートの検討〉で、為替レートに使用する計算方法を指定するコードを入力します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 逆換算方法</p> <p>2 逆換算禁止方式</p> <p>3 間接為替方法</p> <p>ある通貨から別の通貨に換算する際使用する方法を指定する値。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 乗数方式 外貨金額に為替レートを乗算して国内通貨金額を計算します。</p>
スポットレート	<p>Z 除数方式 外貨金額を為替レートで除算して国内通貨金額を計算します。特定の通貨関係についてスポット・レートが適用可能かどうかを示すオプション。スポット・レートは取引入力時に入力する為替レートです。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>〈外部為替レートの改訂〉フォームと外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)で、スポット・レートが認められているかどうかを示す値です。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 スポット・レートを認めない</p> <p>1 スポット・レートを認める</p> <p>間接通貨 間接為替計算用の決済通貨コード。</p>

外部為替レートの処理

〈外部為替レート〉メニュー(G11311)から〈外部為替レートの処理〉を選択します。

外部為替レートを外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)にアップロードして修正した後、〈外部為替レートの処理〉プログラム(R0015Z1)を実行します。このプログラムは、F0015Z1 ワークファイルの為替レート・レコードを処理して為替レート・テーブル(F0015)に保存します。

このプログラムは次の処理を実行します。

- [ZEEDSP]フィールドに 0 を含む未処理の為替レート・レコードのみを選択する。
- 通貨コード、為替レート、有効日付を F0015 テーブルに対して検証する。同じ通貨間で同じ有効日付の為替レートが既にある場合、既存のレコードは上書きされません。代わりに、従業員ワークセンターに「重複キーは不可」というエラー・メッセージが送信され、レポートには「レコードにエラーが発生しました」というメッセージが印刷されます。
- 為替レートを F0015 テーブルに突き合わせて検証し、レートが逆換算禁止と間接為替計算方法に従っているか確認する(該当する場合)。為替レートをアップロードして〈外部為替レートの処理〉プログラムを使用する前に、F0015 テーブルの通貨の間に逆換算禁止および間接為替換算を設定してください。
- 選択されたレコードとエラーがあったレコードの件数、および F0015 テーブルに追加されたレコードの合計件数を示すレポートを作成する。
- 従業員ワークセンターにエラーを書き込み、ユーザーID、バッチ番号、トランザクション番号を表示する。
- 正常に処理されたレコードには F0015Z1 ワークファイルで[ZEEDSP]フィールドを 1(処理済み)に更新する。
- F0015Z1 ワークファイルからレコードを削除する(処理オプションで設定されている場合)。

正常に処理された為替レートを修正する必要がある場合、為替レート・プログラム(P0015)を使用してください。

処理オプション: 外部為替レートの処理(R0015Z1)

オプション・タブ

1. アップロードが完了したレコードの削除

外部為替レートの処理(R0015Z1)が問題なく完了した後、処理済みレコードを除去するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

Blank

処理済みレコードを除去しない。

1

処理済みレコードを除去する。外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)のフィールド ZEEDSP に"1"(処理済み)のあるレコードのみが除去されます。

処理オプション: 外部為替レートの除去(R0015Z1P)

オプション・タブ

1. 未処理レコードの削除

外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)からレコードを除去します。有効な値は次のとおりです。

Blank

処理済みレコードのみを除去する。外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)のフィールド ZEEDSP に"1"(処理済み)のあるレコードが除去されます。

1

処理済み、未処理両方のレコードを除去する。外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)のフィールド ZEEDSP で、"0"(未処理)と"1"(処理済み)両方のレコードが除去されます。

チェックリスト: 売掛管理システムの多通貨セットアップ

売掛管理システムで多通貨を処理できるように設定する場合、次のチェックリストを参考にしてください。

外貨建て顧客レコード

顧客レコードにより、請求書を発行する通貨および住所録金額を記録する通貨が指定されます。

タスクおよび記述	プログラム	V
各顧客にデフォルト通貨と住所録通貨を指定します。 <ul style="list-style-type: none">処理オプションを設定して、すべての住所録金額に対して通貨を指定します。この通貨は顧客レコードで一時変更できます。顧客レコードにデフォルト通貨および住所録通貨を割り当てます。 『多通貨処理』ガイドの「顧客レコードへの通貨コードの割当て」を参照してください。	顧客マスター情報(P03013)	
複数の顧客の通貨コードを一括変更します。次の処理オプションを設定します。 <ul style="list-style-type: none">為替レート日付顧客通貨コード住所録の通貨コード丸め係数 『多通貨処理』ガイドの「住所録換算プログラムの処理内容」を参照してください。	住所録換算 - F03012(R8903012E)	

外貨建て請求書

外貨建て請求書とは、自社の基本通貨とは異なる通貨で発行する請求書のことです。

タスクおよび記述	プログラム	V
外貨で請求書を入力します。 『多通貨処理』ガイドの「外貨建て請求書の入力」を参照してください。	売掛金元帳照会(P03B2002)	
外貨で請求書を印刷します。請求書に通貨情報を印刷するよう処理オプションを設定します。 『多通貨処理』ガイドの「外貨建て請求書の印刷」を参照してください。	請求書の印刷 (R03B505)	

タスクおよび記述	プログラム	V
<p>外貨建て計算書を印刷します。処理オプションで、外貨建てまたは該当する場合は国内通貨で計算書を印刷するように設定します。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「請求書通貨または入金通貨での計算書の検討」の「はじめる前に」を参照してください。</p>	計算書データの再作成 (R03B500X)	

外貨および代替通貨建ての入金

外貨建て入金とは、会社通貨とは異なる通貨による入金です。入金通貨は、請求書に突き合わせる外貨と同じものである必要があります。

代替通貨入金とは、請求書の国内通貨と外貨以外の通貨による入金です。

タスクおよび記述	プログラム	V
<p>外貨入金を外貨請求書に突き合わせます。処理オプションを設定して、次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入金入力時に通貨フィールドの値をクリアしない 入金入力時に為替レート・フィールドの値をクリアしない 有効日付を検証する。 <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨による入金入力」を参照してください。</p>	入金入力(P03B102)	
<p>代替通貨建て入金を外貨または国内通貨建て請求書に突き合わせます。代替通貨での入金を処理できるよう処理オプションを設定してください。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「代替通貨での入金入力」を参照してください。</p>	入金入力(P03B102)	
<p>外貨建て入金を請求書に照合し、突き合わせます。F03B13Z1 テーブルの各多通貨フィールドに値が含まれていることを確認してください。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「F03B13Z1 テーブルの多通貨必須フィールド」を参照してください。</p>	請求書自動突合せ(R03B50)	

外貨建て手形

手形は、支払人と受取人の取引銀行との間で直接決済される支払手段です。外貨建て手形は、手形を発行する会社の基本通貨以外の手形です。

タスクおよび記述	プログラム	V
<p>外貨建ての手形を処理します。処理オプションを設定して、次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手形入力時に通貨フィールドの値をクリアしない 手形入力時に為替レート・フィールドの値をクリアしない 有効日付を検証する。 <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨建て受取手形の処理」を参照してください。</p>	手形入力(P03B602)	
<p>外貨建ての手形を印刷します。請求書に通貨情報を印刷するよう処理オプションを設定します。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨建て手形および処理オプション」を参照してください。</p>	請求書の印刷(手形あり)(R03B5051)	
<p>外貨建ての手形を回収します。偶発債務を伴わない手形を取り立てる場合、為替レート・テーブル(F0015)の為替レートを一時変更するように、必要に応じて処理オプションを設定できます。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨建て手形および処理オプション」を参照してください。</p>	手形の回収(R03B680)	
<p>偶発債務を伴う外貨建て手形を取り立てます。処理オプションを設定して、F0015 テーブルの為替レートを一時変更できます。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「偶発債務を伴う外貨建て手形の取立」を参照してください。</p>	手形の取立(R03B672)	

外貨建て自動引落し処理

自動引落し処理は、顧客の銀行口座から自動的に引き落とした取引を記録するために使用します。外貨建て自動引落しは、取引通貨以外の通貨で引落しを行うことです。

タスクおよび記述	プログラム	V
外貨建ての自動引落しを処理します。次の処理オプションを設定します。 <ul style="list-style-type: none">銀行テープ・フォーマット・プログラムとバージョン自動引落しを処理する請求書通貨(国内通貨または外貨)銀行勘定の一時変更(必要な場合) 『多通貨処理』ガイドの「外貨建ての自動引落し処理」を参照してください。	自動引落しバッチ(R03B571)	

仮定通貨処理

仮定通貨処理を使用すると、実際に入力された通貨(外貨または代替通貨)以外の通貨で請求書を検討および印刷することができます。

タスクおよび記述	プログラム	V
仮定通貨建て請求書を検討します。次の処理オプションを設定します。 <ul style="list-style-type: none">仮定通貨のデフォルト通貨コード為替レート日付 『多通貨処理』ガイドの「仮定通貨建て請求書の検討」を参照してください。	売掛金元帳照会(P03B2002)	
仮定通貨建て請求書を印刷します。特定の通貨で仮定金額を印刷するよう処理オプションを設定します。『多通貨処理』ガイドの「仮定通貨建て請求書の印刷」を参照してください。	請求書の印刷(R42565)	

外貨による実現および未実現為替差損益 AAI

未決済請求書および入金の国内通貨と外貨間の為替レート変動は、AAI(自動仕訳)を使って記録されます。

タスクおよび記述	プログラム	V
<p>未決済の外貨建て請求書における未実現為替差損益を計上します。次の AAI 項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> RVxxx (未実現為替差益) RWxxx (未実現為替差損) RRxxx (未実現為替差損益の相手勘定) <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨建て請求書の未実現為替差損益 AAI」を参照してください。</p>	AAI (P0012)	
<p>外貨建て入金の実現為替差損益を計上します。次の AAI 項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> RGxxx (実現為替差益) RLxxx (実現為替差損) <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨建て入金の実現為替差損益 AAI」を参照してください。</p>	AAI (P0012)	
<p>外貨建て入金の端数を計上します。AAI 項目 R8 (端数調整勘定)を設定します。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI」を参照してください。</p>	AAI (P0012)	

代替通貨建て実現為替差損益 AAI

代替通貨での入金を処理する場合、AAI を使って国内通貨、外貨、代替通貨の為替レートの変動が記録されます。

タスクおよび記述	プログラム	V
代替通貨建て入金の実現為替差損益を計上します。次の AAI 項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • PYxxx(実現為替差益) • PZxxx(実現為替差損) 『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て入金の実現為替差損益 AAI」を参照してください。	AAI (P0012)	
代替通貨建て入金の代替通貨仮金額を計上します。AAI 項目 R7 (仮勘定)を設定します。 『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て入金の仮勘定 AAI」を参照してください。	AAI (P0012)	
代替通貨建て入金の端数を計上します。AAI 項目 R8 (端数調整勘定)を設定します。 『多通貨処理』ガイドの「外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI」を参照してください。	AAI (P0012)	

顧客レコードへの通貨コードの割当て

各顧客レコードには次の通貨コード・フィールドが含まれます。

- 通貨コード(CRCD)。顧客に請求書を発行するデフォルト通貨です。請求書入力時にデフォルトの通貨コードを変更できます。
 ブランクの場合は、顧客レコードに割り当てられている会社の通貨コードがデフォルトになります。
- 住所録通貨コード(CRCA)。与信限度額、今年度請求額、前年度請求額など、住所録レコードに記録されている金額の通貨です。
 〈顧客マスター〉プログラム(P03013)の処理オプションを設定している場合、このフィールドをブランクにすると[住所録通貨コード]の値が使用されます。そうでない場合は、〈住所録の改訂〉フォームの[ビジネスユニット]フィールドに割り当てられた通貨の通貨コードが使用されます。

通貨コード情報は〈顧客マスターの改訂〉フォームで割り当ててください。通貨コード情報は会社別顧客マスター(F03012)に保存されています。

▶ 顧客レコードに通貨コードを割り当てるには

以下のステップは、多通貨処理を行う場合に必要な顧客の設定です。このステップの[売掛金用通貨の指定]オプションは、〈顧客マスター情報〉プログラム(P03013)と同じものです。

〈多通貨セットアップ〉メニュー(G1141)から〈売掛金用通貨の指定〉を選択します。

1. 〈顧客マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 名称
2. 顧客を選んで[選択]をクリックします。

3. 〈顧客マスターの改訂〉で、[請求書]タブをクリックします。
4. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 通貨コード
 - 住所録通貨コード

参照

- 〈顧客マスターの改訂〉フォームの通貨以外の情報について詳しくは『売掛管理』ガイドの「請求書と入金処理するためのデフォルト情報を入力するには」

フィールド記述

記述	用語解説
通貨コード	取引通貨を識別するコード。 --- フォーム固有 --- 通貨コードは通常 3 桁です。 J.D. Edwards では、国際標準化機構(ISO)で承認済みなど国際的に認められたコードの使用をお勧めします。 </TEXT> </GL> <DD> <SOURCE>Currency Code - From</SOURCE> <TARGET>通貨コード</TARGET> </DD> 顧客への請求書の入力時に自動的に割り当てられるデフォルトの通貨を示すコード。請求書入力時にこの値を変更することができます。ブランクにすると自動的に通貨コードが割り当てられます。 住所録通貨コード 住所録に保存されている金額(与信限度額や当年度請求額、前年度請求額など)の通貨コード。指定した通貨で取引履歴が保存されます。 --- フォーム固有 --- このフィールドをブランクにすると、[金額の通貨コード]オプションで指定されている通貨コードが使用されます。その処理オプションをブランクにした場合は、<住所録の改訂>フォームの[ビジネスユニット]フィールドに割り当てられた会社の通過コードが使用されます。

顧客マスター情報(P03013)の多通貨処理オプション

デフォルト

3. 通貨コード

住所録の金額フィールドに対するデフォルトの通貨コードを指定します。この処理オプションおよび<顧客マスターの改訂>フォームの[住所録通貨コード]フィールドがブランクの場合、住所録のビジネスユニットに割り当てられた会社の通貨が使用されます。

一般会計固定情報で多通貨がアクティブになっている場合のみ、[住所録通貨コード]フィールドが表示されます。

固定情報での集計方式の設定

集計方式固定情報では通貨を指定しない他の 3 種類の固定情報とともに、すべての会社の売掛管理と買掛管理システムを制御します。

伝票、請求書、入金、支払などを転記すると、取引明細テーブル(F0911)に相手科目(伝票タイプ AE)が作成されます。〈売掛管理固定情報〉および〈買掛管理固定情報〉プログラム(P0000)で指定した集計方式によって、各明細レコードの次の項目別に 1 件の売掛金勘定または買掛金勘定レコードが作成されます。

- バッチ(方式 B)
- 伝票(方式 Y)
- 支払項目(方式 S)

転記プログラムで外貨または代替通貨を含む請求書、伝票、入金、支払バッチを転記することができないため、多通貨処理ではバッチ集計方式(B)は使用できません。

会社間決済を使用し多通貨会社間取引を可能にしている場合、次の表にあるように〈売掛管理固定情報〉と〈買掛管理固定情報〉の集計方式が〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)の会社間決済方式と対応している必要があります。

多通貨用の会社間決済方式	売掛金/買掛金集計方式		
	B = バッチごとに1レコード Y = 取引ごとに1レコード S = 支払項目ごとに1レコード		
	B	Y	S
2 = 詳細方式	対応しない	対応する	対応する
3 = 構成ハブ	対応しない	対応する	対応する

会社間決済方式と集計方式が対応していない場合、総勘定元帳に取引を転記した時にエラー・メッセージが表示されます。

詳細再換算

詳細再換算の場合は、集計方式 Y を使用する必要があります。

参照

- 『多通貨処理ガイド』ガイドの「多通貨会社間決済」

▶ 売掛管理固定情報で集計方式を設定するには

〈売掛管理システム・セットアップ〉メニュー(G03B41)から〈売掛管理固定情報〉を選択します。

1. 〈システム・セットアップ〉で、[売掛管理固定情報]をクリックします。
2. 〈売掛管理固定情報の処理〉で、[検索]をクリックします。

3. 会社 00000 をハイライトして[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

売掛管理固定情報

OK キャンセル フォーム ツール

会社 00000 J.D. Edwards & Company

売掛管理

☐ バッチ制御必須 ☒ 一般会計インターフェイス 売掛金勘定集計方式 Y
☐ 管理者承認 One Offset per Document

入金管理

☒ 延滞通知 ☒ 計算書の印刷
☒ 自動入金

年割調べ情報

基準日 経過日数(999 = 無限)

計算方法 1 開始 30 ~ 0 ~ 30 ~ 60
年割調べ基準日 D ~ 90 ~ 120 ~ 150 ~ 999

4. 〈売掛管理固定情報〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 売掛金勘定集計方式

多通貨処理には集計方式 Y(伝票ごとに 1 件のレコードを作成)と S(支払項目ごとに 1 件のレコードを作成)は有効ですが、集計方式 B(バッチごとに 1 件のレコードを作成)は有効ではありません。詳細再換算の場合は、集計方式 Y のみ有効です。

フィールド記述

記述	用語解説
売掛金勘定集計方式	請求書、入金、手形の総勘定元帳への転記時に取引明細テーブル(F0911)に売掛金勘定(伝票タイプ AE)をどのように作成するかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 B バッチごとに 1 件のレコードを作成する Y 取引ごとに 1 件のレコードを作成する S 支払項目ごとに 1 件のレコードを作成する

売掛管理システムの多通貨用 AAI の設定

多通貨処理用に、売掛管理システムで次の AAI を設定します。

- 未決済の外貨建て請求書における未実現為替差損益
- 外貨建て入金における実現為替差損益
- 代替通貨建て入金における実現為替差損益
- 外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定
- 代替通貨建て入金で使用する仮勘定
- 外貨建ての売掛勘定
- 外貨および代替通貨建ての銀行勘定

為替差損益を計算する AAI 項目を設定できます。正しい勘定科目への金額の計上は、AAI(自動仕訳)を使って自動的に行われます。為替差損益は次のうちいずれかの為替レートの変動により発生します。

- 請求書を発行した日付とその会計期間末時点(請求書が未入金の場合)の為替レートが異なる場合(未実現為替差損益)
- 請求書発行時と入金時の為替レートが異なる場合(実現為替差損益)

未決済の入金および請求書については、為替差損益が国内通貨と外貨間で計算されます。代替通貨での入金については、為替差損益が国内通貨、外貨、代替通貨間で計算されます。

また、外貨建て請求書の勘定科目と、外貨および代替通貨建て入金の銀行勘定を定義する AAI 項目を設定します。

いくつかの AAI には、3 文字の通貨コードに対応する xxx サフィックスがあります。各会社で特定の通貨を指定する AAI 項目は、この xxx サフィックスを使って設定してください。各 AAI 項目には、システムが勘定科目を検索するための順序が設定されています。

参照

- AAI の設定方法については『一般会計』ガイドの「AAI の設定」

外貨建て請求書の未実現為替差損益 AAI

売掛管理システムで未実現為替差損益を自動的に計算するためには、AAI を設定する必要があります。

会計期間末に未決済の外貨建て請求書による実現為替差損益を計上する勘定科目を定義します。

- RVxxx(外貨未実現為替差益)
- RWxxx(外貨未実現為替差損)
- RRxxx(外貨未実現為替差損益の相手勘定)

未実現為替差損益金額を作成する際、システムは当初請求書のコピーと未決済請求書のコピー(期間末の為替レートにより再評価される)を比較し、その差額について為替差損益を作成します。

RV、RW、RR には次のような特徴があります。

- 〈売掛金未実現為替差損益〉レポート(R03B426)を実行すると、RV および RW に割り当てられた勘定科目コードを使用して外貨未実現為替差損益が作成されます。
- 〈売掛金未実現為替差損益〉レポートを実行すると、RR に割り当てられた勘定科目コードを使用して外貨未実現為替差損益の相手勘定が作成されます。
- xxx は通貨コード(任意)、xxxx は元帳クラスを表します。

次の表は、システムが AAI 項目 RV、RW、RR を検索する順序を示しています。これらの AAI 項目の検索順序は同じです。

AAI 項目	説明	AAI の検索順序
RV	外貨未実現為替差益	<ul style="list-style-type: none"> • RVxxx。請求書に入力した会社に関連付けられた RVxxx (xxx は請求書の取引通貨) が使用されます。 • RVxxx。会社 00000 の RVxxx (xxx は請求書の取引通貨) が使用されます。 • RVxxxx。請求書に入力した会社に関連付けられた RVxxxx (xxxx は請求書の元帳クラス) が使用されます。 • RVxxxx。会社 00000 の RVxxxx が使用されます。 • RV。請求書に入力した会社に関連付けられた RV が使用されます。 • RV。会社 00000 の RV が使用されます。
RW	外貨未実現為替差損	<ul style="list-style-type: none"> • RWxxx。請求書に入力した会社に関連付けられた RWxxx (xxx は請求書の取引通貨) が使用されます。 • RWxxx。会社 00000 の RWxxx (xxx は請求書の取引通貨) が使用されます。 • RWxxxx。請求書に入力した会社に関連付けられた RWxxxx (xxxx は請求書の元帳クラス) が使用されます。 • RWxxxx。会社 00000 の RWxxxx が使用されます。 • RW。請求書に入力した会社に関連付けられた RW が使用されます。 • RW。会社 00000 の RW が使用されます。
RR	外貨未実現為替差損益の相手勘定	<ul style="list-style-type: none"> • RRxxx。請求書に入力した会社に関連付けられた RRxxx (xxx は請求書の取引通貨) が使用されます。 • RRxxx。会社 00000 の RRxxx (xxx は請求書の取引通貨) が使用されます。 • RRxxxx。請求書に入力した会社に関連付けられた RRxxxx (xxxx は請求書の元帳クラス) が使用されます。 • RRxxxx。会社 00000 の RRxxxx が使用されます。 • RR。請求書に入力した会社に関連付けられた RR が使用されます。 • RR。会社 00000 の RR が使用されます。

外貨建て入金の実現為替差益 AAI

外貨での入金による実現為替差損益を計上する勘定科目を定義します。

- RGxxx(外貨実現為替差益)
- RLxxx(外貨実現為替差損)

為替差損益は、請求書日付と外貨で入金があった日の為替レート差異と請求書の金額を乗算して計算されます。

RG および RL には次のような機能があります。

- 入金を転記すると、為替差損益の仕訳レコードが作成されます。
- 外貨為替差損益額を作成するのに RG および RL に割り当てられた勘定科目コードが使用されます。
- xxx は通貨コード(任意)、xxxx は元帳クラスを表します。

次の表は、システムが AAI 項目 RG と RL を検索する順序を示しています。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
RG	外貨実現為替差益	<ul style="list-style-type: none"> • RGxxx。入金に入力した会社に関連付けられた RGxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 • RGxxx。会社 00000 の RGxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 • RGxxxx。入金に入力した会社に関連付けられた RGxxxx (xxxx は請求書の元帳クラス) が使用されます。 • RGxxxx。会社 00000 の RGxxxx (xxxx は請求書の元帳クラス) が使用されます。 • RG。入金に入力した会社に関連付けられた RG が使用されます。 • RG。会社 00000 の RG が使用されます。
RL	外貨実現為替差損	<ul style="list-style-type: none"> • RLxxx。入金に入力した会社に関連付けられた RLxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 • RLxxx。会社 00000 の RLxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 • RLxxxx。入金に入力した会社に関連付けられた RLxxxx (xxxx は請求書の元帳クラス) が使用されます。 • RLxxxx。会社 00000 の RLxxxx (xxxx は請求書の元帳クラス) が使用されます。 • RL。入金に入力した会社に関連付けられた RL が使用されます。 • RL。会社 00000 の RL が使用されます。

代替通貨建て入金の実現為替差益 AAI

代替通貨で入金された場合の為替差損益は、標準為替差損益とは別に計上するため、異なる AAI を使用してください。

代替通貨での入金による実現為替差損益を計上する勘定科目を定義します。

- Ryxxx(代替通貨実現為替差益)
- RZxxx(代替通貨実現為替差損)

RY と RZ には次のような特徴があります。

- 入金を転記すると、為替差損益の仕訳レコードが作成されます。
- 代替通貨為替差損益額を作成するのに、次のような規則で RY および RZ に割り当てられた勘定科目コードが使用されます。
 - 代替通貨から直接国内通貨に換算した金額が、代替通貨をまず外貨に換算した後に国内通貨に換算した金額より大きい場合は、為替差益レコードが作成されます。
 - 代替通貨から直接国内通貨に換算した金額が、代替通貨をまず外貨に換算した後に国内通貨に換算した金額より小さい場合は、為替差損レコードが作成されます。
- xxx は通貨コード(任意)、xxxx は元帳クラスを表します。

次の表は、システムが AAI 項目 RY と RZ を検索する順序を示しています。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
RY	代替通貨実現為替差益	<ul style="list-style-type: none"> • RYxxx。入金に入力した会社に関連付けられた RYxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 • RYxxx。会社 00000 の RYxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 • RYxxxx。入金に入力した会社に関連付けられた RYxxxx(xxxx は請求書の元帳クラス)が使用されます。 • RYxxxx。会社 00000 の RYxxxx(xxxx は請求書の元帳クラス)が使用されます。 • 入金に入力した会社に関連付けられた RY が使用されます。 • 会社 00000 の RY が使用されます。
RZ	代替通貨実現為替差損	<ul style="list-style-type: none"> • RZxxx。入金に入力した会社に関連付けられた RZxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 • RZxxx。会社 00000 の RZxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 • RZxxxx。入金に入力した会社に関連付けられた RZxxxx(xxxx は請求書の元帳クラス)が使用されます。 • RZxxxx。会社 00000 の RZxxxx(xxxx は請求書の元帳クラス)が使用されます。 • RZ。入金に入力した会社に関連付けられた RZ が使用されます。 • RZ。会社 00000 の RZ が使用されます。

外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI

AAI 項目 R8 は、外貨または代替通貨建て入金の転記時に四捨五入差異が生じた場合に使用する勘定科目を定義します。

外貨または代替通貨による入金を請求書に突き合わせた時に、両者の金額が一致しない場合があります。四捨五入差異は、システムで外貨と国内通貨間または代替通貨と国内通貨間で換算を行ったときに生じる可能性があります。この差額は、請求額と入金額の国内通貨建て金額が異なる場合に生じるわずかな誤差です。

このような換算時の四捨五入によって生じた端数分の誤差を記録するため、外貨または代替通貨による入金を転記すると、端数勘定の仕訳が自動的に作成されます。

次の表は、システムが AAI 項目 R8 を検索する順序を示しています。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
R8	外貨および代替通貨端数調整勘定	<ul style="list-style-type: none">R8。入金に入力した会社に関連付けられた R8 が使用されます。R8。会社 00000 の R8 が使用されます。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「入金転記時に記録される四捨五入差異」

代替通貨建て入金の仮勘定 AAI

代替通貨での入金を転記する場合に使用する代替通貨仮勘定を定義します。この仮勘定には、入金額を請求書通貨に換算した次の履歴が残ります。

- 外貨建て当初請求書、外貨建て請求書の国内通貨建て金額
- 代替通貨入金、代替通貨入金の国内通貨建て金額

代替通貨仮勘定によって、国内通貨建ての金額は残高が一致しますが、外貨建てでは金額が一致しません。これは、外貨の方には代替通貨が含まれるためです。

R7 には次のような特徴があります。

- 仮勘定は、入金を計上する銀行勘定と同じ会社にある必要がある
- ビジネスユニットを含める
- 通貨(通貨指定)勘定は使用できません。

次の表は、システムが AAI 項目 R7 を検索する順序を示しています。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
R7	代替通貨建て入金仮勘定	<ul style="list-style-type: none">R7。入金に入力した会社に関連付けられた R7 が使用されます。R7。会社 00000 の R7 が使用されます。

外貨建て売掛勘定 AAI

AAI 項目 RC(売掛金勘定)は、請求書に対して支払が行われるまで仮勘定の役目を果たす勘定科目を指定します。使用する勘定科目は、請求書に入力した会社に基づいて取り込まれます。

AAI 項目 RC には次のような特徴があります。

- 売掛金勘定は、請求書の転記時には請求書金額が借方に計上され、入金転記時には入金額が貸方に計上されます。
- xxx は通貨コード(任意)、xxxx は元帳クラスを表します。

次の表は、元帳クラスがある場合とない場合の AAI 項目 RC の検索順序を示しています。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
RC	元帳クラスを指定した場合の売掛金勘定 (元帳クラス=xxxx)	<ul style="list-style-type: none"> • RCxxx。請求書に入力した会社に関連付けられた RCxxx(xxx は請求書の取引通貨)が使用されます。 • RCxxx。会社 00000 の RCxxx(xxx は請求書の取引通貨)が使用されます。 • RCxxxx。請求書に入力した会社に関連付けられた RCxxxx(xxxx は請求書に入力した元帳クラス)が使用されます。 • RCxxxx。会社 00000 の RCxxxx が使用されます。 <p>AAI 項目が見つからない場合、「勘定科目コードが正しくありません」というエラー・メッセージが表示されます。AAI 項目 PC は検索されません。</p>
RC	元帳クラスを指定しない場合の売掛金勘定 (元帳クラス=ブランク)	<ul style="list-style-type: none"> • RCxxx。請求書に入力した会社に関連付けられた RCxxx(xxx は請求書の取引通貨)が使用されます。 • RCxxx。会社 00000 の RCxxx(xxx は請求書の取引通貨)が使用されます。 • RC。請求書に入力した会社に関連付けられた RC が使用されます。 • RC。会社 00000 の RC が使用されます。 <p>AAI 項目が見つからない場合、「勘定科目コードが正しくありません」というエラー・メッセージが表示されます。</p>

次の例は、請求書の通貨、元帳クラス、会社の各フィールドの検索順序とその関係を示しています。

例:元帳クラスを指定した場合の AAI の検索順序

ある米国の会社(会社番号 00001)が、元帳クラス TRAD を指定してカナダ・ドル建ての請求書を入力しました。

1. まず会社 00001 の AAI 項目 RCCAD が検索されます。
2. 見つからない場合、次に 00000 の AAI 項目 RCCAD が検索されます。
3. 見つからない場合、次に会社 00001 の AAI 項目 RCTRAD が検索されます。

4. 見つからない場合、次に 00000 の AAI 項目 RCTRAD が検索されます。それでも見つからない場合は、「勘定科目コードが正しくありません」というエラー・メッセージが表示されます。

例:元帳クラスを指定しない場合の AAI の検索順序

ある米国の会社(会社番号 00001)が、元帳クラスを指定しない(ブランク)でカナダ・ドル建ての請求書を入力しました。

売掛金勘定を決定するために、次の順序で AAI が検索されます。

1. まず会社 00001 の AAI 項目 RCCAD が検索されます。
2. 見つからない場合、次に 00000 の AAI 項目 RCCAD が検索されます。
3. 見つからない場合、次に会社 00001 の項目 RC が検索されます。
4. 見つからない場合、次に 00000 の項目 RC が検索されます。それでも見つからない場合は、「勘定科目コードが正しくありません」というエラー・メッセージが表示されます。

外貨建て受取銀行勘定 AAI

AAI 項目 RB は(受取銀行勘定)は、銀行勘定が指定されていない入金レコードに対してデフォルトの銀行勘定を指定します。使用する銀行勘定は、入金に入力した会社に基づいて取り込まれます。

銀行勘定には通貨勘定(通貨指定あり)と非通貨勘定(通貨指定なし)の 2 つがあります。AAI 項目 RB に関連付けられたのが通貨勘定である場合、その通貨は入金の取引通貨と同じである必要があります。

RB には次のような特徴があります。

- 銀行勘定は、入金に入力された金額が借方に計上されます。
- ビジネスユニットは必須です。
- xxx は通貨コード(任意)を表します。

次の表は、システムが AAI 項目 RBを検索する順序を示しています。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
RB	受取銀行勘定	<ul style="list-style-type: none"> • RBxxx。入金に入力した会社に関連付けられた RBxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 • RBxxx。会社 00000 の RBxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 • RB。入金に入力した会社に関連付けられた RBが使用されます。 • RB。会社 00000 の RBが使用されます。 <p>見つからない場合、「勘定科目コードが正しくありません」というエラー・メッセージが表示されます。AAI 項目 PBIは検索されません。</p>

顧客通貨の換算

Windows 環境では、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈バッチ・バージョン〉を選択します。

次のような理由で、顧客通貨または住所録通貨の換算が必要な場合があります。

- 顧客が別の通貨での支払を希望している
- 別の通貨を使用した請求書を顧客に送付する必要がある
- 住所録に保存されている金額(与信限度額や実績請求額など)を別の通貨で見たい

たとえば、最近日本企業に買収された米国企業があるとします。本社では、すべての顧客についての金額統計を日本円(JPY)で見る必要があります。〈住所録換算 - F03012〉プログラム(R8903012E)を実行して、すべての顧客の住所録通貨および金額を米ドル(USD)から日本円に換算することができます。

R8903012E プログラムでは、会社別顧客マスター(F03012)の通貨コードおよび金額フィールドが一括または個別に換算されます。

- 通貨コード(CRCD)。異なる通貨での請求書を指定する顧客の要求が複数の場合は、R8903012E プログラムを実行してデフォルト通貨コードを変更します。また変更するデフォルト通貨コードが少ない場合は、〈顧客マスターの改訂〉フォームにアクセスして手作業で変更することもできます。
- 住所録通貨コード(CRCA)。顧客の住所録残高を別の通貨で表示するには、R8903012E プログラムを実行して住所録通貨コードを変更しF03012 テーブルの次の金額を換算します。
 - 集計残高(年累計請求額、延滞利息金、前年度請求額、前年度入金額、未決済金額など)。集計残高は、〈顧客マスターの改訂〉フォームからアクセスできる〈顧客追加情報〉フォームに表示されます。
 - 限度額(与信限度額および最低/最高受注金額)。集計残高は、〈顧客マスターの改訂〉フォームからアクセスできる〈請求情報〉フォームに表示されます。

住所録換算プログラムの処理内容

次の換算プログラムにより、複数の顧客や仕入先の通貨コードおよび金額が換算されます。

- 住所録換算 - F03012(R8903012E)
- 住所録換算 - F0401(R890401E)

デフォルト通貨コード、住所録通貨コードおよび金額、またはその両方を換算するには、R8903012E と R890401E プログラムの次の処理オプションを指定する必要があります。

- 住所録金額を換算するのに使用する為替レート日付。
- 住所録通貨コードおよび金額を換算するのに使用する通貨コード。実行する換算プログラムによって、次のテーブルのいずれかの[住所録通貨コード]フィールド(CRCA)が更新されます。
- 会社別顧客マスター(F03012)

- 仕入先マスター(F0401)
- デフォルト通貨コードを変更するのに使用する通貨コード。実行する換算プログラムによって、次のフィールドのうち 1 つが更新されます。
 - F03012 テーブルの[通貨コード]フィールド(CRCD)
 - F0401 テーブルの[通貨コード]フィールド(CRRP)

R8903012E および R890401E プログラムに異なるバージョンを設定することができます。たとえば、デフォルト通貨コードのみを変更するバージョン、住所録通貨コードと金額を換算するバージョン、その両方を換算するバージョンと使い分けることができます。

データ選択で、他の通貨に換算する顧客や仕入先のみを選択するよう指定します。住所番号を指定しない場合は、すべての顧客や仕入先について換算が実行されます。特定のカテゴリ・コードを割り当てられたすべての顧客または仕入先の金額を換算する場合は、カテゴリ・コードを指定してください。

例外レポート

R8903012E と R890401E の換算プログラムを実行すると、例外レポートが印刷されます。印刷される次のようなメッセージを確認し、必要に応じてプログラムを再度実行してください。

- 処理エラーなし。住所録残高を更新するよう処理オプションを設定している場合、実行した〈住所録換算〉プログラムのバージョンにより、次のテーブルのいずれかが更新されます。
 - 会社別顧客マスター(F03012)
 - 仕入先マスター(F0401)
- 為替レートが見つかりません。換算先の通貨コードが為替レート・テーブルで設定されていないか、その通貨コードの為替レートまたは有効日付が設定されていません。
- 入力した通貨が正しくありません。通貨処理オプションの一方または両方に入力した通貨コードが有効ではありません。
- 更新エラー - レコードがロックされているか、または見つかりません。顧客マスターまたは仕入先マスターのレコードが使用中です。

例: 顧客金額の換算

この例では、カナダ・ドル(CAD)からユーロ(EUR)に換算する前と後の顧客金額を示しています。

顧客金額の換算前

顧客マスターの[通貨コード]および[住所録通貨コード]フィールドは CAD (カナダ・ドル) です。

〈住所録換算 - F03012〉プログラム(R8903012E)の処理オプションを次のように設定します。

- 住所録および金額通貨 = EUR
- デフォルト通貨コード = ブランク
- 与信限度額、最低/最高受注金額 = 50

為替レート・テーブル(F0015)の為替レートは 1 カナダ・ドル = 0.71097 ユーロ

顧客金額の換算後

R08903012E プログラムを実行すると、顧客の住所録金額はユーロ建てとなりますが、請求書金額はカナダ・ドルのままです。

F03012 フィールド	記述	換算前	換算後	四捨五入前の金額
A5CRCD	通貨コード - A/R	CAD	CAD	-
A5CRCA	通貨コード - 住所録	CAD	EUR	-
A5AD	未決済請求額	100.00 CAD	71.10 EUR	-
A5AFCP	前年度延滞利息金	200.00 CAD	142.19 EUR	-
A5AFCY	延滞利息金年累計	300.00 CAD	213.29 EUR	-
A5ASTY	当年度請求額	400.00 CAD	284.39 EUR	-
A5SPYE	前年度請求額	500.00 CAD	355.48 EUR	-
A5AHB	最高残高	600.00 CAD	426.58 EUR	-
A5ALP	前回支払金額	700.00 CAD	497.68 EUR	-
A5ABAM	住所録金額	使用しない	使用しない	-
A5ABA1	住所録金額	使用しない	使用しない	-
A5APRC	未決済オーダー金額	1,000 CAD	710.97 EUR	-
A5MINO	最低オーダー金額	1,000 CAD	700 EUR	710.97 EUR
A5MAXO	最高オーダー金額	50,000 CAD	35,550 EUR	35,548.30 EUR
A5ACL	与信限度額	10,000 CAD	7,100 EUR	7,109.66 EUR

注意:

F03012 テーブルの[A5ABAM]フィールドには、ユーザー定義による固定金額が保存されます。
[A5ABA1]フィールドは使用できません。これらのフィールドを使用する場合、R8903012E プログラムではフィールドの値が金額かどうかにかかわらず換算が行われることに注意してください。

例:異なる通貨の親/子構造

デフォルト通貨や住所録の通貨コードが異なる親/子構造を使用している場合、〈住所録換算〉プログラム(R8903012E および R890401E)を使用して、子の通貨(または親の通貨)には依存せずに、親の通貨(または子の通貨)を換算することができます。この柔軟性によって、子会社への請求書の発行や支払を別の通貨で行っている場合にも、親会社の通貨で住所録の金額のトラッキングすることができます。また、子会社レベルで住所録金額を換算して、親と子の通貨を同時に換算するといった処理も可能です。

通貨コードの更新前

次の例では、〈住所録換算 - F03012〉プログラム(R08903012E)で顧客通貨コードを変更する前の異なる通貨での親/子構造を示しています。

関係	住所録通貨	デフォルト通貨
親	JPY	JPY
子 1	JPY	USD
子 2	JPY	GBP
子 3	JPY	EUR

子 1 と子 3 がカナダ・ドル(CAD)で請求書を発行するように指定してきました。R8903012E プログラムを使って、デフォルト通貨の米ドル(USD)とユーロ(EUR)をそれぞれカナダ・ドル(CAD)に換算します。

注:

親と子の通貨を同時に換算できる場合もあります。

通貨コードの更新後

次の例では、R8903012E の換算プログラムを実行した結果を示しています。

関係	住所録通貨	デフォルト通貨
親	JPY	JPY
子 1	JPY	CAD
子 2	JPY	GBP
子 3	JPY	CAD

住所録金額は親会社の通貨(JPY)でトラッキングする一方で、子会社には異なる通貨(CAD および GBP)で請求書を発行していることがわかります。

処理オプション:住所録換算 – F03012(R8903012E)

更新

1. 顧客マスターの残高を更新するには、“1”を入力します。ブランクの場合、残高は更新されません。
2. 為替レート日付として使用する日付を入力します。ブランクの場合、システム日付がデフォルトとなります。

通貨

3. 顧客マスターの住所録通貨と金額を更新するには、通貨コードを入力してください。ブランクの場合、住所録通貨と金額は更新されません。
4. 顧客マスターの通貨コードを更新するには、通貨コードを入力します。ブランクの場合、通貨コードは更新されません。

丸め

5. 次の限度額および数量フィールドの近似値を入力してください。

金額 – 与信限度額

最小オーダー値

最大オーダー値

たとえば、100 と入力すると 100 単位、50 の場合は 50 単位の近似値に自動的に値が変わります。ブランクの場合、値は変わりません。

多通貨請求書

会社の基本通貨と請求書の取引通貨の関係により、その請求書が国内通貨建て取引か外貨建て取引かが決まります。

請求書を入力する際、会社の通貨によって基本(国内)通貨が決まり、請求書を発行する通貨によって取引通貨が決まります。

複数の通貨で請求書进行处理する場合、〈会社の設定〉プログラム(P0010)で各会社に通貨を割り当てる必要があります。会社の通貨コードにより、請求書入力時の請求書の基本通貨が決まります。

国内通貨対外貨建て取引

次は、請求書および伝票に使用する際の国内通貨建て取引と外貨建て取引の違いを示しています。

国内通貨建て取引

請求書または伝票レコードの入力時に指定した会社の基本通貨と取引通貨が同じ場合、国内通貨建ての請求書または伝票と見なされます。国内通貨建ての取引を入力する際は、取引に外貨を使用しないため外貨金額フィールドは更新も表示もされません。

たとえば、会社の基本通貨が米ドル(USD)であるとしします。会社の請求書を入力し、取引通貨には米ドルを指定します。会社の基本通貨は請求書の取引通貨と同じであるため、請求書は国内通貨建てとなります。

外貨建て取引

請求書または伝票レコードの入力時に指定した会社の基本通貨と取引通貨が異なる場合、外貨建ての請求書または伝票と見なされます。請求書または伝票には、外貨(取引通貨)建ての金額と国内通貨建ての金額ができます。取引の国内通貨建て金額の計算には、為替レート・テーブル(F0015)の為替レートまたは請求書や伝票レコードに入力した為替レートが使用されます。

たとえば、会社の基本通貨が米ドル(USD)であるとしします。その会社に対して伝票を入力し、日本円(JPY)を取引通貨として割り当てます。会社の基本通貨が請求書の取引通貨と異なるため、伝票は外貨建てとなります。

税抜き外貨建て取引における国内通貨建て金額の計算

税抜きの外貨建て取引を入力すると、外貨建ての総額に為替レートを乗算して国内通貨建ての総額が自動的に計算されます。取引の支払条件が金額を複数の支払項目に分割するという条件の場合、外貨と国内通貨建て両方の総額に対して集計四捨五入が行われます。これは、外貨の支払項目の総計を入力した当初外貨建て金額と等しくし、国内通貨の支払項目の総計を入力した当初外貨建て金額に為替レートを乗算したものと等しくするために実行されます。

次の例は、複数の支払項目に分割する外貨建て取引と、複数の支払項目で入力される外貨建て取引の違いを示しています。この例では、次のような条件を使用しています。

- 伝票は米国の会社に対してカナダ・ドル(CAD)で入力された
- 入力した外貨建て金額は 100.00 カナダ・ドル(CAD)

- 金額計算に乗算換算方法を使用する
- 為替レートは 1.4 (CAD→USD)
- 自動計算された国内通貨建て金額は 140.00 (100.00 × 1.4)

例: 複数の支払項目に分割される外貨建て取引

この例では、取引に支払条件を割り当てます。合計金額を 3 つの支払項目に分割し、1%の割引を適用します。

支払項目	外貨総額	外貨割引	国内通貨総額	国内通貨割引
001	33.33	0.33	46.67	0.47
002	33.34	0.34	46.66	0.46
003	33.33	0.33	46.67	0.47
合計	100.00	1.00	140.00	1.40

支払条件が分割の外貨建て取引を入力すると、分割が行われる前に外貨建ての総額を使用して国内通貨建ての総額が計算されます。実際には外貨側と国内通貨側で 1 回ずつの 2 回の分割が行われます。

この例では、140.00 USD を 3 で除算しています(46.666666)。集計四捨五入が行われるため、国内通貨建て支払額の計算結果は上の表のようになります。支払項目 001 の外貨建て総額(33.33)を為替レート(1.4)で乗算した数値(46.66)が、国内通貨建て総額(46.67)と等しくならないことに留意してください。集計四捨五入により、分割金額の合計(46.67+46.66+46.67)が開始時の金額(140.00)と等しくなります。

例: 複数の支払項目で入力された外貨建て取引(分割支払項目なし)

この例では、システムが合計金額を複数の支払項目に分割するのではなく、ユーザーが支払項目を個別に入力します。

支払項目を入力する際、入力した金額が為替レートで自動的に乗算されるため、各支払項目の国内通貨建て金額はそれぞれ異なります。この処理は、支払項目を入力して保存する際に実行されます。

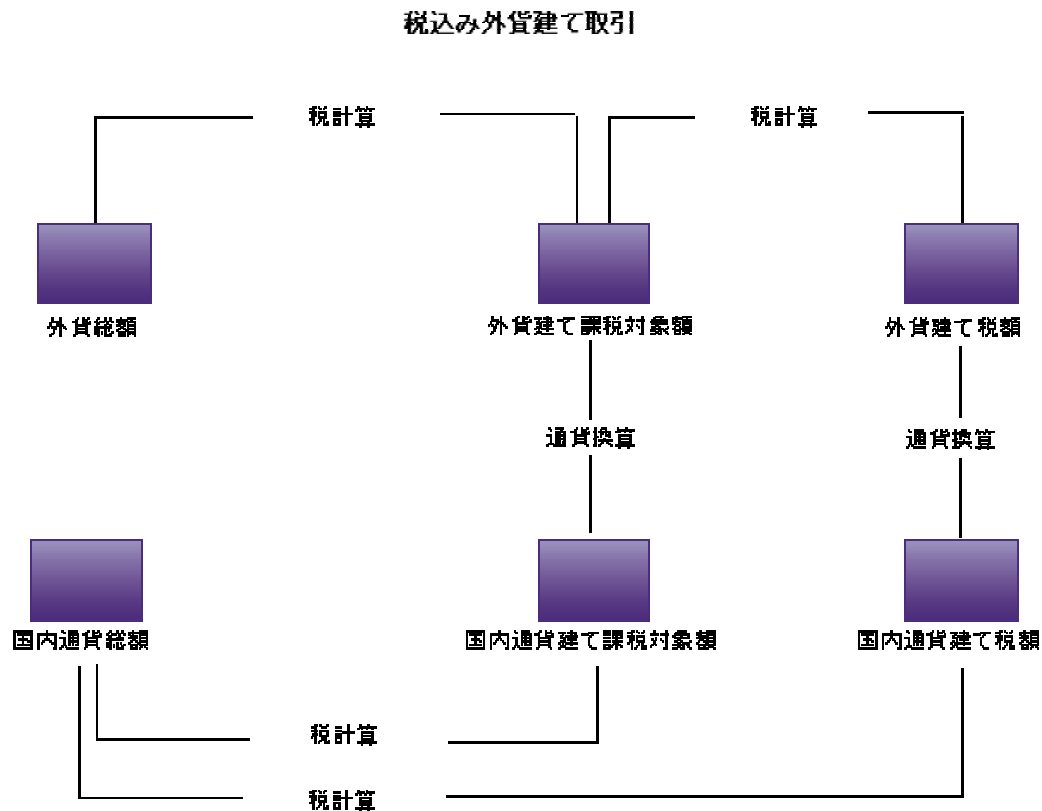
支払項目	外貨総額	外貨割引	国内通貨総額	国内通貨割引
001	33.33	0.33	46.66	0.46
002	33.34	0.34	46.68	0.48
003	33.33	0.33	46.66	0.46
合計	100.00	1.00	140.00	1.40

各支払項目について集計四捨五入が実行されても国内通貨建て総額の合計は 140.00 USD になりますが、為替レートが合計支払金額にではなく各支払項目に適用されているため、各支払項目の金額は異なります。

税込み外貨建て取引における国内通貨建て金額の計算

税込み外貨建て取引を入力すると、入力した取引の外貨側で税額および割引額が計算されます。次にこの金額を使用して、取り込まれた為替レートにより国内通貨側の税額と割引額が計算されます。請求書または伝票に複数の支払項目がある場合、外貨と国内通貨それぞれについて計算した後で集計四捨五入が実行されます。

次の図は、システムが外貨で入力された取引の税額および総額をどのように計算するかを示しています。外貨課税対象額が入力されました。



税額と総額は次のようにして算出されます。

- 外貨課税対象額に税率を乗算して外貨建ての税額を算出する。
- 外貨課税対象額と税額を合計して外貨建ての総額を算出する。
- 外貨課税対象額と税額に為替レート(通貨コードと為替レート日付により決定)を乗算して、国内通貨課税対象額および税額を算出する。
- 国内通貨課税対象額と税額を合計して国内通貨建ての総額を算出する。

注:

国内通貨建ての総額を計算するために外貨建ての総額に為替レートは乗算されません。

例:税込み外貨建て取引

この例では、次のような条件を使用しています。

- 米国の会社に対してユーロで請求書を入力する
- 金額計算に除算換算方法を使用する
- ユーロから米ドルへの換算レートは 0.8900757
- 税率は 5%
- 税タイプは売上税

	総額	課税対象額	税額
外貨	1,527.75	1,455.00	72.75
国内通貨	1,716.42	1,634.69	81.73

システムでは次の処理が行われます。

- 課税対象額の 1,455.00 に税額 72.75 を加えて総額 1,527.75 を算出する。
- 1,455.00 を 0.8900757 で除算した 1,634.6924 を四捨五入して国内通貨課税対象額 1,634.69 を算出する。
- 72.75 を 0.8900757 で除算した 81.73462 を四捨五入して国内通貨建ての税額 81.73 を算出する。
- 課税対象額の 1,634.69 に税額 81.73 を加えて国内通貨建ての総額 1,716.42 を算出する。

注:

外貨建ての総額(1,527.75)を為替レート(0.8900757)で除算して国内通貨建て金額を算出すると、計算結果は 1,716.42 ではなく 1,716.43 となります。また、国内通貨課税対象額(1,634.69)と税額(81.73)を合計しても、国内通貨建ての総額と等しくはなりません。

四捨五入と集計四捨五入

割引や税が含まれる請求書および伝票を大量に処理すると、四捨五入差異は大きな額になります。四捨五入は、計算が行われるあらゆる取引で実行されます。支払項目が 1 つの取引には四捨五入が使用され、複数の支払項目を持つ取引には集計四捨五入が使用されます。

四捨五入

四捨五入は、システムの計算結果の最低通貨単位(米ドルのペニーなど)が等しくならない場合に自動的に発生します。この場合は次のような処理が実行されます。

- 最小有効数字が 5 以上の場合は切り上げる
- 最小有効数字が 5 未満の場合は切り下げる

たとえば、計算結果が 0.55672 で通貨はカナダ・ドル(CAD)で小数点以下 2 桁まで入力できる場合、小数点以下 3 桁の数字が四捨五入の対象になります。この例では、切り上げが行われ 0.56 という金額が算出されます。逆に、金額が 0.55472 なら小数点以下 3 桁目の 4 は切り下げられ 0.55 となります。小数点以下表示桁数が 2 である通貨では、小数点以下 3 桁目以降の数字は無視されます。

集計四捨五入

複数の金額の合計が特定の値になる必要がある場合、集計四捨五入が使用されます。たとえば 100 カナダ・ドル(CAD)の伝票を 3 つの支払項目に分割する場合、合計が 100 になるように最初の支払項目は 33、2 番目は 34、3 番目は 33 として計算されます。この集計四捨五入を使用しないと、3 つの支払項目に同じ金額を入力したり、合計が支払合計と一致しない支払項目で支払を行うことになってしまいます。

四捨五入による悪影響を最小にするため、複数の支払項目を持つ取引には集計四捨五入が使用されます。計算した金額(四捨五入の結果)に加算または減算する金額がキャッシュ(メモリ)に保存され、その次の支払項目に下記のように適用されます。

- 最初の支払項目の金額を切り上げた場合、次の支払項目を四捨五入する前に切り上げた金額を差し引きます。
- 最初の支払項目の金額を切り下げた場合、次の支払項目を四捨五入する前に切り下げた金額を加えます。

集計四捨五入が実行されないと、仕入先や顧客に間違った額で支払や請求を行うことになります。集計四捨五入では取引間の過剰支払/請求および過小支払/請求について制御しませんが、1 つの取引内での四捨五入による影響は最小限に抑えます。集計四捨五入の金額が取引間でやり取りされることはありません。

多通貨バッチ合計

データ入力が柔軟にできるように、同じバッチに異なる通貨の取引を入力することができます。売掛管理、買掛管理、一般会計のそれぞれの固定情報でバッチ制御を必須に設定すると、仕訳の借方金額がバッチ合計に加えられます。バッチの合計金額は、通貨の種類に関係なく合計されます。

同じバッチに異なる通貨の請求書、伝票、仕訳を入力した場合、通貨に合わせた小数点表記の調整はされません。そのためバッチ合計は意味をなしません。バッチの合計金額を意味のある金額にするには、通貨ごとにバッチを作成してください。

小数点以下桁数が異なる通貨を含むバッチの予想合計を出すには、金額を小数点なしで合計した値を〈バッチ制御〉フォーム(P0011)の[予想合計]フィールドに入力します。

たとえば、同じバッチに 10,535.00 ユーロの取引と 16,433,500 円の取引を入力したとします。すると、ユーロの小数点位置を無視してこの 2 つの金額が加算されるため、合計金額は意味をなしません。〈バッチ制御〉フォームの[実際の入力合計]フィールドに表示される金額は 17,487,000 (1053500+16433500) です。

〈バッチ制御〉フォームの[実際の入力合計]フィールドには、データ辞書項目 AICU(入力合計)に基づいた小数点が表示されます。この例の数字を使うと、項目 AICU の[表示小数点以下桁数]フィールドを 0 に設定した場合、17,487,000 が表示されます。このフィールドを 2 に設定した場合は、174,870.00 となります。

外貨建て請求書の入力

外貨建て請求書を入力するには、〈請求書入力〉プログラム(P03B11)を使用します。請求書入力時に通貨コードを指定できますが、空白にして顧客マスターのデフォルトの通貨コードを使用することもできます。

請求書を外貨で入力すると、外貨建ての総額に為替レートを乗算して国内通貨建ての総額が自動的に計算されます。デフォルトの為替レートは、為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。このレートは請求書入力時に一時変更できます。

外貨建ての請求書の場合は、売掛金勘定の会社通貨は請求書の基本(国内)通貨と一致する必要があります。たとえば、米国の会社がカナダ・ドルで外貨建て請求書を入力したとします。請求書の国内通貨が米ドルであるため、売掛金勘定の会社通貨も米ドルである必要があります。AAI 項目 RC で定義されている勘定科目の会社の通貨が請求書の国内通貨と異なる場合、「売掛金勘定の通貨が正しくありません」というエラー・メッセージが表示され、請求書を保存することができません。

スピード請求書入力

〈スピード請求書入力〉プログラム(P03B11SI)を使用して外貨建て請求書を入力することができます。ただし、〈スピード請求書入力〉プログラムでは外貨建て請求書の国内通貨金額を入力することはできません。これは、〈スピード請求書入力〉プログラムには[外貨]チェックボックスがないためです。標準の請求書入力プログラムでは、この[外貨]オプションで通貨を切り替えて国内通貨建ての金額を入力します。

通貨以外の情報については『売掛管理』ガイドの「スピード請求書入力」を参照してください。

はじめる前に

- 複数の会社配賦する外貨建て請求書を入力するには、〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)で「多通貨会社間取引の許可」をオンにします。『多通貨処理』ガイドの「多通貨固定情報の設定」を参照してください。
- 各会社に対して AAI 項目 RCxxx が設定されていることを確認してください。『多通貨処理』ガイドの「外貨建て売掛金勘定 AAI」を参照してください。
- 処理オプションで、〈請求書入力〉プログラム(P03B11)の国内通貨および外貨フィールドを表示するように設定されていることを確認してください。Windows 環境で処理オプションにアクセスするには、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈対話型バージョン〉を選択します。

▶ 外貨建て請求書を入力するには

〈顧客および請求書の入力〉メニュー(G03B11)から〈請求書入力〉を選択します。

1. 〈売掛金元帳照会〉で、[追加]をクリックします。

2. 〈請求書入力〉で、見出しのフィールドに基本的な請求書情報を入力します。

3. 次のフィールドに値を入力します。

- 通貨

このフィールドをブランクにすると、顧客マスターのデフォルト通貨コードが表示されます。

外貨建て請求書の国内通貨金額

外貨建て請求書の国内通貨金額を入力するには、[通貨]フィールドに国内通貨コードを入力する必要があります。

このコードおよび会社の基本通貨との関係に基づいて[外貨]チェックボックスが更新されます。

- 為替レート

該当する場合は、このフィールドにスポット・レートを入力します。入力せずにblankにすると、為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが取り込まれます。

[基本通貨]フィールドには、[会社]フィールドに入力した会社の通貨が表示されます。

4. グリッドで、次のフィールドに各支払項目の外貨建て金額を入力します。

- 総額

外貨建て請求書の国内通貨金額

外貨建て請求書の国内通貨建て金額を入力するには、総額を入力する前に[外貨]チェックボックスをオフにしてください。[外貨]チェックボックスをオフにするには、最初にグリッドをクリックします。

5. [OK]をクリックします。

PeopleSoft

勘定科目情報

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

伝票No./タイプ/会社 3127 RI 00001 バッチNo. 6587

顧客 3006 摘要 Editions de l'Odeon

元帳日付 05/06/30 計上金額 95,500.00- ☐ パーセント

通貨 EUR 為替レート 1.1820331 基本 USD ☒ 外貨

グリッドのカスタマイズ

勘定科目コード	勘定科目名	金額	摘要	税トフッキング	税率/税号	税目コード	課税対象品目No.	期間
3.8700	Miscellaneous Expenses	95,500.00-		0				0

金額 95,500.00- 差異

6. 〈勘定科目情報〉で、通常通りグリッドのフィールドに総勘定元帳情報を入力して[OK]をクリックします。

請求書入力時に更新される AID フィールド

外貨建て請求書を入力すると、AAI 項目 RC を使用して RC で定義されている勘定科目に対応する略式 ID が検索されます。次に、顧客元帳(F03B11)で請求書レコードの AID フィールドの略式 ID が更新されます。後で入金を入力する際、システムは F03B11 レコードの AID フィールドの略式 ID を使用して入金明細テーブル(F03B14)の AID フィールドを更新します。

外貨建て請求書の関連タスク

未転記の外貨建て請求書の改訂	総勘定元帳に影響しない限り、〈スピード・リリース〉プログラム (P03B114)を使用して未転記の外貨建て請求書を改訂することができます。支払期日、備考などを改訂できます。
未転記の外貨建て請求書の削除	外貨建て請求書を削除すると、その請求書の国内通貨側も削除されます。同様に、国内通貨建て請求書を削除すると、その請求書の外貨側も削除されます。
未転記の外貨建て請求書の国内通貨金額の修正	国内通貨モードで多通貨取引を変更しようとする、警告メッセージが表示されます。
外貨建て請求書の通貨コードの変更	外貨建て請求書を入力した後は、転記済みかどうかにかかわらず、通貨コードを変更することはできません。通貨を変更する必要がある場合、未転記の場合は請求書を削除、転記済みの場合は請求書を無効にして、正しい通貨コードで新しい請求書を入力してください。
外貨建て定期請求書	外貨建ての定期請求書を再度使用する場合、〈定期請求書の再作成〉プログラム(R03B8101)では、定期請求書を新規作成するのに為替レート・テーブル(F0015)の為替レートではなく当初請求書の為替レートが使われることに注意してください。 為替変動によって定期請求書の外貨建て金額が不正確になり、損益を正しく計上できない場合があります。

外貨建て請求書の検討

〈売掛金元帳照会〉プログラム(P03B2002)を使用して外貨建ての請求書を検討することができます。他の照会フォームやレポートと同様、同時に複数の通貨を表示した場合は〈売掛金元帳照会〉フォームの総合計は意味をなしません。

表示される取引金額に影響する日付

外貨建て請求書および伝票を検討する前に、〈売掛金元帳照会〉および〈仕入先元帳照会〉の各フォームに表示される金額に影響する日付について理解しておく必要があります。これらの日付とその照会方法を理解することにより、請求書および伝票を検討する際に正しい日付を指定することができます。検討する取引金額に影響する日付は次のとおりです。

- ・ 〈為替レートの改訂〉フォームの有効日付。照会プログラムでは通貨について最新の日付が検索され、これに対応する為替レートが使われます。
- ・ 〈売掛金元帳照会〉または〈仕入先元帳照会〉フォームの開始日付および終了日付。この日付範囲によってフォームに表示される取引が決まります。
- ・ 処理オプションの基準日。基準日がブランクの場合、照会フォームに入力した終了日付が使用されます。処理オプションの基準日が終了日付に一時変更されることはありません。

仮定通貨処理

照会フォームの[基準日]フィールドは[仮定通貨]フィールドと連動しています。仮定通貨の未決済金額は、基準日に基づいて計算されます。

入金または支払が計上された場合、基準日と入金や支払の元帳日付を比較して、その日付で未決済の請求書または伝票の金額が決定されます。

基準日の処理については、『多通貨処理』ガイドの「仮定通貨建て請求書の検討」および「仮定通貨建て伝票の検討」を参照してください。

▶ 外貨建て請求書を検討するには

〈顧客および請求書の入力〉メニュー(G03B11)から〈売掛金元帳照会〉を選択します。

1. 〈売掛金元帳照会〉で、見出しのフィールドに値を入力して検索対象を絞り[検索]をクリックします。

PeopleSoft®

売掛金元帳照会

選択 検索 追加 削除 閉じる フォーム ロー レポート ツール

顧客 親住所 バッチNo.

請求書No. ~ ☒ すべて ☐ 入金済み ☐ 未決済

日付範囲 05/06/15 ~ 05/06/15 ☒ 請求書日付 ☐ 支払期日
☐ 元帳日付 ☐ 計算書日付

基準日 ☐ 定期請求書 ☐ 集計

レコード 1 - 10

	伝票No.	伝票タイプ	伝票会社	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	割引可能額	割引実施額	支払期日	割引期日	延滞日数
<input type="checkbox"/>	1132 RI	00001	001		05/06/15	3,500.00	3,500.00	35.00		05/07/15	05/06/25	
<input type="checkbox"/>	3084 RN	00150	001		05/06/15	1,500.00	1,500.00			05/07/01	05/07/01	
<input type="checkbox"/>	3084 RN	00150	002		05/06/15	57.00	57.00			05/07/01	05/07/01	
<input type="checkbox"/>	2228 RI	00001	001		05/06/15	2,871.00	2,871.00	27.66		05/07/15	05/06/25	
<input type="checkbox"/>	3095 RI	00001	001		05/06/15	2,876.40	2,876.40			05/07/15	05/07/15	
<input type="checkbox"/>	3062 RI	00001	001		05/06/15	5,128.50	5,128.50			05/07/15	05/07/15	
<input type="checkbox"/>	3062 RI	00001	002		05/06/15	780.00	780.00			05/07/15	05/07/15	
<input type="checkbox"/>	1015 R5	00001	001		05/06/15	500.00	500.00			05/06/15	05/06/15	
<input type="checkbox"/>	1028 RI	00001	001		05/06/15	1,073.00	73.00			05/07/15	05/07/15	
<input type="checkbox"/>	3002 RI	00001	001		05/06/15	1,073.00	1,073.00			05/07/15	05/07/15	

2. 総額と外貨建て金額の合計を検討します。この際、次のことに注意してください。
 - 検索対象を取引通貨が同じ請求書に絞り込んだ場合のみ、外貨建て金額の合計が表示されます。取引通貨が同じでない場合は外貨建て金額の合計は表示されません。
 - 検索対象を基本通貨が同じ請求書に絞り込んだ場合のみ、総額の合計が表示されます。基本通貨が同じでない場合は総額の合計は表示されません。
3. さらに検索対象を絞るには、QBE のフィールドに値を入力してから[検索]をクリックします。

PeopleSoft.
売掛金元帳照会

選択 検索 追加 削除 閉じる フォーム ロー レポート ツール

顧客 *
親住所 * バッチNo. *

請求書No. * ~ * ☒ すべて ☐ 入金済み ☐ 未決済

日付範囲 05/06/15 ~ 05/06/15 ☒ 請求書日付 ☐ 支払期日
☐ 元帳日付 ☐ 計算書日付

基準日 ☐ 定期請求書 ☐ 集計

グリッドのカスタマイズ Grid Format Name2

	伝票No.	伝票タイプ	伝票会社	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	割引可能額	割引実施額	支払期日	割引期日	延滞日数
<input type="checkbox"/>	3062	RI	00001	001	05/06/15	5,128.50	5,128.50			05/07/15	05/07/15	
<input type="checkbox"/>	3062	RI	00001	002	05/06/15	780.00	780.00			05/07/15	05/07/15	
						5,908.50	5,908.50					

たとえば、特定の外貨で入力した請求書を検討するには、[取引通貨]フィールドに通貨コードを入力します。または、特定の外貨を基本通貨とする会社の請求書を検討するには、[基本通貨]フィールドに通貨コードを入力します。

4. 請求書の詳しい情報を見るには、請求書をハイライトして[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

請求書入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

伝票No./タイプ/会社 3062 RI 00001 バッチNo. 5930

顧客 3009 Carmanah Industries

会社 00001 Financial/Distribution Company ☒ 割引率

請求書日付 05/06/15 元帳日付 05/06/30 支払条件 ☐

通貨 CAD 為替レート 1.5384610 基本 USD ☒ 外貨

支払項目	金額	備考	支払条件	割引率	割引可能額	課税対象額	税額	未決済金額	割引
<input checked="" type="radio"/> 001	7,890.00	New Machines	002					7,890.00	
<input type="radio"/> 002	1,200.00	Contract for maintenance	002					1,200.00	
<input type="radio"/> 3.0									

総額 9,090.00 割引 税額 課税対象

5. <請求書入力>で、外貨建て金額と国内通貨建て金額の表示を切り替えるには[外貨]オプションをクリックし、次のフィールドの値を検討します。

- 総額

PeopleSoft®

請求書入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

伝票No./タイプ/会社 3062 RI 00001 バッチNo. 5930

顧客 3009 Carmanah Industries

会社 00001 Financial/Distribution Company ☒ 割引率

請求書日付 05/06/15 元帳日付 05/06/30 支払条件 ☐

通貨 CAD 為替レート 1.5384610 基本 USD ☐ 外貨

支払項目	金額	備考	支払条件	割引率	割引可能額	課税対象額	税額	未決済金額	割引
<input checked="" type="radio"/> 001	5,128.50	New Machines	002					5,128.50	
<input type="radio"/> 002	780.00	Contract for maintenance	002					780.00	
<input type="radio"/> 3.0									

総額 5,908.50 割引 税額 課税対象

フィールド記述

記述 通貨	用語解説
為替レート	<p>取引通貨を識別するコード。</p> <p>外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。</p> <p>このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>このフィールドを空白にすると、為替レート・テーブルから為替レートが取り込まれます。為替レートは〈為替レートの設定〉フォームで設定します。為替レートがテーブルにない場合は、エラー・メッセージが表示されます。</p> <p>為替レートの有効日付は、処理オプションの設定によって請求書日付と元帳日付のどちらかが使用されます。</p>

多通貨処理オプション: 請求書入力 MBF (P03B0011)

税タブ

1. 外貨建て取引における税

blank = 入力不可

1 = 入力可

外貨建ての請求書に税(税目コード V)を入力できるようにするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 税の入力不可

1 税の入力可

通貨タブ

1. 為替レート日付

blank = 請求書日付

1 = 元帳日付

為替レートを取り込むために使用する日付を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 請求書日付

1 元帳日付

2. 有効日付の検証

blank = 検証しない

1 = 取引の元帳日付に対して検証する

為替レートを取り込むのに使用する有効日付が入金入力で入力された元帳日付と同じ期間か
チェックするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank チェックしない

1 チェックする

為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれた為替レートの有効日付が請求書の元帳
日付と
同じ期間ではない場合、警告メッセージが表示されます。

3. 為替レート許容限度額

blank = 許容限度額なし

為替レートを取り込むのに使用する有効日付が請求書入力で入力された元帳日付と同じ期間
か
チェックするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank チェックしない

1 チェックする

為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれた為替レートの有効日付が元帳日付と同
じ期間ではない場合、
警告メッセージが表示されます。

外貨建て請求書の印刷

〈計算書/延滞通知処理〉メニュー(G03B22)から〈請求書の印刷〉を選択します。

外貨建て請求書には、次のように外貨または国内通貨建ての金額を印刷することができます。

- 通貨コードと合わせて外貨建て金額を印刷する
- 通貨コードなしで国内通貨建て金額を印刷する

〈請求書の印刷〉プログラム(R03B505)のデモ・バージョン XJDE0001 (Invoice Print - Foreign (請求書の印刷 - 外貨))を使用します。

参照

- 〈請求書の印刷〉プログラム(R03B505)の通貨以外の情報については、『売掛管理』ガイドの「請求書の印刷」

多通貨バッチ請求書の処理

外部ソースからバッチ請求書レコードをアップロードして J.D. Edwards のシステムで正しく処理するためには、次のテーブルのフィールドに適切なデータを入力するカスタム・プログラムを作成する必要があります。

- バッチ請求書(F03B11Z1)
- 仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)

バッチ請求書を処理するには、〈請求書バッチ処理 - C 機能〉プログラム(R03B11Z1A)が F03B11Z1 および F0911Z1 テーブルから取り込む情報のタイプを理解する必要があります。また、F03B11Z1 テーブルの[通貨モード]、[通貨金額]、[為替レート]フィールドの関係、R03B11Z1A プログラムの必須フィールド、金額の計算方法も理解しておいてください。

バッチ請求書用の金額、為替レートおよび通貨モード・フィールドのガイドライン

多通貨環境でバッチ請求書进行处理する際、国内通貨および外貨建て取引の金額、為替レート、通貨モードの入力については次のガイドラインに従ってください。

取引タイプ	多通貨フィールドに入力する値の説明
国内通貨	<p>取引の通貨コード(VJCRC)の値が会社の通貨コードと同じ場合、国内通貨建て取引となります。</p> <p>総額フィールド(VJAG)に取引金額を入力し、通貨コード・フィールド(VJCRR)に D を入力してください。為替レートは入力しないでください。</p> <p>割引情報を入力する場合、割引可能額フィールド(VJADSC)に値を入力してください。割引可能額フィールドを空白にして、支払条件(VJPTC)を入力すると、その支払条件に基づいて割引額が自動的に計算されます。割引可能額と支払条件フィールドの両方を空白にすると、顧客マスター(F03012)の支払条件に基づいて自動的に割引額が計算されます。</p> <p>税情報を入力する場合、課税対象額(VJATXA)、非課税対象額(VJATXN)、税額(VJSTAM)の各フィールドに値を入力する必要があります。これらのフィールドを空白にすると、レコードに入力した税率/税域(VJTXA1)と税目コード(VJEXR1)の値に基づいて金額が自動的に計算されます。税率/税域および税目コード・フィールドも空白の場合、F03012 テーブルの税率/税域と税目コードに基づいて税額が計算されます。</p>
外貨	<p>取引の通貨コード(VJCRC)の値が会社の通貨コードと異なる場合、外貨建て取引となります。</p> <p>通貨金額フィールド(VJAGR)に取引金額を入力し、通貨モード・フィールド(VJCRR)に F を入力してください。国内通貨建ての金額は、為替レート(VJCRR)に基づいて計算されます。</p> <p>割引情報を入力する場合、外貨割引可能額フィールド(VJCD)に値を入力してください。</p> <p>税情報を入力する場合、外貨課税対象額(VJCTXA)、外貨非課税対象額(VJCTXN)、税額(VJCTAM)の各フィールドに値を入力する必要があります。</p>
外貨建て取引の国内通貨側	<p>取引の通貨コード(VJCRC)と会社の通貨コードが異なる場合、総額フィールド(VJAG)に国内通貨建て金額を入力します。</p> <p>外貨建て取引とは異なり、[通貨金額]フィールドには値を入力しません。</p> <p>通貨モード・フィールド(VJCRR)に "D" を入力します。為替レート(VJCRR)に基づいて外貨建て金額が計算されます。</p> <p>割引情報を入力する場合、外貨割引可能額フィールド(VJCD)に値を入力してください。</p> <p>税情報を入力する場合、外貨課税対象額(VJCTXA)、外貨非課税対象額(VJCTXN)、税額(VJCTAM)の各フィールドに値を入力する必要があります。</p>

参照

- F03B11Z1 テーブルのその他の必須フィールドを含む、バッチ請求書処理の詳細については『売掛管理』ガイドの「バッチ請求書の処理」
- 『売掛管理』ガイドの「請求書アップロード・テーブルの仕様」の「割引処理で必要なその他のフィールド」

- 『Tax Reference(税リファレンス)』ガイドの「Invoice and Voucher Batch Processing with Taxes(税付き請求書および伝票のバッチ処理)」

F03B11Z1 および F0911Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド

バッチ請求書进行处理する前に、請求書アップロード・テーブル(F03B11Z1)および仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)で必須の次の多通貨フィールドのリストをチェックしてください。

F03B11Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド

フィールドによっては、blankが有効な値となることもあります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
通貨モード	VJCRRM	文字	1	請求書が国内通貨であるか、外貨建てであるかを示すコード。 このフィールドと、通貨コード(VJCRCD)、総額(VJAG)、通貨金額(VJAGR)、為替レート(VJCRR)の各フィールドを組み合わせることにより、取引に必要な金額を計算します。 その他の情報に応じて、D または F を入力します。 このフィールドをblankにすると、その他の情報に応じて自動的にこの値が決定されます。このフィールドは請求書の処理時に更新されます。
通貨コード	VJCRCD	文字	3	請求書の通貨を表すコード。通貨コード・テーブル(F0013)に設定されている値を入力してください。
外貨金額	VJAGR	数字	15	外貨建て金額。このフィールドには、通貨コード・フィールド(VJCRCD)の値が、会社固定情報テーブル(F0010)で定義された会社の通貨コードと異なる場合にのみ、取引額を入力してください。
為替レート	VJCRR	数字	15	請求書の国内通貨または外貨建て金額を計算する際に使用する為替レートを指定します。 このフィールドをblankにすると、為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが自動的に取り込まれます。 為替レート・テーブル(F0015)の為替レートを一時変更する場合や為替レートがない場合に、このフィールドに値を入力します。 〈請求書入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P03B0011)の処理オプションで許容限度をチェックするよう設定した場合、入力した為替レートはシステムによって検証されます。そうでない場合は為替レートの検証は行われません。
外貨割引可能額	VJCDS	数字	15	金額を入力します。このフィールドをblankにすると、支払条件フィールド(VJPTC)の値に基づいて割引額が計算されます。VJPTC フィールドがblankの場合、顧客マスター(F03012)の支払条件に基づいて自動的に割引額が計算されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
外貨課税対象額	VJCTXA	数字	15	<p>税率/税域(VJTXA1)、税目コード(VJEXR1)、外貨金額(VJACR)の各フィールドに基づいて自動的に値が更新されます。レコードに入力されていない金額は、システムによって自動的に計算されます。たとえば、外貨課税対象額フィールド(VJCTXA)に金額を入力し、外貨金額フィールド(VJACR)をブランクにすると、外貨建て金額が計算されます。</p> <p>外貨金額(VJACR)と外貨課税対象額(VJCTXA)両方のフィールドに値を入力しないでください。</p> <p>通貨モード・フィールド(VJCRRM)がDの場合、外貨課税対象額、外貨非課税対象額、外貨税額の各フィールドは入力しないでください。その代わりに課税対象額(VJATXA)、非課税対象額(VJATXN)、税額(VJSTAM)の各フィールドを使用してください。</p>
外貨非課税対象額	VJCTXN	数字	15	<p>税率/税域(VJTXA1)、税目コード(VJEXR1)、外貨金額(VJACR)の各フィールドに基づいて自動的に値が更新されます。レコードに入力されていない金額は、システムによって自動的に計算されます。たとえば、外貨課税対象額フィールド(VJCTXA)に金額を入力し、外貨金額フィールド(VJACR)をブランクにすると、外貨建て金額が計算されます。</p> <p>外貨金額(VJACR)と外貨課税対象額(VJCTXA)両方のフィールドに値を入力しないでください。</p> <p>通貨モード・フィールド(VJCRRM)がDの場合、外貨課税対象額、外貨非課税対象額、外貨税額の各フィールドは入力しないでください。その代わりに課税対象額(VJATXA)、非課税対象額(VJATXN)、税額(VJSTAM)の各フィールドを使用してください。</p>
外貨税額	VJCTAM	数字	15	<p>税率/税域(VJTXA1)、税目コード(VJEXR1)、外貨金額(VJACR)の各フィールドに基づいて自動的に値が更新されます。レコードに入力されていない金額は、システムによって自動的に計算されます。たとえば、外貨課税対象額フィールド(VJCTXA)に金額を入力し、外貨金額フィールド(VJACR)をブランクにすると、外貨建て金額が計算されます。</p> <p>外貨金額(VJACR)と外貨課税対象額(VJCTXA)両方のフィールドに値を入力しないでください。</p> <p>通貨モード・フィールド(VJCRRM)がDの場合、外貨課税対象額、外貨非課税対象額、外貨税額の各フィールドは入力しないでください。その代わりに課税対象額(VJATXA)、非課税対象額(VJATXN)、税額(VJSTAM)の各フィールドを使用してください。</p>
多通貨仕訳を持つ国内通貨レコード	VJDMCD	文字	1	<p>F0911Z1 テーブルの配賦勘定が F03B11Z1 テーブルの会社と異なる通貨を持つ会社用である場合、このフィールドに"1"を入力して〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)の[多通貨会社間取引の許可]オプションをオンにします。</p> <p>多通貨会社間取引を許可しない場合は、このフィールドをブランクにしてください。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
外貨未決済金額	VJACR	数字	15	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドは取引の処理時に更新されます。
割引外貨金額	VJDSA	数字	15	このフィールドはブランクにしてください。外貨割引可能額フィールド(VJCDS)の金額の請求書が入金と突き合わせられると、自動的に値が更新されます。
外貨未決済金額	VJACR	数字	15	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドは取引の処理時に更新されます。
割引外貨金額	VJDSA	数字	15	このフィールドはブランクにしてください。外貨割引可能額フィールド(VJCDS)の金額の請求書が入金と突き合わせられると、自動的に値が更新されます。

F0911Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
金額	VNAA	数字	15	国内通貨のみの取引に使用します。国内通貨建て取引を入力する場合は、このフィールドに金額を入力します。
外貨金額	VNACR	数字	15	外貨建て取引に使用します。外貨建て取引を入力する場合は、このフィールドに金額を入力します。
元帳タイプ	VNLT	文字	2	AA と入力するかブランクにします。元帳タイプとして CA を入力することはできません。
通貨コード	VNCROD	文字	3	請求書アップロード・テーブル(F03B11Z1)で対応するフィールドの値に基づいて自動的に更新されます。
通貨モード	VNCRRM	文字	1	請求書アップロード・テーブル(F03B11Z1)で対応するフィールドの値に基づいて自動的に更新されます。
為替レート	VNCRR	数字	15	請求書アップロード・テーブル(F03B11Z1)で対応するフィールドの値に基づいて自動的に更新されます。

仮定通貨建て請求書の検討

請求書を基本通貨または外貨で入力した場合、それらの金額を異なる通貨で照会することができます。

請求書のコピーを仮定の通貨で見ると、〈売掛金元帳照会〉プログラム(P03B2002)の処理オプションでデフォルトの通貨コードと為替レート日付を指定する必要があります。これにより〈売掛金元帳照会〉フォームに[仮定通貨コード]フィールドが表示されます。

為替レート・テーブル(F0015)から対応する為替レートが取り込まれ、請求書の基本(国内)通貨に基づいて仮定通貨建て金額が計算されます。たとえば、カナダ・ドル(CAD)で顧客の外貨建て請求書を入力し、会社の基本通貨がユーロ(EUR)であるとし、その請求書の金額を、日本円(JPY)で入力されたように表示したいとします。F0015 テーブルからユーロと日本円間の為替レートが取り込まれ、日本円の仮定通貨建て金額が計算されます。

▶ 仮定通貨建ての請求書を検討するには

〈顧客および請求書の入力〉メニュー(G03B11)から〈売掛金元帳照会〉を選択します。

1. 〈売掛金元帳照会〉で、見出しのフィールドに検索対象を絞り込む値を入力して[検索]をクリックします。

PeopleSoft. 売掛金元帳照会

選択 検索 追加 削除 開じる フォーム ロー レポート ツール

顧客 * パッチNo. *

請求書No. * ~ * ☒ すべて ☐ 入金済み ☐ 未決済

日付範囲 05/06/15 ~ 05/06/15 ☒ 請求書日付 ☐ 支払期日 ☐ 元帳日付 ☐ 計算書日付

基準日 ☐ 定期請求書 ☐ 集計 仮定通貨コード GBP

レコード 1 - 10	伝票No.	伝票タイプ	伝票会社	支払項目	請求書日付	仮定金額	総額	仮定未決済額	未決済金額	仮定割引可能額	割引可能額
<input type="checkbox"/>	1132 RI	00001	001		05/06/15	5,519.63	3,500.00	5,519.63	3,500.00	55.20	35.00
<input type="checkbox"/>	3084 RN	00150	001		05/06/15	2,365.56	1,500.00	2,365.56	1,500.00		
<input type="checkbox"/>	3084 RN	00150	002		05/06/15	89.89	57.00	89.89	57.00		
<input type="checkbox"/>	2228 RI	00001	001		05/06/15	4,527.68	2,871.00	4,527.68	2,871.00	43.62	27.66
<input type="checkbox"/>	3095 RI	00001	001		05/06/15	4,536.19	2,876.40	4,536.19	2,876.40		
<input type="checkbox"/>	3062 RI	00001	001		05/06/15	8,087.84	5,128.50	8,087.84	5,128.50		
<input type="checkbox"/>	3062 RI	00001	002		05/06/15	1,230.09	780.00	1,230.09	780.00		
<input type="checkbox"/>	1015 R5	00001	001		05/06/15	788.52	500.00	788.52	500.00		
<input type="checkbox"/>	1028 RI	00001	001		05/06/15	1,692.16	1,073.00	1,692.16	1,073.00		
<input type="checkbox"/>	3002 RI	00001	001		05/06/15	1,692.16	1,073.00	1,692.16	1,073.00		

[仮定通貨コード]フィールドのデフォルト通貨コードは、処理オプションで指定されています。

2. 仮定通貨建て金額の合計を検討します。
仮定通貨建て金額は、請求書の基本(国内)通貨に基づいて計算されます。
3. さらに検索対象を絞るには、QBE のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

PeopleSoft®

売掛金元帳照会

選択 検索 追加 削除 開く フォーム ロー レポート ツール

顧客 *
親住所 * バッチNo. *

請求書No. * ~ * ☒ すべて ☐ 入金済み ☐ 未決済

日付範囲 05/06/15 ~ 05/06/15 ☒ 請求書日付 ☐ 支払期日
☐ 元帳日付 ☐ 計算書日付

基準日 ☐ 定期請求書 ☐ 集計 仮定通貨コード GBP

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ Grid Format Name2

	伝票No.	伝票 タイプ	伝票 会社	支払 項目	請求書 日付	仮定 金額	総額	仮定 未決済額	未決済 金額	仮定 割引可能額	割引 可能額
<input type="checkbox"/>	1132	RI	00001	001	05/06/15	5,519.63	3,500.00	5,519.63	3,500.00	55.20	35.00
<input type="checkbox"/>	3084	RN	00150	001	05/06/15	2,365.56	1,500.00	2,365.56	1,500.00		
<input type="checkbox"/>	3084	RN	00150	002	05/06/15	89.89	57.00	89.89	57.00		
<input type="checkbox"/>	2228	RI	00001	001	05/06/15	4,527.68	2,871.00	4,527.68	2,871.00	43.62	27.66
<input type="checkbox"/>	3095	RI	00001	001	05/06/15	4,536.19	2,876.40	4,536.19	2,876.40		
<input type="checkbox"/>	3062	RI	00001	001	05/06/15	8,087.84	5,128.50	8,087.84	5,128.50		
<input type="checkbox"/>	3062	RI	00001	002	05/06/15	1,230.09	780.00	1,230.09	780.00		
<input type="checkbox"/>	1015	R5	00001	001	05/06/15	788.52	500.00	788.52	500.00		
<input type="checkbox"/>	1028	RI	00001	001	05/06/15	1,692.16	1,073.00	1,692.16	1,073.00		
<input type="checkbox"/>	3002	RI	00001	001	05/06/15	1,692.16	1,073.00	1,692.16	1,073.00		

4. 必要に応じてグリッドを右にスクロールし、仮定通貨について次のフィールドの値を検討します。

- 仮定金額
- 仮定未決済額
- 仮定割引可能額

注:

グリッドの[為替レート]フィールドには、仮定金額の計算に使われる為替レートは表示されません。このフィールドに表示される為替レートは、外貨から国内通貨に換算するのに使用されるレートです。

5. 異なる通貨で仮定通貨建て金額を表示するには、次のフィールドの通貨コードを変更して[検索]をクリックします。

- 仮定通貨コード

フィールド記述

記述	用語解説
仮定金額	<p>請求書または伝票の支払項目の合計金額を示す値。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。支払の後もこの総額は変わりません。取引を無効にした場合、総額フィールドの金額はクリアされます。</p>
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>総額が[仮定通貨コード]フィールドで指定された通貨に換算して表示されます。この金額はシステムのどのテーブルにも保存されません。〈売掛金元帳照会〉プログラム(P03B2002)の処理オプションの[為替レート日付]オプションで指定した日付の為替レートを取り込んで、仮定金額が計算されます。</p>
仮定未決済額	<p>未払の請求書または伝票の支払項目の金額</p>
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>仮定未決済金額とは、未決済金額を[仮定通貨コード]フィールドで指定された通貨に換算した金額です。この金額はシステムのどのテーブルにも保存されません。〈売掛金元帳照会〉プログラム(P03B2002)の処理オプションの[為替レート日付]オプションで指定されている日付の為替レートを取り込んで仮定未決済金額が計算されます。</p>
仮定割引可能額	<p>特定の日付より前に支払うと総額から割引かれる金額。請求書または伝票の入力時に指定した支払条件に基づいて計算されます。</p> <p>注：指定した支払項目に対して自動計算された割引額が正しいことを確認してください。通常、総額に含まれる運賃、売上税、労務費は割引の対象となりません。</p>
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>[仮定通貨コード]フィールドで指定されている通貨に換算した割引可能額が表示されます。この金額はシステムのどのテーブルにも保存されません。〈得意先元帳照会〉プログラム(P03B2002)の処理オプションの[為替レート日付]オプションで指定した日付の為替レートを取り込んで仮定割引可能額が計算されます。</p>
仮定通貨コード	<p>取引通貨を識別するコード。</p>
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>〈売掛金元帳照会〉プログラム(P03B2002)の処理オプションの[仮定通貨]オプションで通貨を設定した場合、このフィールドにその通貨コードが表示されます。総額、未決済金額、割引可能額がこの通貨に換算されて各フィールドに表示されます。これらの仮定金額はテーブルには保存されません。処理オプションの[為替レート日付]オプションで指定した日付の為替レートを取り込んで、仮定金額が計算されます。</p>

多通貨処理オプション: 売掛金元帳照会(P03B2002)

通貨タブ

1. 仮定通貨

〈売掛金元帳照会〉フォームに[仮定通貨コード]フィールドを表示するかどうかを指定します。指定した仮定通貨と為替レートの処理オプションで指定した日付に基づいて、国内通貨建ての金額が仮定通貨に換算され、フォームのグリッドの仮定通貨建て金額の各フィールドに表示されます。

この処理オプションをブランクにすると、[仮定通貨コード]フィールドや仮定通貨建ての金額フィールドは表示されません。

2. 為替レート日付

ブランク = 終了日付

仮定通貨と国内通貨の間の為替レートを取り込むのに使用する日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、〈売掛金元帳照会〉フォームの[終了日付]フィールドで指定した日付が使用されます。この処理オプションがブランクで[終了日付]フィールドもブランクの場合は、最新の為替レートが使用されます。為替レートがテーブルにない場合はエラーとなります。

外貨建て請求書の転記

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈顧客および請求書の入力〉メニュー(G03B11)から〈請求書の転記〉を選択します。

〈顧客および請求書の入力〉メニュー(G03B11)から〈請求書仕訳の検討〉を選択し、〈バッチ制御〉プログラム(P0011)を使用して請求書を転記します。

入力して検討、承認した外貨建て請求書は転記する必要があります。

外貨建て請求書を転記すると、〈請求書の転記〉プログラムの転記前処理では〈売掛管理固定情報〉プログラム(P0000)から売掛金集計方式が取り込まれます。集計方式が B の場合、バッチに外貨建て請求書がないことが確認されます。外貨建て請求書が 1 件でもある場合、転記前処理ではバッチの売掛金集計方式が S(支払項目)に変更されます。これは、バッチに外貨建て請求書があると、集計方式 B を使って転記を行うことができないためです。

次の表は、多通貨処理を行うかどうかにかかわらず、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)で実行される処理を示しています。多通貨環境における請求書の転記独自の情報は[多通貨に関する考慮事項]の下を参照してください。

請求書の転記によって実行される処理	多通貨に関する考慮事項
売掛金元帳(F03B11)から未転記の請求書を選択する	
取引明細テーブル(F0911)に対応するレコードがあるか、その金額が請求書と一致するかを確認する	
バッチの状況が「承認済み」であることを確認する	
取引明細テーブル(F0911)に売掛金勘定の仕訳(借方)を作成する	自動仕訳によって取引明細テーブル(F0911)で AA (国内通貨)元帳と CA(外貨)元帳に対して売掛金勘定(借方)を作成する
詳細再換算は多通貨環境以外では使用されない	代替通貨元帳(XA)と、該当する場合は YA と ZA 元帳を更新し、処理オプションに〈詳細再換算〉プログラム(R11411)のバージョンを入力した場合は、別の転記レポートを作成する
勘定残高テーブル(F0902)の残高を更新する	
売掛金元帳(F03B11)で請求書の状況を転記済み(D)に更新する	
取引明細テーブル(F0911)で対応するレコードの状況を転記済み(P)に更新する	
バッチ制御テーブル(F0011)でバッチ・レコードの状況を転記済み(D)に更新する	

多通貨による入金

国内通貨、外貨、代替通貨など通貨ごとに入金を処理できます。特に、入金を処理する会社の基本通貨が請求書の国内通貨と同じである限り、どの通貨による入金も処理して請求書と突き合わせる事が可能です。

たとえば、会社の基本通貨がカナダ・ドル(CAD)であり、カナダ・ドル建ての入金を突き合わせたいとします。入金を突き合わせる請求書の国内通貨は米ドル(USD)です。入金の会社の基本通貨(カナダ・ドル)と請求書の基本通貨(米ドル)が異なるため、この入金入力は受け付けられません。

請求書 No.	国内通貨	外貨
221	USD	
223	USD	CAD

この例では、次のような条件を使用しています。

- 国内通貨(USD)建ての請求書 221 に対して米ドルでの入金は不可
 - 外貨(CAD)建ての請求書 223 に対してカナダ・ドルでの入金は不可
- どちらの場合も、入金の会社基本通貨(CAD)が請求書の国内通貨と異なります。

入金の会社番号を基本通貨が米ドルの会社に変更すると、この入金を入力することができます。

次の例を参考に、入金の通貨が国内通貨、外貨、代替通貨のどちらであるかをシステムがどのように決定するかを理解してください。この例では、入金の会社基本通貨が請求書の国内通貨と同じです。

例: 国内通貨による入金

請求書の基本通貨と同じ通貨による入金です。

請求書 No.	国内通貨	外貨	国内通貨による入金
221	USD		USD
222	USD	EUR	USD

この例では、会社の基本通貨が米ドル(USD)です。各元帳の通貨は次のとおりです。

- 国内通貨(USD)建ての請求書 221 に対して米ドルでの入金が可能
- 国内通貨(EUR)建ての請求書 222 に対して米ドルでの入金が可能

会社の基本通貨(米ドル)で入金した場合、外貨(ユーロ)建ての請求書がある場合でも、国内通貨で請求書を処理します。

国内通貨による入金では、実現為替差損益は計算されません。

例:外貨による入金

外貨建て入金は、請求書の外貨と同じ通貨による入金です。

請求書 No.	国内通貨	外貨	外貨による入金
223	USD	EUR	EUR
224	USD	CAD	CAD

この例では、会社の基本通貨が米ドル(USD)です。各元帳の通貨は次のとおりです。

- 外貨(EUR)建ての請求書 223 に対してユーロでの入金が可能
 - 外貨(CAD)建ての請求書 224 に対してカナダ・ドルでの入金が可能
- どちらの場合も、入金の会社基本通貨(CAD)が請求書の国内通貨と異なるため、外貨での入金を入力できます。

請求書の外貨(ユーロとカナダ・ドル)で入金された場合、外貨で入金を処理します。請求書入力時と入金消込時の間に為替レートの変動があった場合は実現為替差損益が計算されます。

例:代替通貨による入金

請求書の国内通貨と外貨以外の通貨による入金です。

請求書 No.	国内通貨	外貨	代替通貨による入金
225	USD		EUR
226	USD	CAD	JPY

この例では、会社の基本通貨が米ドル(USD)です。各元帳の通貨は次のとおりです。

- 国内通貨(EUR)建ての請求書 225 に対してユーロでの入金が可能

注:

請求書が国内通貨のみで、入金が国内通貨ではない場合、その入金は外貨ではなく代替通貨と見なされます。

- 外貨(CAD)建ての請求書 226 に対して日本円(JPY)での入金が可能
- どちらの場合も、入金の会社基本通貨(CAD)が請求書の国内通貨と異なるため、代替通貨で入金を入力できます。

請求書の外貨と国内通貨のどちらでもない通貨で入金された場合、請求書の国内通貨(USD)および外貨(CAD)で入金を処理します。

請求書入力時と入金消込時の間に為替レートの変動があった場合は、実現為替差損益が計算されます。

総勘定元帳入金

総勘定元帳入金(Gタイプ入金とも呼びます)は、顧客の請求書と突き合わせないさまざまな入金です。これは、リベートなど売掛金勘定に影響しない種類の支払です。

〈売掛金元帳照会〉プログラム(P03B2002)または〈スピード請求書入力〉プログラム(P03B11SI)でこのタイプの入金を入力するには、勘定科目コードと関連付けられた基本通貨が入金の基本通貨と同じである必要があります。勘定科目が通貨勘定である場合は、勘定科目の通貨コードが入金の取引通貨コードと同じである必要があります。これらが異なる場合、この種の雑入金を入力する際に「銀行勘定の通貨が正しくありません」というエラー・メッセージが表示されます。

外貨および代替通貨建て入金用プログラム

次の表は多通貨での入金処理に使用するプログラムの一覧で、外貨または代替通貨建ての入金に使用できるかどうかを示しています。

プログラム名(プログラムID)	メニュー	外貨	代替通貨
入金入力(P03B102)	G03B12	x	x
スピード入金入力(P03B0001)	G03B12	x	
請求書自動突合せ(R03B50)	G03B13	x	
自動引落し処理(R03B571)	G03B131	x	
自社手形入力(P03B602)	G03B161	x	
顧客手形入力(P03B602)			

入金プログラムおよび多通貨会社間決済

売掛管理システムの入金プログラムでは、多通貨会社間決済機能は使用できません。多通貨による会社間入金を入力すると、エラー・メッセージが表示されます。仕訳は転記できません。

外貨によるキャッシュフロー予測

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈売掛管理システムの上級/技術的操作〉メニュー(G03B31)から〈資金予測〉を選択します。

〈買掛管理システムの上級/技術的操作〉メニュー(G0431)から〈資金予測集計〉を選択します。

〈資金予測〉プログラム(R03B520)および〈資金予測集計〉プログラム(R04520)により、資金予測集計テーブル(F0032)が作成されます。このテーブルには会社の資金分析および予測に役立つ情報が含まれています。

F0032 テーブルを作成した後、表計算ソフトウェアに情報をダウンロードして、すべての未決済請求書/伝票の合計金額や、請求書/伝票を決済するのに必要な金額を見ることができます。ビジネスユニット、会社、支払期日、通貨別に情報が集計されます。

F0032 テーブルには、次のように国内通貨と外貨の両方の金額および通貨コードが含まれます。

- 国内通貨の金額および通貨は[未決済金額]および[換算元通貨コード]フィールドに表示されます。
- 外貨建て請求書の場合、外貨の金額および通貨は[未決済外貨金額]および[換算先通貨コード]フィールドに表示されます。
- 国内通貨のみによる請求書の場合、国内通貨の金額および通貨は[外貨金額]および[換算先通貨コード]に加えて[未決済金額]と[換算元通貨コード]の各フィールドに表示されます。

参照

- 資金予測プログラムの通貨に関連しない情報については『売掛管理』ガイドまたは『買掛管理』ガイドの「キャッシュフロー予測」

外貨による入金入力

外貨建て請求書の通貨(取引通貨)と同じ通貨による入金です。入金に使用する外貨は入金入力時に指定します。外貨建て入金を入力する際、次の条件を満たす必要があります。

- 入金する外貨が請求書の取引通貨と同じ
- 入金の基本通貨が請求書の国内(基本)通貨と同じ

たとえば、請求書の国内通貨が米ドル(USD)であるとして、突き合わせる外貨建て入金は基本通貨が米ドルである会社に対するものであり、入金通貨と請求書の取引通貨は同じである必要があります。銀行勘定が通貨勘定である場合、銀行勘定の会社通貨も米ドルである必要があります。銀行勘定の会社通貨が入金の基本通貨と異なる場合、エラー・メッセージが表示されて入金を入力することはできません。

外貨建ての入金を手入力すると、為替レート・テーブル(F0015)の為替レート(該当する場合は入金レコードのスポット・レート)に基づいて外貨建て金額が国内通貨建て金額に換算されます。

外貨建ての入金を入力するには、通常、〈入金入力〉プログラム(P03B102)を使って請求書(複数可)と突き合わせます。入金が外貨であったかどうかにかかわらず、これが最も一般的な入金消込の方法です。

はじめる前に

- 次の AAI が設定されていることを確認してください。
 - RBxxx - 銀行勘定。『多通貨処理』ガイドの「外貨建て受取銀行勘定 AAI」を参照してください。
 - RGxxx - 外貨建て入金の実現為替差益。『多通貨処理』ガイドの「外貨建て入金の実現為替差損益 AAI」を参照してください。

- RLxxx - 外貨建て入金の実現為替差損。『多通貨処理』ガイドの「外貨建て入金の実現為替差損益 AAI」を参照してください。
- R8 - 外貨建て入金で使用する端数調整勘定。『多通貨処理』ガイドの「外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI」を参照してください。
- 入金に必要な AAI の通貨以外の情報については『売掛管理』ガイドの「売掛管理システムの AAI」を参照してください。

▶ 外貨建ての入金を入力するには

〈入金処理〉メニュー(G03B12)から〈入金入力〉を選択します。

1. 〈入金照会〉で、[追加]をクリックします。

2. 〈入金入力〉で、見出しのフィールドに値を入力します。
3. 次のフィールドに外貨建て入金の通貨コードを入力します。
 - 通貨

blankの場合は、[支払人]フィールドの住所番号に割り当てられている通貨コード (CRCD)が使用されます。支払人に通貨コードが割り当てられていない場合は、[会社]フィールドに割り当てられた通貨コードが使用されます。
4. 次のフィールドに値を入力します。
 - 為替レート

為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれるデフォルト値は、入金通貨([通貨]フィールド)と基本会社通貨([基本]フィールド)間の為替レートです。

F0015 テーブルの為替レートを一時変更する場合や為替レートがない場合は、このフィールドに値を入力します。

注:

この時点でデフォルト通貨コードおよび為替レートを参照するには、グリッドにカーソルを合わせます。そうしない場合は、未決済の請求書を選択してこのフォームに戻ったときに自動的にデフォルト値が表示されます。

5. 次のいずれかを実行します。

- 特定の未決済請求書を選択して入金に突き合わせるには、6～14 のステップを実行します。
- すべての未決済請求書を表示してから入金に突き合わせるものを選択するには、15～20 のステップを実行します。

特定の未処理請求書を選択して入金に突き合わせるには

6. 〈入金入力〉で、[フォーム]メニューから[選択]を選択します。
7. 〈請求書の選択〉で、次のフィールドに表示されるデフォルト値を必要に応じて変更します。
 - 住所 No.
デフォルト値は、入金見出しに入力した支払人番号です。
 - 会社
デフォルト値は、入金見出しに入力した会社番号です。
8. 次のいずれかのオプションをクリックして、入力した住所番号のタイプを指定します。
 - 支払人
 - 顧客
9. 次のフィールドに表示されるデフォルト値を必要に応じて変更します。
 - 通貨コード
デフォルト値は入金見出しに入力した入金の通貨コードです。請求書は、このフィールドで指定した通貨でのみ表示されます。通貨を問わず顧客のすべての請求書を表示するには、*を入力します。
10. [検索]をクリックして、〈請求書の選択〉フォームの見出しに入力した検索条件に合うすべての未決済請求書を表示します。
11. 入金を突き合わせる請求書をハイライトして[選択]をクリックします。
[選択]ボタンを使用して、請求書を選択したり選択を解除することができます。また、[ロー]メニューから[選択/解除]を選んでも同様の処理ができます。

選択した請求書にはチェックマークが表示されます。請求書の件数と合計金額は記録され、〈請求書の選択〉フォームの下方に表示されます。

PeopleSoft®

請求書の選択

選択 検索 閉じる ロー ツール

3007

タイプ

会社 00001

通貨コード EUR

未充当金額 46,550.00

タイプ

☒ 支払人

☐ 顧客

伝票No.	伝票タイプ	伝票会社	支払項目	取引通貨	取引未決済金額	取引割引可能額	取引総額	基本通貨	未決済金額	取引可能額	総額
<input type="checkbox"/> 3057	RR	00001	001	EUR	42,000.00		42,000.00	USD	35,532.00		
<input type="checkbox"/> 3078	RI	00001	001	EUR	1,886.52		1,886.52	USD	1,596.00		
<input type="checkbox"/> 3078	RI	00001	002	EUR	28.37		28.37	USD	24.00		
<input type="checkbox"/> 3079	RI	00001	001	EUR	2,829.79		2,829.79	USD	2,394.00		
<input type="checkbox"/> 3079	RI	00001	002	EUR	768.32		768.32	USD	650.00		
<input checked="" type="checkbox"/> 3058	RI	00001	001	EUR	1,800.00		1,800.00	USD	1,522.80		
<input type="checkbox"/> 3094	RI	00001	001	EUR	2,750.00		2,750.00	USD	2,326.50		
<input type="checkbox"/> 3095	RI	00001	001	EUR	3,400.00		3,400.00	USD	2,876.40		
<input type="checkbox"/> 3096	RI	00001	001	EUR	200.00		200.00	USD	169.20		
<input type="checkbox"/> 3097	RI	00001	001	EUR	750.00		750.00	USD	634.50		

件数 3 合計額 46,550.00

12. [閉じる]をクリックして、〈請求書の選択〉フォームに選択した請求書を表示します。

PeopleSoft®

入金入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

会社 00001 銀行勘定科目 1.1110.FIB 元帳日付 05/06/30

支払人 3007 Schwartz Warenhaus Gemeinscha 入金日付 05/06/28

顧客 3007 Schwartz Warenhaus Gemeinscha バッチ 6598

入金No. E7832478 前

入金額 46,550.00 備考

通貨 EUR 為替レート 1.1820331 基本 USD 外貨

レコード 1 - 3

入力タイプ	入金額	割引実施額	割引理由	少額消込額	消込理由	再請求金額	再請求理由	損金金額	損金理由	取引未決済額
<input type="checkbox"/> 10	42,000.00									
<input type="checkbox"/> 10	2,750.00									
<input checked="" type="checkbox"/> 10	1,800.00									

充当済み金額 保留金額 未充当金額

総勘定元帳入金 46,550.00

選択した順序で未決済請求書が表示されます。

13. 〈入金入力〉で、次のフィールドを検討し必要に応じて値を入力します。

- 入力タイプ
- 入金額

14. [OK]をクリックして入金入力を保存します。

すべての未決済請求書を表示してから入金と突き合わせる請求書を選択するには

15. 〈入金入力〉で、[フォーム]メニューから[ロード]を選択します。

請求書のロード	
会社	00001 Financial Distribution Company
支払人	3007 Schwartz Warenhaus Germeinscha
通貨	EUR Euro
基本	USD U.S. Dollar

16. 〈請求書のロード〉で、次のフィールドに表示されるデフォルト値を必要に応じて変更します。

- 会社
デフォルト値は入金見出しに入力した会社番号です。
- 支払人
デフォルト値は入金見出しに入力した支払人番号です。
- 通貨
デフォルト値は入金見出しに入力した入金の通貨コードです。請求書は、このフィールドで指定した通貨でのみ表示されます。通貨を問わず顧客のすべての請求書を表示するには、*を入力します。

17. [閉じる]をクリックして、〈入金入力〉フォームのグリッドに請求書をロードします。

支払期日順に未決済請求書が表示されます。

18. 〈入金入力〉で、次のフィールドを検討し必要に応じて値を入力します。

- 入力タイプ
- 入金額

PeopleSoft®

入金入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

会社 00001 銀行勘定科目 1.1110.FIB 元帳日付 05/06/30

支払人 3007 Schwartz Warenhaus Gemeinsha 入金日付 05/06/28

顧客 3007 Schwartz Warenhaus Gemeinsha バッチ 6641

入金No. E7832478 前

入金額 44,750.00 備考

通貨 EUR 為替レート 1.1820331 基本 USD 外貨

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

	入力タイプ	入金額	割引実額	割引理由	少額消込額	消込理由	再請求金額	再請求理由	振込金額	振込理由	取引未決済額
<input checked="" type="checkbox"/>	10	42,000.00									
<input checked="" type="checkbox"/>	10	1,886.52									
<input checked="" type="checkbox"/>	10	28.37									
<input checked="" type="checkbox"/>	10	835.11									
<input checked="" type="checkbox"/>											
<input checked="" type="checkbox"/>											
<input checked="" type="checkbox"/>											
<input checked="" type="checkbox"/>											
<input checked="" type="checkbox"/>											
<input checked="" type="checkbox"/>											

充当済み金額 保留金額 未充当金額

総勘定元帳入金 44,750.00

19. [OK]をクリックして入金入力を保存します。

フィールド記述

記述
通貨

用語解説
取引通貨を識別するコード。

為替レート

外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。

このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。

外貨建て入金の関連トピック

再請求	<p>入金を請求書に突き合わせる際、未払の金額について再請求書を作成することができます。再請求は、その請求書通貨で作成されます。</p> <p>請求書に突き合わせる再請求を作成するには、当初請求書を指定する必要があります。これは再請求額の計算に使用されます。</p> <p>複数の請求書には、独立した再請求が入金通貨で作成されます。独立した再請求を作成する場合、当初伝票は指定しないでください。</p> <p>再請求に対する売掛金勘定の検索の際、AAI 項目 RCxxx (xxx は通貨コード) が使用されます。見つからない場合は、AAI 項目 RCxxxx (xxxx は元帳クラス・コード) が使用されます。</p>
四捨五入	<p>入金を外貨建て金額は全額消込済みでも国内通貨建て金額は一部未消込の場合、あるいは外貨側は全額未消込であるのに対し国内通貨側は一部消込済みの場合は、入金明細テーブル(F03B14)の入金レコードに伝票タイプ RR が割り当てられます。このレコードの四捨五入は入金レベルで行われ、特定の請求書行とは関連しません。</p>
スピード入金	<p>〈スピード入金入力〉プログラム(P03B0001)を使用して外貨建て入金を入力することができます。</p>
残高繰越入金	<p>〈スピード入金入力〉プログラム(P03B0001)を使って外貨で残高繰越入金を入力する際、入金会社の基本通貨が請求書会社の基本通貨と同じであれば、その入金を会社間で突き合わせるすることができます。</p> <p>たとえば、カナダの会社 70 がユーロ(EUR)で外貨建て請求書を入力したとします。別のカナダの会社 75 が入金を受け取り、会社 70 への請求書に突き合わせます。この例では、入金会社の基本通貨は請求書会社の基本通貨と同じです。</p>

入金入力(P03B102)の多通貨処理オプション

表示タブ

8. 通貨

blank = 通貨を保持しない

1 = 通貨を保持する

入金を入力した後、入力した通貨をフィールドにそのまま表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 通貨を表示しない

1 通貨を表示する

9. 為替レート

blank = 為替レートを保持しない

1 = 為替レートを保持する

入金を入力した後、入力した為替レートをフィールドにそのまま表示するかどうかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

blank 為替レートを表示しない

1 為替レートを表示する

通貨タブ

1. 有効日付チェック

blank = チェックしない

1 = チェックする

為替レート有効日付を入金日付の会計期間に対して検証するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 有効日付を検証しない

1 有効日付を検証する

“1”を入力すると、為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれた有効日付が元帳日付と同じ期間でない場合に警告メッセージが表示されます。

2. 代替通貨による入金

blank = 許可しない

1 = 許可する

代替通貨(会社の基本通貨または請求書の通貨以外の通貨)による入金を入力できるようにするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 代替通貨による入金は不可

1 代替通貨による入金を入力できるようにする

代替通貨での入金入力

突き合わせる請求書の国内通貨と外貨以外の通貨による入金です。

代替通貨での入金処理によって、取引通貨や会社の基本通貨以外の通貨で入金された場合に対応できます。この機能により、当初請求書を無効にして入金通貨で請求書を新規入力する必要がなくなります。

たとえば、米国の会社が顧客の会社の通貨で請求書を入力するとします。顧客の会社は請求書を親会社に回します。親会社は、子会社とも米国の会社とも異なる通貨を使用します。この場合、代替通貨で入金を入力すると、支払に使用された通貨で入金の突き合わせを行うことができます。

代替通貨で入金を入力する際、銀行勘定の会社通貨は入金の会社の基本(国内)通貨と一致する必要があります。たとえば、アメリカの企業が外貨のカナダ・ドルで入力した入金を日本円による外貨建て請求書に突き合わせます。入金の会社基本通貨が米ドルであるため、銀行勘定の会社通貨も米ドルである必要があります。銀行勘定の会社通貨が入金の会社の基本通貨と異なる場合、エラーメッセージが表示されて、入金は入力することができません。

代替通貨建ての入金を入力する方法は、国内通貨や外貨建ての入金を入力するのと同様です。代替通貨での入金処理のほとんどは、入金を実際に入力する前の設定に基づいています。〈入金入力〉プログラム(P03B102)の処理オプションで代替通貨建て入金処理をオンにして、入金を入力する際に代替通貨建て入金の通貨コードを指定します。

〈入金入力〉プログラムでは、代替通貨による入金を請求書と突き合わせられるように、選択した請求書が代替通貨に換算されます。請求書の金額を換算する際、元帳日付または入金レコードに入力したスポット・レート(該当する場合)に基づいて、請求書通貨と代替通貨間の為替レートが為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。

注:

代替通貨建ての入金は、〈入金入力〉でのみ入力できます。自動入金処理(EDIを含む)、手形処理、〈スピード入金入力〉プログラムは、代替通貨に対応していません。

例:代替通貨建て入金の T 勘定

次の T 勘定は、代替通貨で入金が行われた場合の取引の動きを表しています。外貨(500.00 カナダ・ドル)建ての請求書、国内通貨(313.44 米ドル)建ての請求金額、代替通貨(347.33 ユーロ)建ての入金の T 勘定を示しています。

使用する為替レートは次のとおりです。

- 為替レート(請求書日付)
1 CAD = 0.62688 USD
- 為替レート(入金日付)
1USD = 0.69466 EUR

1 ユーロ = 0.9024271 米ドル

収益		売掛金	
	313.44 USD	313.44 USD	
	500.00 CAD	500.00 CAD	
			313.44 USD
			500.00 CAD
現金		仮勘定	
313.44 USD		313.44 USD	
347.33 EUR		500.00 CAD	
			313.44 USD
			347.33 EUR

代替通貨のレコードは太字で示されています。

はじめる前に

- 次の AAI が設定されていることを確認してください。
 - Ryxxx(代替通貨実現為替差益)
 - RZxxx(代替通貨実現為替差損)『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て入金の実現為替差損益 AAI」を参照してください。
- R7(代替通貨建て入金で使用する仮勘定)
- 『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て入金の仮勘定 AAI」を参照してください。
- R8(代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定)
- 『多通貨処理』ガイドの「外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI」を参照してください。
- 〈入金入力〉プログラム(P03B102)の処理オプションで、代替通貨建ての入金を入力できるように設定してください。

▶ 代替通貨建ての入金を入力するには

〈入金処理〉メニュー(G03B12)から〈入金入力〉を選択します。

1. 〈入金照会〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

入金入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

会社 00075 銀行勘定科目 75.1110 元帳日付 05/06/30
 支払人 3006 Editions de l'Odeon 入金日付 05/06/28
 顧客 3006 Editions de l'Odeon バッチ 8647
 入金No. U234789 前
 入金額 17,825.22 備考
 通貨 USD 為替レート 1.5674230 基本 CAD 外貨

レコードが取り込まれていません グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

入力 タイプ	入力 金額	割引 実施額	割引 理由	少額 消込額	消込 理由	再請求 金額	再請求 理由	振金 金額	振金 理由	取引 未決済額

充満済み金額 保留金額 未充満金額

総勘定元帳入金 17,825.22

2. 〈入金入力〉で、見出しのフィールドに値を入力します。
3. 次のフィールドに代替通貨建ての入金の通貨コードを入力します。
 - 通貨

請求書の金額は、入力した代替通貨に自動的に換算されます。
4. 次のフィールドに値を入力します。
 - 為替レート

デフォルトの為替レートは、為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。代替通貨建て入金を突き合わせる請求書が国内通貨と外貨のどちらでも、金額換算には F0015 テーブルの国内通貨と代替通貨間の為替レートが使用されます。

F0015 テーブルの為替レートを一時変更する場合や為替レートがない場合は、このフィールドに値を入力します。
5. 次のいずれかを実行します。
 - 特定の未決済請求書を選択して入金に突き合わせるには、6～14 のステップを実行します。
 - すべての未決済請求書を表示してから入金に突き合わせるものを選択するには、15～20 のステップを実行します。

特定の未処理請求書を選択して入金に突き合わせるには

6. 〈入金入力〉で、[フォーム]メニューから[選択]を選択します。
7. 〈請求書の選択〉で、次のフィールドに表示されるデフォルト値を必要に応じて変更します。
 - 住所 No.
デフォルト値は、入金見出しに入力した支払人番号です。
 - 会社
デフォルト値は、入金見出しに入力した会社番号です。
8. 次のいずれかのオプションをクリックして、入力した住所番号のタイプを指定します。
 - 支払人
 - 顧客
9. [通貨]フィールドのデフォルト値を、入金通貨から次のいずれかに変更します。
 - 請求書の取引通貨。請求書は、顧客または支払人に指定した通貨でのみ表示されます。
 - *. 通貨を問わず顧客または支払人のすべての請求書が表示されます。
10. [検索]をクリックして、〈請求書の選択〉フォームの見出しに入力した検索条件に合うすべての未決済請求書を表示します。
11. 入金を突き合わせる請求書をハイライトして[選択]をクリックします。
[選択]ボタンを使用して、請求書を選択したり選択を解除することができます。また、[ロー]メニューから[選択/解除]を選んでも同様の処理ができます。

選択した請求書にはチェックマークが表示され、請求書の件数と合計金額は〈請求書の選択〉フォームの下方に表示されます。
12. [閉じる]をクリックして、〈請求書の選択〉フォームに選択した請求書を表示します。
選択した順序で未決済請求書が表示されます。
13. 〈入金入力〉で、次のフィールドを検討し必要に応じて値を入力します。
 - 入力タイプ
 - 入金額

PeopleSoft

入金入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロード ツール

会社 00075 銀行勘定科目 75.1110 元帳日付 05/06/30
 支払人 3006 Editions de l'Odeon 入金日付 05/06/28
 顧客 3006 Editions de l'Odeon バッチ 8646
 入金No. U234789 前
 入金額 17,825.22 備考
 通貨 USD 為替レート 15674230.00000(基本 CAD 外貨

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

	入力 タイプ	入金額	割引 実額額	割引 理由	少額 消込額	消込 理由	再請求 金額	再請求 理由	損金 金額	損金 理由	取引 未決済額
<input type="checkbox"/>	10	9.85									
<input checked="" type="checkbox"/>	10	987.50									

☐ 充当済み金額 ☐ 保留金額 ☐ 未充当金額
 総勘定元帳入金 997.35 16,827.87

14. [OK]をクリックして入金入力を保存します。

すべての未決済請求書を表示してから入金と突き合わせる請求書を選択するには

15. 〈入金入力〉で、[フォーム]メニューから[ロード]を選択します。

16. 〈請求書のロード〉で、次のフィールドに表示されるデフォルト値を必要に応じて変更します。

- 会社
デフォルト値は、入金見出しに入力した会社番号です。
- 支払人
デフォルト値は、入金見出しに入力した支払人番号です。

17. [通貨]フィールドのデフォルト値を、入金通貨から次のいずれかに変更します。

- 請求書の取引通貨。請求書は、顧客または支払人に指定した通貨でのみ表示されます。
- *. 通貨を問わず顧客または支払人のすべての請求書が表示されます。

18. [閉じる]をクリックして、〈入金入力〉フォームのグリッドに請求書をロードします。

PeopleSoft®

入金入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

会社 00001 銀行勘定科目 1.1110.BEAR 元帳日付 05/06/30
 支払人 3009 Carmanah Industries 入金日付 05/06/30
 顧客 3009 Carmanah Industries バッチ 6302
 入金No. U12325 前
 入金額 1,200.00 備考
 通貨 CAD 為替レート 1.5674230 基本 USD 外貨

レコード 11 - 11 グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

入力タイプ	入金額	割引実額額	割引理由	少額消込額	消込理由	再請求金額	再請求理由	損金金額	損金理由	取引未決済額
<input checked="" type="checkbox"/>										

☐ 総勘定元帳入金
 充当済み金額 保留金額 未充当金額
 1,200.00

支払期日順に未決済請求書が表示されます。

19. 〈入金入力〉で、次のフィールドを検討し必要に応じて値を入力します。

- 入力タイプ

- 入金額

20. [OK]をクリックして入金入力を保存します。

入金および手形入力時に更新される多通貨フィールド

外貨建ての入金や手形または代替通貨建ての入金を入力する際、AAI 項目に関連付けられている勘定科目の略式 ID が特定のフィールドおよびテーブルに自動入力されます。入金および手形の転記時に、この略式 ID を使用して自動仕訳が作成されます。

入金および手形入力時に自動入力されるフィールドは、次の 2 つの例外を除き同じです。手形入力の場合、次のフィールドは自動入力されません。

- 銀行勘定。このフィールドは、手形入力時には表示されません。
- 代替通貨為替差損益勘定とその金額、および仮勘定とその金額。手形は代替通貨では処理されません。処理は、国内通貨および外貨のみで行われます。

GLBA – 銀行勘定

外貨または代替通貨建ての入金を入力して銀行勘定を指定しない場合、入金見出しテーブル (F03B13) の [銀行勘定] フィールドにデフォルト銀行勘定の AAI 項目と関連付けられている勘定科目の略式 ID が入力されます。次の表を参照してください。

勘定科目	更新されるフィールド	更新されるテーブル	使用する AAI および検索順序
銀行勘定	GLBA	F03B13	<ul style="list-style-type: none"> RBxxx。入金に入力した会社の RBxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RBxxx。会社 00000 の RBxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RB。入金に入力した会社の RB が使用されます。 RB。会社 00000 の RB が使用されます。 <p>注: AAI 項目 RBxxx に関連付けられたのが通貨勘定である場合、その通貨は入金の取引通貨と同じである必要があります。</p>

AIDT および AIDA - 実現為替差損益

外貨建ての入金や手形または代替通貨建ての入金を入力すると、入金明細テーブル(F03B14)の[外貨入金]フィールド(AIDT)または[代替通貨入金]フィールド(AIDA)に外貨または代替通貨実現為替差損益の AAI 項目と関連付けられている勘定科目の略式 ID が入力されます。次の表を参照してください。

勘定科目	更新されるフィールド	更新されるテーブル	使用する AAI および検索順序
外貨建て為替差益	AIDT	F03B14	<ul style="list-style-type: none"> RGxxx。入金に入力した会社の RGxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RGxxx。会社 00000 の RGxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RG。入金に入力した会社の RG が使用されます。 RG。会社 00000 の RG が使用されます。
外貨建て為替差損	AIDT	F03B14	<ul style="list-style-type: none"> RLxxx。入金に入力した会社の RLxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RLxxx。会社 00000 の RLxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RL。入金に入力した会社の RL が使用されます。 RL。会社 00000 の RL が使用されます。
代替通貨建て為替差益	AIDA	F03B14	<ul style="list-style-type: none"> RYxxx。入金に入力した会社の RYxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RYxxx。会社 00000 の RYxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RY。入金に入力した会社の RY が使用されます。 RY。会社 00000 の RY が使用されます。
代替通貨建て為替差損	AIDA	F03B14	<ul style="list-style-type: none"> RZxxx。入金に入力した会社の RZxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RZxxx。会社 00000 の RZxxx (xxx は入金の取引通貨) が使用されます。 RZ。入金に入力した会社の RZ が使用されます。 RZ。会社 00000 の RZ が使用されます。

AID および AIDC-再請求

外貨建ての入金や手形または代替通貨建ての入金を入力すると、取引明細テーブル(F03B11)の[略式 ID]フィールド(AID)または F03B14 テーブルの[AIDC 再請求勘定略式 ID]フィールド(AIDC)に再請求の AAI 項目と関連付けられている勘定科目の略式 ID が入力されます。次の表を参照してください。

勘定科目	更新されるフィールド	更新されるテーブル	使用する AAI および検索順序
売掛金 - 再請求 および 売掛金 - 単独再請求	AID AIDC	F03B11 F03B14	<ul style="list-style-type: none"> RCxxx。入金に入力した会社の RCxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 RCxxx。会社 00000 の RCxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 RCxxxx。RCxxxx(xxxx は入金に入力された会社の再請求元帳クラス)が使用されます。 RCxxxx。RCxxxx(xxxx は会社 00000 の再請求元帳クラス)が使用されます。 RC。入金に入力した会社の RC が使用されます。 RC。会社 00000 の RC が使用されます。

AID および DAID-損金

外貨建ての入金や手形または代替通貨建ての入金を入力すると、顧客元帳テーブル(F03B11)の[略式 ID]フィールド(AID)および F03B14 テーブルの[損金勘定略式 ID]フィールド(DAID)に損金の AAI 項目と関連付けられている勘定科目の略式 ID が入力されます。次の表を参照してください。

勘定科目	更新されるフィールド	更新されるテーブル	使用する AAI および検索順序
損金仮勘定 および 単独損金仮勘定	AID DAID	F03B11 F03B14	<ul style="list-style-type: none"> RNxxx。入金に入力した会社の RNxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 RNxxx。会社 00000 の RNxxx(xxx は入金の取引通貨)が使用されます。 RN。入金に入力した会社の RN が使用されます。 RN。会社 00000 の RN が使用されます。

RASI - 四捨五入差異

外貨建ての入金や手形または代替通貨建ての入金を入力すると、F03B14 テーブルの[端数調整]フィールド(RASI)に端数調整勘定の AAI 項目と関連付けられている勘定科目の略式 ID が入力されることがあります。次の表を参照してください。

勘定科目	更新されるフィールド	更新されるテーブル	使用する AAI および検索順序
四捨五入差異	RASI	F03B14	<ul style="list-style-type: none">R8。入金に入力した会社の R8 が使用されます。R8。会社 00000 の R8 が使用されます。

外貨建ての自動入金処理

自動入金処理は、請求書の国内通貨と外貨のどちらでも行うことができます。多通貨で自動入金処理を行う場合は、自動入金アップロード・テーブル(F03B13Z1)に通貨コード、為替レート、通貨モードを入力する必要があります。入金の通貨コードは、入金を突き合わせる請求書の国内通貨または外貨と一致する必要があります。代替通貨で自動入金を処理することはできません。代わりに、〈入金入力〉プログラム(P03B102)で手入力してください。

自動入金処理では、次のテーブルが使用されます。

- 自動入金アップロード・テーブル(F03B13Z1)。このテーブルには銀行テーブルからロードされた情報、つまり銀行で入力された情報が含まれます。
- 入金見出しテーブル(F03B13)。〈入金見出しの更新〉プログラム (R03B551)を実行すると、このテーブルにレコードが作成されます。
- 入金明細(F03B14)〈入金見出しの更新〉プログラムを実行すると、このテーブルに未充当入金レコード(RU)が作成されます。

自動入金を外部ソースからアップロードして処理するには、F03B13Z1 テーブルのフィールドに適切なデータを入力するカスタム・プログラムを作成する必要があります。

外貨建て入金と請求書を正しく突き合わせるには、処理オプションでアルゴリズムを定義し、F03B13Z1 テーブルに必要な情報を理解する必要があります。アルゴリズムは、請求書選択突合せ(R03B50A)、繰越残高突合せ(R03B50B)、既存請求書突合せ(金額あり)(R03B50D)、既存請求書突合せ(金額なし)(R03B50E)、組合せ請求書突合せ(R03B50B)について定義できます。

少額消込限度額

支払額が正しくない請求書に対する少額消込限度額は、請求書や会社ではなく入金の通貨コードに基づいて決まります。少額消込限度額は、R03B50A、R03B50D、R03B50E のアルゴリズムに関する処理オプションで定義します。各入金通貨に対して異なるバージョンのアルゴリズムを設定し、請求書自動突合せ(R03B50)を使用して自動入金を処理する際にデータ選択で通貨コードを指定します。これにより、各通貨に対して少額消込限度額が意味を持つようになります。

参照

- F03B13Z1 テーブルのその他の必須フィールドを含む、〈請求書自動突合せ〉プログラム (R03B50)についての詳細は、『売掛管理』ガイドの「自動入金処理」

F03B13Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド

自動入金アップロード・テーブル(F03B13Z1)の多通貨フィールドは次のとおりです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
通貨コード	RUCRCD	文字	3	入金の通貨を表すコード。通貨コード・テーブル(F0013)で設定されている通貨を入力する必要があります。
為替レート	RUCRR	数字	15	<p>入金された請求書の替差損益計算に使用する為替レート。請求書の換算レートと入金時の換算レートが同じ場合、為替差損益は計算されません。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが取り込まれます。</p> <p>為替レート・テーブルのレートを一時変更する場合や、レートがテーブルに設定されていない場合、このフィールドに入力してください。</p>
通貨モード	RUCRRM	文字	1	<p>入金が国内通貨であるか、外貨建てであるかを示すコード。請求書の通貨と異なる通貨による入金は外貨建て取引と見なされ、このフィールドに“F”と入力する必要があります。</p> <p>取引の通貨が国内通貨か外貨かにかかわらず、多通貨機能を使用している場合は、銀行テープのこのフィールドに入力する必要があります。</p>
外貨未決済金額	RUFAP	数字	15	<p>このフィールドは入力しないでください。</p> <p>小切手金額フィールド(RUCKAM)に入金額を入力し、〈既知請求書突合せ(金額あり)〉プログラム(R03B50D)を使用している場合は、通貨に関係なく総額フィールド(RUAG)に入金額を入力します。</p>

外貨または代替通貨建て入金の検討

外貨および代替通貨建て入金を検討するのに使用するフォームは次のとおりです。

入金照会	<p>〈入金処理〉メニュー(G03B12)から〈入金入力〉を選択します。</p> <p>〈顧客入金照会〉フォームの見出しに検索条件を入力し、入金日付、元帳日付、銀行勘定、入金タイプなどの条件別に入金を検討することができます。また、QBE を使用して特定の入金額やバッチ番号などを照会できます。</p>
バッチ処理	<p>〈入金処理〉メニュー(G03B12)から〈入金仕訳の検討〉を選択します。〈バッチの処理〉フォームには、バッチ・タイプ RB(入金と調整)がデフォルトで表示されます。</p> <p>〈バッチの処理〉フォームの見出しに検索条件を入力し、特定のバッチや転記済み/未転記のバッチのみを検討することができます。また、QBE を使用して特定の日付のバッチや承認済み状況のバッチなどを照会できます。</p>

国内通貨または外貨による計算書の検討

〈計算書/延滞通知処理〉メニュー(G03B22)から〈計算書の検討〉を選択します。

オンラインで計算書を検討するには、最初に〈計算書データの再作成〉プログラム(R03B500X)を実行し、[年齢]タブの[多通貨]処理オプションを設定して国内通貨と外貨のどちらで計算書を作成するのかを指定します。有効な値は次のとおりです。

- ブランク – 国内通貨。送金先会社の国内通貨で計算書を表示します。国内通貨で、すべての取引および総額が表示されます。

次の例では、送金先会社の通貨はカナダ・ドル(CAD)です。Lewis Enterprises の請求書および入金に使用する通貨は米ドル(USD)です。〈計算書データの再作成〉プログラムを実行して、国内通貨で計算書を作成します。〈計算書の検討〉フォームで、取引がカナダ・ドルで表示されます。

PeopleSoft

計算書の検討

選択 検索 開く フォーム ロー ツール

計算書No. 637 送付先住所 77 Canadian Company

計算書日付 05/07/31 請求先住所 5555 Fredrickson Suites

☐ 請求書集計 支払条件 ☐ Net 30 Days

通貨コード	EUR Euro	改訂/少額消込	<input type="text"/>
新規請求書	<input type="text"/>	入金調整額	<input type="text"/>
割引実施額	<input type="text"/>	前回残高	1,000.02
入金額	<input type="text"/>	未回収請求額	1,000.02

取引通貨コード	<input type="text"/>	取引入金額	<input type="text"/>
取引割引実施額	<input type="text"/>	取引入金調整額	<input type="text"/>

グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

住所 No.	名称	伝票タイプ	記述	伝票No.	会社	支払項目	請求書日付	備考	外貨前回残
5555	Fredrickson Suites	RI	Invoice	3102 00077	001	05/06/30			
5555	Fredrickson Suites	RI	Invoice	3103 00077	001	05/06/15			

- 1 - 外貨。取引の通貨で計算書を表示します。各通貨で、すべての取引および総額が表示されます。

次の例では、送金先会社の通貨はカナダ・ドル(CAD)です。Lewis Enterprises の請求書および入金に使用する通貨は米ドル(USD)およびカナダ・ドルです。〈計算書データの再作成〉プログラムを実行して、外貨で計算書を作成します。〈延滞通知の処理〉フォームで、請求書の取引通貨(USD と CAD)で取引が表示されます。

PeopleSoft

計算書の処理

選択 検索 開じる ロー ツール

計算書No. 030

顧客No. *

通知日付 *

グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

	通知 タイプ	記述	顧客 No.	名称	支払先 会社	記述	送付先 住所	名称
<input type="checkbox"/>	ST	Statement		5555 Fredrickson Suites	00077	Canadian Company		77 Canadian Co
<input type="checkbox"/>	ST	Statement		5555 Fredrickson Suites	00077	Canadian Company		77 Canadian Co

国内通貨または外貨による計算書の生成

〈計算書/延滞通知処理〉メニュー(G03B22)から〈計算書データの再作成〉を選択します。

計算書を生成するには、最初に〈計算書データの再作成〉プログラム(R03B500X)を実行し、[年齢]タブの[多通貨]処理オプションを設定して国内通貨と外貨のどちらで生成するのかを指定します。有効な値は次のとおりです。

- **ブランク** - 国内通貨。送金先会社の国内通貨で計算書を印刷します。国内通貨で、すべての取引および総額が印刷されます。

たとえば送金先の会社の通貨がカナダ・ドル(CAD)の場合、外貨、国内通貨に関係なく請求書および入金はすべてカナダ・ドルで計算書に印刷されます。

- **1** - 外貨。取引の通貨で計算書を印刷します。各通貨で、すべての取引および総額が印刷されます。

たとえば送金先の会社の通貨がカナダ・ドル(CAD)の場合、請求書および入金はすべて請求書の取引通貨で計算書に印刷されます。

〈計算書データの再作成〉プログラムは、延滞通知実績テーブル(F03B20)と延滞通知実績明細テーブル(F03B21)の金額を更新します。

外貨建ての自動引落し処理

自動引落し処理は、顧客の銀行口座から自動的に引き落とし取引を記録するために使用します。外貨で自動引落し処理のバッチを作成するには、〈自動引落しバッチの作成〉プログラム(R03B571)を使用して、処理オプションとデータ選択でバッチに含める外貨建て請求書を指定します。1つの自動引落しバッチには1つの通貨しか含めることができません。

自動引落し処理に使用する通貨に関連した処理オプションは次のとおりです。

処理オプション	記述
銀行勘定	銀行勘定を割り当てるのに使用します。またはブランクにして請求書会社のAAI項目RBに対応する銀行勘定を使用することもできます。 銀行勘定が通貨勘定である場合は、請求書の通貨コードが銀行勘定の通貨と同じである必要があります。たとえば、外貨のカナダ・ドル(CAD)で自動引落しを処理する場合、銀行勘定の通貨もカナダ・ドルである必要があります。 この処理オプションの必要条件を満たしていない場合、〈自動引落しバッチの作成〉レポート(R03B571)にエラー・メッセージが印刷されます。
通貨モード	請求書の外貨でバッチを作成するよう指定します。

▶ 外貨建ての自動引落しを処理するには

〈自動引落し〉メニュー(G03B131) から〈自動引落しの処理〉を選択します。

1. 〈自動引落しバッチ処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、[追加]をクリックします。
3. [バージョンの追加]で、バージョン ID を入力してから[OK]をクリックします。
4. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、追加するバージョンを選択して次の処理を実行します。
 - [処理]タブで[通貨モード]オプションを1に設定して、請求書の外貨で自動引落しができるようにします。
 - [銀行勘定]タブの[銀行勘定]処理オプションに正しい銀行勘定が入力されていることを確認します。銀行勘定が通貨勘定の場合は、勘定科目の通貨コードが請求書の通貨と同じである必要があります。
 - データ選択では1つの通貨のみを選択します。そうしないと、デフォルト外貨に最初の請求書の通貨が使用されます。

参照

- 国独自の銀行要件など自動引落し処理について詳しくは『売掛管理』ガイドの「自動引落し」

外貨および代替通貨建て入金の転記

転記する入金が手入力で作成したものか、自動入金または自動引落し処理で作成したものかによって、次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈入金処理〉メニュー(G03B12)または〈自動入金処理〉メニュー(G03B13)から〈入金の転記〉を選択します。

〈自動引落し〉メニュー(G03B131) から〈自動引落しの転記〉を選択します。

〈入金仕訳の検討〉または〈自動引落し仕訳の検討〉プログラムを使って入金や自動引落しを転記することもできます。

処理済みの外貨および代替通貨建て入金は転記する必要があります。

外貨および代替通貨建て入金を転記すると、〈入金の転記〉プログラムの転記前処理では〈売掛管理固定情報〉プログラム(P0000)から売掛金集計方式が取り込まれます。集計方式が B の場合、バッチに外貨または代替通貨建て入金がないことが確認されます。外貨または代替通貨建て入金が 1 件でもある場合、転記前処理ではバッチの売掛金集計方式が S(支払項目)に変更されます。これは、バッチ内に外貨または代替通貨建て入金があると、集計方式 B を使って転記を行うことができないためです。

次の表は〈入金の転記〉プログラムで実行される処理の一覧です。多通貨環境における入金の転記独自の情報は[多通貨に関する考慮事項]の下を参照してください。

入金の転記によって実行される処理	多通貨に関する考慮事項
入金見出し(F03B13)および入金明細(F03B14)の各テーブルから未転記の入金取引を選択する	
バッチの状況が「承認済み」であることを確認する	
取引明細テーブル(F0911)に入金額の銀行勘定レコード(借方)を作成する	取引明細テーブル(F0911)で、外貨(CA)元帳に外貨建て入金額の銀行勘定レコード(借方)を作成します。
取引明細テーブル(F0911)に入金額の売掛金勘定レコード(貸方)を作成する	自動仕訳によって取引明細テーブル(F0911)で AA(国内通貨)元帳と CA(外貨)元帳に対して売掛金勘定(貸方)を作成します。
割引、小額消込、再請求、損金勘定に対して自動仕訳を作成する	割引、少額消込、再請求、損金勘定の外貨建て金額に対して CA 元帳に自動仕訳を作成します。
為替差損益は多通貨環境以外では計算されない	外貨および代替通貨の為替差損益に対して自動仕訳を作成します。
四捨五入差異は多通貨環境以外では計算されない	四捨五入差異に対して仕訳を作成します。
詳細再換算は多通貨環境以外では使用されない	代替通貨元帳(XA)と、該当する場合は YA と ZA 元帳を更新し、処理オプションに〈詳細再換算〉プログラム(R11411)のバージョンを入力した場合は、別の転記レポートを作成します。

入金の転記によって実行される処理	多通貨に関する考慮事項
勘定残高テーブル(F0902)の残高を更新する	
取引明細テーブル(F0911)のレコードを P(転記済み)に更新する	
入金見出し(F03B13)および入金明細(F03B14)の各テーブルのレコードを D(転記済み)に更新する	
バッチ制御テーブル(F0011)のレコードを D(転記済み)に変更する	

通貨銀行勘定への入金の転記

多通貨による入金を通貨銀行勘定に転記するためには、特定の条件を満たす必要があります。通貨銀行勘定は、特定の通貨コードが割り当てられた勘定科目です。入金を通貨銀行勘定に転記するには、入金の取引通貨が銀行勘定の通貨と同じである必要があります。

入金の銀行勘定が通貨勘定である場合、転記には次の条件が必要です。

- 入金する通貨が請求書の取引通貨と同じ

外貨建て請求書の国内通貨側に入金が突き合わせられる場合は、その入金は転記されません。たとえば、請求書の取引通貨が米ドル(USD)で国内通貨がユーロ(EUR)であるとします。支払を請求書の国内通貨(ユーロ)で受け取り、その入金を通貨銀行勘定(ユーロ)に入力します。入金を転記する際、請求書の通貨(米ドル)と銀行勘定の通貨(ユーロ)が異なるためエラー・メッセージが表示されます。

- 入金する通貨が銀行勘定の通貨と同じ

入金通貨と銀行勘定通貨が一致しない場合は、その入金は転記されません。たとえば、請求書の取引通貨がカナダ・ドル(CAD)であるとします。支払を請求書の取引通貨(カナダ・ドル)で受け取り、その入金を通貨銀行勘定(米ドル)に入力します。入金を転記する際、入金の通貨(カナダ・ドル)と銀行勘定の通貨(米ドル)が異なるためエラー・メッセージが表示されます。

転記が実行されなかった場合、従業員ワーク・センターに「勘定科目の通貨コードが正しくありません」というエラー・メッセージが送信されます。エラーを修正するには、入金の銀行勘定を非通貨勘定に変更してもう一度転記を実行してください。

はじめる前に

- 〈売掛管理固定情報〉プログラム(P0000)で集計方式を確認します。『多通貨処理』ガイドの「固定情報での集計方式の設定」を参照してください。
- 外貨建て入金を転記する前に、次の AAI 項目が設定済みであることを確認してください。
 - RGxxx(外貨実現為替差益)
 - RLxxx(外貨実現為替差損)

『多通貨処理』ガイドの「外貨建て入金の実現為替差損益 AAI」を参照してください。
- R8(外貨端数調整勘定)

『多通貨処理』ガイドの「外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI」を参照してください。

- 代替通貨での入金を転記する前に、次の AAI 項目が設定済みであることを確認してください。

- RYxxx(代替通貨実現為替差益)

- RZxxx(代替通貨実現為替差損)

『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て入金の実現為替差損益 AAI」を参照してください。

- R7(代替通貨仮勘定)

『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て入金の仮勘定 AAI」を参照してください。

- R8(代替通貨端数調整勘定)

『多通貨処理』ガイドの「外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI」を参照してください。

入金と手形の転記時に作成される多通貨自動仕訳

外貨建ての入金と手形、および代替通貨建ての入金を転記すると、取引明細テーブル(F0911)に自動仕訳(伝票タイプ AE)が作成されます。

AAI に関連付けられている勘定科目に基づいて自動仕訳が作成される売掛管理システム以外の転記プログラムとは異なり、入金および手形の転記プログラムでは、入金や手形の入力時に略式 ID に関連付けられている勘定科目に基づいて自動仕訳が作成されます。入金転記時に代替通貨仮勘定に対して作成された自動仕訳は例外です。

入金および手形転記時に作成される自動仕訳は 1 つの例外を除き同じです。手形の転記では、代替通貨実現為替差損益および仮勘定の金額レコードは作成されません。これは、手形の処理は国内通貨と外貨でのみ可能なためです。

入金および手形を転記すると、F0911 テーブルに次のような自動仕訳が作成されます。

勘定科目	記述
銀行勘定	転記プログラムにより入金または手形レコードで銀行勘定フィールド(GLBA)の略式 ID が検索され、対応する銀行勘定に対して自動仕訳が作成されます。
実現為替差損益	<p>転記プログラムでは、次の略式 ID が検索されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外貨建て入金および手形レコードの外貨建て入金フィールド(AIDT) 代替通貨建て入金レコードの代替通貨建て入金フィールド(AIDA) <p>次に、対応する差損益勘定に対応する自動仕訳が作成されます。</p> <p>外貨建て入金については、転記時に F03B14 テーブルの差損益金額フィールド(AGL)の金額でレコードが追加作成されます。このレコードはユニバーサル・テーブル・ブラウザ(UTB)で検討できます。</p> <p>代替通貨建て入金については、転記時に F03B14 テーブルの代替通貨差損益金額フィールド(AGLA)の金額でレコードが追加作成されます。このレコードはユニバーサル・テーブル・ブラウザ(UTB)で検討できます。</p> <p>転記プログラムによって少額消込の金額に対して為替差損益の自動仕訳が作成されることはありません。</p>
仮勘定	<p>代替通貨建て入金にのみ使用します。入金転記プログラムでは、代替通貨仮勘定に対して自動仕訳を作成するのに AAI 項目 R7 が使用されます。(該当する場合)</p> <p>勘定科目は次の順序で検索されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入金に入力された会社の R7 会社 00000 の R7
再請求	転記プログラムにより入金レコードで再請求勘定 ID フィールド(AIDC)の略式 ID が検索され、対応する再請求勘定の自動仕訳が作成されます。
損金仮勘定	転記プログラムにより入金レコードで損金勘定 ID フィールド(DAID)の略式 ID が検索され、対応する損金勘定の自動仕訳が作成されます。
四捨五入差異	<p>転記プログラムにより入金レコードで端数調整フィールド(RASI)の略式 ID が検索され、対応する端数調整勘定の自動仕訳が作成されます。</p> <p>また、F03B14 テーブルに四捨五入金額フィールド(RAMT)の金額でレコード(伝票タイプ RR)が追加作成されます。このレコードはユニバーサル・テーブル・ブラウザ(UTB)で検討できます。</p>

参照

- 通貨に関連しない情報については『売掛管理』ガイドの「入金の転記によって作成される自動仕訳」

入金転記時に記録される四捨五入差異

外貨または代替通貨による入金を転記すると、わずかな四捨五入差異の自動仕訳が作成されることがあります。この四捨五入差異は、外貨または代替通貨建ての入金を請求書に突き合わせる際、請求書の国内通貨建て金額と入金の国内通貨建て金額が異なる場合に作成されます。このわずかな金額は、AAI 項目 R8 で指定されている勘定科目に計上されます。

通常、複数の請求書に対して一度にまとめて入金されたり、1 件の請求書に対して複数回に分けて入金があった場合に、このような誤差が生じます。このような取引では、外貨または代替通貨から国内通貨への換算で乗算や除算を行った際、その通貨の小数点以下桁数に収まらない場合、四捨五入によって誤差が生じます。

このような換算時の四捨五入によって生じた端数分の誤差を記録するため、入金転記時に端数勘定の自動仕訳が作成されます。この誤差は入金にのみ関係し、請求書とは関連しません。入金額を調整した結果、既存の四捨五入金額に影響する場合、新しいレコードが作成されます。当初の四捨五入金額のレコードは変更されません。

例: 入金転記時に記録される四捨五入差異

次の例では、外貨による入金において四捨五入差異が生じています。為替レート: カナダ・ドル = 0.73429 ユーロ

フランスの会社がそれぞれ 1,250.00 カナダ・ドル(917.86 ユーロ)の 3 件の外貨建て請求書を発行しました。これに対し 3,750.00 カナダ・ドル(2,753.59 ユーロ)の入金がありました。国内通貨建ての入金額(2,753.59)を国内通貨建ての請求書(917.86 × 3 = 2,753.58 ユーロ)の請求書に突き合わせると、0.01 ユーロの四捨五入差異が記録されます。

入金および手形の転記によって作成される多通貨仕訳

国内通貨建ての入金を転記すると、〈入金入力〉プログラム(P03B102)の処理オプションで指定された仕訳作成方式に基づいて、取引明細テーブル(F0911)に明細形式または集計形式の仕訳が作成されます。

ただし、外貨および代替通貨建ての入金を転記すると、〈入金入力〉プログラムで指定した仕訳作成方法に関係なく明細形式の仕訳が作成されます。〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)で多通貨処理がオンになっている場合、集計金額は作成されません。

入金の転記時に作成される自動仕訳は、手形転記時に作成される仕訳と同じです。

参照

- 通貨に関連しない情報については『売掛管理』ガイドの「入金の転記によって作成される仕訳」

外貨建て払戻しの作成

〈期末処理〉メニュー(G03B21) から〈払戻しの作成〉選択します。

払戻し処理によって、売掛管理システムの債権を再分類して、買掛管理システムで伝票を作成します。払戻しを作成すると、未決済のクレジット・メモに対して支払が行われ、顧客に払い戻す伝票が作成されます。

データ選択を使用して、どのレコード内に払戻しを作成するかを指定できます。払戻しが作成されるのは、金額が貸方(マイナス)の場合のみです。顧客、会社、通貨別に払戻し処理を行うことができます。

例: 払戻し処理のデータ選択

たとえば、売掛金元帳(F03B11)に次のレコードがあるとしたします。

顧客	会社	通貨コード	金額	伝票タイプ
4272	00001	USD	200.00	RI
4272	00001	USD	- 100.00	RM
4272	00001	EUR	50.00	RI
4272	00001	EUR	100.00	RI
4272	00001	EUR	- 200.00	RM
4272	00010	USD	80.00	RI
4272	00010	EUR	- 150.00	RM
4272	00010	EUR	180.00	RI

データ選択で顧客番号 4272、会社 00001、通貨コード EUR を指定して払戻しを作成します。システムでは、顧客番号 4272、会社 00001、通貨コード EUR に基づいて、50.00 ユーロの払戻しが作成されます。払戻し処理が行われるのは、顧客の売掛金勘定の残高がマイナスであるためです。ただし、残高がプラスの場合には払戻し処理は行われません。

データ選択で顧客番号 4272、伝票タイプ RM を指定して払戻しを作成します。システムでは、顧客 4272 に対して次の 3 件の払戻しレコードが作成されます。

- 100.00 ドル(USD)。顧客番号 4272、会社 00001、通貨コード USD に基づきます。
- 200.00 ユーロ(EUR)。顧客番号 4272、会社 00001、通貨コード EUR に基づきます。
- 150.00 ユーロ(EUR)。顧客番号 4272、会社 00010、通貨コード EUR に基づきます。

伝票タイプ RM を指定したため、顧客の売掛金勘定の残高は考慮されません。

参照

- 通貨以外の情報については『多通貨処理』ガイドの「払戻しの作成」

外貨建て受取手形の処理

ほとんどの国で、手形は債務に対する支払約束を意味します。手形は、国によって取扱方法が違いますが、多くの国々で債務の支払手段や債権の回収手段として広く使用されています。

手形は、通貨が請求書の取引通貨と同じである限り、外貨建てでも処理できます。請求書の通貨によって、手形処理全体で使用される通貨が決まります。請求書の取引通貨が外貨の場合、外貨建ての手形として印刷、取立、回収する必要があります。このため、代替通貨で手形を処理することはできません。

顧客が外貨建ての手形を引き受ける必要があるかどうかにより、手入力または自動処理のいずれかになります。

外貨による手入力入金手形

〈手形日次処理〉メニュー(G03B161)から〈手形入力(自社)〉または〈手形入力(顧客)〉を選択します。

PeopleSoft

手形入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

支払入 3002 Atlantic Corporation バッチ 6458

手形No. 531 531 前

手形日付 05/07/02 会社 00001 元帳日付 05/07/29

満期日 05/07/29 国 銀行名 Banque Nationale de Paris

外貨手形会計 2,000.00 顧客口座番号 150128482

支払手段 Default (A/R & A/P) 銀行支店コード 302075018

通貨コード EUR 為替レート 1.1760555 基本 USD 外貨

入力タイプ	入金額	割引未払額	割引理由	少額消込額	少額消理由	再請求金額	再請求理由	指金金額	指金理由	取引未決済額	取引可能額
10	2,000.00										20.00

消込金額 2,000.00 保留金額 仮受金金額

手入力手形は、銀行に持ち込む前に顧客が引き受ける必要があることから、顧客引受(受取)手形とも呼ばれます。

〈手形入力〉フォームで手形を手入力する際、通貨は請求書の取引通貨と一致する必要があります。取引通貨が外貨の場合、〈手形入力〉フォームの[外貨]オプションがオンになります。〈手形入力〉フォームは〈入金入力〉フォームと似ています。

外貨による自動入金手形

〈手形日次処理〉メニュー(G03B161)から〈事前承認済手形〉を選択します。

自動処理手形は、顧客が引き受ける必要がないことから、事前承認手形とも呼ばれます。自社と顧客との間で、顧客側が手形を使用して支払うということで、事前に契約をします。

自動処理手形は、〈バッチ手形の作成〉プログラム(R03B671)を実行して作成します。作成した自動処理手形は請求書の通貨で処理されます。取引通貨が外貨の場合、手形の処理は外貨で行われます。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの次のトピックを参照してください。
 - 「入金および手形の転記によって作成される多通貨自動仕訳」
 - 「入金および手形の転記によって作成される多通貨仕訳」
- 通貨以外の情報については『売掛管理』ガイドの「受取手形の処理」

偶発債務を伴う手形の取立

〈手形の取立/回収〉メニュー(G03B162)から〈手形の取立〉を選択します。

顧客の銀行から資金を回収するために取引銀行に手形を持ち込みます(取立)。手形の満期日より前に手形の決済を要求する場合、国によっては偶発債務として計上することが義務付けられている場合があります。

偶発債務を伴う外貨建て手形を取り立てるには、〈手形の取立〉プログラム(R03B672)を実行します。[取立]タブの処理オプションを次のように設定してください。

- 手形勘定用 AAI - 2 に設定して偶発債務の仕訳を作成するようにします。
- 為替レートの一時的変更 - 一時的変更為替レートを入力します(該当する場合)。このフィールドをブランクにすると、為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが自動的に取り込まれます。

複数の通貨を使用した手形を取り立てる場合、レポートの[満期日合計]および[顧客合計]カラムに*が記載されます。取立バッチを承認して転記すると、外貨為替差損益の仕訳が作成されます。

偶発債務を伴う国内通貨建て手形とは違い、偶発債務を伴う外貨建て手形の場合、取立処理時に為替差損益が記録されます(偶発債務を伴わない外貨建て手形の場合は、回収処理時に為替差損益が記録されます)。

外貨建て手形および処理オプション

次の表は、外貨建て手形の処理に関連する処理オプションを示しています。

受取手形処理プログラム	多通貨処理オプション
自社手形入力(P03B602) 顧客手形入力(P03B602)	<p>[表示]タブの[通貨コード]処理オプションで、〈手形入力〉フォームに入力した通貨コードを手形の受取後もそのまま表示するよう設定します。</p> <p>[表示]タブの[為替レート]処理オプションで、〈手形入力〉フォームに入力した為替レートを手形の受取後もそのまま表示するよう設定します。</p> <p>[通貨]タブの[有効日付の検証]処理オプションで、手形に入力された元帳日付における為替レートを取り込むのに使用する有効日付を検証するよう設定します。</p>
請求書の印刷(手形あり) (R03B5051)	<p>[通貨]タブの[通貨の印刷]処理オプションで、請求書の印刷時に外貨建て金額と通貨コードも含めるよう設定します。</p>
手形の回収(状況更新) (R03B680)	<p>[為替レート]タブの[為替レート一時変更]処理オプションで、スポット・レートを指定するかフィールドをブランクにして、為替レート・テーブル(F0015)からレートを取り込むようにします。</p> <p>請求書の通貨に関係なく、この為替レートが外貨建て請求書の支払手形に使用され、偶発債務を伴わない手形にのみ適用されます。</p>
手形の取立(R03B672)	<p>[取立]タブの[為替レート一時変更]処理オプションで、スポット・レートを指定するかフィールドをブランクにして、為替レート・テーブル(F0015)からレートを取り込むようにします。</p> <p>この為替レートは偶発債務の仕訳を作成するのに使用され、偶発債務を伴う手形にのみ適用されます。</p>

多通貨与信および回収管理

延滞処理方針で最低金額または固定延滞利息金を指定している場合、多通貨環境で与信/回収管理を効率的に行うには、通貨コード別に与信情報を設定する必要があります。最低金額と固定延滞利息金は通貨によって異なるため、この設定は必要です。

多通貨環境における与信/回収管理のために、延滞処理方針に次の情報を設定してください。

- 通貨コード別の延滞利息金指示。この延滞利息金指示は、期限を超過した請求書の延滞利息金を計算するのに使用します。
- 通貨コードを伴う延滞通知指示。この延滞通知指示は、請求書が期限を超過した顧客に対して延滞通知を作成するのに使用します。
- 通貨コードを伴う信用保険方針。未収債権を保障する保険方針を購入する場合、顧客の与信限度額をモニタするために方針を記録します。

特定の通貨、金額、固定延滞利息金の情報を設定した後、回収処理の一環として延滞通知の印刷、延滞利息金レコードの作成、売掛金勘定の更新や検討などを行うことができます。

参照

- 通貨以外の情報については『多通貨処理』ガイドの「与信および回収管理」

▶ 通貨コード別に延滞利息金指示を設定するには

〈与信/回収管理セットアップ〉メニュー(G03B411)から〈延滞方針の定義〉を選択します。

1. 〈延滞方針の処理〉で、[検索]をクリックしてすべての処理方針を表示するか、QBE に検索対象を絞り込む値を入力して[検索]をクリックします。
2. 規則を設定する方針を選択します。
3. [ロー]メニューから[利息金]を選択します。
4. 〈延滞利息金指示の処理〉で、延滞利息金指示を定義するには[追加]をクリックします。

PeopleSoft

延滞利息金指示

OK キャンセル ツール

延滞処理方針

方針名 Standard Policy

会社 00000 J.D. Edwards & Company

延滞利息金条件

有効開始日付 05/06/30 有効終了日付 05/06/30

経過計算開始日数 31 経過計算終了日数 60

猶予日数 15 ☐ 遅延手数料

通貨コード USD 最低金額 10.00

延滞利息金処理

年率 3.000000 固定延滞利息金 0.00

利息金の間隔日数 30

☐ 複合延滞利息金 ☒ 回収管理者への通知

☒ 未決済額に対して計算 ☒ 回収管理者の承認必須

☐ 期日繰入金に対する延滞利息金の計算

5. 〈延滞利息金指示〉で、通常通りフィールドに値を入力してオプションを指定します。
6. 次のフィールドで、最低金額および固定延滞利息金の通貨を指定します。
 - 通貨コード

これは最低金額と固定延滞利息金の通貨です。延滞利息金が発生される通貨ではありません。延滞利息金は請求書の基本または取引通貨で生成されます。
7. 次のフィールドで、延滞利息金の対象となる請求書支払項目の最低未決済金額を指定します。
 - 最低金額

請求書の支払項目がこのフィールドの金額より小さい場合、その支払項目に対して利息金は生成されません。
8. 次のフィールドで、請求する金額（利息金）を指定するか、または年率と組み合わせて請求する追加金額を指定します。
 - 固定延滞利息金
9. [OK]をクリックします。

参照

- 〈延滞利息金指示〉フォームの通貨以外の情報については『売掛管理』ガイドの「延滞利息金指示の設定」

▶ 通貨コードを伴う延滞通知指示を設定するには

〈与信/回収管理セットアップ〉メニュー(G03B411)から〈延滞方針の定義〉を選択します。

1. 〈延滞方針の処理〉で、[検索]をクリックしてすべての処理方針を表示するか、QBE に検索対象を絞り込む値を入力して[検索]をクリックします。
2. 規則を設定する方針を選択します。
3. [ロー]メニューから[通知]を選択します。
4. 〈通知指示の処理〉で、指示を作成するには[追加]をクリックします。

5. 〈延滞通知指示〉で、通常通りフィールドに値を入力してオプションを指定します。
6. 次のフィールドで、最低金額の通貨を指定します。
 - 通貨コード
7. 次のフィールドで、延滞通知の対象となる請求書支払項目の最低未決済金額を指定します。
 - 最低金額

このフィールドで指定された金額より請求書支払項目の未決済金額が小さい場合、その支払項目は処理に含まれません。
8. [OK]をクリックします。

参照

- 〈延滞通知指示〉フォームの通貨以外の情報については『売掛管理』ガイドの「延滞通知指示の設定」

▶ 通貨コードを伴う信用保険方針を設定するには

〈与信/回収管理セットアップ〉メニュー(G03B411)から〈与信保険の処理〉を選択します。

1. 〈与信保険の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft
信用保険の定義

OK キャンセル フォーム ツール

保険会社	4445	保険証書No.	4448-7845612
方針タイプ	2		
顧客No.	3002	会社	00000
有効開始日付	050101	有効期限	050131

補償金額	150,000.00	通貨コード	EUR
------	------------	-------	-----

保険料	12,500.00	単価	
通貨コード	EUR	購入数量	
補償範囲(%)	80.00		

2. 〈信用保険の定義〉で、通常通り次のフィールドに値を入力します。
3. 次のフィールドで、補償金額の通貨を指定します。
 - 通貨コード
このフィールドは[補償金額]フィールドの右側にあります。
4. 次のフィールドで、保険料および単価の通貨を指定します。
 - 通貨コード
このフィールドは[保険料]フィールドの下にあります。このフィールドをブランクにすると、補償金額に関連付けられた通貨コードが使用されます。
5. [OK]をクリックします。

参照

- 〈信用保険の定義〉フォームの通貨以外のフィールドについては『売掛管理』ガイドの次のトピック:
 - 「単一与信保険を設定するには」
 - 「一般与信保険を設定するには」

多通貨での延滞通知の印刷

〈与信/回収管理〉メニュー(G03B15)から〈与信分析データの再作成〉を選択します。

延滞通知は、〈与信分析データの再作成〉プログラムのバージョンの 1 つ(R03B525)を使用して印刷します。

延滞通知の請求書が同じ通貨によるものである場合、すべての請求書の期日経過金額の合計が印刷されます。請求書の通貨が異なる場合、その合計は意味をなさないため印刷されません。

参照

- 通貨以外の情報については『売掛管理』ガイドの「延滞通知の生成」

多通貨での延滞利息金の生成

〈与信/回収管理〉メニュー(G03B15)から〈与信分析データの再作成〉を選択します。

延滞利息金は、〈与信分析データの再作成〉プログラムのバージョンの 1 つ(R03B22)を使用して生成します。延滞利息金を生成する通貨を指定するには、[利息金]タブの[利息金の通貨]処理オプションで次のうち 1 つを選択する必要があります。

- 会社通貨。これは、請求書に割り当てられている基本通貨です。基本通貨の異なる複数の会社の場合、各通貨ごとに個別の延滞利息金レコードが生成されます。
- 顧客通貨。これは、顧客レコードに割り当てられている通貨です。すべての延滞利息金は、顧客マスターの[住所録通貨コード]フィールド(CRCA)で指定された通貨で生成されます。
- 請求書通貨。これは、請求書の取引通貨です。請求書に複数の通貨が使用されている場合、各通貨ごとに個別の延滞利息金レコードが生成されます。

参照

- 通貨以外の情報については『売掛管理』ガイドの「延滞利息金の生成」

与信分析データの再作成の実行

〈与信/回収管理〉メニュー(G03B15)から〈与信分析データの再作成〉を選択します。

与信/資金管理テーブル(F03B15)の顧客残高を更新するために、〈与信分析データの再作成〉プログラム(R03B525)は毎日実行します。金額の再計算は、処理オプションで指定した年齢調べ日付に関連付けられている為替レートに基づいて行われます。

〈与信分析データの再作成〉プログラムでは、すべての未決済請求書を顧客の勘定科目別、および親/子各レベルで会社別に集計され、処理オプションが正しく設定されている場合は F03B15 テーブルにその情報が書き込まれます。すべての未決済請求書金額は、顧客レコードの会社の基本通貨で集計されますが、会社 00000 の場合は、顧客レコードの[住所録通貨コード]で指定した通貨で金額が集計されます。

〈与信分析データの再作成〉プログラムの実行後、〈取引残高照会〉、〈取引状況集計〉、〈親/子表示〉の各フォームで顧客残高情報の通貨情報を検討できます。

多通貨での顧客勘定の検討

顧客の回収情報を管理する際、顧客分析および意思決定に必要な売掛金情報をすばやく表示することができます。必要な情報に応じて、次のフォームのいずれかを使用します。

- 取引残高照会
- 親/子表示

〈与信分析データの再作成〉プログラム(R03B525)を実行して、〈取引残高照会〉、そこからフォーム・エグジットでアクセスする〈取引状況集計〉、〈親/子表示〉の各フォームに表示される顧客残高情報を更新する必要があります。

取引残高照会

〈与信/回収管理〉メニュー(G03B15)から〈顧客残高照会〉を選択します。

顧客No.	名称	会社	期限超過金額	未決済金額	与信限度額	与信限度超過額	未充当金額
3007	Schwartz Warenhaus	00000		56,413.00			
3009	Carmanah Industries	00000	19,673.64	33,974.14			
1001	J.D. Edwards & Company	00000	5,807.00	23,336.80	30,000.00		7,128.00-
3003	CSC Corporation	00000	6.85	381.85	25,000.00		
3008	Namiki Machinery	00000		45.48			
3007	Schwartz Warenhaus	00001		47,725.40			
3009	Carmanah Industries	00001	19,673.64	33,974.14			
1001	J.D. Edwards & Company	00001	5,807.00	23,336.80	30,000.00		7,128.00-
3003	CSC Corporation	00001		375.00	25,000.00		
3008	Namiki Machinery	00001		45.48			

〈顧客残高照会〉プログラム(P03B218)を使用して、特定の回収担当者に割り当てられたすべての支払延滞取引や、特定の日付を基準とした顧客勘定の未決済残高などを検討できます。〈取引残高照会〉フォームに表示される顧客残高には次のうちいずれかの条件が適用されます。

- 会社 00000 以外の会社については、会社の通貨が使用されます。
- 会社 00000 については、顧客レコードの[住所録通貨コード]の通貨が使用されます。

顧客勘定の統計情報を検討するには、[ロー]メニューから[顧客取引状況]を選択します。

親/子残高照会

〈与信/回収管理〉メニュー(G03B15)から〈親/子残高照会〉を選択します。

PeopleSoft.

親/子表示

選択 検索 開く ロー ツール

親住所No. *

会社 00075 Cascades, Ltd

ドラッグ コピー 移動 元に戻す

住所 No.	住所 No.	住所 名称	会社	期限超過 金額	未決済 金額	与信限度 超過額 金額	受金未 入金 金額	未実行 金額	経過 1 金額	経過 2 金額	経過 3 金額	経過 4 金額	経過 5 金額	経過 6 金額	経過 7 金額
3001	3001	Global Enterprises	00075	19,521.21	19,521.21				13,581.53	5,939.68					
3004	3004	Pacific Company, The	00075	19,521.21	19,521.21				13,581.53	5,939.68					
3004	3004	Pacific Company, The	00075	6,896.42	6,896.42				6,896.42						
3333	3333	Continental Incorporated	00075	12,624.79	12,624.79				6,685.11	5,939.68					
3333	3333	Continental Incorporated	00075	2,858.59	2,858.59				2,843.09	15.50					
3334	3334	Lewis Enterprises	00075	9,766.20	9,766.20				3,842.02	5,924.18					
3004	3004	Pacific Company, The	00075	19,521.21	19,521.21				13,581.53	5,939.68					
3333	3333	Continental Incorporated	00075	12,624.79	12,624.79				6,685.11	5,939.68					

〈親/子表示〉プログラム(P03B151)を使用して、親および関連する子レコードの残高(子レコードの合計未決済金額を含む)を照会したり、子レコードの与信限度額が割り当てられた金額を超えていないかどうかを確認できます。〈親/子表示〉フォームに表示される顧客残高には次のうちいずれかの条件が適用されます。

- ゼロ会社以外の会社については、会社の通貨が使用されます。
- 会社 00000 については、顧客レコードの[住所録通貨コード]の通貨が使用されます。

多通貨での顧客統計情報の更新

〈与信/回収管理〉メニュー(G03B15) から〈統計実績更新〉を選択します。

顧客の取引残高の推移を効率的に分析/管理するためには、〈与信履歴の更新〉プログラム(R03B16)を実行してください。

〈与信履歴の更新〉プログラム(R03B16)では、統計実績テーブル(F03B16)と統計集計テーブル(F03B16S)の顧客統計情報が更新されます。また、会社別顧客マスター(F03012)の次のフィールドも更新されます。

- 今年度請求額(ASTY)
- 前年度請求額(SPYE)
- 年累計延滞利息金(AFCY)
- 前回入金額(ALP)
- 最初の請求書日付 (DFIJ)
- 前回請求書日付(DLIJ)
- 前回入金日付(DLP)

〈与信履歴の更新〉プログラムでは、顧客レコードの会社の基本通貨で金額が更新されますが、会社 00000 の場合は、顧客レコードの[住所録通貨コード]で指定した通貨で金額が更新されます。

〈与信履歴の更新〉プログラムの実行後、〈会社別取引履歴照会〉、〈取引状況集計〉の各フォームで顧客の最新の統計情報を検討できます。

売掛金の為替差損益

為替差損益は、複数の通貨を使用した取引で発生する為替レートの変動に基づいています。為替差損益には次の2つのタイプがあります。

- 未実現為替差損益
- 実現為替差損益

未実現為替差損益が会計期間の終わりに未払の請求書、部分的にしか支払われていない請求書に基づいて計算されるのに対して、実現為替差損益は入金時に計算されます。

未実現為替差損益の計算

未決済の外貨建て請求書および伝票の未実現為替差損益を記録するには、仕訳を手入力するか自動的に作成することができます。

未実現為替差損益は、未払の請求書および伝票、または部分的にしか支払われていない請求書や伝票の未決済金額に対して計算します。複数の通貨を扱っている場合、各会計期間の終わりに未実現為替差損益を記録して未決済の外貨建て取引を再評価します。これにより、正確なキャッシュポジションを把握してキャッシュ・フローを管理することができます。

為替差損益の仕訳を自動的に作成するには、売掛未実現為替差損益レポート(R03B426)または売掛未実現為替差損益レポート(R04425)を実行して次の処理を行います。

- 未決済の外貨建て請求書または伝票の再評価
- 未実現為替差損益の分析
- 未実現為替差損益の記録

はじめる前に

- 〈為替レートの改訂〉フォームで新しい為替レートを入力します。『多通貨処理』ガイドの「逆換算方式用為替レートを設定するには」または「逆換算禁止方式用為替レートを設定するには」を参照してください。
- 基本通貨が異なる会社ごとに〈未実現為替差損益〉レポートのバージョンを設定してください。
- 次のAAIが設定されていることを確認してください。
 - RVxxx(外貨未実現為替差益)
 - RWxxx(外貨未実現為替差損)
 - RRxxxx(外貨未実現為替差損益の相手勘定)

『多通貨処理』ガイドの「外貨建て請求書の未実現為替差損益 AAI」を参照してください。

未実現為替差損益レポートの実行

〈期末処理〉メニュー(G03B21)から〈未実現為替差損益レポート〉を選択します。

〈未実現為替差損益レポート〉プログラム(R03B21)を実行して、未実現為替差損益を計算します。このレポートには次の項目が記載されます。

- 会社の基本通貨と各請求書の取引通貨
- 請求書番号と支払期日
- 各請求書に対して計算される当初および現行の国内通貨建て金額
- 各請求書の外貨建て金額
- 各未決済請求書の未実現為替差損益

レポートには、次のテーブルの情報が使用されます。

- 売掛金元帳(F03B11)
- 入金明細(F03B14)

複数の通貨を含めて〈未実現為替差損益〉レポートを実行した場合の合計金額は意味をなさないため、外貨総合計やその他の小計には“**NA**”（適用せず）と表示されます。これを避けるためには、異なる基本通貨を使用する各会社ごとに別のレポート・バージョンを設定してください。会社別にバージョンを設定すると、レポートのサイズが小さくなるという利点があります。

処理オプションで、為替差益のみと為替差損益両方のどちらの仕訳を作成するか指定します。この処理オプションを空白にした場合、仕訳は作成されません。最初、〈未実現為替差損益〉レポートは仕訳を作成せずに実行します。このレポートを検討して、必要に応じて為替レートを修正します。すべての為替レートを修正し終わるまで仕訳を作成しない状態でプログラムを実行し続け、最後に未実現為替差損益の仕訳を作成するために実行します。

未実現為替差損益の仕訳に割り当てられる伝票タイプは JX です。これは、通貨勘定の国内通貨建て金額の調整に使用できる唯一の伝票タイプです。仕訳は、1 つの会社に対して 1 つだけ作成されます。

注意:

仕訳が重複するのを避けるため、1 つの会計期間に 2 度以上仕訳を作成しないよう処理オプションを設定してください。

例:外貨建て請求書の未実現為替差損益

次の例では、フランスの会社が米ドル(USD)建ての未決済請求書で未実現為替差損益を計算しています。

為替変動のため、会計期間の終わりに未決済請求書(USD)をユーロ(EUR)に対して再評価する際、未実現為替差損益が生じる可能性があります。

記述	通貨	金額	2005年1月1日の 為替レート	2005年1月31日の 為替レート
請求書(国内通貨)	EUR	1,135.45	1USD = 1.13545 EUR	
請求書(外貨)	USD	1,000.00		
未決済請求書(国内通貨)	EUR	1,132.25		1USD = 1.13225 EUR
未実現為替差損益	EUR	- 3.20		

2005年1月1日に1,000.00ドルの外貨建て請求書(国内通貨で1,135.45ユーロ)を作成します。

計算: $1,000.00 \text{ USD} \times 1.13545 = 1,135.45 \text{ EUR}$

2005年1月31日時点でこの請求書は未決済のため、ユーロで再評価します。

計算: $1,000.00 \text{ USD} \times 1.13225 = 1,132.25 \text{ EUR}$

未実現為替差損益

未実現為替差損益は-3.20ユーロです。この金額は、請求書作成時から会計期間の終わり(請求書は未決済)までの間の為替レートの変動に基づいて計算されています。

取引金額(CA元帳)	取引為替レート	現行為替レート	国内通貨建て金額(AA元帳)	差益(+)/差損(-)
1,000.00 USD	1.13545		1,135.45 EUR	
1,000.00 USD		1.13225	1,132.25 EUR	- 3.20

$1,000.00 \text{ USD} \times 1.13225$ (会計期間末における為替レート) = 1,132.25 EUR

$1,000.00 \text{ USD} \times 1.13545$ (請求書日付における為替レート) = 1,135.45 EUR

計算: $1,132.25 - 1,135.45 = -3.20 \text{ EUR}$

処理オプション: 未実現為替差損益レポート(R03B426)

基準日

1. 未実現為替差損益の計算に使用する為替レートの基準日を入力してください。空白の場合、今日のレートで処理されます。

基準日

仕訳

2. 利益と損失の両方の仕訳を作成するには、“1”を入力してください。換算差損勘定でのみ仕訳を作成する場合は、“2”を入力してください。換算差益勘定でのみ仕訳を作成する場合は、“3”を入力してください。デフォルトの空白にすると仕訳は作成されません。

3. 元帳日付を入力してください。デフォルトの空白にすると現行期間の最終日付が使用されます。

4. 一般会計固定情報の管理者承認の設定に関係なく、承認済み状況で仕訳バッチを作成するには、“1”を入力してください。空白の場合、固定情報の設定が使用されます。

5. 仕訳のデフォルト元帳タイプを入力してください。空白の場合、AA 元帳が使用されます。

実現為替差損益の計算

入金と支払のどちらについて実現為替差損益を計算するかにより、次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈入金処理〉メニュー(G03B12)または〈自動入金処理〉メニュー(G03B13)から〈入金の転記〉を選択します。

〈自動支払処理〉メニュー(G0413)から〈自動支払の転記〉を選択します。

実現為替差損益を計算するには、入金および支払を転記する必要があります。実現為替差損益は、外貨または代替通貨での入金/支払を含む取引間で発生する為替レートの変動に基づいています。入金および支払を転記すると、請求書または伝票日付から入金または支払日付までの間に為替レートが変動したかどうかに基づいてシステムが為替差損益を計算します。為替レートに変動があった場合、為替差損益について仕訳が作成されます。

外貨での入金や支払では、取引で為替差損益が発生する可能性があります。この為替差損益は、支払時の外貨(取引)通貨と国内通貨の間の為替レートの変動に基づいています。為替差損益は、請求書または伝票金額に請求書または伝票入力時と支払時の為替レートの違いを乗算または除算して計算されます。

代替通貨での入金や支払では、2 種類の為替差損益が発生する可能性があります。

- 標準の為替差損益。外貨(取引)通貨と国内通貨の取引日付から入金/支払日付までの為替レート差異に基づいて計算される金額です。

- 代替通貨為替差損益。代替通貨（支払通貨）と国内通貨の為替レート差異に基づいて計算される金額です。為替の差益または差損は、次の金額の差になります。
- 入金または支払時の代替通貨を直接国内通貨に換算した金額（実際の銀行口座からの引落し額または入金額）
- 代替通貨による入金または支払の金額をまず外貨に換算してから国内通貨に換算した金額

実現為替差損益の伝票タイプ

実現為替差損益の伝票タイプは、売掛管理システムと買掛管理システムで異なります。売掛管理システムでは RC、買掛管理システムでは PG が使用されます。転記レポートには、伝票タイプと「実現為替差損益」という記述が表示されます。

はじめる前に

- 〈為替レートの改訂〉フォームで新しい為替レートを入力します。『多通貨処理』ガイドの「逆換算方式用為替レートを設定するには」または「逆換算禁止方式用為替レートを設定するには」を参照してください。
- 外貨建て入金に対して次の AAI 項目が設定済みであることを確認してください。
 - RGxxx（外貨実現為替差益）
 - RLxxx（外貨実現為替差損）

『多通貨処理』ガイドの「外貨建て入金の実現為替差損益 AAI」を参照してください。
 - R8（外貨端数調整勘定）

『多通貨処理』ガイドの「外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI」を参照してください。
- 代替通貨建て入金に対して次の AAI 項目が設定済みであることを確認してください。
 - RYxxx（代替通貨実現為替差益）
 - RZxxx（代替通貨実現為替差損）

『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て入金の実現為替差損益 AAI」を参照してください。
 - R7（代替通貨仮勘定）

『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て入金の仮勘定 AAI」を参照してください。
 - R8（代替通貨端数調整勘定）

『多通貨処理』ガイドの「外貨および代替通貨建て入金で使用する端数調整勘定 AAI」を参照してください。

例:外貨建て請求書および入金による実現為替差益

次の例では、イギリスの会社が米ドル(外貨)建ての請求書を入力し、米ドルで入金を受けました。

国内通貨と外貨の間の為替変動のため、入金時に為替差損益が生じる可能性があります。

記述	通貨	金額	2005 年 1 月 1 日の 為替レート	2005 年 2 月 1 日の 為替レート
請求書(国内通貨)	GBP	303.60		
請求書(外貨)	USD	500.00	1 USD = 0.6072 GBP	
入金(外貨)	USD	500.00		1 USD = 0.6081 GBP
標準為替差損益	GBP	+ 0.45		

2005 年 1 月 1 日に 500 ドルの外貨建て請求書(国内通貨で 56,500 日本円)を作成しました。

計算: 500.00 USD x 113 = 56,500 JPY

2005 年 2 月 1 日に外貨の米ドルで 500.00 ドルの入金がありました。

標準為替差損益

標準の為替差損益は+1,000 円です。この金額は、請求書日付から入金日付の為替レートの変動に基づいています。

500.00 USD x 115(入金日付における為替レート)= 57,500 JPY

500.00 USD x 113(請求書日付における為替レート)= 56,500 JPY

計算: 57,500 - 56,500 = +1,000 JPY

例:代替通貨建て請求書および入金による実現為替差益

次の例では、フランスの会社がカナダ・ドル(CAD)建ての請求書を 3 通入力し、日本円(JPY)で入金がありました。

入金を入力すると、入金額(JPY)が外貨および国内通貨建ての金額と比較され、請求額に達しているかチェックされます。この取引に含まれる 3 つの通貨間の為替レートは互いに変動しているため、次のような為替差損益が発生する可能性があります。

- 標準の為替差損益(ユーロとカナダ・ドル間)
- 代替通貨為替差損益(日本円、カナダ・ドル、ユーロ間)

記述	通貨	金額	2005 年 1 月 1 日の 為替レート	2005 年 2 月 1 日の為替レート
請求書(国内通貨)	EUR	356.34		
請求書(外貨)	CAD	500.00	1 USD = 0.71268 EUR	

記述	通貨	金額	2005 年 1 月 1 日の 為替レート	2005 年 2 月 1 日の為替レート
入金	JPY	38,850		1 CAD = 0.70882 EUR 1 JPY = 0.009163 EUR 1 JPY = 0.01287 CAD
標準為替差損益	EUR	- 1.93		
代替通貨為替差 損益	EUR	+ 1.57		

2005 年 1 月 1 日に 500 カナダ・ドルの外貨建て請求書(国内通貨で 356.34 ユーロ)を作成しました。
ユーロ建て金額は次のように計算されます。

$$\text{計算: } 500.00 \text{ CAD} \times 0.71268 = 356.34 \text{ EUR}$$

2005 年 2 月 1 日に代替通貨の日本円で 38,850 円の入金がありました。

請求書に突き合わせる外貨建て金額は 500.00 カナダ・ドルです。

$$\text{計算: } 38,850 \text{ JPY} \times 0.01287 = 500.00 \text{ CAD}$$

請求書に突き合わせる国内通貨建て金額は 354.41 ユーロです。

$$\text{計算: } 500.00 \text{ CAD} \times 0.70882 = 354.41 \text{ EUR}$$

入金額を国内通貨に換算すると 355.98 ユーロになります。

$$\text{計算: } 38,850 \times 0.009163 = 355.98 \text{ EUR}$$

標準為替差損益

標準の為替差損益は-1.93 ユーロです。この金額は、請求書日付から入金日付の為替レートの変動に基づいています。

$$500.00 \text{ CAD} \times 0.70882 (\text{入金日付における為替レート}) = 354.41 \text{ EUR}$$

$$500.00 \text{ USD} \times 0.71268 (\text{請求書日付における為替レート}) = 356.34 \text{ EUR}$$

$$\text{計算: } 354.41 - 356.34 = -1.93 \text{ EUR}$$

代替通貨為替差損益

代替通貨為替差損益は+1.57 ユーロです。この金額は入金日付の為替レートを使用して計算されます。これは、代替通貨を直接国内通貨に換算した金額と、まず外貨に換算してから国内通貨に換算した金額の差額です。

$$38,850 \text{ JPY} \times 0.009163 = 355.98 \text{ EUR}$$

$$(38,850 \text{ JPY} \times 0.01287 = 500.00 \text{ CAD}) \times 0.70882 = 354.41 \text{ EUR}$$

$$\text{計算: } 355.98 - 354.41 = +1.57 \text{ EUR}$$

売掛管理システムの多通貨レポート

売掛管理システムには、多通貨処理用に標準レポートと分析レポートの両方があります。選択するレポートによって、未決済の売掛金明細情報を国内通貨と外貨で、年齢調べ金額を取引通貨または指定する通貨で、与信限度額を超過している取引内容などを検討できます。

これらのレポートの総額は通貨に関係なく合計されるため、一度に複数の通貨を使って印刷する場合は意味をなさないことに注意してください。これを避けるためには、レポートにいくつかのバージョンを設定して、処理オプションとデータ選択で1つのレポートに1つの通貨のみ指定してください。

参照

- データの問題および不整合を見つける方法については『売掛管理』ガイドの「整合性レポート」。整合性レポートは、多通貨を使用しているかどうかにかかわらず便利なレポートです。

多通貨用未決済売掛金明細レポート

〈売掛管理レポート〉メニュー(G03B14)から〈未決済売掛金(外貨)〉を選択します。

請求書、クレジット・メモ、未充当入金の未決済の売掛金明細をさまざまな通貨で検討するには、〈未決済売掛金(外貨)〉レポートを実行します。このレポートには次のような通貨情報が印刷されます。

- 基本会社通貨(国内通貨)
- 取引通貨(外貨)
- 取引および未決済の外貨建て残高

〈未決済売掛金(外貨)〉には3つの異なるレポートがあります。

レポート	記述
通貨明細 - 外貨と国内通貨 (R03B429A)	外貨と国内通貨の両方のレコードを持つ未決済の請求書を検討する場合に印刷します。
通貨明細 - 年齢調べ (R03B429B)	取引の年齢調べを行う通貨で未決済売掛金の一覧を見る場合に印刷します。 処理オプションを設定して、特定の日付により未決済売掛金の年齢を調べます。
年齢調べ付き外貨および国内通貨取引 (R03B429C)	特定の年齢調べカテゴリについて、外貨および国内通貨で未決済売掛金の一覧を見る場合に印刷します。 標準の与信限度額と保証与信限度額を検討して、顧客に与信限度額を超える売掛金がないか確認できます。この金額は、顧客の通貨で印刷されます。 処理オプションを設定して、特定の日付により未決済売掛金の年齢を調べます。

処理オプション:通貨明細 – 外貨と国内通貨(R03B429A)

印刷

1. 入金履歴を印刷するには“1”を入力してください。ブランクの場合、請求書と仮受金のみ印刷されます。

1. 入金履歴の印刷

ブランク = 請求書と未充当入金のみ印刷

1 = 入金も印刷する

2. 入金の合計への組込み

ブランク = 請求金額のみ(入金を合計に含めない)

1 = 入金を合計に含める

2. レポートの合計欄に入金額を印刷するには“1”を入力してください。ブランクの場合、請求金額のみ印刷されます。

3. 基準日

ブランク = システム日付

合計に入金額を含める:

基準

1. 基準日を入力してください。すべての金額がこの日付で再換算されて表示されます。

基準日

処理オプション:通貨明細 – 年齢調べ付き(R03B429B)

年齢調べ

1. 売掛管理固定情報の設定を有効にするには、“1”を入力してください。ブランクの場合、以下の処理オプションの設定が有効になります。

1. 年齢調べ情報の取込み

ブランク = 処理オプション 2～5 を使用

1 = 売掛管理固定情報を使用

2. 基準日

ブランク = システム日付

2. 未決済残高の年齢調べを行う基準日を入力してください。ブランクの場合、システム日付がデフォルトとして使用されます。

3. 年齢調べに使用する日付フィールド

D = 支払期日(デフォルト)

I = 請求書日付

G = 元帳日付

S = 計算書日付

4. 年齢調べ方法

1 = 経過日数(デフォルト)

2 = 会計期間

3 = カレンダー

5. 経過日数(方法 1 の場合のみ)

終了

4. 年齢調べの計算方法を次のうちから指定してください。

1 = 経過日数(デフォルト)

2 = 会計期間

3 = カレンダー

終了

終了

終了

6. マイナス金額の年齢調べ

blank = 現行カラムに反映する

印刷

1. 再計算して外貨と年齢調べカラムに表示する通貨を入力してください。blankの場合、当初取引の外貨建てで表示されます。

1. 印刷する未決済金額の最低金額

2. 上で入力する金額の通貨

blank = USD

3. 標準または保証与信限度額

blank = すべてのレコードを印刷

1 = 未決済金額が標準与信限度額以上のレコード

2 = 未決済金額が保証与信限度額以上のレコード

4. 基準日

ブランク = システム日付

5. 通貨コード - 換算して外貨と年齢調べカラムに表示する通貨

ブランク = 外貨建て金額を表示する

2. マイナス金額の年齢調べを行うには、“1”を入力してください。ブランクの場合、現行の残高に含まれます。

マイナス金額の年齢調べ

印刷

1. 再計算して外貨と年齢調べカラムに表示する通貨を入力してください。ブランクの場合、当初取引の外貨建ての金額が表示されます。

1. 印刷する未決済金額の最低金額

2. 上で入力する金額の通貨コード

ブランク = USD

3. 標準または保証と信限度額

ブランク = すべてのレコードを印刷

1 = 未決済金額が標準と信限度額以上のレコード

2 = 未決済金額が保証と信限度額以上のレコード

4. 基準日

印刷

1. レポートに印刷する顧客レコードを指定してください。未決済金額がこの処理オプションで指定した金額以上のレコードのみ印刷されます。

1. 印刷する未決済金額の最低金額

2. 上の処理オプションで指定する金額の通貨を指定してください。ブランクの場合、デフォルトはUSDです。

2. 通貨コード

3. レポートに印刷する顧客レコードを指定してください。未決済金額がこの処理オプションで指定した金額以上のレコードのみ印刷されます。

ブランク = すべてのレコードを印刷

1 = 未決済金額が標準と信限度額以上のレコード

2 = 未決済金額が保証与信限度額以上のレコード

3. 標準または保証与信限度額

blank = すべてのレコードを印刷

1 = 未決済金額が標準与信限度額以上のレコード

2 = 未決済金額が保証与信限度額以上のレコード

保証与信限度額

1. レポートに印刷する顧客を指定します。未決済金額が入力した金額以上の顧客のみ印刷されます。

最低未決済金額

2. 上で入力した金額の通貨を指定してください。blankの場合、USD(米ドル)がデフォルトとなります。

通貨コード

3. 印刷する顧客を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = すべての顧客を印刷する

1 = 未決済金額が与信限度額を上回る顧客を印刷する

2 = 未決済金額が保証与信限度額を上回る顧客を印刷する

[最低未決済金額]がblankでない場合は、この処理オプションは無視されます。

標準/保証与信限度額

処理オプション: 通貨明細(外貨/国内通貨) - 年齢調べ(R03B429C)

年齢調べ

1. 売掛管理固定情報の設定を有効にするには、“1”を入力してください。blankの場合、以下の処理オプションの設定が有効になります。

1. 年齢調べ情報の取込み

blank = 処理オプション 2~5 を使用

1 = 売掛管理固定情報を使用

2. 基準日

blank = システム日付

2. 未決済残高の年齢調べを行う基準日を入力してください。blankの場合、システム日付がデフォルトとして使用されます。

3. 年齢調べに使用する日付フィールド

D = 支払期日(デフォルト)

I = 請求書日付

G = 元帳日付

S = 計算書日付

4. 年齢調べ方法

1 = 経過日数(デフォルト)

2 = 会計期間

3 = カレンダー

5. 経過日数(方法 1 の場合のみ)

終了

4. 年齢調べの計算方法を次のうちから指定してください。

1 = 経過日数(デフォルト)

2 = 会計期間

3 = カレンダー

終了

終了

終了

6. マイナス金額の年齢調べ

blank = 現行カラムに反映する

印刷

1. 再計算して外貨と年齢調べカラムに表示する通貨を入力してください。blankの場合、当初取引の外貨建てで表示されます。

1. 印刷する未決済金額の最低金額

2. 上で入力する金額の通貨

blank = USD

3. 標準または保証と信限度額

blank = すべてのレコードを印刷

1 = 未決済金額が標準と信限度額以上のレコード

2 = 未決済金額が保証と信限度額以上のレコード

4. 基準日

blank = システム日付

5. 通貨コード - 換算して外貨と年齢調べカラムに表示する通貨

blank = 外貨建て金額を表示する

2. マイナス金額の年齢調べを行うには、“1”を入力してください。blankの場合、現行の残高に含まれます。

マイナス金額の年齢調べ

印刷

1. 再計算して外貨と年齢調べカラムに表示する通貨を入力してください。blankの場合、当初取引の外貨建ての金額が表示されます。

1. 印刷する未決済金額の最低金額

2. 上で入力する金額の通貨コード

blank = USD

3. 標準または保証と信限度額

blank = すべてのレコードを印刷

1 = 未決済金額が標準と信限度額以上のレコード

2 = 未決済金額が保証と信限度額以上のレコード

4. 基準日

印刷

1. レポートに印刷する顧客レコードを指定してください。未決済金額がこの処理オプションで指定した金額以上のレコードのみ印刷されます。

1. 印刷する未決済金額の最低金額

2. 上の処理オプションで指定する金額の通貨を指定してください。blankの場合、デフォルトはUSDです。

2. 通貨コード

3. レポートに印刷する顧客レコードを指定してください。未決済金額がこの処理オプションで指定した金額以上のレコードのみ印刷されます。

blank = すべてのレコードを印刷

1 = 未決済金額が標準と信限度額以上のレコード

2 = 未決済金額が保証と信限度額以上のレコード

3. 標準または保証与信限度額

ブランク = すべてのレコードを印刷

1 = 未決済金額が標準与信限度額以上のレコード

2 = 未決済金額が保証与信限度額以上のレコード

保証与信限度額

1. レポートに印刷する顧客を指定します。未決済金額が入力した金額以上の顧客のみ印刷されます。

最低未決済金額

2. 上で入力した金額の通貨を指定してください。ブランクの場合、USD(米ドル)がデフォルトとなります。

通貨コード

3. 印刷する顧客を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = すべての顧客を印刷する

1 = 未決済金額が与信限度額を上回る顧客を印刷する

2 = 未決済金額が保証与信限度額を上回る顧客を印刷する

[最低未決済金額]がブランクでない場合は、この処理オプションは無視されます。

標準/保証与信限度額

未決済売掛金 - 外貨建て集計レポート(R03B413B)

〈売掛管理レポート〉メニュー(G03B14)から〈未決済売掛金(外貨建て集計)〉を選択します。

顧客勘定や関連通貨情報に関する現行の集計情報を検討するには、〈未決済売掛金(外貨建て集計)〉レポート(R03B413B)を実行します。この年齢調べレポートでは、未決済項目がすべてアルファベット順に印刷され、顧客ごとに未決済項目を集計した合計額が表示されます。また、会社別の合計と未決済の売掛金の総合計も印刷されます。

この合計金額と年齢調べ金額には、データ選択で指定した取引が反映されます。

処理オプション: 未決済売掛金(外貨建て集計)レポート(R03B413B)

年齢調べ

1. 売掛管理固定情報の設定を有効にするには、“1”を入力してください。ブランクの場合、処理オプションの設定が有効になります。

注) “1”を入力すると、以下のオプションの値は無視されます。

固定情報の年齢調べに関する設定を有効にする

2. 未決済残高の年齢調べをする基準日を入力してください。ブランクの場合、システム日付がデフォルトとなります。

年齢調べ基準日

3. 年齢調べを開始する日付を次から指定してください。

D = 支払期日(デフォルト)

I = 請求書日付

G = 元帳日付

S = 計算書日付

年齢調べ開始日付

4. 年齢調べ方法を次から1つ指定してください。

1 = 経過日数(デフォルト)

2 = 会計期間

3 = カレンダー

年齢調べ方法

経過日数

5. 各カテゴリの経過日数を入力してください(年齢調べ方法1の場合のみ)開始 1:

終了

終了

終了

マイナス金額

6. マイナス金額の年齢調べを行うには、“1”を入力してください。ブランクの場合、現行残高に含まれます。

マイナス金額の年齢調べ

印刷オプション

7. レポートに親番号を印刷するには、“1”を入力してください。ブランクの場合は印刷されません。

親番号印刷

8. レポートに印刷するカテゴリ・コードを入力してください。ゼロを入力すると、カテゴリ・コードはレポートに印刷されません(将来使用)。

カテゴリ・コード

9. カテゴリ・コードの元となるシステムを指定してください(将来使用)。

1 = 住所録

2 = 売掛管理

システム・コード

10. レポートに各顧客の与信限度額を印刷するには“1”を入力してください。ブランクの場合、与信限度額は印刷されません(将来使用)。

与信限度額の印刷

未決済売掛金(備考)レポート (R03B4201A)

〈売掛管理レポート〉メニュー(G03B14) から〈未決済売掛金(備考)〉を選択します。

すべての顧客の請求書、クレジット・メモ、未充当入金の未決済項目を検討するには、〈未決済売掛金(備考)〉レポートを印刷します。このレポートには、支払項目ごとに関連した備考が表示されます。たとえば、請求書入力時に、顧客に請求するサービスや製品のタイプを備考として入力することができます。このレポートには、会社ごとの合計とすべての会社の総合計が表示されます。

このレポートで次の情報を含むバージョンを実行できます。

- 割引情報(割引付き売掛金明細、正味金額、備考)。
- 留保金(未収留保金)。
- 入金履歴(顧客入金履歴)。このバージョンには、各顧客の支払済みと未決済両方の支払項目が含まれます。このレポート・バージョンの情報は、〈入金照会〉でオンライン参照できる情報とほぼ同じです。

このレポートを実行すると、月末など特定の日付における情報を見ることができます。その場合、適切な処理オプションで基準日を指定してください。

未決済売掛金(備考)レポートの多通貨に関する考慮事項

通貨	〈請求書明細〉レポート(R03B4201A)に記載される金額を他の通貨で再計算するには、処理オプションで通貨を指定してください。
通貨再換算	〈請求書明細〉レポート(R03B4201A)のデモ・バージョン XJDE0005 - Currency Restatement (通貨再換算)を使って、再換算に使用する通貨を処理オプションで指定してください。

処理オプション: 請求書明細レポート (R03B4201A)

印刷タブ

1. 入金の印刷

ブランク = 請求書と未充当入金のみ印刷

1 = 入金も印刷する

レポートに入金情報を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

未充当の入金を除き、入金情報を印刷しない

1

入金情報を印刷する

2. 入金の合計への組込み

ブランク = 入金を合計に含めない

1 = 入金を合計に含める

レポートに印刷する合計に入金額を含めるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

含めない

1

含める 1 を入力した場合、[入金の印刷] 処理オプションも 1 に設定する必要があります。そうしないと合計には入金額が含まれません。

3. 基準日

ブランク = システム日付

未決済金額を再計算してレポートに印刷するのに使用する日付を指定します。ここで入力した日付と入金の元帳日付を比較して、指定した日付時点で請求書が未払、入金済みのどちらであったかが決定されます。入力した基準日より元帳日付が後の場合、請求書は未払(未決済)と見なされ、レポートに印刷されます。入金の元帳日付が基準日以前の場合、請求書は入金済みと見なされ、レポートには含まれません。

たとえば、元帳日付が 2005 年 6 月 15 日の請求書を入力し、入金の元帳日付が 2005 年 7 月 10 日だったとします。基準日を 2005 年 6 月 30 日とした場合、請求書は未払としてレポートに表示されます。このように基準日を指定すると、顧客から指定された日付でレポートを印刷する必要がある場合や、一度処理した日付とは別の日付で印刷する場合に便利です。

この処理オプションをblankにすると、基準日処理は実行されません。

注：指定した日付(基準日)において請求書が未決済かどうかをシステムが正しく判断できるように、データ選択で支払状況や未決済金額を指定しないでください。デモ・バージョンには基準日処理のために適切なデータ選択が設定されています。

注意：基準日機能を使用すると処理時間が非常に長くなります。

4. 通貨コード - すべての金額の再換算情報の印刷

blank = 国内通貨建ての金額を印刷する

レポートに印刷する金額を換算するための通貨を指定します。正しい通貨コードを入力してください。為替レートは為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。為替レートが設定されていない場合、レポートには何も印刷されません。この処理オプションをblankにすると、金額は国内通貨で印刷されます。

未決済売掛金(年齢調べ)レポート(R03B4201B)

〈売掛管理レポート〉メニュー(G03B14) から〈未決済売掛金(年齢調べ)〉を選択します。

特定の年齢調べカテゴリについて、未決済の売掛金を検討するには〈未決済売掛金(年齢調べ)〉レポートを印刷します。このレポートには、会社ごとの合計とすべての会社の総合計が表示されます。

このレポートを実行すると、月末など特定の日付における情報を見ることができます。その場合、適切な処理オプションで基準日を指定してください。

未決済売掛金(年齢調べ)レポートの多通貨に関する考慮事項

通貨	〈売掛金明細(年齢調べ)〉レポート(R03B4201B)に記載される金額を他の通貨で再計算するには、処理オプションで通貨を指定してください。
与信限度額	〈未決済売掛金(年齢調べ)〉レポート(R03B4201B)に標準与信限度額または保証与信限度額を超えた顧客を表示するかどうかを指定することができます。また、その顧客の未決済金額の通貨も指定できます。このレポートでは、会社 00000 レベルの保証与信限度額は読み込まれません。

処理オプション:未決済売掛金(年齢調べ)レポート(R03B4201B)

年齢調べタブ

売掛管理システムで顧客の請求書の年齢調べを行う方法を指定します。

1. 年齢調べ設定

blank = 処理オプションを使用

1 = 会社固定情報を使用

売掛管理会社固定情報(F0010)から年齢調べの設定を取り込むか、処理オプションで指定した値を使用するかを指定します。

注:1を入力すると、売掛管理固定情報から年齢調べの設定が取り込まれ、[年齢調べ日付]オプション以外のすべての処理オプションが無視されます。固定情報の[基準日]フィールドをblankの場合のみ、[年齢調べ日付]処理オプションの値が使用されます。現行日付を使用するために固定情報の[基準日]フィールドをblankにしている場合は、[年齢調べ日付]オプションには入力しないでください。

2. 年齢調べ日付

blank = システム日付

未決済請求書を割り当てる年齢調べカテゴリを決定する日付を指定します。入力した日付は、[日付タイプ]オプションで指定した請求書の日付と比較され、請求書の延滞日数が計算されます。

この処理オプションをblankにすると、システム日付を使って未決済請求書の年齢調べが行われます。

3. 日付タイプ

blank = 支払期日

1 = 請求書日付

2 = 元帳日付

3 = 計算書日付

年齢調べカテゴリを決定するための日付を指定します。指定した日付と[日付計算]オプションの値を比較して、

請求書の延滞日数が決定されます。有効な値は次のとおりです。

blank 支払期日

1 請求書日付

-
- 2 元帳日付
 - 3 計算書日付

4. 年齢調べ方法

- 1 = 経過日数
- 2 = 会計期間
- 3 = カレンダー

請求書を割り当てる年齢調べカテゴリを指定します。[年齢調べ日付]オプションで指定した日付と[日付タイプ]オプションで指定した値を使って各請求書の経過日数が計算され、このコードで指定したカテゴリに割り当てられます。有効な値は次のとおりです。

1

経過日数。[年齢調べカテゴリ 1]から[年齢調べカテゴリ 6]の処理オプションで指定した年齢調べカテゴリに請求書を割り当てます。年齢調べカテゴリは自由に定義することができます。

2

会計期間。会社を設定されている期間パターン別に定義されている期間を年齢調べカテゴリとして使用します。

3

カレンダー。カレンダーの各月を年齢調べカテゴリとして使用します。

5. 年齢調べカテゴリ 1

[年齢調べカテゴリ 2]オプションで指定した値と組み合わせて、レポートに印刷する現行年齢調べカテゴリの
間隔を指定します。

6. 年齢調べカテゴリ 2

[年齢調べカテゴリ 1]と[年齢調べカテゴリ 3]オプションで指定した値と組み合わせて、レポートに印刷する
年齢調べの現行カテゴリと1番目のカテゴリの間隔を指定します。

7. 年齢調べカテゴリ 3

[年齢調べカテゴリ 2]と[年齢調べカテゴリ 4]オプションで指定した値と組み合わせて、レポートに印刷する
年齢調べの1番目と2番目のカテゴリの間隔を指定します。

8. 年齢調べカテゴリ 4

[年齢調べカテゴリ 3]と[年齢調べカテゴリ 5]オプションで指定した値と組み合わせて、レポートに印刷する

年齢調べの 2 番目と 3 番目のカテゴリの間隔を指定します。

9. 年齢調べカテゴリ 5

[年齢調べカテゴリ 4]と[年齢調べカテゴリ 6]オプションで指定した値と組み合わせて、レポートに印刷する

年齢調べの 3 番目と 4 番目のカテゴリの間隔を指定します。

10. 年齢調べカテゴリ 6

[年齢調べカテゴリ 5]オプションで指定した値と組み合わせて、レポートに印刷する年齢調べの 4 番目と 5 番目のカテゴリの間隔を指定します。

11. マイナス金額

ブランク = 年齢調べに含める

1 = 現行残高に含める

年齢調べの設定に基づいてマイナスの金額に対しても年齢調べを行うか、このようなマイナス金額はレポートの[現行]カラムに含めるかを指定します。

入金タブ

レポートおよび合計に入金額を含めるかどうかを指定します。

1. 入金の印刷

ブランク = 請求書と仮受金

1 = 入金情報を印刷

入金情報を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 請求書と未充当金情報のみ印刷する

1 入金情報を印刷する

2. 当初の合計

ブランク = 当初金額

1 = 入金額

レポートに入金額を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 レポートの当初金額カラム合計に入金額を含める
- blank 当初金額のみこのカラムの合計に含める

日付タブ

基準日処理を有効にするために使用します。特定の日付における情報を印刷するには、この処理オプションで基準日を指定してください。この日付は年齢調べの日付ではないことに注意してください。誤って年齢調べ日付を入力して実行すると、処理に膨大な時間がかかります。

1. 基準日

特定の日付におけるレポートを作成するための基準日を指定します。誤ってこの日付を年齢調べ日付として使用すると、レポートの処理時間が非常に長くなります。

ここに入力した日付における未決済の請求金額が再計算されます。システムは入金元帳日付に基づいて請求書が入金済みかどうかを判断します。入金元帳日付が入力した基準日より後の請求書は未決済と見なされ、レポートに含まれます。入金元帳日付が入力した基準日以前の場合、その請求書は決済済みと見なしレポートには含まれません。

たとえば、元帳日付 2005 年 6 月 15 日で請求書を入力し、元帳日付 2005 年 7 月 10 日で入金を入力したとします。基準日を 2005 年 6 月 30 日とした場合、その請求書は未決済としてレポートに示されます。これは顧客から特定の日付や当初作成したレポート以外の日付でレポートを求められた場合に便利です。

注: 特定の日付で請求書が未決済だったかどうかを確定するためには、データ選択で支払状況や未決済金額を設定しないでください。これらがデータ選択に含まれているデモバージョンを利用してください。

通貨タブ

別の通貨で再換算を行う場合に使用します。この処理オプションを使用して、金額の計算に使用する通貨を指定してください。

- ### 1. 通貨コード - 再計算
- blank = 国内通貨

再計算に使用する通貨を指定します。為替レート・テーブル(F0015)に有効な為替レートがある場

合のみ、システム

は再計算を行います。たとえば、米ドルで金額を入力して、カナダ・ドルで印刷する場合、この処理オプションにカナダドルを入力します。為替レートを検索して金額が再計算されます。国内通貨を使用する場合は、この処理オプションを空白にしてください。

保証与信限度額タブ

保証与信限度額の表示方法を指定します。

1. 印刷する最低未決済金額

空白 = すべてのレコードを印刷

レポートに表示する顧客を指定します。金額を入力してください。未決済金額がこの金額以上の顧客のみ表示されます。空白の場合すべての顧客の保証与信限度額がレポートに表示されます。

2. 未決済金額の通貨

空白 = USD(米ドル)

上の処理オプションで入力した金額の通貨コードを指定します。空白の場合、デフォルトの通貨は USD(米ドル)になります。

3. 標準/保証与信限度額

空白 = すべてのレコードを印刷

1 = 標準与信限度額を上回る顧客

2 = 保証与信限度額を上回る顧客

レポートに印刷する顧客を指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 全ての顧客を印刷する

1 未決済金額が与信限度額以上の顧客を印刷する

2 未決済金額が保証与信限度額以上の顧客を印刷する

処理オプションで設定された有効値(空白以外)を超過する未決済金額がある場合、処理オプションが一時変更されます。

未決済売掛金集計分析レポート(R03B155)

〈売掛管理レポート〉メニュー(G03B14) から〈未決済売掛金集計分析〉を選択します。

顧客との取引状況を分析するために〈未決済売掛金集計分析〉レポート(R03B155)を印刷できます。
このレポートを利用して、次のような情報を検討することができます。

- 親レベルまたは子レベルの残高
- 未決済金額とそれに関連する年齢調べカテゴリ
- 顧客および会社レベル(処理オプションの設定による)で標準与信限度額を超過している顧客
- 保証与信限度額を超過している顧客
- 与信限度額を下回っている顧客
- 未決済金額の顧客通貨
- 会社レベルの集計情報

該当する日付情報を更新するには、〈与信分析の再作成〉プログラム(R03B252)を実行する必要があります。〈未決済売掛金集計分析〉レポートを印刷すると、与信/資金管理テーブル (F03B15)と信用保険テーブル(F03B29)から情報が読み込まれます。

処理オプション: 未決済売掛金集計分析レポート(R03B155)

保証与信限度額タブ

レポート上で保証与信限度額をどのように表示するかを指定します。レポートに印刷するかどうか決定するために顧客の未決済残高と比較する金額を指定します。この処理オプションで指定した金額の通貨は、[未決済金額]処理オプションで指定された通貨が使用されます。為替レート・テーブル (F0015)から取り込んだ為替レートを使って換算した顧客の未決済残高と、この処理オプションで指定した金額と比較して、顧客をレポートに印刷するかどうかが決まります。顧客の残高がこの処理オプションで指定した金額以上の場合のみレポートに印刷されます。

注: 印刷される残高の通貨は、[未決済金額]処理オプションで指定された通貨ではなく、顧客マスター(F03012)の[住所録通貨コード]フィールド(CRCA)で指定された通貨です。

1. 表示する最低未決済金額

ブランク = すべてのレコードを印刷

レポートに印刷するかどうか決定するために顧客の未決済残高と比較する金額を指定します。この処理オプションで指定した金額の通貨は、[未決済金額]処理オプションで指定された通貨が使用されます。為替レート・テーブル(F0015)から取り込んだ為替レートを使って換算した顧客の未決済残高と、この処理オプションで指定した金額と比較して、顧客をレポートに印刷するかどうかが決まります。顧客の残高がこの処理オプションで指定した金額以上の場合のみレポートに印刷されます。

注: 印刷される残高の通貨は、[未決済金額]処理オプションで指定された通貨ではなく、顧客マスター(F03012)の[住所録通貨コード]フィールド(CRCA)で指定された通貨です。

2. 未決済金額の通貨コード

blank = 米ドル(USD)

[表示する最低未決済金額]処理オプションで入力した金額の通貨を指定します。指定した通貨に基づいて計算した未決済金額と顧客の残高を比較して、レポートに印刷するかどうかが決まります。

blankの場合、米ドル(USD)が使用されます。

注: 指定した通貨はデータを選択するためのみに使用され、その通貨では金額は印刷されません。

3. 標準または保証与信限度額

blank = すべての顧客を印刷する

1 = 未決済金額が与信限度額以上の顧客を印刷する

2 = 未決済金額が保証与信限度額以上の顧客を印刷する(会社 00000 のみ)

レポートに印刷する顧客レコードを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank

すべてのレコードを印刷する

1

未決済金額が顧客マスター(F03012)で設定された与信限度額以上のレコードを印刷する

2

未決済金額が保証与信限度額以上のレコードのみ印刷する

[表示する最低未決済金額]処理オプションで金額を指定した場合、この処理オプションは無視されます。

売掛管理システムのその他の多通貨レポート

レポート	記述
売掛金/買掛金相殺レポート - 明細 (R03B466)	〈売掛金/買掛金相殺レポート - 明細〉には、顧客および仕入先別の取引と通貨別の年齢調べが印刷されます。このレポートの外貨建て金額または国内通貨のみの金額を検討することができます。

チェックリスト: 買掛管理システムの多通貨の設定

買掛管理システムで多通貨を処理できるように設定する場合、次のチェックリストを参考にしてください。

外貨建て仕入先レコード

仕入先レコードにより、伝票を入力する通貨および住所録金額を記録する通貨が指定されます。

タスクおよび記述	プログラム	V
各仕入先にデフォルト通貨と住所録通貨を指定します。 <ul style="list-style-type: none">処理オプションを設定して、すべての住所録金額に対して通貨を指定します。この通貨は仕入先レコードで一時変更できます。仕入先レコードにデフォルト通貨および住所録通貨を割り当てます。 『多通貨処理』ガイドの「仕入先レコードへの通貨コードの割当て」を参照してください。	仕入先マスター(F04012)	
複数の仕入先の通貨コードを一括変更します。次の処理オプションを設定します。 <ul style="list-style-type: none">為替レート日付仕入先通貨コード住所録の通貨コード丸め係数 『多通貨処理』ガイドの「住所録換算プログラムの処理内容」を参照してください。	住所録ユーロ換算 - F0401(R890401E)	

外貨建て伝票

外貨建て伝票は、請求書を受け取る会社の通貨とは異なる通貨での仕入先請求書のことです。

タスクおよび記述	プログラム	V
外貨で伝票を入力します。 『多通貨処理』ガイドの「外貨建て伝票入力」を参照してください。	伝票入力(P0411)	

外貨および代替通貨建ての支払

外貨建て支払は、突き合わせる会社の通貨以外の通貨による支払です。

代替通貨建て支払は、伝票の国内通貨と外貨以外の通貨による支払です。

タスクおよび記述	プログラム	V
<p>外貨建て手入力支払を既存の伝票に突き合わせます。処理オプションを設定して、次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 為替レート日付を検証する 許容限度の為替レートを検証する <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨建て支払入力」を参照してください。</p>	支払入力(P0413M)	
<p>既存伝票なしで外貨建て手入力支払を突き合わせます。特別な設定は必要はありません。</p> <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨建て支払入力」を参照してください。</p>	伝票入力(P0411)	
<p>代替通貨建て手入力支払を既存の伝票に突き合わせます。処理オプションを次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 代替通貨建て支払をオンにする 為替レート日付を検証する 許容限度の為替レートを検証する <p>『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て支払入力」を参照してください。</p>	支払入力(P0413M)	
<p>外貨建て自動入金を作成します。次の処理オプションを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支払金額範囲 支払金額範囲の通貨コード <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨または代替通貨建て支払グループの作成」を参照してください。</p>	支払グループの作成 (R04570)	
<p>代替通貨建て自動入金を作成します。次の処理オプションを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支払金額範囲 支払金額範囲の通貨コード 代替通貨コード <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨または代替通貨建て支払グループの作成」を参照してください。</p>	支払グループの作成 (R04570)	

外貨建て手形

手形は、支払人と受取人の取引銀行との間で直接決済される支払手段です。外貨建て手形は、支払を行う会社の基本通貨以外の手形です。

タスクおよび記述	プログラム	V
外貨建ての手形を手作業で処理します。〈支払入力〉フォームに[手形]オプションを表示するように処理オプションを設定します。 『多通貨処理』ガイドの「外貨建て支払手形の処理」を参照してください。	支払入力(P0413M)	
外貨建ての手形を自動処理します。支払通貨の処理オプションを外貨に設定します。 『多通貨処理』ガイドの「外貨建て支払手形の処理」を参照してください。	支払グループの作成 (R04570)	

仮定通貨処理

仮定通貨処理を使用すると、実際に入力された通貨（外貨または代替通貨）以外の通貨で伝票を検討および印刷することができます。

タスクおよび記述	プログラム	V
仮定通貨建て伝票を検討します。次の処理オプションを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> デフォルト仮定通貨の通貨コード 為替レート日付 『多通貨処理』ガイドの「仮定通貨建て伝票の検討」を参照してください。	伝票入力(P0411)	

外貨による実現および未実現為替差損益 AAI

未決済伝票および支払の国内通貨と外貨間の為替レート変動は、AAI(自動仕訳)を使って記録されます。

タスクおよび記述	プログラム	V
未決済の外貨建て伝票における未実現為替差損益を計上します。次の AAI 項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> PVxxx(未実現為替差益) PWxxx(未実現為替差損) PRxxxx(未実現為替差損益の相手勘定) 『多通貨処理』ガイドの「外貨建て伝票の未実現為替差損益 AAI」を参照してください。	AAI (P0012)	

タスクおよび記述	プログラム	V
<p>外貨建て支払の実現為替差損益を計上します。次の AAI 項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> PGxxx(実現為替差益) PLxxx(実現為替差損) <p>『多通貨処理』ガイドの「外貨建て支払の実現為替差損益 AAI」を参照してください。</p>	AAI (P0012)	

代替通貨建て実現為替差損益 AAI

代替通貨での入金を処理する場合、AAI を使って国内通貨、外貨、代替通貨の為替レートの変動が記録されます。

タスクおよび記述	プログラム	V
<p>支払の実現為替差損益を計上します。次の AAI 項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> PY(実現為替差益) PZ(実現為替差損) R7(仮勘定) <p>『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て支払の実現為替差損益 AAI」および「代替通貨建て支払の仮勘定 AAI」を参照してください。</p>	AAI (P0012)	

仕入先レコードへの通貨コードの割当て

各仕入先レコードには次の通貨コード・フィールドが含まれます。

- デフォルト・コード(CRRP)。これは仕入先の伝票を入力するのに使用する通貨です。デフォルトの通貨コードは伝票入力時に一時変更できます。

ブランクの場合は、仕入先レコードに割り当てられている会社の通貨コードがデフォルトになります。

- 住所録コード(CRCA)。これは、今年度請求額、前年度請求額などの、仕入先住所録レコードの金額をトラッキングする通貨です。

〈仕入先マスター情報〉プログラム(P04012)の処理オプションを設定している場合、このフィールドをブランクにすると[住所録通貨コード]の値が使用されます。または、〈住所録の改訂〉フォームの[ビジネスユニット]フィールドに割り当てられた通貨の通貨コードが使用されます。

通貨コード情報は〈仕入先マスターの改訂〉フォームで割り当ててください。この通貨コードは、仕入先マスター(F0401)に保管されています。

▶ 仕入先レコードに通貨コードを割り当てるには

以下のステップは、多通貨処理を行う場合に必要な仕入先の設定です。このステップの〈買掛金用通貨の指定〉プログラムは、〈仕入先マスター情報〉プログラム(P04012)と同じプログラムです。

〈多通貨セットアップ〉メニュー(G1141)から〈買掛金用通貨の指定〉を選択します。

1. 〈仕入先マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 名称
2. 仕入先をハイライトして[選択]をクリックします。

3. 〈仕入先マスターの改訂〉で、[伝票]タブをクリックします。
4. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 通貨コード
 - 住所録通貨コード

参照

- 〈仕入先マスターの改訂〉フォームの通貨以外の情報については『買掛管理』ガイドの「仕入先マスター情報を入力するには」

フィールド記述

記述	用語解説
通貨コード	仕入先が使用する通貨を示すコード。このコードは、仕入先の伝票を入力するときにデフォルトの通貨として使用されます。デフォルトの通貨は伝票の入力時に一時変更できます。このフィールドをブランクにする場合には、伝票の入力時に通貨コードを割り当てるか、または伝票会社の通貨コードを自動的に割り当てることができます。
住所録通貨コード	住所録に保存されている金額(与信限度額や当年度請求額、前年度請求額など)の通貨コード。指定した通貨で取引履歴が保存されます。
	--- フォーム固有 --- このフィールドをブランクにすると、[金額の通貨コード]オプションで指定されている通貨コードが使用されます。その処理オプションをブランクにした場合は、〈住所録の改訂〉フォームの[ビジネスユニット]フィールドに割り当てられた会社の通過コードが使用されます。

仕入先マスター情報(P04012)の多通貨処理オプション

デフォルト・タブ

2. 住所録通貨コード

住所録の金額フィールドに対するデフォルトの通貨コードを指定します。この処理オプションおよび〈仕入先マスターの改訂〉フォームの[住所録通貨コード]フィールドがブランクの場合、住所録のビジネスユニットに割り当てられた会社の通貨が使用されます。

一般会計固定情報で多通貨がアクティブになっている場合のみ、[住所録通貨コード]フィールドが表示されます。

固定情報での集計方式の設定

固定情報の集計方式オプションは、他の3つの通貨以外のオプションとともに売掛管理システムと買掛管理システムですべての会社を制御します。

伝票、請求書、入金、支払などを転記すると、取引明細テーブル(F0911)に相手科目(伝票タイプAE)が作成されます。〈売掛管理固定情報〉および〈買掛管理固定情報〉プログラム(P0000)で指定した集計方式により、各明細レコードに対して1件の売掛金勘定または買掛金勘定が作成されます。

- バッチ(方式B)
- 伝票(方式Y)
- 支払項目(方式S)

転記プログラムで外貨または代替通貨を含む請求書、伝票、入金、支払バッチを転記することができないため、多通貨処理ではバッチ集計方式(B)は使用できません。

会社間決済を使用して多通貨会社間取引を許可している場合、次の表にあるように〈売掛管理固定情報〉と〈買掛管理固定情報〉の集計方式が〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)の会社間決済方式と対応している必要があります。

多通貨用の会社間決済方式	A/R および A/P 集計方式 B = 各バッチにレコードを作成 Y = 各取引にレコードを作成 S = 各支払項目にレコードを作成		
	B	Y	S
2 = 詳細方式	対応しない	対応する	対応する
3 = 構成ハブ	対応しない	対応する	対応する

会社間決済方式と集計方式が対応していない場合、総勘定元帳に取引を転記したときにエラー・メッセージが表示されます。

詳細再換算

詳細再換算の場合は、集計方式 Y を使用する必要があります。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「多通貨会社間決済」

▶ 買掛管理固定情報で集計方式を設定するには

〈買掛管理システム・セットアップ〉メニュー(G0441)から〈買掛管理固定情報〉を選択します。

1. 〈システム・セットアップ〉で、[買掛管理固定情報]をクリックします。

PeopleSoft®

買掛管理固定情報

OK キャンセル フォーム ツール

☐ バッチ制御必須 ☐ 管理者承認

買掛金勘定集計方式 ☒ Y One Offset per Document

請求書Noの重複チェック ☒ Y Warning upon duplication

経過日数 (999 = 無限)

終了 ~ ~ ~ ~

2. 〈買掛管理固定情報〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 買掛金勘定集計方式

多通貨処理には集計方式 Y(伝票別にレコードを作成)と S(支払項目別にレコードを作成)は有効ですが、B(バッチ別にレコードを作成)は有効ではありません。詳細再換算の場合は、集計方式 Y のみが有効です。

フィールド記述

記述	用語解説
買掛金勘定集計方式	<p>総勘定元帳への転記時に自動的に作成する買掛金レコード(伝票タイプ AE)の集計単位。有効な値は次のとおりです。</p> <p>B 各バッチに対してレコードを作成する</p> <p>Y 各取引に対してレコードを作成する</p> <p>S 各支払項目に対してレコードを作成する</p> <p>実績金額(AA)および外貨(CA)元帳タイプに対してのみ買掛金レコードが作成されます。</p>

買掛管理システムの多通貨用 AAI の設定

買掛管理システムで、多通貨処理用に次の AAI を設定します。

- 未決済外貨建て伝票の未実現為替差損益
- 外貨建て支払による実現為替差損益
- 代替通貨建て支払による実現為替差損益
- 代替通貨建て支払で使用する仮勘定
- 外貨建て買掛金勘定
- 外貨および代替通貨建て支払銀行勘定

為替差損益を計算する AAI 項目を設定できます。正しい勘定科目への金額の計上は、AAI(自動仕訳)を使って自動的に行われます。為替差損益は次のうちいずれかの為替レートの変動により発生します。

- 伝票入力時と支払時(実現為替差損益)
- 伝票入力時と、伝票が未決済の場合は会計期間末(未実現為替差損益)

外貨建ての支払および未決済伝票については、為替差損益が国内通貨と外貨間で計算されます。代替通貨での支払および未決済伝票については、為替差損益が国内通貨、外貨、代替通貨間で計算されます。

また、外貨建て伝票の勘定科目と、外貨および代替通貨建て支払の銀行勘定を定義する AAI 項目を設定します。

いくつかの AAI には、3 文字の通貨コードに対応する xxx サフィックスがあります。各会社で特定の通貨を指定する AAI 項目は、この xxx サフィックスを使って設定してください。通貨コードを指定しない(ブランクにする)場合は、会社の通貨コードがデフォルトとして使用されます。各 AAI 項目には、システムが勘定科目を検索するための順序が設定されています。

参照

- AAI の設定方法については『一般会計』ガイドの「AAI を設定するには」

外貨建て伝票の未実現為替差損益 AAI

買掛管理システムで自動的に未実現為替差損益が計算されるようにするには、AAI を設定する必要があります。会計期間末に未決済の外貨建て伝票による実現為替差損益を計上する勘定科目を定義します。

- PVxxx(外貨未実現為替差益)
- PWxxx(外貨未実現為替差損)
- PRxxx(外貨未実現為替差損益の相手勘定)

未実現為替差損益金額を作成する際、システムは当初伝票の金額と未決済伝票の金額(期間末の為替レートで再評価される)を比較し、その差額について為替差損益を作成します。

AAI 項目 RV、PW、PR には次のような特徴があります。

- ・ 〈買掛金未実現為替差損益〉レポート(R03B426)を実行すると、PV および PW に割り当てられた勘定科目コードを使用して未決済伝票に外貨未実現為替差損益が作成されます。
- ・ 〈買掛金未実現為替差損益〉レポートを実行すると、PR に割り当てられた勘定科目コードを使用して外貨未実現為替差損益の相手勘定が作成されます。
- ・ xxx は通貨コード(任意)、xxxx は元帳クラスを表します。

次の表は、システムが PV、PW、PR を検索する順序を示しています。これらの AAI 項目の検索順序は同じです。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
PV	外貨未実現為替差益	<ul style="list-style-type: none"> ・ PVxxx。伝票に入力した会社に関連付けられた PVxxx (xxx は伝票の取引通貨) が使用されます。 ・ PVxxx。会社 00000 の PVxxx (xxx 伝票の取引通貨) が使用されます。 ・ PVxxxx。伝票に入力した会社に関連付けられた PVxxxx (xxxx は伝票の元帳クラス) が使用されます。 ・ PVxxxx。会社 00000 の PVxxxx が使用されます。 ・ PV。伝票に入力した会社に関連付けられた PV が使用されます。 ・ PV。会社 00000 の PV が使用されます。
PW	外貨未実現為替差損	<ul style="list-style-type: none"> ・ PWxxx。伝票に入力した会社に関連付けられた PWxxx (xxx は伝票の取引通貨) が使用されます。 ・ PWxxx。会社 00000 の PWxxx (xxx 伝票の取引通貨) が使用されます。 ・ PWxxxx。伝票に入力した会社に関連付けられた PWxxxx (xxxx は伝票の元帳クラス) が使用されます。 ・ PWxxxx。会社 00000 の PWxxxx が使用されます。 ・ PW。伝票に入力した会社に関連付けられた PW が使用されます。 ・ PW。会社 00000 の PW が使用されます。
PR	外貨未実現為替差損益の相手勘定	<ul style="list-style-type: none"> ・ PRxxx。伝票に入力した会社に関連付けられた PRxxx (xxx は伝票の取引通貨) が使用されます。 ・ PRxxx。会社 00000 の PRxxx (xxx 伝票の取引通貨) が使用されます。 ・ PRxxxx。伝票に入力した会社に関連付けられた PRxxxx (xxxx は伝票の元帳クラス) が使用されます。 ・ PRxxxx。PRxxxx (xxxx は会社 00000 の元帳クラス) が使用されます。 ・ PR。伝票に入力した会社に関連付けられた PR が使用されます。 ・ PR。会社 00000 の PR が使用されます。

外貨建て支払の実現為替差損益 AAI

次の AAI 項目は、外貨での支払による実現為替差損益を計上する勘定科目を定義します。

- PGxxx(外貨実現為替差益)
- PLxxx(外貨実現為替差損)

為替差損益は、当初伝票の為替レートと外貨での支払時の為替レートの差額に伝票金額を乗算して計算されます。

PG と PL には次のような特徴があります。

- 外貨為替差損益額を作成するのに PG および PL に割り当てられた勘定科目コードが使用されます。
- 支払を転記すると、為替差損益の項目が作成されます。
- xxx は通貨コード(任意)、xxxx は元帳クラスを表します。

次の表は、システムが AAI 項目 PG と PL を検索する順序を示しています。これらの AAI 項目の検索順序は同じです。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
PG	外貨実現為替差益	<ul style="list-style-type: none"> • PGxxx。支払に入力した会社に関連付けられた PGxxx(xxx は支払の取引通貨)が使用されます。 • PGxxxx。支払に入力した会社に関連付けられた PGxxxx(xxxx は支払の元帳クラス)が使用されます。 • PGxxx。会社 00000 の PGxxx(xxx は支払の取引通貨)が使用されます。 • PGxxxx。PGxxxx(xxxx は会社 00000 の元帳クラス)が使用されます。 • PG。支払に入力した会社に関連付けられた PG が使用されます。 • PG。会社 00000 の PG が使用されます。
PL	外貨実現為替差損	<ul style="list-style-type: none"> • PLxxx。支払に入力した会社に関連付けられた PLxxx(xxx は支払の取引通貨)が使用されます。 • PLxxxx。支払に入力した会社に関連付けられた PLxxxx(xxxx は支払の元帳クラス)が使用されます。 • PLxxx。会社 00000 の PLxxx(xxx は支払の取引通貨)が使用されます。 • PLxxxx。PLxxxx(xxxx は会社 00000 の元帳クラス)が使用されます。 • PL。支払に入力した会社に関連付けられた PL が使用されます。 • PL。会社 00000 の PL が使用されます。

代替通貨建て支払の実現為替差損益 AAI

代替通貨で支払った場合に発生した為替差損益は標準為替差損益とは別に計上するため、異なる AAI を使用してください。代替通貨建ての支払による実現為替差損益を計上する勘定科目を定義します。

- PYxxx (代替通貨実現為替差益)
- PZxxx (代替通貨実現為替差損)

PY と PZ には次のような特徴があります。

- 代替通貨為替差損益額を作成するのに、次のような規則で PY および PZ に割り当てられた勘定科目コードが使用されます。
 - 代替通貨から直接国内通貨に換算した金額が、代替通貨をまず外貨に換算した後に国内通貨に換算した金額より大きい場合は、為替差益レコードが作成されます。
 - 代替通貨から直接国内通貨に換算した金額が、代替通貨をまず外貨に換算した後に国内通貨に換算した金額より小さい場合は、為替差損レコードが作成されます。
- 支払を転記すると、為替差損益の項目が作成されます。
- xxx は通貨コード(任意)、xxxx は元帳クラスを表します。

次の表は、システムが AAI 項目 PY と PZ を検索する順序を示しています。これらの AAI 項目の検索順序は同じです。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
PY	代替通貨実現為替差益	<ul style="list-style-type: none"> • PYxxx。支払に入力した会社に関連付けられた PYxxx (xxx は支払の取引通貨) が使用されます。 • PYxxxx。支払に入力した会社に関連付けられた PYxxxx (xxxx は支払の元帳クラス) が使用されます。 • PYxxx。会社 00000 の PYxxx (xxx は支払の取引通貨) が使用されます。 • PYxxxx。PYxxxx (xxxx は会社 00000 の元帳クラス) が使用されます。 • PY。支払に入力した会社に関連付けられた PY が使用されます。 • PY。会社 00000 の PY が使用されます。
PZ	代替通貨実現為替差損	<ul style="list-style-type: none"> • PZxxx。支払に入力した会社に関連付けられた PZxxx (xxx は支払の取引通貨) が使用されます。 • PZxxxx。支払に入力した会社に関連付けられた PZxxxx (xxxx は支払の元帳クラス) が使用されます。 • PZxxx。会社 00000 の PZxxx (xxx は支払の取引通貨) が使用されます。 • PZxxxx。PZxxxx (xxxx は会社 00000 の元帳クラス) が使用されます。 • PZ。支払に入力した会社に関連付けられた PZ が使用されます。 • PZ。会社 00000 の PZ が使用されます。

四捨五入差異の記録

代替通貨建ての支払を伝票に突き合わせる際、換算によって誤差が生じる場合があります。外貨または代替通貨から国内通貨への換算で行われた乗算や除算の結果が、その通貨の小数点以下桁数に収まらない場合、四捨五入によって誤差が生じます。この場合、代替通貨建ての支払金額を国内通貨に換算した金額は、突き合わせる伝票の国内通貨建て金額と一致しません。

四捨五入差異は、為替レートの変動によって発生するわけではありませんが、代替通貨での支払で生じた為替差損益を計上する勘定科目に記録されます。換算時の四捨五入によって生じた端数分の誤差を記録するため、支払転記時に AAI 項目 PY または PZ と関連付けられた勘定科目の仕訳が自動的に作成されます。

代替通貨建て支払の仮勘定 AAI

AAI 項目 P7 は、代替通貨での支払を転記する場合に使用する代替通貨仮勘定を定義します。この仮勘定には、支払金額を伝票の通貨に換算した次の履歴が残ります。

- 外貨建て当初伝票、外貨建て伝票の国内通貨建て金額
- 代替通貨支払、代替通貨支払の国内通貨建て金額

代替通貨仮勘定は国内通貨では貸借一致しますが、外貨では貸借一致しません。これは、外貨の方には代替通貨が含まれるためです。

AAI 項目 P7 には次のような特徴があります。

- 仮勘定は、支払元の銀行勘定と同じ会社にある必要がある
- ビジネスユニットを含める
- 通貨(通貨指定)勘定は使用不可

次の表は、システムが P7 を検索する順序を示しています。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
P7	代替通貨支払仮勘定	<ul style="list-style-type: none">• P7。支払に入力した会社に関連付けられた P7 が使用されます。• P7。会社 00000 の P7 が使用されます。

例:代替通貨建て仮勘定の T 勘定

次の例は、外貨(カナダ・ドル)建ての伝票、国内通貨(米ドル)建て金額、代替通貨(ユーロ)による支払のそれぞれの T 勘定を示しています。

取引勘定	現金	仮勘定
501.10 USD	501.10 USD	501.10 USD
800.00 CAD	575.51 EUR	575.51 EUR
		501.10 USD
		800.00 CAD

支払銀行勘定の AAI

AAI 項目 PB(支払銀行勘定)は、伝票入力時に銀行勘定を指定しなかった場合のデフォルト銀行勘定を指定します。銀行勘定には通貨勘定(通貨指定あり)と非通貨勘定(通貨指定なし)の 2 つがあります。

AAI 項目 PB には次のような特徴があります。

- 銀行勘定は、入金に入力された金額が貸方に計上されます。
- ビジネスユニットと主科目は必須です。
- xxx は通貨コード(任意)、xxxx は元帳クラス(任意)を表します。

次の表は、システムが AAI 項目 RBを検索する順序を示しています。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
PB	支払銀行勘定	<ul style="list-style-type: none"> PBxxx。伝票に入力した会社に関連付けられた PBxxx(xxx は伝票の取引通貨)が使用されます。 PBxxx。会社 00000 の PBxxx(xxx 伝票の取引通貨)が使用されます。 PBxxxx。伝票に入力した会社に関連付けられた PBxxxx(xxxx は伝票の元帳クラス)が使用されます。 PBxxxx。PBxxxx(xxxx は会社 00000 の元帳クラス)が使用されます。 PB。伝票に入力した会社に関連付けられた PB が使用されます。 PB。 会社 00000 の PB が使用されます。

支払銀行勘定に関する考慮事項

伝票入力時に銀行勘定を割り当てない場合、AAI 項目 PB に基づいて伝票の支払に使う銀行勘定が自動的に割り当てられます。銀行勘定には通貨勘定(通貨指定あり)と非通貨勘定(通貨指定なし)の2つがあります。通貨コードが割り当てられている銀行勘定は通貨勘定であることを示し、外貨建て伝票の支払はその通貨のみで行うことができます。

銀行勘定が通貨勘定か非通貨勘定かによって、通貨の扱い方や条件が異なります。

通貨銀行勘定

入力した外貨建て伝票に通貨勘定が割り当てられた場合、銀行勘定の通貨は伝票の取引通貨と同じであり、銀行勘定に関連付けられた会社の基本通貨は伝票の基本(国内)通貨と同じである必要があります。

たとえば、会社の基本通貨が米ドル(USD)であるとし、ユーロ(EUR)で外貨建て伝票を入力します。この場合、支払に関連する通貨銀行勘定の通貨もユーロである必要があります。

次の条件を両方とも満たしている場合は、銀行勘定を通貨勘定に変更できます。

- 通貨銀行勘定の通貨が伝票の取引通貨と同じ
- 銀行勘定と関連付けられた会社の基本通貨が伝票の基本(国内)通貨と同じ

システムは両方の条件について検証します。

伝票支払時の銀行勘定の一時変更

外貨建て伝票に対して支払を手入力する際、デフォルト銀行勘定を一時変更して伝票の国内(基本)通貨建て銀行勘定にすることはできません。「通貨コードが銀行勘定に対して正しくありません」というエラー・メッセージが表示されます。

同様に、支払グループを作成して、処理オプションで国内通貨建て伝票と同じ通貨で一時変更用銀行勘定を入力し、支払通貨を国内通貨建て伝票の通貨に設定した場合、その伝票は支払グループに含まれません。この場合も先と同様に、銀行勘定の通貨は伝票の取引通貨と同じであり、銀行勘定に関連付けられた会社の基本通貨は伝票の基本(国内)通貨と同じである必要があります。

非通貨銀行勘定

入力した外貨建て伝票に非通貨銀行勘定を割り当てる場合、銀行勘定の通貨は伝票の基本通貨と同じものである必要があります。

たとえば、会社の基本通貨が米ドル(USD)であるとし、ユーロ(EUR)で外貨建て伝票を入力します。この場合、伝票と関連する銀行勘定の通貨は米ドルである必要があります。

銀行勘定は、伝票会社と同じ国内通貨を持つ非通貨勘定に変更できます。伝票の取引通貨と同じ外貨であれば、その銀行勘定から外貨建て伝票の支払をすることができます。

買掛金勘定の AAI

AAI 項目 PC は、伝票に対して支払が行われるまで仮勘定の役目を果たすデフォルト買掛金勘定を定義します。伝票入力時に元帳クラスの買掛金勘定を入力しない場合、デフォルトの買掛金勘定が割り当てられます。買掛金勘定は仕入先ごとに設定でき、伝票入力時には仕入先マスターに設定されている元帳クラスが自動的に使用されます。

この AAI には多通貨に関する特別な考慮事項はありません。他の AAI とは異なり、AAI 項目 PC に通貨コード(xxx)を割り当てることはできません。

AAI 項目 PC には次のような特徴があります。

- 伝票の金額で買掛金勘定を貸方に計上するために、PC に関連付けられた勘定科目コードが使用されます。
- ビジネスユニットと主科目は必須です。
- xxxx(任意)は元帳クラスを表します。

次の表は、システムが AAI 項目 PC を検索する順序を示しています。

AAI 項目	記述	AAI の検索順序
PC	買掛金勘定	<ul style="list-style-type: none">• PCxxxx。伝票に入力した会社に関連付けられた PCxxxx (xxxx は伝票の元帳クラス) が使用されます。• PCxxxx。PCxxxx (xxxx は会社 00000 の元帳クラス) が使用されます。• PC。伝票に入力した会社に関連付けられた PC が使用されます。• PC。会社 00000 の PC が使用されます。

支払テキスト化コード

ユーザー定義コード 98/CT には、多通貨で支払金額を書き出すためのテキスト化コードが提供されています。支払金額を書き出す際、ハードコード化された支払テキスト化コードにより、該当する言語および小数点以下桁数を使用して金額が文字に置き換えられます。

次のフォームは、支払テキスト化コードの一例です。

The screenshot shows the PeopleSoft 'ユーザー定義コードの処理' (User Defined Code Maintenance) form. The 'システムコード' (System Code) is set to '98' and the 'コードタイプ' (Code Type) is 'CT'. The form displays a list of payment text codes with columns for selection, code, description, special code, and hard code.

	コード	記述 01	特殊取数コード	ハードコード
<input type="checkbox"/>	X00500	US Dollar Translation		N
<input type="checkbox"/>	X00500BR	Brazil		N
<input type="checkbox"/>	X00500CH	Chinese		N
<input type="checkbox"/>	X00500D	German		N
<input type="checkbox"/>	X00500ED	Euro/German		N
<input type="checkbox"/>	X00500EF	Euro/Franc		N
<input type="checkbox"/>	X00500EI	Euro/Italian		N
<input type="checkbox"/>	X00500FR	French Franc Translation		N
<input type="checkbox"/>	X00500I	Italian		N
<input type="checkbox"/>	X00500S1	Spanish 1 Female 2 Decimal		N

仕入先通貨の換算

Windows 環境では、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈バッチ・バージョン〉を選択します。

次のような理由で、仕入先通貨および住所録通貨の換算が必要な場合があります。

- 仕入先から別の通貨での支払を指定されている
- 別の通貨で支払をしたい
- 仕入先の住所録レコード(履歴)の金額を別の通貨で見たい

たとえば、日本の複数の仕入先がカナダ・ドル(CAD)での支払を要求してきたとします。〈住所録換算 - F03012〉プログラム(R890401E)を実行して、該当する仕入先の通貨コードを日本円(JPY)からカナダ・ドル(CAD)に換算することができます。

R890401E プログラムでは、仕入先マスター(F0401)の通貨コードおよび金額フィールドが一括または個別に換算されます。

- デフォルト・コード(CRRP)。異なる通貨での支払を指定する仕入先の要求が複数の場合は、R890401E プログラムを実行して該当する仕入先のデフォルト通貨コードを変更します。また変更する通貨コードが少ない場合は、〈仕入先マスターの改訂〉フォームで手動で変更することもできます。
- 住所録コード(CRCA)。仕入先の住所録レコードの金額を別の通貨で表示するには、R890401E プログラムを実行して住所録通貨コードを変更しF0401 テーブルの次の金額を換算します。
 - 履歴金額(年累計伝票金額、前年度伝票金額など)履歴金額は、〈仕入先マスターの改訂〉フォームからアクセスできる〈仕入先追加情報〉フォームに表示されます。
 - 限度額(最小および最大購買オーダー額)限度額は〈仕入先マスターの改訂〉フォームの[購買 2]タブに表示されます。

注意:

F0401 テーブルのフィールド A6ABAM にはユーザー定義の固定金額が保管されますが、フィールド A6ABA1 は機能しません。これらのフィールドを使用する場合、換算プログラムではフィールドの値が金額かどうかにかかわらず換算が行われることに注意してください。

住所録換算プログラムの処理内容

次の換算プログラムにより、複数の顧客や仕入先の通貨コードおよび金額が換算されます。

- 住所録換算 - F03012(R8903012E)
- 住所録換算 - F0401(R890401E)

デフォルト通貨コード、住所録通貨コードおよび金額、またはその両方を換算するには、R8903012E と R890401E プログラムの次の処理オプションを指定する必要があります。

- 住所録金額を換算するのに使用する為替レート日付。
- 住所録通貨コードおよび金額を換算するのに使用する通貨コード。実行する換算プログラムによって、次のテーブルのいずれかの[住所録通貨コード]フィールド(CRCA)が更新されます。
 - 会社別顧客マスター(F03012)
 - 仕入先マスター(F0401)
- デフォルト通貨コードを変更するのに使用する通貨コード。実行する換算プログラムによって、次のフィールドのうち 1 つが更新されます。
 - F03012 テーブルの[通貨コード]フィールド(CRCD)
 - F0401 テーブルの[通貨コード]フィールド(CRRP)

R8903012E および R890401E プログラムに異なるバージョンを設定することができます。たとえば、デフォルト通貨コードのみを変更するバージョン、住所録通貨コードと金額を換算するバージョン、その両方を換算するバージョンと使い分けることができます。

データ選択で、他の通貨に換算する顧客や仕入先のみを選択するよう指定します。住所番号を指定しない場合は、すべての顧客や仕入先について換算が実行されます。特定のカテゴリ・コードを割り当てられたすべての顧客または仕入先の金額を換算する場合は、カテゴリ・コードを指定してください。

例外レポート

R8903012E と R890401E の換算プログラムを実行すると、例外レポートが印刷されます。印刷される次のようなメッセージを確認し、必要に応じてプログラムを再度実行してください。

- 処理エラーなし。住所録残高を更新するよう処理オプションを設定している場合、実行した〈住所録換算〉プログラムのバージョンにより、次のテーブルのいずれかが更新されます。
 - 会社別顧客マスター(F03012)
 - 仕入先マスター(F0401)
- 為替レートが見つかりません。換算先の通貨コードが為替レート・テーブルで設定されていないか、その通貨コードの為替レートまたは有効日付が設定されていません。
- 入力した通貨が正しくありません。通貨処理オプションの一方または両方に入力した通貨コードが有効ではありません。
- 更新エラー - レコードがロックされているか、または見つかりません。顧客マスターまたは仕入先マスターのレコードが使用中です。

例:仕入先金額の換算

この例では、仕入先住所録金額の米ドル(USD)からカナダ・ドル(CAD)への換算前/換算後を示しています。

仕入先通貨コードの更新前

仕入先マスター・レコードの[デフォルト通貨コード]フィールド(CRRP)と[住所録通貨コード]フィールド(CRCA)は米ドル(USD)です。

〈住所録換算 - F0401〉プログラム(R890401E)の処理オプションを次のように設定します。

- 住所録および金額通貨 = CAD
- デフォルト通貨コード = ブランク
- 最小オーダーおよび最大オーダー値 = 50
- 為替レート・テーブル(F0015)の為替レート = 1.59190 CAD

仕入先通貨コードの更新後

R890401E プログラムの実行後、仕入先の住所録金額はカナダ・ドル建てとなりますが、支払額は米ドルのままです。

F0401 フィールド	記述	換算前	換算後	四捨五入前の金額
A6CRRP	通貨コード - 買掛	USD	USD	-
A6CRCA	通貨コード - 住所録	USD	CAD	-
A6AYPD	年累計請求金額	157,500.00 USD	250,724.25 CAD	-
A6APPD	前年度請求金額	138,000.00 USD	219,682.20 CAD	-
A6ABAM	住所録金額	使用しない	使用しない	-
A6ABA1	住所録金額	使用しない	使用しない	-
A6APRC	未決済オーダー金額	3,000.00 USD	4,775.70 CAD	-
A6MINO	最小オーダー金額	15,000.00 USD	23,900.00 CAD	23,878.50 CAD
A6MAXO	最大オーダー金額	30,000.00 USD	15,350.00 CAD	47,757.00 CAD

例:異なる通貨の親/子構造

デフォルト通貨や住所録の通貨コードが異なる親/子構造を使用している場合、〈住所録換算〉プログラム(R8903012E および R890401E)を使用して、子の通貨(または親の通貨)には依存せずに、親の通貨(または子の通貨)を換算することができます。この柔軟性によって、子会社への請求書の発行や支払を別の通貨で行っている場合にも、親会社の通貨で住所録の金額のトラッキングすることができます。また、子会社レベルで住所録金額を換算して、親と子の通貨を同時に換算するといった処理も可能です。

通貨コードの更新前

次の例では、〈住所録換算 - F03012〉プログラム(R08903012E)で顧客通貨コードを変更する前の異なる通貨での親/子構造を示しています。

関係	住所録通貨	デフォルト通貨
親	JPY	JPY
子 1	JPY	USD
子 2	JPY	GBP
子 3	JPY	EUR

子 1 と子 3 がカナダ・ドル(CAD)で請求書を発行するように指定してきました。R8903012E プログラムを使って、デフォルト通貨の米ドル(USD)とユーロ(EUR)をそれぞれカナダ・ドル(CAD)に換算します。

注:

親と子の通貨を同時に換算できる場合もあります。

通貨コードの更新後

次の例では、R8903012E の換算プログラムを実行した結果を示しています。

関係	住所録通貨	デフォルト通貨
親	JPY	JPY
子 1	JPY	CAD
子 2	JPY	GBP
子 3	JPY	CAD

住所録金額は親会社の通貨(JPY)でトラッキングする一方で、子会社には異なる通貨(CAD および GBP)で請求書を発行していることがわかります。

処理オプション:住所録換算 – F0401(R890401E)

更新

1. 仕入先マスターの残高を更新するには、“1”を入力してください。ブランクの場合、残高は更新されません。

2. 為替レート日付として使用する日付を入力してください。ブランクの場合、システム日付がデフォルトとなります。

通貨

3. 仕入先マスターの住所録通貨を更新するには、通貨コードを入力してください。ブランクの場合、住所録通貨は更新されません。

4. 仕入先マスターの通貨コードを更新するには、通貨コードを入力してください。ブランクの場合、通貨コードは更新されません。

丸め

次の数量フィールドの近似値を入力してください。たとえば、100 と入力すると 100 単位、50 の場合は 50 単位の近似値に自動的に値が変わります。ブランクの場合、値は変わりません。

最少オーダー値

最大オーダー値

多通貨伝票

会社の基本通貨と伝票の取引通貨の関係により、その伝票が国内通貨建て取引か外貨建て取引かが決まります。

伝票を入力する際、会社の通貨によって基本(国内)通貨が決まり、伝票の通貨によって取引通貨が決まります。

複数の通貨で伝票を処理する場合、〈会社の設定〉プログラム(P0010)で各会社国内通貨を割り当てる必要があります。会社の通貨コードによって、伝票入力時の伝票の基本通貨が決まります。

国内通貨対外貨建て取引

次は、請求書および伝票に使用する際の国内通貨建て取引と外貨建て取引の違いを示しています。

国内通貨建て取引

請求書または伝票レコードの入力時に指定した会社の基本通貨と取引通貨が同じ場合、国内通貨建ての請求書または伝票と見なされます。国内通貨建ての取引を入力する際は、取引に外貨を使用しないため外貨金額フィールドは更新も表示もされません。

たとえば、会社の基本通貨が米ドル(USD)であるとしします。会社の請求書を入力し、取引通貨には米ドルを指定します。会社の基本通貨は請求書の取引通貨と同じであるため、請求書は国内通貨建てとなります。

外貨建て取引

請求書または伝票レコードの入力時に指定した会社の基本通貨と取引通貨が異なる場合、外貨建ての請求書または伝票と見なされます。請求書または伝票には、外貨(取引通貨)建ての金額と国内通貨建ての金額ができます。取引の国内通貨建て金額の計算には、為替レート・テーブル(F0015)の為替レートまたは請求書や伝票レコードに入力した為替レートが使用されます。

たとえば、会社の基本通貨が米ドル(USD)であるとしします。その会社に対して伝票を入力し、日本円(JPY)を取引通貨として割り当てます。会社の基本通貨が請求書の取引通貨と異なるため、伝票は外貨建てとなります。

税抜き外貨建て取引における国内通貨建て金額の計算

税抜きの外貨建て取引を入力すると、外貨建ての総額に為替レートを乗算して国内通貨建ての総額が自動的に計算されます。取引の支払条件が金額を複数の支払項目に分割するという条件の場合、外貨と国内通貨建て両方の総額に対して集計四捨五入が行われます。これは、外貨の支払項目の総計を入力した当初外貨建て金額と等しくし、国内通貨の支払項目の総計を入力した当初外貨建て金額に為替レートを乗算したものと同しくするために実行されます。

次の例は、複数の支払項目に分割する外貨建て取引と、複数の支払項目で入力される外貨建て取引の違いを示しています。この例では、次のような条件を使用しています。

- 伝票は米国の会社に対してカナダ・ドル(CAD)で入力された
- 入力した外貨建て金額は 100.00 カナダ・ドル(CAD)

- 金額計算に乗算換算方法を使用する
- 為替レートは 1.4 (CAD→USD)
- 自動計算された国内通貨建て金額は 140.00 (100.00 × 1.4)

例: 複数の支払項目に分割される外貨建て取引

この例では、取引に支払条件を割り当てます。合計金額を 3 つの支払項目に分割し、1%の割引を適用します。

支払項目	外貨総額	外貨割引	国内通貨総額	国内通貨割引
001	33.33	0.33	46.67	0.47
002	33.34	0.34	46.66	0.46
003	33.33	0.33	46.67	0.47
合計	100.00	1.00	140.00	1.40

支払条件が分割の外貨建て取引を入力すると、分割が行われる前に外貨建ての総額を使用して国内通貨建ての総額が計算されます。実際には外貨側と国内通貨側で 1 回ずつの 2 回の分割が行われます。

この例では、140.00 USD を 3 で除算しています(46.666666)。集計四捨五入が行われるため、国内通貨建て支払額の計算結果は上の表のようになります。支払項目 001 の外貨建て総額(33.33)を為替レート(1.4)で乗算した数値(46.66)が、国内通貨建て総額(46.67)と等しくならないことに留意してください。集計四捨五入により、分割金額の合計(46.67+46.66+46.67)が開始時の金額(140.00)と等しくなります。

例: 複数の支払項目で入力された外貨建て取引(分割支払項目なし)

この例では、システムが合計金額を複数の支払項目に分割するのではなく、ユーザーが支払項目を個別に入力します。

支払項目を入力する際、入力した金額が為替レートで自動的に乗算されるため、各支払項目の国内通貨建て金額はそれぞれ異なります。この処理は、支払項目を入力して保存する際に実行されます。

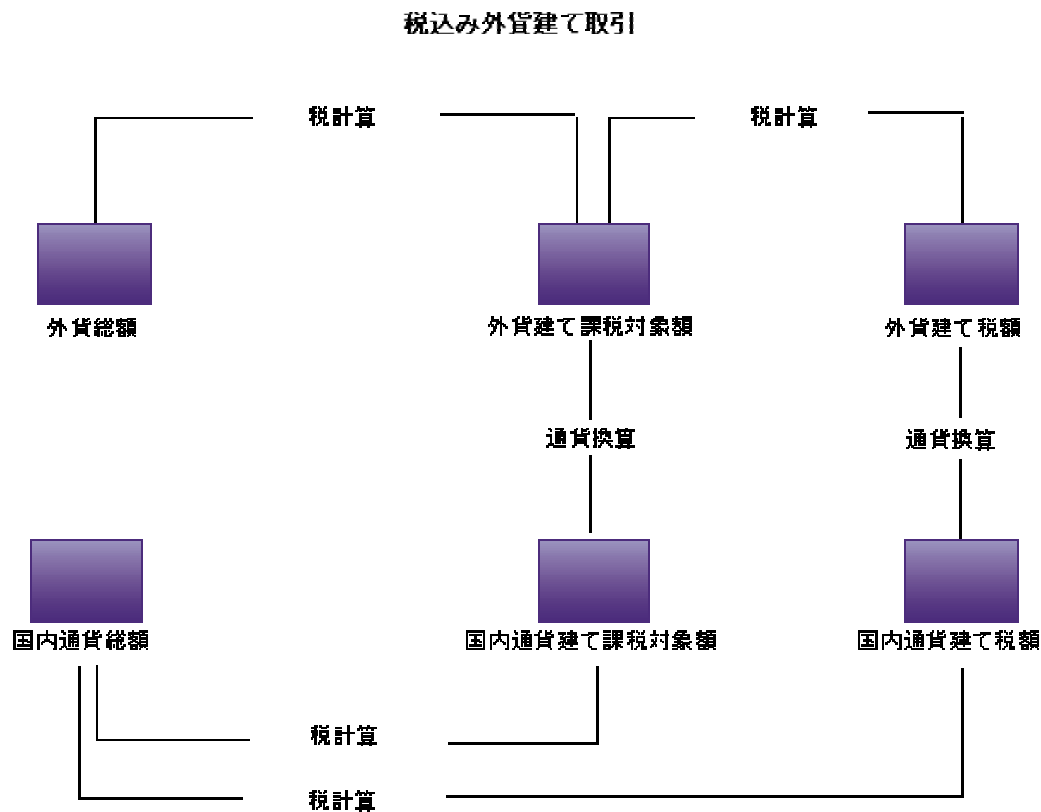
支払項目	外貨総額	外貨割引	国内通貨総額	国内通貨割引
001	33.33	0.33	46.66	0.46
002	33.34	0.34	46.68	0.48
003	33.33	0.33	46.66	0.46
合計	100.00	1.00	140.00	1.40

各支払項目について集計四捨五入が実行されても国内通貨建て総額の合計は 140.00 USD になりますが、為替レートが合計支払金額ではなく各支払項目に適用されているため、各支払項目の金額は異なります。

税込み外貨建て取引における国内通貨建て金額の計算

税込み外貨建て取引を入力すると、入力した取引の外貨側で税額および割引額が計算されます。次にこの金額を使用して、取り込まれた為替レートにより国内通貨側の税額と割引額が計算されます。請求書または伝票に複数の支払項目がある場合、外貨と国内通貨それぞれについて計算した後で集計四捨五入が実行されます。

次の図は、システムが外貨で入力された取引の税額および総額をどのように計算するかを示しています。外貨課税対象額が入力されました。



税額と総額は次のようにして算出されます。

- 外貨課税対象額に税率を乗算して外貨建ての税額を算出する。
- 外貨課税対象額と税額を合計して外貨建ての総額を算出する。
- 外貨課税対象額と税額に為替レート(通貨コードと為替レート日付により決定)を乗算して、国内通貨課税対象額および税額を算出する。
- 国内通貨課税対象額と税額を合計して国内通貨建ての総額を算出する。

注:

国内通貨建ての総額を計算するために外貨建ての総額に為替レートは乗算されません。

例:税込み外貨建て取引

この例では、次のような条件を使用しています。

- 米国の会社に対してユーロで請求書を入力する
- 金額計算に除算換算方法を使用する
- ユーロから米ドルへの換算レートは 0.8900757
- 税率は 5%
- 税タイプは売上税

	総額	課税対象額	税額
外貨	1,527.75	1,455.00	72.75
国内通貨	1,716.42	1,634.69	81.73

システムでは次の処理が行われます。

- 課税対象額の 1,455.00 に税額 72.75 を加えて総額 1,527.75 を算出する。
- 1,455.00 を 0.8900757 で除算した 1,634.6924 を四捨五入して国内通貨課税対象額 1,634.69 を算出する。
- 72.75 を 0.8900757 で除算した 81.73462 を四捨五入して国内通貨建ての税額 81.73 を算出する。
- 課税対象額の 1,634.69 に税額 81.73 を加えて国内通貨建ての総額 1,716.42 を算出する。

注:

外貨建ての総額(1,527.75)を為替レート(0.8900757)で除算して国内通貨建て金額を算出すると、計算結果は 1,716.42 ではなく 1,716.43 となります。また、国内通貨課税対象額(1,634.69)と税額(81.73)を合計しても、国内通貨建ての総額と等しくはなりません。

四捨五入と集計四捨五入

割引や税が含まれる請求書および伝票を大量に処理すると、四捨五入差異は大きな額になります。四捨五入は、計算が行われるあらゆる取引で実行されます。支払項目が 1 つの取引には四捨五入が使用され、複数の支払項目を持つ取引には集計四捨五入が使用されます。

四捨五入

四捨五入は、システムの計算結果の最低通貨単位(米ドルのペニーなど)が等しくならない場合に自動的に発生します。この場合は次のような処理が実行されます。

- 最小有効数字が 5 以上の場合は切り上げる
- 最小有効数字が 5 未満の場合は切り下げる

たとえば、計算結果が 0.55672 で通貨はカナダ・ドル(CAD)で小数点以下 2 桁まで入力できる場合、小数点以下 3 桁の数字が四捨五入の対象になります。この例では、切り上げが行われ 0.56 という金額が算出されます。逆に、金額が 0.55472 なら小数点以下 3 桁目の 4 は切り下げられ 0.55 となります。小数点以下桁数が 2 である通貨では、小数点以下 3 桁目以降の数字は無視されます。

集計四捨五入

複数の金額の合計が特定の値になる必要がある場合、集計四捨五入が使用されます。たとえば 100 カナダ・ドル(CAD)の伝票を 3 つの支払項目に分割する場合、合計が 100 になるように最初の支払項目は 33、2 番目は 34、3 番目は 33 として計算されます。この集計四捨五入を使用しないと、3 つの支払項目に同じ金額を入力したり、合計が支払合計と一致しない支払項目で支払を行うことになってしまいます。

四捨五入による影響を最小限にするため、複数の支払項目を持つ取引には集計四捨五入が使用されます。計算した金額(四捨五入の結果)に加算または減算する金額がキャッシュ(メモリ)に保存され、その次の支払項目に下記のように適用されます。

- 最初の支払項目の金額を切り上げた場合、次の支払項目を四捨五入する前に切り上げた金額を差し引きます。
- 最初の支払項目の金額を切り下げた場合、次の支払項目を四捨五入する前に切り下げた金額を加えます。

集計四捨五入が実行されないと、仕入先や顧客に間違った額で支払や請求を行うことになります。集計四捨五入では取引間の過剰支払/請求および過小支払/請求について制御しませんが、1 つの取引内での四捨五入による影響は最小限に抑えます。集計四捨五入の金額が取引間でやり取りされることはありません。

多通貨バッチ合計

データ入力が柔軟にできるように、同じバッチに異なる通貨の取引を入力することができます。売掛管理、買掛管理、一般会計のそれぞれの固定情報でバッチ制御を必須に設定すると、仕訳の借方金額がバッチ合計に加えられます。バッチの合計金額は、通貨の種類に関係なく合計されます。

同じバッチに異なる通貨の請求書、伝票、仕訳を入力した場合、通貨に合わせた小数点表記の調整はされません。そのためバッチ合計は意味をなしません。バッチの合計金額を意味のある金額にするには、通貨ごとにバッチを作成してください。

小数点以下桁数が異なる通貨を含むバッチの予想合計を出すには、金額を小数点なしで合計した値を〈バッチ制御〉フォーム(P0011)の[予想合計]フィールドに入力します。

たとえば、同じバッチに 10,535.00 ユーロの取引と 16,433,500 円の取引を入力したとします。すると、ユーロの小数点位置を無視してこの 2 つの金額が加算されるため、合計金額は意味をなしません。〈バッチ制御〉フォームの[実際の入力合計]フィールドに表示される金額は 17,487,000 (1053500+16433500)です。

〈バッチ制御〉フォームの[実際の入力合計]フィールドには、データ辞書項目 AICU(入力合計)に基づいた小数点が表示されます。この例の数字を使うと、項目 AICU の[表示小数点以下桁数]フィールドを 0 に設定した場合、17,487,000 が表示されます。このフィールドを 2 に設定した場合は、174,870.00 となります。

外貨建て伝票入力

外貨建て伝票を入力するには、〈伝票入力〉プログラム(P0411)を使用します。伝票入力時に通貨コードを指定することもできますが、blankにして仕入先マスターのデフォルトの通貨コードを使用することもできます。

伝票を外貨で入力すると、外貨建ての総額に為替レートを乗算して国内通貨建ての総額が自動的に計算されます。デフォルトの為替レートは、為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。このレートは伝票入力時に一時変更できます。

伝票入力時に元帳クラスに対して買掛金勘定を入力しないと、AAI 項目 PC のデフォルトの買掛金勘定が割り当てられます。買掛金勘定は仕入先ごとに設定でき、伝票入力時には仕入先マスターに設定されている元帳クラスが自動的に使用されます。

はじめる前に

- 複数の会社に配賦する外貨建て伝票を入力するには、〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)で[多通貨会社間取引の許可]をオンにします。『多通貨処理』ガイドの「多通貨固定情報の設定」を参照してください。
- 次の AAI が設定されていることを確認してください。
 - PB。『多通貨処理』ガイドの「支払銀行勘定の AAI」を参照してください。
 - PC。『多通貨処理』ガイドの「買掛金勘定の AAI」を参照してください。
- 仕入先の請求書に代替通貨が使用されている場合の、国内通貨と外貨建ての購買オーダーについては『調達管理』ガイドの「代替通貨で受け取る請求書の管理」を参照してください。

▶ 外貨建て伝票を入力するには

〈仕入先および伝票の入力〉メニュー(G0411)から〈伝票入力〉を選択します。

1. 〈仕入先元帳照会〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

伝票入力 - 支払情報

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

伝票No/タイプ/会社 [] [] [00001] バッチNo. [6279] 前の伝票 []

会社 [00001] Financia/Distribution Company

仕入先No. [4002] Aluminium de Rhone ビジネスユニット [1]

請求書No. [E78237] ☐ 割引率 デフォルト支払条件 []

請求書日付 [05/06/10] 元帳日付 [05/06/30] サービス/税日付 [05/06/10]

取引通貨 [EUR] 為替レート [1.1820331] 基本 [USD] ☒ 外貨

レコード 1-3

支払項目	金額	支払条件	割引可能額	備考	支払期日	支払状況	転記コード	未決済金額	銀行勘定
<input type="radio"/> 001	1,200.00				05/07/10 A			1,200.00	1.1110.FR
<input type="radio"/> 002	3,400.00				05/07/10 A			3,400.00	1.1110.FR
<input checked="" type="radio"/> 003	2300.00								

総額 4,600.00 割引 税額 課税対象

2. 〈伝票入力 - 支払情報〉の見出しで、伝票情報を入力します。

3. 次のフィールドに値を入力します。

- 取引通貨

このフィールドをblankにすると、仕入先マスターのデフォルト通貨コードが表示されます。

外貨建て伝票の国内通貨金額

外貨建て伝票の国内通貨金額を入力するには、[通貨]フィールドに国内通貨コードを入力する必要があります。

このコードおよび会社の基本通貨との関係に基づいて[外貨]チェックボックスが更新されます。

- 為替レート

該当する場合は、このフィールドにスポット・レートを入力します。入力せずにblankにすると、為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが取り込まれます。

[基本通貨]フィールドには、[会社]フィールドに入力した会社の通貨が表示されます。

4. グリッドで、次のフィールドに各支払項目の外貨建て金額を入力します。

- 総額

外貨建て伝票の国内通貨金額

外貨建て伝票の国内通貨建て金額を入力するには、総額を入力する前に[外貨]チェックボックスをオフにしてください。[外貨]チェックボックスをオフにするには、最初にグリッドをクリックします。

5. [OK]をクリックします。
6. 〈勘定科目情報〉で、グリッドのフィールドに総勘定元帳情報を入力してから[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
取引通貨	取引通貨を識別するコード。 --- フォーム固有 --- このフィールドをブランクにすると、通貨コードが仕入先マスターレコードから取り込まれます。仕入先に割り当てられた通貨コードがない場合、伝票会社の通貨コードが使用されます。
為替レート	外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。 このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。 --- フォーム固有 --- このフィールドがブランクの場合は、為替レートテーブル(F0015)が使用されます。為替レートに対する有効日付は、処理オプションの設定により請求書の日付か元帳日付のいずれかになります。

外貨建て伝票の関連タスク

未転記外貨建て伝票の改訂	〈スピード・リリース〉プログラム(P0411S)または〈伝票入力〉プログラム(P0411)を使用して未転記の外貨建て伝票を改訂できます。 〈伝票入力〉プログラムを使用する場合、金額フィールドを改訂するかどうかにかかわらず、買掛金元帳(F0411)の伝票為替レートに基づいて国内通貨建て金額が再計算されます。
外貨建て伝票の通貨コードの変更	外貨建て伝票を入力した後は、その伝票が転記済みでも未転記でも通貨コードは変更できません。 通貨を変更するには、正しい通貨コードで新しい伝票を入力して、元の伝票が未転記の場合は削除し、転記済みの場合は無効にします。

未転記外貨建て伝票の削除	外貨建ての伝票を削除すると、外貨と国内通貨両方の情報が同時に削除されます。
転記済み外貨建て伝票を無効にする	外貨建ての伝票を無効にすると、外貨と国内通貨両方の金額がゼロに設定されます。
外貨建て伝票の銀行勘定の変更	銀行勘定は、通貨勘定の場合、伝票と同じ通貨の銀行勘定に変更できます。指定した銀行勘定が伝票の取引通貨と同じかどうかチェックされます。 通貨勘定以外の場合は、伝票会社の国内通貨と同じ会社に属する非通貨銀行勘定に変更することができます。伝票の取引通貨と同じ外貨であれば、その銀行勘定から外貨建て伝票の支払をすることができます。
外貨建て定期伝票	外貨建て定期伝票を使って定期的に伝票を作成する場合、〈定期伝票の再作成〉プログラム(R048101)では新しい定期伝票の作成に当初伝票の為替レートが使われることに注意してください。為替レート・テーブル(F0015)の為替レートは使用されません。 為替レートの変動によって、定期伝票の外貨建て金額が実際の金額と合わなくなり、為替差損益が正しく計算されなくなる可能性があります。
年累計金額の更新中に発生するエラーの修正	<p>〈年累計伝票金額の更新〉プログラム(R04820A)を実行して仕入先住所録金額を更新する際、次のような原因で通貨に関するエラーが発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕入先レコードの[住所録金額コード]フィールドに通貨コードが入力されていません。このフィールドにより、年累計伝票金額の通貨が決まります。 [住所録金額コード]フィールドの通貨コードが変更されましたが、F0015 テーブルに有効な為替レートがありません。 <p>エラーを修正してからプログラムを再実行してください。</p>

伝票入力 MBF (P0400047)の多通貨処理オプション

通貨タブ

1. 多通貨支払項目に対する税入力

blank = 入力不可

1 = 入力可

外貨建て伝票で税を入力できるようにするかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank

入力不可

入力可

2. 為替レート日付

ブランク = 請求書日付

1 = 元帳日付

為替レートを取り込む為替レート日付を指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク

請求書日付

1

元帳日付

3. 為替レートの取込み

ブランク = F0015 の最新の為替レートを取り込む

1 = 警告メッセージを表示する

05/11/01 の場合に元帳日付が 05/12/15 と入力された時に警告を表示することができます。この警告によって、為替レート・テーブル(F0015)の為替レートが最新でないことを警告します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

警告メッセージを表示しない

1

警告メッセージを表示する

4. 為替レート許容限度

為替レート・テーブル(F0015)の為替レートに対するパーセンテージを示す整数を入力してください。

為替レートの許容限度額を指定します。伝票入力時に、為替レートテーブル(F0015)の為替レートを一時変更することができます。この処理オプションでは、為替レートテーブルの値とどれだけ異

なる値を入力できるようにするかを指定します。

テーブルの為替レートに対する比率(%)を整数で入力してください。たとえば“5”と入力した場合、テーブルの為替レートの 5%(100 円の場合は 5 円)大きいか小さい金額に変更することができます。

5. 通貨の不一致

blank = エラーを表示

1 = 異なる通貨も可(エラーを表示しない)

支払の通貨が銀行勘定の通貨と異なる場合にどうするかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank

エラーメッセージを表示する

1

エラーメッセージを表示しない(入力可)

外貨建て伝票の検討

〈仕入先元帳照会〉プログラム(P0411)を使用して、外貨と国内通貨両方で伝票を検討することができます。他の照会プログラムやレポートと同様、一度に複数の通貨を表示した場合は〈仕入先元帳照会〉フォームの総合計は意味をなしません。

伝票を国内通貨と外貨の両方で検討するには、〈仕入先元帳照会〉プログラムの[表示]タブで対応する処理オプションを設定します。

表示される取引金額に影響する日付

外貨建て請求書および伝票を検討する前に、〈売掛金元帳照会〉および〈仕入先元帳照会〉の各フォームに表示される金額に影響する日付について理解しておく必要があります。これらの日付とその照会方法を理解することにより、請求書および伝票を検討する際に正しい日付を指定することができます。検討する取引金額に影響する日付は次のとおりです。

- 〈為替レートの改訂〉フォームの有効日付。照会プログラムでは通貨について最新の日付が検索され、これに対応する為替レートが使われます。
- 〈売掛金元帳照会〉または〈仕入先元帳照会〉フォームの開始日付および終了日付。この日付範囲によってフォームに表示される取引が決まります。

- 処理オプションの基準日。基準日がブランクの場合、照会フォームに入力した終了日付が使用されます。処理オプションの基準日が終了日付に一時変更されることはありません。

仮定通貨処理

照会フォームの[基準日]フィールドは[仮定通貨]フィールドと連動しています。仮定通貨の未決済金額は、基準日に基づいて計算されます。

入金または支払が計上された場合、基準日と入金や支払の元帳日付を比較して、その日付で未決済の請求書または伝票の金額が決定されます。

基準日の処理については、『多通貨処理』ガイドの「仮定通貨建て請求書の検討」および「仮定通貨建て伝票の検討」を参照してください。

▶ 外貨建て伝票を検討するには

〈仕入先および伝票の入力〉メニュー(G0411)から〈仕入先元帳照会〉を選択します。

1. 〈仕入先元帳照会〉で、見出し部分のフィールドに検索対象を絞り込むための値を入力して[検索]をクリックします。

伝票No.	伝票タイプ	伝票会社	請求書日付	元帳日付	支払期日	総額	未決済金額	外貨金額	外貨未決済額	支払状況	仕入先No.
1599	PV	00001	05/06/05	05/06/30	05/07/05	4,230.00	4,230.00	5,000.00	5,000.00	A	434
3091	PV	00050	05/06/05	05/06/15	05/07/05	1,500.00	1,500.00			A	1031
3159	PV	00070	05/06/05	05/06/12	05/07/05	2,765.96	2,765.96	3,600.00	3,600.00	A	400
3159	PV	00070	05/06/05	05/06/12	05/07/05	299.64	299.64	390.00	390.00	A	400
3166	PV	00001	05/06/05	05/06/30	05/07/05	8,460.00	8,460.00	10,000.00	10,000.00	A	1237
						17,255.60	17,255.60				

2. 総額と外貨建て金額の合計を検討します。このとき、次のことに注意してください。
 - 検索対象を取引通貨が同じ請求書に絞り込んだ場合のみ、外貨建て金額の合計が表示されます。取引通貨が同じでない場合は外貨建て金額の合計は表示されません。
 - 検索対象を基本通貨が同じ請求書に絞り込んだ場合のみ、意味のある総額合計が表示されます。基本通貨が同じでない場合、合計金額は意味をなしません。

- さらに検索対象を絞るには、QBE のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

たとえば、特定の会社に入力された伝票を検討する場合、[伝票会社]フィールドに会社番号を入力すると意味のある総額の合計金額が表示されます。

PeopleSoft®

仕入先元帳照会

選択 検索 追加 コピー 削除 開く フォーム ロー ツール

仕入先No. *

日付範囲 05/06/05 ~ 05/06/05 請求書 元帳日付

☐ 定期伝票 ☐ 集計 ☐ 未決済 ☐ 源泉

バッチNo. * 通貨コード *

グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

	伝票No.	伝票タイプ	伝票会社	請求書日付	元帳日付	支払期日	総額	未決済金額	外貨金額	外貨未決済額	支払状況	仕入先No.
<input type="checkbox"/>	3159 PV	00070	05/06/05	05/06/12	05/07/05	2,765.96	2,765.96	3,600.00	3,600.00 A	400		
<input type="checkbox"/>	3159 PV	00070	05/06/05	05/06/12	05/07/05	299.64	299.64	390.00	390.00 A	400		
						3,065.60	3,065.60					

- 伝票の詳しい情報を検討するには、その伝票をハイライトして[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

伝票入力 - 支払情報

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

伝票No/タイプ/会社 3159 PV 00070 バッチNo. 5998 前の伝票

会社 00070 Luxe de France

仕入先No. 4003 Alpine Industries ビジネスユニット 1

請求書No. 454774 ☐ 割引率 デフォルト支払条件

請求書日付 05/06/05 元帳日付 05/06/12 サービス/税日付 05/06/12

取引通貨 CAD ☐ 為替レート 基本 EUR ☒ 外貨

支払項目	金額	支払条件	割引可能額	備考	支払期日	支払状況	転記コード	未決済金額	銀行勘定
001	3,600.00			Computer	05/07/05	A	D	3,600.00	70.1
002	390.00			Software	05/07/05	A	D	390.00	70.1110.B
3.0									

総額 3,990.00 割引 税額 課税対象

5. <伝票入力 - 支払情報>で、外貨建て金額と国内通貨建て金額の表示を切り替えるには
[外貨]オプションをクリックし、次のフィールドの金額を検討します。

- 総額

PeopleSoft®

伝票入力 - 支払情報

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

伝票No/タイプ/会社 3152 PV 00070 バッチNo. 5986 前の伝票

会社 00070 Luxe de France

仕入先No. 12378 Contract Industries Ltd. ビジネスユニット 1

請求書No. 607925 ☐ 割引率 デフォルト支払条件

請求書日付 05/06/15 元帳日付 05/06/20 サービス/税日付 05/06/20

取引通貨 EUR ☐ 為替レート 基本 EUR ☐ 外貨

支払項目	金額	支払条件	割引可能額	備考	支払期日	支払状況	転記コード	未決済金額	銀行勘定
001	950.00			Repairs	05/07/15	A	D	950.00	70.1
2.0									

総額 950.00 割引 税額 課税対象

多通貨バッチ伝票の処理

バッチ伝票を外部ソースからアップロードして処理するには、次のテーブルのフィールドに適切なデータを入力するためのカスタム・プログラムを作成する必要があります。

- 伝票アップロード・テーブル(F0411Z1)
- 仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)

バッチ伝票を処理するには、〈伝票バッチ処理〉プログラム(R04110Z)が F0411Z1 および F0911Z1 テーブルから取り込む情報のタイプを理解する必要があります。また、F0411Z1 テーブルの[通貨モード]、[通貨金額]、[為替レート]フィールドの関係、R04110Z プログラムの必須フィールド、金額の計算方法も理解しておいてください。

バッチ伝票用の金額、為替レートおよび通貨モード・フィールドのガイドライン

多通貨環境でバッチ伝票を処理する際、国内通貨および外貨建て取引の金額、為替レート、通貨モードの入力については次のガイドラインに従ってください。

取引タイプ	多通貨フィールドに入力する値の説明
国内通貨	<p>取引の通貨コード(VLCRCD フィールド)の値が会社の通貨コードと同じ場合、国内通貨建て取引となります。</p> <p>総額フィールド(VLAG)に取引金額を入力し、通貨モード(VLCRRM)に“D”と入力します。為替レートは入力しないでください。</p> <p>割引情報を入力するときは、割引可能額(VLADSC)に値を入力してください。</p> <p>税情報を入力する場合、課税対象額(VJATXA)、非課税対象額(VJATXN)、税額(VJSTAM)の各フィールドに値を入力する必要があります。</p>
外貨	<p>取引の通貨コード(VLCRCD フィールド)の値が会社の通貨コードと異なる場合、外貨建て取引となります。</p> <p>通貨金額フィールド(VLACR)に取引金額を入力し、通貨モード(VLCRRM)に“F”と入力します。国内通貨金額は、為替レート(VLCRR)に基づいて計算されます。</p> <p>割引情報を入力するときは、外貨割引可能額(VLCDS)に値を入力してください。</p> <p>税情報を入力する場合は、外貨課税対象額(VLCTXA)、外貨非課税金額(VLCTXN)、税額 (VLCTAM)の各フィールドに値を入力する必要があります。</p>
外貨建て取引の国内通貨側	<p>取引の通貨コード(VLCRCD)と会社の通貨コードが異なる場合、総額フィールド(VLAG)に国内通貨建て金額を入力します。</p> <p>外貨建て取引とは異なり、[通貨金額]フィールドには値を入力しません。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)に“F”と入力します。為替レート(VLCRR)に基づいて、外貨金額が計算されます。</p> <p>割引情報を入力するときは、外貨割引可能額(VLCDS)に値を入力してください。</p> <p>税情報を入力する場合は、外貨課税対象額(VLCTXA)、外貨非課税金額(VLCTXN)、税額 (VLCTAM)の各フィールドに値を入力する必要があります。</p>

取引タイプ	多通貨フィールドに入力する値の説明
通貨モード 3 を使用した 外貨および国内通貨建て 取引	<p>外貨および国内通貨の金額が両方ともわかっている場合、システムによる計算をバイパスできます。通貨金額フィールド(VLACR)に外貨建て金額を、総額フィールド(VLAG)には国内通貨建て金額を入力します。通貨モード(VLCRRM)に“3”と入力します。為替レート・フィールド(VLCRR)の入力は必須です。ただし、入力した金額または為替レート・テーブル(F0015)との照合は行われません。</p> <p>モード 3 では割引と税額の計算は実行されません。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が 3 の場合で、割引処理が必要なときは、割引可能額(VLADSC)と外貨割引可能額(VLCDS)に割引情報を入力する必要があります。支払条件に基づく割引の計算は行われません。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が 3 の場合で、税額処理が必要なときは、税関連の全フィールドが必須になります。税率/税域フィールド(VLTXA1)と税目コード・フィールド(VLEXR1)に基づく税額の計算は行われません。</p>

参照

- F04111Z1 テーブルの通貨以外の必須フィールドを含む、バッチ伝票処理に関するすべての情報については『買掛管理』ガイドの「伝票取引の必須フィールド」

F0411Z1 および F0911Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド

バッチ伝票を処理する前に、伝票アップロード・テーブル(F0411Z1)および仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)で必須の次の多通貨フィールド・リストをチェックしてください。

F0411Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド

フィールドによっては、ブランクが有効な値となることもあります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
通貨モード	VLCRRM	文字 または 数字	1	<p>伝票が国内通貨であるか、外貨建てであるかを示すコード。このフィールドと、通貨コード(VLCRCD)、総額(VLAG)、通貨金額(VLACR)、為替レート(VLCRR)の各フィールドを組み合わせることにより、取引に必須の金額を計算します。</p> <p>取引に適用するその他の情報に応じて、“D”、“F”、“3”のいずれかを入力します。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、その他の情報に応じて自動的に通貨モードの値が決定されます。このフィールドは伝票の処理時に更新されます。</p>
通貨コード	VLCRCD	文字	3	伝票通貨を識別するコード。通貨コード・テーブル(F0013)にある値を入力してください。
外貨金額	VLACR	数字	15	<p>このフィールドには、通貨コード・フィールド(VLCRCD)の値が、会社固定情報テーブル(F0010)で定義された会社の通貨コードと異なる場合にのみ、取引額を入力してください。</p> <p>通貨モード 3 でトランザクションを処理するときは、総額と通貨金額の両方のフィールドに値を入力する必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
為替レート	VLCRR	数字	15	<p>伝票の国内通貨または外貨建て金額を計算する際に使用する為替レートを指定します。</p> <p>このフィールドをブランクにした場合、通貨モード(VLCRRM)が3でなければ、為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが取り込まれます。</p> <p>為替レート・テーブル(F0015)の為替レートを一時変更する場合や為替レートがない場合に、このフィールドに値を入力します。〈伝票入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P0400047)の処理オプションで許容度チェックをオンにした場合、入力した為替レートがシステムによって検証されます。そうでない場合は為替レートの検証は行われません。</p> <p>通貨モード・フィールド(VLCRRM)が3の場合、このフィールドに為替レートを入力する必要があります。ただし、この為替レートはF0015 テーブルまたは取引金額と照合されません。</p>
外貨割引可能額	VLCDS	数字	15	<p>金額を入力します。このフィールドをブランクにすると、支払条件フィールド(VLPTC)の値に基づいて割引額が計算されます。支払条件コード・フィールドがブランクで、仕入先マスター(F0401)に支払条件が設定されている場合、この支払条件を使用して割引額と割引期日が計算されます。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が3の場合で、割引が適用されるときは、必ず外貨割引可能額(VLCDS)と割引可能額(VLADSC)に値を入力してください。そうしないと計算は行われません。</p>
外貨課税対象額	VLCTXA	数字	15	<p>税率/税域(VLTXA1)、税目コード(VLEXR1)、外貨金額(VLACR)の各フィールドに基づいて自動的に値が更新されます。</p> <p>通貨金額(VJAGR)と外貨課税対象額(VJCTXA)両方のフィールドに値を入力しないでください。[通貨金額]フィールドに値を入力すると、[外貨課税対象額]フィールドの値が計算されます(その逆も可)。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)がDの場合、通貨金額フィールド(VLACR)にも外貨課税対象額フィールド(VJCTXA)にも値を入力しないでください。その代わりに課税対象額(VLATXA)、非課税対象額(VLATXN)、税額(VLSTAM)の各フィールドに値を入力します。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が3で取引に税が含まれる場合、システムによる計算は実行されません。外貨と国内通貨両方の税フィールドに値を入力する必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
外貨非課税対象額	VLCTXN	数字	15	<p>税率/税域(VLTXA1)、税目コード(VLEXR1)、外貨金額(VLACR)の各フィールドに基づいて自動的に値が更新されます。</p> <p>通貨金額(VJACR)と外貨課税対象額(VJCTXA)両方のフィールドに値を入力しないでください。[通貨金額]フィールドに値を入力すると、[外貨課税対象額]フィールドの値が計算されます(その逆も可)。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が D の場合、通貨金額フィールド(VLACR)にも外貨課税対象額フィールド(VJCTXA)にも値を入力しないでください。その代わりに課税対象額(VLATXA)、非課税対象額(VLATXN)、税額(VLSTAM)の各フィールドを使用します。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が 3 で、取引が課税対象の場合は、外貨、国内通貨のいずれについても税関連の全フィールドが必須になります。通貨モード(VLCRRM)が 3 の場合は、いずれの計算も行われません。</p>
外貨税額	VLCTAM	数字	15	<p>税率/税域(VLTXA1)、税目コード(VLEXR1)、外貨金額(VLACR)の各フィールドに基づいて自動的に値が更新されます。</p> <p>通貨金額(VJACR)と外貨課税対象額(VJCTXA)両方のフィールドに値を入力しないでください。[通貨金額]フィールドに値を入力すると、[外貨課税対象額]フィールドの値が計算されます(その逆も可)。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が D の場合、通貨金額フィールド(VLACR)にも外貨課税対象額フィールド(VJCTXA)にも値を入力しないでください。その代わりに課税対象額(VLATXA)、非課税対象額(VLATXN)、税額(VLSTAM)の各フィールドに値を入力します。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が 3 で、取引が課税対象の場合は、外貨、国内通貨のいずれについても税関連の全フィールドが必須になります。通貨モード(VLCRRM)が 3 の場合は、いずれの計算も行われません。</p>
多通貨仕訳を持つ国内通貨レコード	VLDMCD	文字	1	<p>F0911Z1 テーブルの配賦勘定が F0411Z1 テーブルの会社と異なる通貨を持つ会社用である場合、このフィールドに"1"を入力して〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)の[多通貨会社間取引の許可]オプションをオンにします。</p> <p>多通貨会社間取引を許可しない場合は、このフィールドをブランクにしてください。</p>
外貨未決済金額	VLACR	数字	15	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドは取引の処理時に更新されます。
割引外貨金額	VLDSA	数字	15	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドは、外貨割引可能額(VLCDS)の金額を含む伝票への支払が発行されるまで更新されません。

F0911Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
金額	VNAA	数字	15	国内通貨のみの取引に使用します。取引が国内通貨建ての場合は、このフィールドに金額を入力します。
外貨金額	VNACR	数字	15	外貨建て取引に使用します。取引が外貨建ての場合は、このフィールドに金額を入力します。
元帳タイプ	VNLT	文字	2	AA と入力するかブランクにします。元帳タイプとして CA を入力することはできません。
通貨コード	VNCROD	文字	3	請求書アップロード・テーブル(F0411Z1)で対応するフィールドの値に基づいて自動的に更新されます。
通貨モード	VNCRRM	文字 または 数字	1	請求書アップロード・テーブル(F0411Z1)で対応するフィールドの値に基づいて自動的に更新されます。
為替レート	VNCRR	数字	15	請求書アップロード・テーブル(F0411Z1)で対応するフィールドの値に基づいて自動的に更新されます。

多通貨での受信 EDI 伝票の処理

電子データ交換(EDI)を使って国内通貨および外貨建ての伝票を処理することができます。多通貨環境で受信伝票を処理するには、取引先から受信 EDI テーブル(F47041、F47042、F47044)で送信されたフォーマットの EDI 情報を伝票アップロード・テーブル(F0411Z1)と仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)の各テーブルのフォーマットに変換してアップロードするプログラムを実行します。

EDI で受信した多通貨伝票を処理する場合、次の受信テーブルで必須の多通貨フィールドに対するマッピング要件を理解しておく必要があります。

- EDI 請求書見出し-受信(F47041)
- EDI 請求書明細 - 受信(F47042)
- EDI 請求書集計-受信(F47044)

参照

- F47041、F47042、F47044 テーブルの通貨を指定しない必須フィールドなど EDI 伝票処理の情報については『買掛管理』ガイドの「受信 EDI 伝票処理のマッピング要件の理解」

F47041、F47042、F47044 テーブルの多通貨必須フィールド

次の EDI テーブルを使用して、転送された EDI 伝票を処理します。

- EDI 請求書見出し-受信(F47041)
- EDI 請求書明細 - 受信(F47042)
- EDI 請求書集計-受信(F47044)

F47041 テーブルで必須の多通貨フィールド

次の一覧表で、F47041 テーブルで必須の多通貨フィールドをチェックしてください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
通貨モード	SYCRRM	文字	1	伝票が国内通貨であるか、外貨建てであるかを示すコード。取引に適用するその他の情報に応じて、“D”、“F”、“3”のいずれかを入力します。
通貨コード	SYGRCD	文字	3	F47042 と F47044 の各テーブルで通貨金額フィールド (ACR) に値を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。 各伝票には、F47041、F47042、F47044 テーブルと同じ通貨コードを入力する必要があります。
為替レート	SYCRR	数字	15	F47042 と F47044 の各テーブルで通貨金額フィールド (ACR) に値を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。 各伝票には、F47041、F47042、F47044 テーブルと同じ為替レートを入力する必要があります。

F47042 テーブルで必須の多通貨フィールド

次の一覧表で、F47042 テーブルで必須の多通貨フィールドをチェックしてください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
総額	SZAG	数字	15	伝票金額が国内通貨の場合、このフィールドには国内通貨建て金額を入力します。 伝票金額が外貨建ての場合は、このフィールドに値を入力しないでください。代わりに[通貨金額]フィールド (Z4AG) に入力します。
未決済金額	SZAAP	数字	15	伝票金額が国内通貨の場合、このフィールドには国内通貨建て金額を入力します。 伝票金額が外貨建ての場合は、このフィールドに値を入力しないでください。代わりに外貨未決済金額フィールド (SZFAP) に入力します。
通貨コード	SZCRCD	文字	3	このテーブル(F47042)と F47044 テーブルで通貨金額フィールド(ACR)に値を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。 各伝票には、F47041、F47042、F47044 テーブルと同じ通貨コードを入力する必要があります。
通貨モード	SZCRRM	文字	1	伝票が国内通貨であるか、外貨建てであるかを示すコード。取引に適用するその他の情報に応じて、“D”、“F”、“3”のいずれかを入力します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
為替レート	SZCRR	数字	15	このテーブル(F47042)と F47044 テーブルで通貨金額フィールド(ACR)に値を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。 各伝票には、F47041、F47042、F47044 テーブルと同じ為替レートを入力する必要があります。
外貨金額	SZACR	数字	15	伝票支払項目の外貨金額を入力します。 伝票金額が国内通貨建ての場合、このフィールドには値を入力しないでください。代わりに[総額]フィールド(SZAG)に入力します。
外貨未決済金額	SZFAP	数字	15	伝票支払項目の外貨建て未決済金額を入力します。外貨未決済金額と通貨金額の値は等しくする必要があります。支払が完了していない伝票は処理できません。 伝票金額が国内通貨建ての場合、このフィールドには値を入力しないでください。代わりに[未決済金額]フィールド(SZAAP)に入力します。

F47044 テーブルで必須の多通貨フィールド

次の一覧表で、F47044 テーブルで必須の多通貨フィールドをチェックしてください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
総額	SWAG	数字	15	伝票金額が国内通貨の場合、このフィールドには国内通貨建て金額を入力します。 伝票金額が外貨建ての場合は、このフィールドに値を入力しないでください。代わりに[通貨金額]フィールド(Z4AG)に入力します。
未決済金額	SWAAP	数字	15	伝票金額が国内通貨の場合、このフィールドには国内通貨建て金額を入力します。 伝票金額が外貨建ての場合は、このフィールドに値を入力しないでください。代わりに外貨未決済金額フィールド(SWFAF)に入力します。
通貨モード	SWCRRM	文字	1	伝票が国内通貨であるか、外貨建てであるかを示すコード。取引に適用するその他の情報に応じて、“D”、“F”、“3”のいずれかを入力します。
通貨コード	SWCRCD	文字	3	このテーブル(F47044)と F47042 テーブルで通貨金額フィールド(ACR)に値を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。 各伝票には、F47041、F47042、F47044 テーブルと同じ通貨コードを入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
為替レート	SWCRR	数字	15	このテーブル(F47044)と F47042 テーブルで通貨金額フィールド(ACR)に値を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。 各伝票には、F47041、F47042、F47044 テーブルと同じ為替レートを入力する必要があります。
外貨金額	SWACR	数字	15	伝票の合計外貨金額を入力します。 伝票金額が国内通貨建ての場合、このフィールドには値を入力しないでください。代わりに[合計金額]フィールド(SWAG)に入力します。
外貨未決済金額	SWFAP	数字	15	伝票の外貨未決済金額の合計を入力します。外貨未決済金額と通貨金額の値は等しくする必要があります。支払が完了していない伝票は処理できません。 伝票金額が国内通貨建ての場合、このフィールドには値を入力しないでください。代わりに[未決済金額]フィールド(SWAP)に入力します。

仮定通貨建て伝票の検討

伝票を基本通貨または外貨で入力した場合、それらの金額を別の通貨で照会することができます。

仮定通貨建ての金額を検討するには、〈伝票入力〉プログラム(P0411)の処理オプションでデフォルトの通貨コードと為替レート日付を指定する必要があります。これによって〈仕入先元帳照会〉フォームに[仮定通貨コード]フィールドが表示されます。

為替レート・テーブル(F0015)から対応する為替レートが取り込まれ、伝票の基本(国内)通貨に基づいて仮定通貨建て金額が計算されます。たとえば、米ドル(USD)で仕入先の外貨建て伝票を入力し、会社の基本通貨がカナダ・ドル(CAD)であるとしします。そして、その伝票金額をユーロ(EUR)で入力したと仮定して検討したいとしします。F0015 テーブルからカナダ・ドルとユーロ間の為替レートが取り込まれ、米ドルで仮定通貨建て金額が計算されます。

▶ 仮定通貨建ての伝票を検討するには

〈仕入先および伝票の入力〉メニュー(G0411)から〈仕入先元帳照会〉を選択します。

1. 〈仕入先元帳照会〉で、見出し部分のフィールドに検索対象を絞り込む値を入力して[検索]をクリックします。

PeopleSoft®

仕入先元帳照会

選択 検索 追加 コピー 削除 開じる フォーム ロー ツール

仕入先No. *

日付範囲 05/06/05 ~ 05/06/05 国 請求書 元帳日付

☐ 定期伝票 ☐ 集計 ☐ 未決済 ☐ 源泉 ☐ 未入金

バッチNo. * 通貨コード * 仮定通貨コード GBP

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

伝票No.	伝票 タイプ	伝票 会社	請求書 日付	元帳 日付	支払 期日	仮定 金額	総額	仮定 未決済 金額	未決済 金額	外貨 金額
<input type="checkbox"/> 1564 PV	00001		05/06/05	05/06/30	05/06/15	2,365.56	1,500.00	2,365.56	1,500.00	
<input type="checkbox"/> 1589 PM	00001		05/06/05	05/06/30	05/06/15	551.96	350.00			
<input type="checkbox"/> 1599 PV	00001		05/06/05	05/06/30	05/07/05	6,670.87	4,230.00	6,670.87	4,230.00	5,000.00
<input type="checkbox"/> 3091 PV	00050		05/06/05	05/06/15	05/07/05	2,365.56	1,500.00	2,365.56	1,500.00	
<input type="checkbox"/> 3159 PV	00070		05/06/05	05/06/12	05/07/05	4,551.52	2,765.96	4,551.52	2,765.96	3,600.00
<input type="checkbox"/> 3159 PV	00070		05/06/05	05/06/12	05/07/05	493.07	299.64	493.07	299.64	390.00
<input type="checkbox"/> 3165 PV	00070		05/06/05	05/06/30	05/07/05	2,528.63	1,536.65	2,528.63	1,536.65	2,000.00
<input type="checkbox"/> 3166 PV	00001		05/06/05	05/06/30	05/07/05	13,341.74	8,460.00	13,341.74	8,460.00	10,000.00
<input type="checkbox"/> 3169 PV	00001		05/06/05	05/06/30	05/07/05	2,953.64	1,872.90			225,000
<input type="checkbox"/> 3169 PV	00001		05/06/05	05/06/30	05/07/05	11,041.35	7,001.32			841,100

[仮定通貨コード]フィールドのデフォルト通貨コードは、処理オプションで指定されています。

- 必要に応じて下にスクロールし、仮定通貨建て金額の合計を検討します。
仮定通貨建て金額は、伝票の基本(国内)通貨に基づいて計算されます。
- さらに検索対象を絞るには、QBE のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

PeopleSoft®

仕入先元帳照会

選択 検索 追加 コピー 削除 開じる フォーム ロー ツール

仕入先No. *

日付範囲 05/06/05 ~ 05/06/05 国 請求書 元帳日付

☐ 定期伝票 ☐ 集計 ☐ 未決済 ☐ 源泉 ☐ 未入金

バッチNo. * 通貨コード * 仮定通貨コード GBP

グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

	伝票No.	伝票 タイプ	伝票 会社	請求書 日付	元帳 日付	支払 期日	仮定 金額	総額	仮定 未決済額	未決済 金額	外貨 金額	タ オ
<input type="checkbox"/>	3159 PV	00070	05/06/05	05/06/12	05/07/05	4,551.52	2,765.96	4,551.52	2,765.96	3,600.00		
<input type="checkbox"/>	3159 PV	00070	05/06/05	05/06/12	05/07/05	493.07	299.64	493.07	299.64	390.00		
<input type="checkbox"/>	3185 PV	00070	05/06/05	05/06/30	05/07/05	2,528.63	1,536.65	2,528.63	1,536.65	2,000.00		
						7,573.22	4,602.25	7,573.22	4,602.25			

4. 必要に応じてグリッドを右にスクロールし、仮定通貨について次のフィールドの値を検討します。

- 仮定金額
- 仮定未決済額
- 仮定割引可能額

注:

グリッドの[為替レート]フィールドには、仮定金額の計算に使われる為替レートは表示されません。このフィールドに表示される為替レートは、外貨から国内通貨に換算するのに使用されるレートです。

5. 異なる通貨で仮定通貨建て金額を表示するには、見出しにある次のフィールドの通貨コードを変更して[検索]をクリックします。

- 仮定通貨コード

フィールド記述

記述	用語解説
假定金額	請求書または伝票の支払項目の合計金額を示す値。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。支払の後もこの総額は変わりません。取引を無効にした場合、総額フィールドの金額はクリアされます。
假定未決済額	請求書または伝票の支払項目の合計金額を示す値。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。支払の後もこの総額は変わりません。取引を無効にした場合、総額フィールドの金額はクリアされます。
假定割引可能額	請求書または伝票の支払項目の合計金額を示す値。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。支払の後もこの総額は変わりません。取引を無効にした場合、総額フィールドの金額はクリアされます。
假定通貨コード	取引通貨を識別するコード。

伝票入力(P0411)の多通貨処理オプション

通貨タブ

1. 假定通貨

blank = 假定通貨をグリッドに表示しない

または假定通貨として使用する通貨コードを入力してください。

国内通貨または外貨をテーブルに保存されている通貨以外で表示します。假定通貨を表示する場合の通貨コードを指定してください。たとえば、米ドル建ての金額をユーロで表示するには EUR と指定します。

この処理オプションがblankの場合、フォームの見出しの[假定通貨]フィールドおよびグリッドの[假定金額]、[假定未決済金額]フィールドは表示されません。

注: 假定通貨建ての金額は一時メモリに保存され、テーブルには書き込まれません。

2. 基準日

blank = 終了日付

または日付を入力してください。

假定通貨の基準日を指定します。この元帳日付を使用して為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが取り込まれます。

[仮定通貨]処理オプションで通貨コードを指定し、この処理オプションを空白にした場合、システム日付が使用されます。

注：国内通貨/外貨と仮定通貨との為替レート(基準日時点)が為替レート・テーブル(F0015)に保存されている必要があります。

外貨建て伝票の転記

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈仕入先および伝票の入力〉メニュー(G0411)から〈伝票の転記〉を選択します。

〈仕入先および伝票の入力〉メニュー(F0411)から〈伝票仕訳の検討〉を選択し、〈バッチの処理〉プログラム(P0011)を使用して伝票を転記します。

入力して検討、承認した外貨建て伝票は転記する必要があります。

外貨建て伝票を転記すると、転記プログラム(R09801)の転記前処理では〈買掛管理固定情報〉プログラム(P0000)から買掛金集計方式が取り込まれます。集計方式が B の場合、バッチに外貨建て伝票がないことが確認されます。外貨建て伝票が 1 件でもある場合、転記前処理ではバッチの買掛金集計方式が S(支払項目)に変更されます。これは、バッチに外貨建て伝票があると、集計方式 B を使って転記を行うことができないためです。

次の表は、多通貨処理を使用しているかどうかに関わらず、転記プログラムで実行される処理を示しています。多通貨環境における伝票の転記独自の情報は[多通貨に関する考慮事項]の下を参照してください。

伝票の転記によって実行される処理	多通貨に関する考慮事項
買掛金元帳(F0411)から未転記の伝票取引を選択する	
取引明細テーブル(F0911)に対応するレコードがあるか、その金額が伝票の金額と一致するかを確認する	
バッチの状況が「承認済み」であることを確認する	
取引明細テーブル(F0911)に、買掛金勘定、および必要に応じて税勘定の仕訳(貸方)を作成する	自動仕訳によって取引明細テーブル(F0911)で AA (国内通貨)元帳と CA(外貨)元帳に対して買掛金勘定(貸方)を作成する
勘定残高テーブル(F0902)に次のレコードを作成する <ul style="list-style-type: none">経費勘定(借方)買掛金勘定および必要に応じて税勘定(貸方)	

詳細再換算は多通貨環境以外では使用されない	代替通貨元帳(XA)と、該当する場合は YA と ZA 元帳を更新し、処理オプションに〈詳細再換算〉プログラム(R11411)のバージョンを入力した場合は、別の転記レポートを作成します。
F0411 テーブルで伝票の状況を転記済み(D)に更新する	
取引明細テーブル(F0911)で対応するレコードの状況を転記済み(P)に更新する	
バッチ制御テーブル(F0011)でバッチ・レコードの状況を転記済み(D)に更新する	

多通貨による支払

国内通貨、外貨、代替通貨など通貨ごとに支払を処理できます。特に、支払をする会社の基本通貨が伝票の国内通貨と同じであれば、どの通貨による支払も処理して伝票と突き合わせることが可能です。

たとえば、会社の基本通貨がカナダ・ドル(CAD)であり、カナダ・ドルで支払うとします。支払を突き合わせる伝票の国内通貨は米ドル(USD)です。支払われた会社基本通貨(カナダ・ドル)が伝票の基本通貨(米ドル)と異なるため、この支払入力は受け付けられません。

伝票	伝票の国内通貨	伝票の外貨
224	USD	USD
226	USD	CAD

この例では、次のようになります。

- 国内通貨(USD)建ての伝票 224 に対してカナダ・ドル(CAD)での支払は不可
- 外貨(CAD)建ての伝票 226 に対してカナダ・ドル(CAD)での支払は不可

どちらの場合も、支払の会社基本通貨(USD)が伝票の国内通貨と異なります。

支払の会社番号を基本通貨が米ドルの会社のものに変更すると、この支払を入力することができます。

次の例を参考に、支払の通貨が国内通貨、外貨、代替通貨のいずれであるかをシステムでどのように決定されるかを理解してください。この例では、支払の会社基本通貨が伝票の国内通貨と同じです。

例: 国内通貨での支払

伝票の基本通貨と同じ通貨による支払です。

伝票	国内通貨(伝票)	外貨(伝票)	国内通貨(支払)
221	CAD	CAD	CAD
222	CAD	EUR	CAD

この例では、会社の基本通貨がカナダ・ドル(CAD)です。次のようになります。

- 国内通貨(CAD)建ての伝票 221 に対してカナダ・ドル(CAD)での支払が可能
- 国内通貨(EUR)建ての伝票 222 に対してカナダ・ドル(CAD)での支払が可能

会社の基本通貨(カナダ・ドル)で支払った場合、外貨(ユーロ)建ての伝票がある場合でも、国内通貨で伝票を処理します。国内通貨による支払では、為替差損益は計算されません。

例:外貨での支払

伝票の外貨と同じ通貨による支払です。

伝票	国内通貨(伝票)	外貨(伝票)	外貨(支払)
223	CAD	EUR	EUR
224	CAD	USD	USD

この例では、会社の基本通貨はカナダ・ドル(CAD)です。次のようになります。

- 外貨(EUR)建ての伝票 223 に対してユーロ(EUR)での支払が可能
- 外貨(USD)建ての伝票 224 に対して米ドル(USD)での支払が可能

どちらの場合も、支払の会社基本通貨が伝票の国内通貨と異なるため、外貨での支払を入力できます。

伝票の外貨(ユーロと米ドル)で支払う場合、外貨で支払を処理します。伝票入力時と支払時の間に為替レートの変動があった場合は為替差損益が計算されます。

例:代替通貨での支払

伝票の国内通貨と外貨以外の通貨による支払です。

伝票	国内通貨(伝票)	外貨(伝票)	代替通貨(支払)
225	CAD	CAD	EUR
226	CAD	USD	JPY

この例では、会社の基本通貨がカナダ・ドル(CAD)です。次のようになります。

- 国内通貨(CAD)建ての伝票 225 に対してユーロ(EUR)での支払が可能

注:

伝票が国内通貨のみで支払が国内通貨ではない場合、支払は外貨ではなく代替通貨建てと見なされます。

- 外貨(USD)建ての伝票 226 に対して日本円(JPY)での支払が可能

どちらの場合も、会社基本通貨が伝票の国内通貨と異なるため、代替通貨での支払を入力できます。

伝票の外貨または国内通貨のどちらでもない通貨で支払う場合、伝票の国内通貨(カナダ・ドル)および外貨(米ドル)で支払を処理します。伝票入力時と支払時の間に為替レートの変動があった場合は為替差損益が計算されます。

外貨および代替通貨建て支払用プログラム

次の表は多通貨での支払処理に使用するプログラムの一覧で、外貨または代替通貨建ての支払に使用できるかどうかを示しています。

メニュー・オプションおよびプログラム ID	メニュー	外貨	代替通貨
支払入力(伝票突合せあり) (P0413M)	G0412	x	x
支払入力(伝票突合せなし) (P0411)	G0412	x	
支払グループの作成 (R04570)	G0413	x	x
支払グループの処理(P04571)	G0413	x	x
支払入力(伝票突合せあり) - 手入力手形(P0413M)	G0412	x	
支払グループの作成 (R04570) - 自動処理手形	G0413	x	

支払プログラムおよび多通貨会社間決済

買掛管理システムの支払プログラムでは、多通貨会社間決済機能は使用できません。多通貨による会社間支払を入力すると、エラー・メッセージが表示されます。仕訳は転記できません。

外貨によるキャッシュフロー予測

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈売掛管理システムの上級/技術的操作〉メニュー(G03B31)から〈資金予測〉を選択します。

〈買掛管理システムの上級/技術的操作〉メニュー(G0431)から〈資金予測集計〉を選択します。

〈資金予測〉プログラム(R03B520)および〈資金予測集計〉プログラム(R04520)により、資金予測集計テーブル(F0032)が作成されます。このテーブルには会社の資金分析および予測に役立つ情報が含まれています。

F0032 テーブルを作成した後、表計算ソフトウェアに情報をダウンロードして、すべての未決済請求書/伝票の合計金額や、請求書/伝票を決済するのに必要な金額を見ることができます。ビジネスユニット、会社、支払期日、通貨別に情報が集計されます。

F0032 テーブルには、次のように国内通貨と外貨の両方の金額および通貨コードが含まれます。

- 国内通貨の金額および通貨は[未決済金額]および[換算元通貨コード]フィールドに表示されます。
- 外貨建て請求書の場合、外貨の金額および通貨は[未決済外貨金額]および[換算先通貨コード]フィールドに表示されます。
- 国内通貨のみによる請求書の場合、国内通貨の金額および通貨は[外貨金額]および[換算先通貨コード]に加えて[未決済金額]と[換算元通貨コード]の各フィールドに表示されます。

外貨建て支払用支払予定レポート

〈自動支払処理〉メニュー(G0413)から〈支払予定レポート〉を選択します。

〈支払予定レポート〉プログラム(R04431)では、3つの年齢調べカラムに仕入先別伝票をリストし、各仕入先および銀行勘定ごとに合計を計算し、未決済伝票に対して支払う合計金額を表示します。銀行勘定のタイプによって、レポートには次のような通貨コードおよび金額情報が含まれます。

- 銀行勘定が通貨勘定の場合、レポートの見出しに印刷される通貨コードは銀行勘定の通貨です。通貨コード・カラムに印刷される通貨コードは、伝票の国内通貨です。通貨コード・カラムの右側にある金額は国内通貨建てで、左側にある金額は銀行勘定通貨建てです。
- 銀行勘定が非通貨勘定の場合、レポートの見出しに印刷される通貨コードは国内通貨です。通貨コード・カラムに印刷される通貨コードは、伝票の外貨です。通貨コード・カラムの右側にある金額は外貨建てで、左側にある金額は国内通貨建てです。

参照

- 〈支払予定〉レポートの通貨以外の情報については『買掛管理』ガイドの「支払予定の決定」

外貨による支払入力

伝票の外貨(取引通貨)による支払です。支払に使用する外貨は支払入力時に指定します。外貨建て支払を入力する際、次の基準を満たす必要があります。

- 支払う外貨が伝票の取引通貨と同じ
- 支払の基本通貨が伝票の国内(基本)通貨と同じ

たとえば、伝票の国内通貨が米ドル(USD)であるとします。外貨建て支払は米ドルを基本通貨とする会社に対するものであり、支払通貨と伝票の取引通貨は同じである必要があります。銀行勘定が通貨勘定である場合、銀行勘定の会社通貨も米ドルである必要があります。銀行勘定の会社通貨が支払の基本通貨と異なる場合、エラー・メッセージが表示されて支払入力を完了できません。

外貨建ての支払を手入力すると、選択した伝票の金額が為替レート・テーブル(F0015)の為替レート(該当する場合は支払レコードのスポット・レート)に基づいて国内通貨建て金額に換算されます。

外貨建ての支払を手入力するには、通常〈支払入力〉プログラム(P0413M)を使用してその支払を既存の伝票または伝票グループに突き合わせます。既存の伝票がない場合、〈伝票入力〉プログラム(P0411)を使用します。外貨で入力した支払は印刷することができます。

スピード支払入力プログラム

外貨建ての支払入力に〈スピード伝票入力〉プログラム(P0411SV)を使用することはできません。このプログラムには、外貨建て金額や為替差損益の計算をサポートしないなどいくつかの制約があります。

はじめる前に

- 次の AAI が設定されていることを確認してください。

- PGxxx(外貨実現為替差益)

- PLxxx(外貨実現為替差損)

『多通貨処理』ガイドの「外貨建て支払の実現為替差損益 AAI」を参照してください。

▶ 外貨建ての支払を入力するには

〈支払処理〉メニュー(G0412)から〈支払入力(伝票突合せあり)〉を選択します。

1. 〈支払の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

支払入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

支払No. 23478967 前回支払 〇 バッチNo. 6610

仕入先No. 4002 〇 小切手の印刷

銀行勘定科目No. 1.1110.BEAR

支払金額 備考

支払日付 050628

通貨コード EUR 為替レート 1.1820331 基本 〇 外貨 〇

レコード 1.1 グリッドのカスタマイズ

伝票タイプ	伝票No.	会社	支払項目	請求書No.	支払期日	外貨未決済額	外貨支払額	外貨割引可能額	外貨割引
-------	-------	----	------	--------	------	--------	-------	---------	------

差額

2. 〈支払入力〉で、見出しのフィールドに値を入力します。

3. 必要に応じて、次のフィールドに値を入力します。

- 支払金額

このフィールドは、[支払金額の入力]処理オプションで支払の手入力を指定している場合のみ値を入力してください。そうでない場合は、フィールドをブランクのままにしておく
と後に支払金額が自動計算されます。

- 次のフィールドに外貨建て支払の通貨コードを入力します。

- 通貨コード

デフォルト値は仕入先レコードの通貨コードです。

- 次のフィールドに値を入力します。

- 為替レート

為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれるデフォルト値は、伝票通貨([通貨コード]フィールド)と基本会社通貨([基本]フィールド)間の為替レートです。

F0015 テーブルの為替レートを一時変更する場合や、為替レートがない場合にこのフィールドに値を入力してください。

注:

この時点でデフォルト通貨コードおよび為替レートを参照するには、グリッドにカーソルを合わせます。そうしない場合は、未決済の支払項目を選択してこのフォームに戻ったときに自動的にデフォルト値が表示されます。

- [フォーム]メニューから[支払項目]を選択します。

PeopleSoft

未決済項目の選択

選択 検索 開く ツール

仕入先No. 4002 Aluminium de Rhone

グリッドのカスタマイズ

支払 タイプ	伝票 No.	伝票 会社	支払 項目	支払 期日	外貨 未決済額	外貨 割引実施額	為替 レート	通貨 コード	会社	支払 状況	請求 No.
<input type="checkbox"/> PV	3151 00001		001	05/07/15	2,000.00		1.1820331	EUR	00001	A	50114
<input type="checkbox"/> PV	3151 00001		002	05/07/15	580.00		1.1820331	EUR	00001	A	50114
<input type="checkbox"/> PV	3151 00001		003	05/07/15	210.00		1.1820331	EUR	00001	A	50114

☐ 集計

- PeopleSoft.**

支払入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロール ツール

支払No.	<input type="text" value="23478967"/>	前回支払	<input type="text"/>	バッチNo.	<input type="text" value="6610"/>
仕入先No.	<input type="text" value="4002"/>	<i>Aluminium de Rhone</i>		<input type="checkbox"/> 小切手の印刷	
銀行勘定科目No.	<input type="text" value="1.1110.BEAR"/>	<input type="text" value="Bear Creek National Bank"/>			
支払金額	<input type="text" value="2,580.00"/>	備考		<input type="text"/>	
支払日付	<input type="text" value="05/06/28"/>				
通貨コード	<input type="text" value="EUR"/>	為替レート	<input type="text" value="1.1820331"/>	基本	<input type="text" value="USD"/> <input checked="" type="checkbox"/> 外貨

レコード 1 - 3 グリッドのカスタマイズ

<input checked="" type="checkbox"/>	伝票タイプ	伝票No.	会社	支払項目	請求書No.	支払期日	外貨未決済額	外貨支払額	外貨割引可能額	外貨割引
<input type="radio"/>	PV	3151	00001	001	50114	05/07/15	2,000.00	2,000.00		
<input checked="" type="radio"/>	PV	3151	00001	002	50114	05/07/15	580.00	580.00		
<input type="radio"/>										

差額

- 237

フィールド記述

記述	用語解説
通貨コード	取引通貨を識別するコード。
為替レート	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>外貨支払の場合、このフィールドに値を入力して、正しい為替レートが使用されるようにしてください。外貨/国内通貨建ての2つの伝票が更新されます。外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。</p> <p>このフィールドは、小数点以下最大7桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い7桁の数に調整されます。</p>

支払入力(P0413M)の多通貨処理オプション

通貨タブ

1. 代替通貨の使用

blank = 不可

1 = 可

[フォーム]メニューの[代替支払]をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank アクティブにしない

1 アクティブにする

注: この処理オプションをアクティブにすると、[フォーム]メニューから[代替通貨]を選択して〈代替通貨〉フォームを表示することができます。このフォームを使用では伝票通貨以外の通貨で支払を行うことができます。たとえば基本通貨が米ドル(USD)の場合に、カナダドル(CAD)で作成した伝票に対してベルギーフランなど米ドルおよびカナダドル以外の通貨で支払うことができます。

2. 為替レート日付

blank = システムがチェックしない

1 = チェックする

為替レート有効日付が会社固定情報の元帳期間内かどうか検証するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 検証しない(すべての日付が OK)

1 検証する(同じ期間内にない場合は警告メッセージを表示)

3. 為替レート許容限度

(たとえば、5%の場合は“5”と入力します)

為替レートの許容限度額を指定します。支払入力時に、為替レート テーブル(F0015)の為替レートを一時変更することができます。この処理オプションで為替レート テーブル(F0015)の為替レートとの差異の許容限度を指定します。

何パーセントまでの差異を許可するかを入力してください。たとえば“5”と入力した場合、テーブルの為替レートとの差異がプラスマイナス 5%の範囲内のレートで一時変更することができます。

代替通貨建て支払の入力

代替通貨建て支払は、突き合わせる伝票の国内通貨と外貨以外の通貨による支払です。

代替通貨での支払処理によって、取引通貨や会社の基本通貨以外の通貨で支払った場合に対応できます。この機能により、当初伝票を無効にして支払通貨で伝票を新規入力する必要がなくなります。

たとえば、ユーロ(EUR)で伝票を入力するカナダの会社が、日本円(JPY)で支払を行うことができます。同様にフランスの会社が日本円(JPY)建て伝票を入力し、カナダ・ドル(CAD)で支払うこともできます。どちらの例でも、カナダおよびフランスの会社が代替通貨建て支払を処理できるようにシステムを設定する必要があります。

代替通貨での支払処理のほとんどは、支払を実際に入力する前の設定に基づきます。〈支払入力〉プログラム(P0413M)の処理オプションで代替通貨での処理を使用するように設定してください。

代替通貨建ての支払を手入力するには、通常〈支払入力〉プログラムを使用してその支払を既存の伝票または伝票グループに突き合わせます。支払に使用する代替通貨は支払入力時に指定します。〈支払入力(伝票突合せあり)〉プログラムでは、代替通貨による支払を伝票と突き合わせられるように、選択した伝票が代替通貨に換算されます。伝票の金額を換算する際、元帳日付または支払レコードに入力したスポット・レート(該当する場合)に基づいて、伝票通貨と代替通貨間の為替レートが為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。

代替通貨で入力した支払は印刷されません。必要な場合は手書きしてください。

代替通貨で支払を入力する際、通貨銀行勘定に割り当てられている伝票であれば銀行勘定通貨と伝票の取引通貨が一致しなくてもかまいません。

スピード支払入力プログラム

代替通貨建ての支払入力に〈スピード伝票入力〉プログラム(P0411SV)を使用することはできません。このプログラムでは、外貨建ての金額や為替差損益が計算されません。

はじめる前に

- 次の AAI が設定されていることを確認してください。

- PYxxx(代替通貨実現為替差益)
- PZxxx(代替通貨実現為替差損)
- P7(代替通貨建て支払で使用する仮勘定)

『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て支払の実現為替差損益 AAI」および「代替通貨建て支払の仮勘定 AAI」を参照してください。

- 〈支払入力〉プログラム(P413M)の処理オプションで、代替通貨建ての支払を入力できるようにするよう設定してください。これによって〈代替通貨入力〉フォームが表示され、代替通貨で支払を入力することができます。

▶ 代替通貨建ての支払を入力するには

代替通貨での支払を入力する方法は、外貨で行う支払入力と似ています。次の操作説明では、異なる部分のみ説明しています。

〈支払処理〉メニュー(G0412)から〈支払入力(伝票突合せあり)〉を選択します。

1. 〈支払の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

支払入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

支払No. 7876723 前回支払 〇 バッチNo. 6611

仕入先No. 4002 小切手の印刷 〇

銀行勘定科目No. 1.1110.BEAR

支払金額 備考

支払日付 050628

通貨コード EUR 為替レート 基本 〇 外貨 〇

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

伝票タイプ	伝票No.	会社	支払項目	請求書No.	支払期日	外貨未決済額	外貨支払額	外貨割引可能額	外貨割引
〇									

差額 〇.〇〇

2. 〈支払入力〉で、見出しのフィールドに値を入力します。
3. 必要に応じて、次のフィールドに値を入力します。
 - 支払金額

このフィールドは、[支払金額の入力]処理オプションで支払の手入力を指定している場合のみ値を入力してください。そうでない場合は、フィールドをブランクのままにすると入力を保存した後で支払金額が自動的に計算されます。

4. 次のフィールドに伝票の通貨コードを入力します。

- 通貨コード

このフィールドには、代替通貨建て支払の通貨を入力しないでください。デフォルト値は仕入先レコードの通貨コードです。

5. 次のフィールドに値を入力します。

- 為替レート

為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれるデフォルト値は、伝票通貨([通貨コード]フィールド)と基本会社通貨([基本]フィールド)間の為替レートです。

F0015 テーブルの為替レートを一時変更する場合や、為替レートがない場合にこのフィールドに値を入力してください。

注:

この時点でデフォルト通貨コードおよび為替レートを参照するには、グリッドにカーソルを合わせます。そうしない場合は、未決済の支払項目を選択してこのフォームに戻ったときに自動的に値が表示されます。

6. [フォーム]メニューから[支払項目]を選択します。

支払タイプ	伝票No.	伝票会社	支払項目	支払期日	外貨未決済額	外貨割引実施額	為替レート	通貨コード	会社	支払状況	請求No.
<input type="checkbox"/> PV	3151 00001		001	05/07/15	2,000.00		1.1820331	EUR	00001	A	50114
<input type="checkbox"/> PV	3151 00001		002	05/07/15	580.00		1.1820331	EUR	00001	A	50114
<input type="checkbox"/> PV	3151 00001		003	05/07/15	210.00		1.1820331	EUR	00001	A	50114

☐ 集計

7. 〈未決済支払項目の選択〉で、代替通貨で支払を行う支払項目をハイライトして[選択]をクリックします。
8. 〈支払入力〉で、[フォーム]メニューから[代替支払]を選択します。
9. 〈代替通貨入力〉で、次のフィールドをブランクにします。
 - 代替支払金額フォームの残りのフィールドに値を入力して、支払金額が自動的に入力されたら[OK]をクリックします。
10. 次のフィールドに値を入力します。
 - 代替通貨コード
11. 直物レートを使用する場合にのみ次のフィールドに値を入力します。
 - 代替通貨から基本通貨への換算レート
 - 外貨→代替通貨への換算レートデフォルトの為替レートは、為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。間接為替が設定済みで、〈為替レートの改訂〉フォームでその通貨関係に対して[スポット・レートの許可]フラグがオフになっている場合は、これら2つのフィールドのどちらにも為替レートを入力することはできません。
12. [OK]をクリックします。
13. 代替通貨建て金額および為替レートを検討するには、[フォーム]メニューから[代替支払]を選択します。

PeopleSoft.

代替通貨入力

OK キャンセル ツール

代替支払金額 3291.10

代替通貨コード GBP

代替→基本通貨への換算レート 0.6341000

外貨→代替通貨への換算レート 0.6077000

14. [キャンセル]をクリックします。
15. 〈支払入力〉で、選択した支払項目の外貨建て金額を確認します。
- このフォームには代替通貨建て金額が表示されません。
16. 他の支払項目を選択するには、次のうちいずれかを実行します。
- 処理オプションが支払金額を自動計算するように設定されている場合、〈支払入力〉の[支払金額]フィールドの値はクリアしないようにしてください。代わりに、[フォーム]メニューから[支払項目]を選択します。〈未決済支払項目の選択〉で、支払項目をハイライトして[選択]をクリックします。〈支払入力〉で、追加した支払項目を含めた支払金額が再計算されます。
 - 処理オプションが支払金額を手入力するように設定されている場合、〈支払入力〉の[支払金額]フィールドの値をクリアしてください。[フォーム]メニューから[支払項目]を選択します。〈未決済支払項目の選択〉で、支払項目をハイライトして[選択]をクリックします。〈支払入力〉で、新しい支払金額を入力します。
17. 〈支払入力〉で、[OK]をクリックして入力を保存します。
- 支払入力の保存後、〈支払の処理〉フォームで代替通貨建て金額を検討できます。〈支払の処理〉フォームで、[支払金額]フィールドには代替通貨建て金額が、[通貨コード]フィールドには代替通貨コードが表示されます。

外貨または代替通貨建て自動支払の書込み

自動支払は、伝票の外貨(取引通貨)または代替通貨(伝票の国内通貨とも外貨とも異なる通貨)で書き込むことができます。

代替通貨による柔軟な支払処理を使用すると、取引通貨や会社の基本通貨以外の通貨で支払った場合に対応できます。国内通貨のみの伝票や外貨建て伝票の場合、当初伝票を無効にして支払と同じ(代替)通貨で新しく伝票を入力し直す必要がなくなります。

外貨と代替通貨での支払処理に関するほとんどの考慮事項は、実際に支払をする前に行うAAIと処理オプションの設定に基づきます。外貨または代替通貨建て支払の書込機能は、次のプログラムの処理オプションで制御されます。

- 支払グループの作成(R04570)
- 支払グループの処理(P04571)

〈支払グループの作成〉プログラム(R04570)の処理オプションで、支払作成に使う外貨または代替通貨を指定します。代替通貨建て支払の場合、為替レート・テーブル(F0015)から国内通貨から代替通貨の為替レートと外貨から代替通貨への為替レートを取り込んで、選択した伝票が代替通貨建て金額に換算されます。

伝票に通貨銀行勘定が割り当てられている場合は、代替通貨による自動支払の処理時にその銀行勘定の通貨が伝票の取引通貨と同じである必要はありません。

外貨または代替通貨建て支払グループの作成

〈自動支払処理〉メニュー(G0413)から〈支払グループの作成〉を選択します。

支払を書き込む前に、〈支払グループの作成〉プログラム(R04570)を使用して支払グループを作成する必要があります。外貨および代替通貨建ての支払については、処理オプションを使用して次の項目別に伝票をグループに分けます。

- 伝票に割り当てられた銀行勘定または一時変更銀行勘定
- 支払通貨(国内通貨、外貨、代替通貨)
- 支払手段

このように伝票をグループ分けすることにより、異なる通貨および銀行勘定を含む支払グループを作成できます。また、支払グループを作成して、外貨または代替通貨が設定された銀行勘定から支払を行うことができます。

代替通貨エラー・メッセージ

支払グループ作成時にエラーが発生した場合、〈支払グループの作成〉レポートにエラー・メッセージが印刷されます。たとえば、カナダの銀行勘定を使用してユーロで支払グループを作成しようとするエラー・メッセージが印刷されます。

代替通貨による支払でエラーがある場合、次のようなエラー・メッセージが印刷されます。

- 代替通貨仮勘定が正しくないか、通貨勘定です。
- 代替通貨仮勘定会社の代替通貨が取引会社と異なります。
- 代替通貨為替差損益勘定の AAI が正しくありません。
- 代替通貨為替差損益勘定の代替通貨が取引会社と異なります。
- 代替通貨建て支払の通貨が銀行勘定の通貨と一致しません。

自動支払の通貨方法

支払グループを作成する際、自動支払に使用する通貨方法として次のうち 1 つを指定します。

- 銀行勘定通貨単位
- 伝票の国内通貨
- 伝票の外貨
- 国内通貨の現在の金額
- 代替通貨の現在の金額

方法は、〈支払グループの作成〉プログラム(R04570)の[支払通貨]処理オプションで指定します。

銀行勘定通貨単位

この方法を選択すると、伝票に割り当てられている銀行勘定が通貨勘定か非通貨勘定によって、支払をする通貨が異なります。

通貨銀行勘定	<p>通貨銀行勘定は、通貨コードが割り当てられた勘定科目です。通貨勘定科目が割り当てられた伝票は銀行勘定の通貨で支払います。</p> <p>たとえば、基本通貨が米ドルの会社に対してカナダ・ドルで外貨建て伝票を入力します。伝票に割り当てる銀行勘定は、通貨コードが CAD の通貨勘定です。銀行勘定通貨単位方法を選択した場合、外貨建ての伝票は外貨(カナダ・ドル)で支払います。</p> <p>次の情報に基づいて、外貨建て金額と国内通貨建て金額間の為替差損益が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 〈支払グループの処理〉プログラム(P04571)の処理オプションで指定した元帳日付。この元帳日付を使用して為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが取り込まれます。・ 〈支払グループの処理〉プログラムの処理オプションで指定した為替レート有効日付。この処理オプションがblankの場合、元帳日付が使用されます。
非通貨銀行勘定	<p>非通貨銀行勘定は、通貨コードが割り当てられていない(銀行勘定の通貨コードはblank)勘定科目です。非通貨勘定科目が割り当てられた伝票の外貨建て金額は、国内通貨で支払います。</p> <p>たとえば、基本通貨が米ドルの会社に対してカナダ・ドルで外貨建て伝票を入力します。伝票に割り当てる銀行勘定には通貨が設定されていません。銀行勘定通貨単位方法を選択した場合、国内通貨建ての伝票は国内通貨(米ドル)で支払います。</p> <p>伝票の支払が国内通貨で行われているため、為替差損益は計算されません。</p>

伝票の国内通貨

この方法を選択すると、伝票の国内通貨で支払を行います。

たとえば、基本通貨が米ドルの会社に対してカナダ・ドルで外貨建て伝票を入力します。同じ会社に対して米ドルで国内通貨建て伝票を入力します。この方法では、両方の伝票に対して国内通貨(米ドル)で支払います。

伝票の支払が国内通貨で行われているため、為替差損益は計算されません。

伝票の外貨

この方法を選択すると、伝票の外貨で支払を行います。

たとえば、基本通貨が米ドルの会社に対してカナダ・ドルで外貨建て伝票を入力します。基本通貨が英国ポンド(GBP)の会社に対して、外貨建て伝票をカナダ・ドルでもう1件入力します。この方法では、両方の伝票に対して外貨(カナダ・ドル)で支払います。

次の情報に基づいて、外貨建て金額と国内通貨建て金額間の為替差損益が計算されます。

- ・ 〈支払グループの処理〉プログラム(P04571)の処理オプションで指定した元帳日付。この元帳日付を使用して F0015 テーブルから為替レートが取り込まれます。

- ・ 〈支払の処理〉プログラムの処理オプションで指定した為替レート有効日付。この処理オプションがblankの場合、元帳日付が使用されます。

国内通貨の現在の金額

この方法を選択すると、伝票の現在の国内通貨建て金額を支払います。

たとえば、基本通貨がカナダ・ドルの会社に対して米ドルで伝票を入力します。この方法では、伝票の国内通貨(カナダ・ドル)建て金額を支払います。為替差損益が発生しない伝票の国内通貨方法と異なり、伝票入力時と支払入力時の間で為替レートが変動した場合は為替差損益が計算されます。

他の方法と違い、元帳日付や為替レート有効日付の処理オプションは使用されません。その代わり、F0015 テーブルの現行(システム日付)為替レートが使用されます。現行日付の為替レートがテーブルにない場合は、次の例のようにその前の為替レートが使用されます。

日付	為替レート
6/01/05	1.5
6/15/05	2.0
6/30/05	2.5

2005 年 6 月 10 日(現行日付)に支払った場合、6 月 10 日の為替レートがないため、6 月 1 日の為替レート(1.5)が使用されます。同様に、6 月 29 日に支払った場合は 6 月 15 日の為替レート(2.0)が使用されます。どちらの場合も前の日付と関連付けられた為替レートが使用されます。

代替通貨の現在の金額

この方法を選択すると、伝票の国内通貨や外貨ではなく、それ以外の代替通貨で支払を行います。

たとえば、基本通貨が米ドルの会社に対してカナダ・ドルで外貨建て伝票を入力します。処理オプションの[代替通貨]で JPY(日本円)を指定します。支払に使用する日本円は、外貨(カナダ・ドル)でも国内通貨(米ドル)でもありません。

代替通貨で支払う場合、伝票の取引金額で支払をします。取引金額は、伝票が外貨建ての場合は外貨、国内通貨のみの場合は国内通貨になります。

次の情報に基づいて為替差損益が計算されます。

- ・ 〈支払グループの処理〉プログラム(P04571)の処理オプションで指定した元帳日付。この元帳日付を使用して F0015 テーブルから為替レートが取り込まれます。
- ・ 〈支払の処理〉プログラムの処理オプションで指定した為替レート有効日付。この処理オプションがblankの場合、元帳日付が使用されます。

支払グループの作成(R04570)の多通貨処理オプション

金額タブ

2. 支払金額範囲用の通貨コード

[支払金額範囲]処理オプションで指定した金額の通貨を指定します。指定した金額は、必要に応じて各支払グループの支払通貨に換算されます。たとえば、米ドルで 100～5000 と指定した場合、ユーロの支払グループではユーロ、英国ポンドの支払グループでは英国ポンドにそれぞれ換算されます。このプログラムを実行するたびに、すべての支払グループに対して最低および最高金額の換算が行われます。

印刷タブ

4. 支払通貨

プログラムで使用する通貨の方法を指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク

銀行勘定の通貨で支払う。通貨勘定の場合、勘定科目マスター(F0901)で銀行勘定に設定されている通貨です。非通貨勘定の場合、銀行勘定のビジネスユニットが属する会社に設定されている通貨です。たとえば、1.1110.BEAR の通貨は米ドル(USD)です(ビジネスユニット 1 が属する会社 00001 の通貨)。会社 00001 に対してユーロ建ての伝票を入力する場合、ユーロが設定された通貨銀行勘定、または基本通貨が米ドルの会社に属する銀行勘定で支払を処理することができます。

1

伝票の国内通貨で支払う。たとえば、会社 00001(基本通貨は米ドル)に対して仏フラン建ての伝票を入力した場合、米ドルで支払を行います。

2

伝票の外貨で支払う。たとえば、会社 00001(基本通貨は米ドル)に対してユーロ建ての伝票を入力した場合、ユーロで支払を行います。外貨を持たない伝票の場合は国内通貨で支払います。

3

外貨建て伝票の国内通貨で最新のレートで換算した金額を支払う。たとえば、会社 00001(基本通貨は米ドル)に対してユーロ建ての伝票を入力した場合、外貨建て金額を今日の為替レートに基づいて国内通貨(米ドル)に換算した金額を支払います。

4

外貨、国内通貨以外の代替通貨で支払う。たとえば、会社 00001(基本通貨は米ドル)に対してユーロ建ての伝票を入力した場合にカナダ・ドルで支払を行う場合は、代替通貨での支払となります。代替通貨は処理オプション 5 で指定してください。

為替レートに関する考慮事項: 最新の国内通貨で支払をする場合、〈支払グループの作成〉プログラムでは、伝票日付の為替レートを使って、支払われた国内通貨建ての金額が計算されます。これは実際に支払を行った日付の為替レートとは異なる可能性があります。

自動支払の後の処理で、伝票入力時と支払入力時の為替差損益が自動的に計算されます。

5. 代替通貨コード

代替通貨金額コードを入力します。上の[支払通貨]オプションで“4”を入力した場合のみ、この処理オプションに値を入力します。

データ順序

正しく支払グループを作成するために、データ順序が次のようになっていることを確認してください。

1. 銀行勘定
2. 支払手段
3. 小切手番号
4. 通貨コード

外貨または代替通貨建て支払の書込み

〈自動支払処理〉メニュー(G0413)から〈支払グループの処理〉を選択します。

〈支払グループの処理〉プログラム(P04571)を使用して外貨建ての支払を書き込むと、伝票の合計金額を取引通貨で合算していくことにより各支払金額が計算されます。

代替通貨で支払をする場合、支払金額は次のように計算されます。

- 伝票の合計金額を取引通貨で合算する。取引通貨は国内通貨または外貨です。
- 取引通貨と支払通貨間の為替レートを使用して代替通貨建て金額を計算する。この為替レートは、為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。

たとえば、フランスの会社が 2,000.00 カナダ・ドル(CAD)建ての請求書を受け取り、代替通貨の米ドル(USD)で支払ったとします。支払金額を計算するため、次のように伝票(仕入先請求書)の金額が為替レート(1.514692)で除算されます。

$$2,000.00 \div 1.514692 = 1,320.40 \text{ USD}$$

代替通貨建ての支払は、支払見出しテーブル(F0413)に保管されます。代替通貨建て取引が含まれるため、F0413 テーブルの通貨は支払明細テーブル(F0414)の通貨とは異なります。F0414 に保管される実績為替レートには、外貨から代替通貨建て金額を計算するのに使用する為替レートが含まれています。

支払書込時にエラーが発生した場合、支払日付を入力した後メッセージが表示されます。外貨および代替通貨での支払に特有のエラー・メッセージは、「為替レートが見つかりません」です。

自動支払の通貨記号

支払を書き込む際、デフォルトの支払手段に割り当てられている印刷プログラムによって金額にドル記号(\$)がつく場合とつかない場合があります。

〈自動支払の印刷 - 標準フォーマット〉プログラム(R04572)がデフォルト支払手段に割り当てられている場合のみ、印刷した支払にドル記号がつきます。R04572 プログラムは、ドル記号を印刷するようハードコード化されています。これ以外の印刷プログラムでは、通貨記号は印刷されません。たとえば、フランスの会社の支払に支払手段 R が設定され、R04572F2 の印刷プログラムが呼び出されるとします。支払はユーロ建て金額が印刷されますが、通貨記号は表示されません。

支払手段に印刷プログラムを割り当てる際、R ではなく P で始まるプログラム ID (P04572、P0457F2 など)を指定してください。P04572 と R04572 は同じプログラムを意味しますが、実際に支払を印刷する UBE は R04572 です。

自動支払の日付と為替レート

自動支払を書き込む際、次のいずれかに基づいて為替レートを指定します。

- 支払元帳日付および対応する為替レート
- 特定の有効日付および対応する為替レート
- 伝票の為替レート

日付と為替レートは、〈支払グループの処理〉プログラム(P04571)の処理オプションで指定します。

支払元帳日付

支払の元帳日付の為替レートは、為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。為替差損益が計算される場合があります。

次の例では、支払の元帳日付は 2005 年 6 月 15 日で、その日の為替レートは 2.27542 です。

取引	外貨金額	為替レート	国内通貨金額
伝票	500.00 GBP	2.27650	1,138.25 CAD
支払	500.00 GBP	2.27542	1,137.71CAD

国内通貨建て伝票金額は 1,138.25 カナダ・ドル(CAD)で、国内通貨建て支払金額は 1,137.71 カナダ・ドルです。この結果、+ 0.54 カナダ・ドルの実現為替差益が発生します。

特定の有効日付

指定する日付に対して、為替レート・テーブル(F0015)の為替レートが使用されます。為替差損益が計算される場合があります。

次の例では、指定した有効日付は 2005 年 6 月 15 日で、その日の為替レートは 2.28551 です。

取引	外貨金額	為替レート	国内通貨金額
伝票	500.00 GBP	2.28478	1,142.39 CAD
支払	500.00 GBP	2.28551	1,142.76 CAD

国内通貨建て伝票金額は 1,142.39 カナダ・ドル(CAD)で、国内通貨建て支払金額は 1,142.76 カナダ・ドルです。この結果、-0.37 カナダ・ドルの実現為替差益が発生します。

伝票為替レート

伝票入力時時の為替レートが使用されます。伝票の国内通貨建て金額と支払金額が等しいため、為替差損益は計算されません。

次の例では、伝票の為替レートは 2.67823 です。支払にも同じ為替レートが使用されます。

取引	外貨金額	為替レート	国内通貨金額
伝票	500.00 GBP	2.67823	1,339.12 CAD
支払	500.00 GBP	2.67823	1,339.12 CAD

はじめる前に

- 外貨建て支払に対して次の AAI 項目が設定済みであることを確認します。
 - PGxxx(外貨実現為替差益)
 - PLxxx(外貨実現為替差損)『多通貨処理』ガイドの「外貨建て支払の実現為替差損益 AAI」を参照してください。
- 代替通貨建て支払に対して次の AAI 項目が設定済みであることを確認します。
 - PYxxx(代替通貨実現為替差益)
 - PZxxx(代替通貨実現為替差損)
 - R7(代替通貨仮勘定)『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て支払の実現為替差損益 AAI」および「代替通貨建て支払の仮勘定 AAI」を参照してください。
- 国独自の支払手段を設定します。詳しくは『買掛管理』ガイドの「支払手段の設定」を参照してください。

支払グループの処理(P04571)の多通貨処理オプション

表示タブ

通貨コード

支払グループ作成プログラム(R04570)で支払グループに当初割り当てられる支払通貨を指定します。この値を指定すると、この通貨コードによる支払グループのみが初期照会されます。〈追加選択基準〉フォームで選択基準を変更することができます。特定の通貨コード(データ項目 CRCD)を入力するか、すべての支払通貨を検索する(デフォルト)にはブランクのままにします。

代替通貨金額の表示

支払グループ(PCG)金額を代替通貨で表示するかどうかを指定します。これは〈支払グループ処

理)フォームに表示する目的のみで換算されます。外貨による支払を作成するには、[通貨]タブで処理オプションを設定してください。

有効な値は次のとおりです。

空白 支払グループの金額を代替通貨で表示しない

1 支払グループの金額を代替通貨で表示する

代替通貨有効日付の指定

代替通貨の為替レート有効日付を指定します。為替レートの有効日付を入力するか、システム日付を使用する(デフォルト)には空白のままにします。

通貨タブ

有効日付の指定

外貨または代替通貨建ての支払を書き込む場合に、為替レートを取り込む日付を指定します。この処理オプションが空白の場合、支払の元帳日付が使用されます。

外貨ではなく国内通貨を使って支払グループを作成する場合、支払日付の為替レートに基づいて為替差損益が自動的に計算されます。この場合、国内通貨で支払処理が行うため、外貨での支払ではありません。

注：為替レート・テーブル(F0015)に対応する為替レートが設定されていない有効日付を入力すると、伝票の為替レートが使用されるため、為替差損益はありません。

使用する為替レートの指定

外貨による支払伝票に使用する伝票の為替レートを指定します。

空白 指定した有効日付の為替レートを使用する

1 伝票の為替レートを使用する

買掛金元帳の更新

支払グループを更新する際エラーが発生しなかった場合は、〈支払明細〉レポートが印刷されます。
エラーがあった場合は、〈支払更新エラー・レポート〉にメッセージが印刷されます。

次のエラー・メッセージは外貨および代替通貨建て支払に固有のものです。

- 為替レートが見つかりません
- 支払の書込を実行してから更新を行うまでの間に為替レートを変更することはできません。

外貨または代替通貨建て支払の検討

支払を手入力した場合も自動処理した場合も、次のフォームで検討することができます。

- 仕入先元帳照会
- 支払の処理
- バッチ処理

仕入先元帳照会

〈仕入先および伝票の入力〉メニュー(G0411)から〈仕入先元帳照会〉を選択します。

伝票No.	伝票タイプ	伝票会社	請求書日付	元帳日付	支払期日	総額	未決済金額	外貨金額	外貨未決済額	支払状況	仕入先No.
3156	PV	00001	05/06/15	05/06/30	05/07/15	1,903.50		2,250.00		P	400
3176	PV	00075	05/06/15	05/06/30	05/07/15	85,641.23		65,800.00		P	400
						87,544.73					

特定の支払履歴を検討するには、伝票を選択します。[ロー]メニューから[支払実績]を選択します。

支払の処理

〈仕入先および伝票の入力〉メニュー(G0411)から〈仕入先支払照会〉を選択します。

支払タイプ	支払No.	支払日付	仕入先No.	支払金額	振込状況	支払手段	通貨コード	決済日付	銀行勘定科目No.	無効日付
PK	1246	05/08/01	4002	85,641.23	D		CAD	05/08/01	75.1110.BEAR	
PN	88711	05/06/30	4002	2,250.00			EUR		1.1110.FRANCE	
Σ				85,641.23			CAD			
Σ				2,250.00			EUR			

バッチ処理

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈支払処理〉メニュー(G0412)から〈支払の検討〉を選択します。

〈自動支払処理〉メニュー(G0413)から〈自動支払の検討〉を選択します。

選択するメニュー項目によって、〈バッチの処理〉フォームには次のうちいずれかのバッチ・タイプがデフォルト表示されます。

- M(伝票突合せを伴う手入力支払)
- W(伝票突合せを伴わない手入力支払)
- K(自動支払)

外貨および代替通貨建て支払の転記

転記する支払が手入力したものか自動処理したものにより、次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈支払処理〉メニュー(G0412)から〈支払の転記〉を選択します。

〈自動支払処理〉メニュー(G0413)から〈自動支払の転記〉を選択します。

〈支払の検討〉または〈自動支払の検討〉フォームを使用して手入力または自動処理した支払を転記することもできます。

手入力または自動処理した支払は転記する必要があります。

外貨または代替通貨建ての支払を転記すると、転記プログラム(R09801)の転記前処理では〈買掛管理固定情報〉プログラム(P0000)から買掛金集計方式が取り込まれます。集計方式が B の場合、バッチに外貨または代替通貨建て支払がないことが確認されます。外貨または代替通貨建ての支払が 1 件でもある場合、転記前処理ではバッチの買掛金集計方式が S(支払項目)に変更されます。これは、バッチ内に外貨または代替通貨建ての支払があると、集計方式 B を使って転記を行うことができないためです。

次の表は転記プログラムで実行される処理の一覧です(多通貨処理を使用しない場合も同様)。多通貨を使用している場合の支払の転記独自の情報は、[多通貨に関する考慮事項]の下を参照してください。

支払の転記によって実行される処理	多通貨に関する考慮事項
支払見出しテーブル(F0413)および支払明細テーブル(F0414)から未転記支払取引を選択する	
バッチの状況が「承認済み」であることを確認する	
取引明細テーブル(F0911)に支払額の銀行勘定レコード(貸方)を作成する	
取引明細テーブル(F0911)に支払額の買掛金勘定レコード(借方)を作成する	自動仕訳によって取引明細テーブル(F0911)で AA(国内通貨)元帳と CA(外貨)元帳に対して買掛金勘定(借方)を作成します。
為替差損益は多通貨環境以外では計算されない	外貨および代替通貨の為替差損益に対して自動仕訳を作成します。
詳細再換算は多通貨環境以外では使用されない	代替通貨元帳(XA)と、該当する場合は YA と ZA 元帳を更新し、処理オプションに〈詳細再換算〉プログラム(R11411)のバージョンを入力した場合は、別の転記レポートを作成します。
勘定残高テーブル(F0902)の残高を更新する	
取引明細テーブル(F0911)のレコードを P(転記済み)に更新する	
入金見出し(F03B13)および入金明細(F03B14)の各テーブルのレコードを D(転記済み)に更新する	
バッチ制御テーブル(F0011)のレコードを D(転記済み)に変更する	

はじめる前に

- 〈買掛管理固定情報〉プログラム(P0000)で集計方式を確認します。『多通貨処理』ガイドの「固定情報での集計方式の設定」を参照してください。
- 外貨建て支払を転記する前に、次の AAI 項目が設定済みであることを確認してください。
 - PGxxx(外貨実現為替差益)

- PLxxx(外貨実現為替差損)

『多通貨処理』ガイドの「外貨建て支払の実現為替差損益 AAI」を参照してください。

- 代替通貨での支払を転記する前に、次の AAI 項目が設定済みであることを確認してください。

- PYxxx(代替通貨実現為替差益)

- PZxxx(代替通貨実現為替差損)

『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て支払の実現為替差損益 AAI」を参照してください。

- R7(代替通貨仮勘定)

『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て支払の仮勘定 AAI」を参照してください。

支払転記時に記録される四捨五入差異

外貨または代替通貨による支払を転記すると、わずかな四捨五入差異の仕訳が作成されることがあります。この四捨五入差異は、外貨または代替通貨建ての支払を伝票に突き合わせる際、伝票の国内通貨建て金額と支払の国内通貨建て金額が異なる場合に作成されます。四捨五入によって生じるこのわずかな誤差は、為替の変動が原因ではありませんが、実現差損益勘定に記録されます。

通常、複数の伝票に対して一度にまとめて支払ったり、1 件の伝票に対して分割払いをした場合に、このような誤差が生じます。このような取引では、外貨または代替通貨から国内通貨への換算で乗算や除算を行った際、その通貨の小数点以下桁数に収まらない場合、四捨五入によって誤差が生じます。

四捨五入差異を記録するため、支払転記時に AAI 項目 PG および PL(外貨建て支払用)、PY および PZ(代替通貨建て支払用)により定義された実現差損益勘定の仕訳が自動的に作成されます。

例: 支払転記時に記録される四捨五入差異

次の例では、外貨による支払において四捨五入差異が生じています。為替レートは、1 ドル = 1.59570 カナダ・ドルです。

カナダの会社がそれぞれ 750.00 ドル(1,196.78 カナダ・ドル)の 3 件の外貨建て伝票を入力しました。カナダの会社は、2,250.00 ドル(3,590.33 カナダ・ドル)を支払いました。国内通貨建ての支払金額(3,590.33 CAD)を国内通貨建ての伝票(1,196.78 × 3 = 3,590.34 カナダ・ドル)の伝票に突き合わせると、-0.01 カナダ・ドルの四捨五入差異が記録されます。

外貨建て支払手形の処理

手形は、債務に対する支払約束を意味します。手形は、特定の期日に支払人と受取人の取引銀行との間で直接決済される支払手段です。

手形は、通貨が伝票の取引通貨と同じである限り、外貨建てでも処理できます。伝票の通貨によって、手形処理全体で使用される通貨が決まります。このため、代替通貨で手形を処理することはできません。

支払手形を処理する場合、手入力または自動支払のプログラムを使用できます。

外貨による手入力支払手形

手形を手入力する際、伝票の取引通貨が外貨の場合、〈支払入力〉フォームの[外貨]オプションがオンになります。同じフォームで[手形]オプションもオンにする必要があります。

PeopleSoft

支払入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

支払No. 2346788 前回支払 0 バッチNo. 6617

仕入先No. 4002 Aluminium de Rhone ☐ 小切手の印刷

銀行勘定科目No. 1.1110.BEAR Bear Creek National Bank

支払金額 10,000.00 備考

支払日付 05/06/28 ☒ 手形

通貨コード EUR 為替レート 1.1820331 基本 USD ☒ 外貨

レコード 1 - 1 グリッドのカスタマイズ

伝票タイプ	伝票No.	会社	支払項目	請求書No.	支払期日	外貨未決済額	外貨支払額	外貨割当可能額	外貨割当
<input checked="" type="checkbox"/>							10,000.00		

差額 10,000.00

手形を伝票の外貨建て金額と突き合わせます。手形は外貨建て金額で支払われ、銀行勘定ではなく支払手形勘定に計上されます。

外貨建て手形に対して買掛金元帳を更新すると、伝票を決済するために伝票タイプ P1 の突合せ伝票が作成されます。

外貨による自動支払手形

手形を使用して外貨による自動支払を処理するには、〈支払グループの作成〉プログラム(R04570)で伝票の外貨建て金額に基づいて支払グループを作成します。支払グループを書き込み、更新すると、外貨建て金額が記載された紙の手形が作成されます。

はじめる前に

- 手形を手入力する場合、〈支払入力〉プログラム(P0413M)の[手形入力オプションの表示]処理オプションを設定して、〈支払入力〉プログラムに[手形]オプションが表示されるようにします。
- 手形を自動的に処理する場合は、〈支払グループの作成〉プログラム(R04570)の[支払通貨]処理オプションを伝票の外貨に設定します。

参照

- 手形処理の通貨以外の情報については『買掛管理』ガイドの「支払手形の処理」

買掛金の為替差損益

為替差損益は、複数の通貨を使用した取引で発生する為替レートの変動に基づいています。為替差損益には次の2つのタイプがあります。

- 未実現為替差損益
- 実現為替差損益

未実現為替差損益が会計期間の終わりに未払の伝票、部分的にしか支払われていない伝票に基づいて計算されるのに対して、実現為替差損益は支払時に計算されます。

未実現為替差損益の計算

未決済の外貨建て請求書および伝票の未実現為替差損益を記録するには、仕訳を手入力するか自動的に作成することができます。

未実現為替差損益は、未払の請求書および伝票、または部分的にしか支払われていない請求書や伝票の未決済金額に対して計算します。複数の通貨を扱っている場合、各会計期間の終わりに未実現為替差損益を記録して未決済の外貨建て取引を再評価します。これにより、正確なキャッシュポジションを把握してキャッシュ・フローを管理することができます。

為替差損益の仕訳を自動的に作成するには、売掛未実現為替差損益レポート(R03B426)または売掛未実現為替差損益レポート(R04425)を実行して次の処理を行います。

- 未決済の外貨建て請求書または伝票の再評価
- 未実現為替差損益の分析
- 未実現為替差損益の記録

はじめる前に

- 〈為替レートの改訂〉フォームで新しい為替レートを入力します。『多通貨処理』ガイドの「逆換算方式用為替レートを設定するには」または「逆換算禁止方式用為替レートを設定するには」を参照してください。
- 基本通貨が異なる会社ごとに〈未実現為替差損益レポート〉のバージョンを作成してください。
- 次のAAIが設定されていることを確認してください。
 - PVxxx(外貨未実現為替差益)
 - PWxxx(外貨未実現為替差損)
 - RRxxxx(外貨未実現為替差損益の相手勘定)

『多通貨処理』ガイドの「外貨建て伝票の未実現為替差損益 AAI」を参照してください。

未実現為替差損益レポートの実行

〈期末処理〉メニュー(G0421)から〈未実現為替差損益レポート〉を選択します。

〈未実現為替差損益レポート〉プログラム(R04425)を実行して、未実現為替差損益を計算します。このレポートには次の項目が記載されます。

- 会社の基本通貨と各伝票の取引通貨
- 伝票番号と支払期日
- 各伝票に対して計算される当初および現行の国内通貨建て金額
- 各伝票の外貨建て金額
- 各未決済伝票の未実現為替差損益
- 伝票の割引金額
- 伝票の支払状況

レポートには、次のテーブルの情報が使用されます。

- 買掛金元帳(F0411)
- 支払明細(F0414)

複数の通貨を含めて未実現為替差損益レポートを実行した場合の合計金額は意味をなさないため、外貨総合計やその他の小計には“**NA**”(適用せず)と表示されます。これを避けるためには、異なる基本通貨を使用する各会社ごとに別のバージョンを設定してください。会社別にバージョンを設定すると、レポートのサイズが小さくなるという利点があります。

処理オプションで、為替差益のみと為替差損益両方のどちらの仕訳を作成するか指定します。この処理オプションを空白にした場合は、仕訳は作成されません。まず最初に、仕訳を作成しないで〈未実現為替差損益〉レポートを実行してください。このレポートを検討して、必要に応じて為替レートを修正します。すべての為替レートを修正するまで仕訳を作成しないでプログラムを実行し、最後に未実現為替差損益の仕訳を作成するために実行します。

未実現為替差損益の仕訳に割り当てられる伝票タイプは JX です。これは、通貨勘定の国内通貨建て金額の調整に使用できる唯一の伝票タイプです。仕訳は、1 つの会社に対して 1 つだけ作成されます。

注意:

仕訳が重複するのを避けるため、処理オプションを 1 会計期間に 2 度以上仕訳を作成しないよう設定してください。

例:外貨建て伝票の未実現為替差損益

次の例では、カナダの会社がユーロ(EUR)建て未決済伝票の未実現為替差損益を計算しています。

為替変動のため、会計期間末に未決済伝票(EUR)をカナダ・ドル(CAD)で再評価する際、未実現為替差損益が生じる可能性があります。

記述	通貨	金額	2005 年 1 月 1 日の為替レート	2005 年 1 月 31 日の為替レート
伝票(国内通貨)	CAD	1,394.25	1USD = 1.39425 EUR	
伝票(外貨)	EUR	1,000.00		
未決済伝票(国内通貨)	CAD	1,392.21		1USD = 1.39221 EUR
未実現為替差損益	CAD	+ 2.04		

2005 年 1 月 1 日に 1,000.00 ユーロの外貨建て伝票(国内通貨で 1,394.25 カナダ・ドル)を作成します。

計算: 1,000.00 EUR x 1.39425 = 1,394.25 CAD

2005 年 1 月 31 日時点でこの外貨建て伝票は未決済のため、カナダ・ドルで再評価します。

計算: 1,000.00 EUR x 1.139221 = 1,392.21 CAD

未実現為替差損益

未実現為替差損益は+2.04 カナダ・ドルです。この金額は、伝票作成時から会計期間末(伝票は未決済)までの間の為替レートの変動に基づいて計算されています。

取引金額(CA 元帳)	取引為替レート	現行為替レート	国内通貨建て金額(AA 元帳)	差益(+)/差損(-)
1,000.00 EUR	1.39425		1,394.25 CAD	
1,000.00 EUR		1.39221	1,392.21 CAD	+ 2.04

1,000.00 EUR x 1.39425(伝票日付における為替レート) = 1,394.25 CAD

1,000.00 EUR x 1.39221(会計期間末における為替レート) = 1,392.21 CAD

計算: 1,394.25 - 1,392.21 = + 2.04 CAD

処理オプション: 買掛金未実現為替差損益レポート(R04425)

基準日

1. 現行為替レートを処理する基準日を入力してください。ブランクの場合、本日日付のレートで処

理されます。

基準日

支払保留

2. 支払保留コード`Y`または`1`の仕入先をバイパスするには`1`を入力してください。空白の場合すべての仕入先が表示されます。

仕入先のバイパス

仕訳入力

3. 損益両方の仕訳を作成する場合は、`1`を入力してください。損失用の勘定科目でのみ仕訳を作成するには`2`、利益の仕訳のみの場合は`3`を入力してください。空白の場合、仕訳は作成されません。

仕訳の作成

4. 元帳日付を入力してください。空白の場合、現行期間の最終日付がデフォルトとして使用されます。

元帳日付

5. 固定情報の管理者承認の値に関係なく、「承認済み」の仕訳バッチを作成するには、`1`を入力してください。空白の場合、設定は一時変更できません。

「承認済み」状況

デフォルト

6. 仕訳に使用する元帳タイプを入力してください。空白の場合、元帳タイプ AA が使用されます。

元帳タイプ

ゼロ金額

7. 金額がゼロで単位がない仕訳明細行を作成しないようにするには、`1`を入力してください。モデルを使って仕訳を作成する際に便利です。

金額ゼロ仕訳行の削除

実現為替差損益の計算

入金と支払のどちらについて実現為替差損益を計算するかにより、次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈入金処理〉メニュー(G03B12)または〈自動入金処理〉メニュー(G03B13)から〈入金の転記〉を選択します。

〈自動支払処理〉メニュー(G0413)から〈自動支払の転記〉を選択します。

実現為替差損益を計算するには、入金および支払を転記する必要があります。実現為替差損益は、外貨または代替通貨での入金/支払を含む取引間で発生する為替レートの変動に基づいています。入金および支払を転記すると、請求書または伝票日付から入金または支払日付までの間に為替レートが変動したかどうかに基づいてシステムが為替差損益を計算します。為替レートに変動があった場合、為替差損益について仕訳が作成されます。

外貨での入金や支払では、取引で為替差損益が発生する可能性があります。この為替差損益は、支払時の外貨(取引)通貨と国内通貨の間の為替レートの変動に基づいています。為替差損益は、請求書または伝票金額に請求書または伝票入力時と支払時の為替レートの違いを乗算または除算して計算されます。

代替通貨での入金や支払では、2 種類の為替差損益が発生する可能性があります。

- 標準の為替差損益。外貨(取引)通貨と国内通貨の取引日付から入金/支払日付までの為替レート差異に基づいて計算される金額です。
- 代替通貨為替差損益。代替通貨(支払通貨)と国内通貨の為替レート差異に基づいて計算される金額です。為替の差益または差損は、次の金額の差になります。
 - 入金または支払時の代替通貨を直接国内通貨に換算した金額(実際の銀行口座からの引落し額または入金額)
 - 代替通貨による入金または支払の金額をまず外貨に換算してから国内通貨に換算した金額

実現為替差損益の伝票タイプ

実現為替差損益の伝票タイプは、売掛管理システムと買掛管理システムで異なります。売掛管理システムでは RC、買掛管理システムでは PG が使用されます。転記レポートには、伝票タイプと「実現為替差損益」という記述が表示されます。

はじめる前に

- 〈為替レートの改訂〉フォームで新しい為替レートを入力します。『多通貨処理』ガイドの「逆換算方式用為替レートを設定するには」または「逆換算禁止方式用為替レートを設定するには」を参照してください。
- 外貨建て支払に対して次の AAI 項目が設定済みであることを確認します。
 - PGxxx(外貨実現為替差益)
 - PLxxx(外貨実現為替差損)『多通貨処理』ガイドの「外貨建て支払の実現為替差損益 AAI」を参照してください。
- 代替通貨建て支払に対して次の AAI 項目が設定済みであることを確認します。
 - PYxxx(代替通貨実現為替差益)
 - PZxxx(代替通貨実現為替差損)
 - R7(代替通貨仮勘定)『多通貨処理』ガイドの「代替通貨建て支払の実現為替差損益 AAI」を参照してください。

例：外貨建て伝票および支払による実現為替差損益

フランスの会社がカナダ・ドル(外貨)建ての伝票を入力し、カナダ・ドルで支払いました。

国内通貨と外貨の間の為替変動のため、支払時に為替差損益が生じる可能性があります。

記述	通貨	金額	2005 年 1 月 1 日の 為替レート	2005 年 2 月 1 日の 為替レート
伝票(国内通貨)	EUR	717.61		
伝票(外貨)	CAD	1,000.00	1USD = 0.71761 EUR	
支払(外貨)	CAD	1,000.00		1USD = 0.71767 EUR
標準為替差損益	EUR	- 0.06		

2005 年 1 月 1 日に 1,000.00 カナダ・ドルの外貨建て伝票(国内通貨で 717.61 ユーロ)を作成しました。

計算: $1,000.00 \text{ CAD} \times 0.71761 = 717.61 \text{ EUR}$

2005 年 2 月 1 日の外貨支払額は、1,000.00 カナダ・ドル(CAD)です。

標準為替差損益

標準の為替差損益は-0.06 ユーロです。この金額は、伝票日付から支払日付の為替レートの変動に基づいています。

$1,000.00 \text{ CAD} \times 0.71761$ (伝票日付における為替レート) = 717.61 EUR

$1,000.00 \text{ CAD} \times 0.71767$ (支払日付における為替レート) = 717.67 EUR

計算: $717.61 - 717.67 = -0.06 \text{ EUR}$

例：代替通貨建て支払による実現為替差損益

次の例では、カナダの企業が伝票を外貨の米ドル(USD)で入力し、支払を代替通貨のユーロ(EUR)で行います。

為替変動のため、2 種類の為替差損益が発生する可能性があります。1 つはカナダ・ドル(CAD)と米ドル(USD)間に、もう 1 つはユーロ(EUR)、米ドル、カナダ・ドル間に発生します。

記述	通貨	金額	2005 年 1 月 1 日の 為替レート	2005 年 2 月 1 日の為替レート
伝票(国内通貨)	CAD	794.30		
伝票(外貨)	USD	500.00	1 USD = 1.58860 CAD	
支払(代替通貨)	EUR	575.07		1 USD = 1.58798 CAD 1 EUR = 1.38176 CAD 1 EUR = 0.86980 USD

記述	通貨	金額	2005 年 1 月 1 日の 為替レート	2005 年 2 月 1 日の為替レート
標準為替差損益	CAD	+ 0.31		
代替通貨為替差損益	CAD	+ 0.30		

2005 年 1 月 1 日に 500.00 米ドルの外貨建て伝票(国内通貨で 794.30 カナダ・ドル)を作成しました。

計算: $500.00 \text{ USD} \times 1.58860 = 794.30 \text{ CAD}$

2005 年 2 月 1 日に代替通貨のユーロで 575.07 ユーロ支払いしました。

伝票に突き合わせる金額を外貨(米ドル)に換算すると 500.20 ドルになります。

計算: $575.07 \text{ EUR} \times 0.86980 = 500.20 \text{ USD}$

伝票に突き合わせる国内通貨建て金額は 793.99 カナダ・ドルです。

計算: $500.00 \text{ USD} \times 1.58798 = 793.99 \text{ CAD}$

支払額を国内通貨に換算すると 794.61 カナダ・ドルになります。

計算: $575.07 \text{ EUR} \times 1.38176 = 794.61 \text{ CAD}$

標準為替差損益

標準の為替差損益は+0.31 カナダ・ドルです。この金額は、伝票日付から支払日付の為替レートの変動に基づいています。

$500.00 \text{ USD} \times 1.58860$ (伝票日付における為替レート) = 794.30 CAD

$500.00 \text{ USD} \times 1.58798$ (支払日付における為替レート) = 793.99 CAD

計算: $794.30 - 793.99 = +0.31 \text{ CAD}$

代替通貨為替差損益

代替通貨為替差損益は+0.30 カナダ・ドル(CAD)です。この金額は支払日付における為替レートを使用して計算されます。これは、代替通貨を直接国内通貨に換算した金額と、まず外貨に換算してから国内通貨に換算した金額の差額です。

$575.07 \text{ EUR} \times 1.38176 = 794.61 \text{ CAD}$

$(575.07 \text{ EUR} \times 0.86980 = 500.20 \text{ USD}) \times 1.58798 = 794.31 \text{ CAD}$

計算: $794.61 - 794.31 = +0.30 \text{ CAD}$

買掛管理システムの多通貨レポート

買掛管理システムには、多通貨処理用に標準レポートと分析レポートの両方があります。選択するレポートによって、未決済買掛金明細情報を国内通貨と外貨で検討したり、年齢調べ金額を取引通貨で検討することができます。

これらの多通貨レポートの総額は通貨に関係なく合計されるため、一度に複数の通貨を使って印刷する場合は意味をなさないことに注意してください。これを避けるためには、レポートにいくつかのバージョンを設定して、処理オプションとデータ選択で1つのレポートに1つの通貨のみ指定してください。

参照

- データの問題および不整合を見つける方法については『買掛管理』ガイドの「整合性レポート」。整合性レポートは、多通貨を使用しているかどうかにかかわらず便利なレポートです。

多通貨用未決済買掛金明細レポート

〈買掛管理レポート〉メニュー(G0414)から〈未決済買掛金(外貨建て)〉を選択します。

仕入先の未決済買掛金明細を複数の通貨で検討するには、〈未決済買掛金(外貨建て)〉レポートを印刷します。このレポートの外貨建て合計額については、合計行の直前(一番最後の明細行)のレコードの通貨と同じ小数点以下桁数が使われます。

〈未決済買掛金(外貨建て)〉レポートには次の6種類あります。

レポート	記述
通貨明細 - 外貨と国内通貨(R04427A)	買掛金元帳(F0411)に基づいて外貨と国内通貨の両方のレコードを持つ未決済伝票の明細を見る場合に印刷します。
通貨明細 - 年齢調べ付き(R04427B)	買掛金元帳に基づいて外貨建て金額がある未決済買掛金の明細を見る場合に印刷します。外貨建ての取引がない場合は、国内通貨で印刷されます。 特定の日付で未決済買掛金の年齢調べを行うには、処理オプションを設定してください。 注: 仕入先が複数の通貨を使用している場合、仕入先、会社、レポートの合計には通貨が複数含まれているため意味をなさないことに注意してください。これを避けるには、毎回データ選択で異なる通貨コードを指定した上でレポートを複数回実行します。仕入先、会社、レポートについてそれぞれ指定した通貨で合計が印刷されます。

レポート	記述
未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き (R04427C)	買掛金元帳に基づいて特定の年齢調べ日付と方法で外貨建ての未決済買掛金の明細を見る場合にこのレポートを印刷します。外貨建ての取引がない場合は、国内通貨で印刷されます。 特定の日付で未決済買掛金の年齢調べを行うには、処理オプションを設定してください。
基準日通貨明細 - 外貨と国内通貨 (R04427D)	基準日買掛金元帳テーブル(F0411A)に基づいている点を除けば「通貨明細 - 外貨および国内通貨」レポート(R04427A)と同じです。 処理オプションも「通貨明細 - 外貨および国内通貨」レポート(R04427A)と同じです。
基準日通貨明細 - 年齢調べ付き (R00427E)	基準日買掛金元帳テーブルに基づいている点を除けば「通貨明細 - 年齢調べ付き」レポート(R04427B)と同じです。 年齢調べに使う基準日は、買掛金基準日ワークテーブル(F0490)の F0411A レコードに関連付けられている基準日です。 処理オプションも「通貨明細 - 年齢調べ付き」レポート(R04427B)と同じです。
基準日未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き (R04427F)	基準日買掛金元帳テーブルに基づいている点を除けば「未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き」レポート(R04427C)と同じです。 年齢調べに使う基準日は、F0490 ワークテーブルの F0411A レコードに関連付けられている基準日です。 処理オプションも「未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き」レポート(R04427C)と同じです。

処理オプション: 通貨明細 - 外貨と国内通貨(R04427A)

印刷

1. 支払保留コードが Y の仕入先を印刷しないようにするには、“1”を入力してください。ブランクの場合、すべての仕入先が印刷されます。

1. 支払の保留

ブランク = すべての仕入先を印刷

1 = 保留になっている仕入先を除外する

保留仕入先のバイパス

処理オプション:通貨明細 - 年齢調べ付き(R04427B)

年齢調べ

1. 支払保留コードが Y の仕入先を表示しない場合は、“1”を入力してください。空白にするとすべての仕入先が表示されます。

1. 年齢調べ設定

空白 = 処理オプションを使用

1 = 買掛管理固定情報を使って支払期日に基づいて年齢調べを行う

支払保留仕入先の非表示

2. 年齢調べ日付

3. 日付タイプ

空白 = 支払期日

D = 支払期日

G = 元帳日付

I = 請求書日付

4. 年齢調べ方法

空白 = 経過日数

1 = 経過日数

2 = 会計期間

3 = カレンダー月

5. 経過日数

年齢調べカテゴリ 1

年齢調べカテゴリ 2

年齢調べカテゴリ 3

年齢調べカテゴリ 4

6. マイナス金額の年齢調べ

空白 = マイナス金額を現行年齢調べカラムに適用する

1 = マイナス金額も年齢調べを行う

印刷

1. 買掛固定情報の設定を使用する場合は、“1”を入力してください。空白にすると処理オプションの設定が使用されます。

1. 支払の保留

blank = すべての仕入先を印刷

1 = 保留になっている仕入先を除外する

固定情報の設定を使用

2. 未決済残高の年齢調べを行う基準日を入力してください。blankの場合、現行日付がデフォルトとして使用されます。

2. 年齢調べ日付

3. 日付タイプ

blank = 支払期日

D = 支払期日

G = 元帳日付

I = 請求書日付

4. 年齢調べ方法

blank = 経過日数

1 = 経過日数

2 = 会計期間

3 = カレンダー月

5. 経過日数

年齢調べ方法

年齢調べカテゴリ 1

年齢調べカテゴリ 2

年齢調べカテゴリ 3

年齢調べカテゴリ 4

6. マイナス金額の年齢調べ

blank = マイナス金額を現行年齢調べカラムに適用する

1 = マイナス金額も年齢調べを行う

年齢調べ(2)

1. 次の年齢調べカテゴリ情報から1つ選択してください(方法1を指定した場合のみ)

2. マイナス金額の年齢調べを行うには"1"を入力してください。blankの場合、マイナス金額は現行カラムに適用されます。

開始

期間

期間

期間

2. マイナス金額の年齢調べを行うには“1”を入力してください。ブランクの場合、マイナス金額は現行カラムに適用されます。

マイナス金額の年齢調べ

処理オプション: 未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き(R04427C)

年齢調べ

1. 支払保留コード“Y”または“1”の仕入先を表示しない場合は“1”を入力してください。ブランクの場合すべての仕入先が表示されます。

1. 年齢調べ設定

ブランク = 処理オプションを使用

1 = 買掛管理固定情報を使って支払期日に基づいて年齢調べを行う

仕入先の非表示

2. 年齢調べ日付

3. 日付タイプ

ブランク = 支払期日

D = 支払期日

G = 元帳日付

I = 請求書日付

4. 年齢調べ方法

ブランク = 経過日数

1 = 経過日数

2 = 会計期間

3 = カレンダー月

5. 経過日数

年齢調べカテゴリ 1

年齢調べカテゴリ 2

年齢調べカテゴリ 3

年齢調べカテゴリ 4

6. マイナス金額の年齢調べ

blank = マイナス金額を現行年齢調べカラムに適用する

1 = マイナス金額も年齢調べを行う

印刷

1. 買掛管理固定情報の年齢調べの設定を使用するには“1”を入力してください。blankの場合、処理オプションの値が使用されます。

1. 支払の保留

blank = すべての仕入先を印刷

1 = 保留になっている仕入先を除外する

固定情報の設定を使用

2. 未決済残高の年齢調べをする基準日を入力してください。blankの場合、現行日付がデフォルトとなります。

2. 年齢調べ日付

3. 日付タイプ

blank = 支払期日

D = 支払期日

G = 元帳日付

I = 請求書日付

4. 年齢調べ方法

blank = 経過日数

1 = 経過日数

2 = 会計期間

3 = カレンダー月

5. 経過日数

年齢調べ方法

年齢調べカテゴリ 1

年齢調べカテゴリ 2

年齢調べカテゴリ 3

年齢調べカテゴリ 4

6. マイナス金額の年齢調べ

年齢調べ詳細

1. 次の年齢調べカテゴリ情報を入力してください(方法 1 のみ)
2. マイナス金額の年齢調べを行うには“1”を入力してください。ブランクの場合、マイナス金額は現行カラムに適用されます。

開始:

終了:

終了:

終了:

2. マイナス金額の年齢調べを行うには、“1”を入力してください。ブランクの場合、現行残高に含まれます。

マイナス金額の年齢調べ:

支払オプション

1. レポートの当初金額合計に支払金額を含めるには、“1”を入力してください。ブランクの場合、当初伝票金額の合計のみ印刷されます。このオプションは支払情報を印刷する場合のみ有効です。

支払額を合計に含める:

多通貨用未決済買掛金明細レポートのデータ順序

レポートの合計は次の順序で表示されます。順序は変更しないでください。

1. 会社
2. 名称
3. 住所番号
4. 通貨コード

多通貨用未決済買掛金集計レポート

〈買掛管理レポート〉メニュー(G0414)から〈未決済買掛金集計レポート〉を選択します。

〈未決済買掛金集計〉レポートには次の 4 種類あり、そのうち 2 種類のレポートが多通貨処理で使用されます。

- 買掛金集計レポート(通貨) (R04413A)
- 基準日買掛金集計レポート(通貨) (R04413D)

これらの AAI 項目の検索順序は同じです。

〈未決済買掛金集計レポート〉には、未決済の伝票残高および年齢調べについての情報が印刷されます。伝票の年齢調べをするための日付と、集計レポートに表示する年齢調べカテゴリを指定してください。目的に応じて次のいずれかを使って年齢調べ方法を設定します。

- 買掛管理固定情報。年齢〈買掛管理固定情報〉プログラム(P0000)に基づいて自動的に年齢調べが行われます。年齢調べレポートのカラムに対して各期間日数を指定します。たとえば 30、60、90、120、それ以上というように指定します。
- 処理オプション。処理オプションに基づいて自動的に年齢調べが行われます。この処理オプションにより、〈買掛管理固定情報〉プログラムで指定した報告期間日数が一時変更されます。年齢調べは、支払期日、請求書日付、元帳日付別に行うか、または次のいずれかの年齢調べ方法を指定できます。
 - 経過日数
 - 会計期間
 - カレンダー

処理オプション: 外貨建て買掛金集計(R04413A)

年齢調べ

1. 買掛管理固定情報の設定を使用するには“1”を入力してください。空白の場合、処理オプションの値が使用されます。

1. 年齢調べ設定

空白 = 処理オプションを使用

1 = 買掛管理固定情報を使って支払期日に基づいて年齢調べを行う

固定情報の設定を使用

2. 未決済残高の年齢調べをする基準日を入力してください。空白の場合現行日付がデフォルトとなります。

2. 年齢調べ日付

3. 日付タイプ

空白 = 支払期日

D = 支払期日
G = 元帳日付
I = 請求書日付

4. 年齢調べ方法
blank = 経過日数
1 = 経過日数
2 = 会計期間
3 カレンダー月
5. 経過日数

開始

5. 次の年齢調べカテゴリ情報を入力してください(方法 1 のみ)。
経過日数:

年齢調べカテゴリ 1

年齢調べカテゴリ 2

年齢調べカテゴリ 3

6. マイナス金額の年齢調べを行う方法を指定してください。
blank = 現行の残高に含める(デフォルト)
1 = 年齢調べに含める

年齢調べカテゴリ 4

6. マイナス金額の年齢調べ
blank = マイナス金額を現行年齢調べカラムに適用する
1 = マイナス金額の年齢調べを行う

マイナス金額の年齢調べ

印刷

1. 保留支払コードがYの仕入先を印刷しない場合は、“1”を入力してください。blankの場合、すべての仕入先が印刷されます。

1. 支払の保留
blank = すべての仕入先を印刷
1 = 保留になっている仕入先を除外する

仕入先の印刷

多通貨用未決済買掛金集計レポートのデータ順序

レポートの合計は次の順序で表示されます。順序は変更しないでください。

1. 会社
2. 住所番号
3. 通貨コード

承認者別買掛金明細 – 外貨年齢調べ付き

〈その他の伝票入力方式〉メニュー(G04111)から〈伝票明細レポート〉を選択します。

〈伝票明細〉レポートには次の 3 種類あり、そのうち 1 種類のレポートが多通貨処理で使用されます。

〈承認者別買掛金明細-外貨年齢調べ付き〉レポート(R04428)には、未決済の外貨建て年齢調べ金額が承認者番号別に印刷され、その未決済金額の支払期日および費用仮勘定も記載されています。このレポートは、〈未決済買掛金明細 – 外貨年齢調べ付き〉レポート(R04427C)に似ています。

処理オプション:承認者別買掛金明細 – 外貨年齢調べ付き(R04428C)

年齢調べタブ

1. 年齢調べ設定

年齢調べの処理オプションではなく一般会計固定情報テーブル(F0009)の設定を取り込みます。有効な値は次のとおりです。

ブランク

処理オプションの設定に基づいて年齢調べを行う

1

買掛管理固定情報の経過日数を使って支払期日に基づいて取引の年齢調べを行う

2. 年齢調べ日付

年齢調べを行う未決済残高の日付を指定します。処理オプションの日付と伝票の日付を比較して、各取引が該当する年齢調べカテゴリが決定されます。処理オプションがブランクの場合、システム日付が使用されます。

3. 日付タイプ

処理オプションを使って年齢調べを行うよう設定した場合、伝票のどの日付を使って未決済残高の年齢調べを行うかを指定します。この日付と年齢調べ日付を比較して、各取引が該当する年

年齢調べ期間が決定されます。有効な値は次のとおりです。

blankまたは D
支払期日

G
元帳日付

I
請求書日付

4. 年齢調べ方法

処理オプションの設定に基づいて年齢調べを行う場合、年齢調べに使用する期間を指定します。

買掛管理固定情報の設定に基づいて年齢調べを行うよう指定した場合、この処理オプションは無視されます。有効な値は次のとおりです。

blankまたは 1
経過日数

2
会計期間

3
カレンダー月

年齢調べカテゴリ 1

年齢調べの設定方法を処理オプションで指定し、経過日数で年齢調べを行うよう指定した場合、他の 3 つの処理オプションと組み合わせて経過日数間隔を指定します。たとえば、これらの処理オプションで指定した日数が-30、0、30、60 の場合、レポートの年齢調べカラムは現行、1-30、31-60、60〜になります。

買掛管理固定情報に基づいて年齢調べを行うよう最初の処理オプションで指定した場合、または年齢調べ方法が会計期間あるいはカレンダー月の場合、この処理オプションは無視されます。

年齢調べカテゴリ 2

年齢調べの設定方法を処理オプションで指定し、経過日数で年齢調べを行うよう指定した場合、他の 3 つの処理オプションと組み合わせて経過日数間隔を指定します。たとえば、これらの処

理オプションで指定した日数が-30、0、30、60 の場合、レポートの年齢調べカラムは現行、1-30、31-60、60〜になります。

買掛管理固定情報に基づいて年齢調べを行うよう最初の処理オプションで指定した場合、または年齢調べ方法が会計期間あるいはカレンダー月の場合、この処理オプションは無視されます。

年齢調べカテゴリ 3

年齢調べの設定方法を処理オプションで指定し、経過日数で年齢調べを行うよう指定した場合、他の 3 つの処理オプションと組み合わせて経過日数間隔を指定します。たとえば、これらの処理オプションで指定した日数が-30、0、30、60 の場合、レポートの年齢調べカラムは現行、1-30、31-60、60〜になります。

買掛管理固定情報に基づいて年齢調べを行うよう最初の処理オプションで指定した場合、または年齢調べ方法が会計期間あるいはカレンダー月の場合、この処理オプションは無視されます。

年齢調べカテゴリ 4

年齢調べの設定方法を処理オプションで指定し、経過日数で年齢調べを行うよう指定した場合、他の 3 つの処理オプションと組み合わせて経過日数間隔を指定します。たとえば、これらの処理オプションで指定した日数が-30、0、30、60 の場合、レポートの年齢調べカラムは現行、1-30、31-60、60〜になります。

買掛管理固定情報に基づいて年齢調べを行うよう最初の処理オプションで指定した場合、または年齢調べ方法が会計期間あるいはカレンダー月の場合、この処理オプションは無視されます。

6. マイナス金額の年齢調べ

マイナス金額の年齢調べの方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

現行年齢調べカラムに含める

1

マイナス金額も年齢調べに含める

1. 支払の保留

支払が保留になっている仕入先を除外するかどうかを指定します。保留状況は仕入先マスター (F0401)の保留支払コードで指定されています。有効な値は次のとおりです。

ブランク

すべての仕入先を印刷する

1

支払が保留になっている仕入先を除外する

買掛管理システムのその他の多通貨レポート

レポート	記述
仕入先分析レポート(R04602)	〈仕入先分析レポート〉を印刷する前に、処理オプションで金額を表示する通貨を指定します。為替レートが見つからない場合は、レポートの金額として* (アスタリスク) が印刷されます。
売掛金/買掛金相殺レポート - 明細 (R03B466)	〈売掛金/買掛金相殺レポート - 明細〉には、顧客および仕入先別の取引と通貨別の年齢調べが印刷されます。このレポートの外貨建て金額または国内通貨のみの金額を検討することができます。

多通貨仕訳

多通貨仕訳は外貨建ての取引であり、会社と関連付けられた基本通貨とは異なる通貨で入力されます。外貨で仕訳を入力すると、国内通貨建ての金額が計算されます。入力時に〈仕訳入力〉フォームで一時変更しない限り、為替レートは為替レート・テーブル(F0015)から取り込まれます。

外貨建て金額は CA(通貨金額)元帳に、国内通貨金額は AA(実績金額)元帳に書き込まれます。詳細再換算を使用する場合は、XA(代替通貨)元帳にも取引が作成されます。元帳タイプは、各取引によって更新される元帳を示します。

多通貨バッチ合計

データ入力が柔軟にできるように、同じバッチに異なる通貨の取引を入力することができます。売掛管理、買掛管理、一般会計のそれぞれの固定情報でバッチ制御を必須に設定すると、仕訳の借方金額がバッチ合計に加えられます。バッチの合計金額は、通貨の種類に関係なく合計されます。

同じバッチに異なる通貨の請求書、伝票、仕訳を入力した場合、通貨に合わせた小数点表記の調整はされません。そのためバッチ合計は意味をなしません。バッチの合計金額を意味のある金額にするには、通貨ごとにバッチを作成してください。

小数点以下桁数が異なる通貨を含むバッチの予想合計を出すには、金額を小数点なしで合計した値を〈バッチ制御〉フォーム(P0011)の[予想合計]フィールドに入力します。

たとえば、同じバッチに 10,535.00 ユーロの取引と 16,433,500 円の取引を入力したとします。すると、ユーロの小数点位置を無視してこの 2 つの金額が加算されるため、合計金額は意味をなしません。〈バッチ制御〉フォームの[実際の入力合計]フィールドに表示される金額は 17,487,000 (1053500+16433500) です。

〈バッチ制御〉フォームの[実際の入力合計]フィールドには、データ辞書項目 AICU(入力合計)に基づいた小数点が表示されます。この例の数字を使うと、項目 AICU の[表示小数点以下桁数]フィールドを 0 に設定した場合、17,487,000 が表示されます。このフィールドを 2 に設定した場合は、174,870.00 となります。

外貨建て仕訳の入力

外貨建て仕訳は、会社と関連付けられた基本通貨とは異なる通貨で入力される取引です。

外貨建て仕訳入力時に〈仕訳入力〉フォームに表示される 2 つの通貨コード・フィールドは次のとおりです。

- 基本通貨。仕訳の第 1 行目の勘定科目コードに関連付けられた会社により、取引(および伝票会社)の基本(国内)通貨が決まります。
- 通貨。仕訳の第 1 行目の勘定科目コードにより、次のように取引通貨が決まります。
 - 非通貨勘定の場合、取引通貨は勘定科目に関連付けられた会社の通貨と同じになります。
 - 通貨勘定の場合、取引通貨は勘定科目に割り当てられた通貨になります。

この 2 つの通貨フィールドに異なる通貨コードが入力されていれば、その仕訳は外貨建てです。

▶ 外貨建ての仕訳を入力するには

〈仕訳入力、レポート、照会〉メニュー(G0911)から〈仕訳入力〉を選択します。

1. 〈仕訳入力の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

仕訳入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

バッチNo. 6650 ☐ モデル ☐ % ☐ 逆仕訳

伝票タイプ/No./会社 00001 元帳日付 05/06/30

摘要 Interest earned 元帳タイプ AA USD

通貨 USD 為替レート 基本通貨 USD ☐ 外貨

レコード 1 - 3 グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

<input type="checkbox"/>	勘定科目No.	金額	勘定科目名	補助元帳	補助元帳タイプ	補助元帳名	備考
<input type="checkbox"/>	1.1110.FIB		First Interstate Bank				
<input type="checkbox"/>	9.9120		Interest Income				

差異

2. 〈仕訳入力〉で、見出しのフィールドに値を入力します。

- 会社
- 元帳日付
- 説明

3. 次のフィールドに外貨を入力します。

- 通貨

[元帳タイプ]フィールドが CA に変更され、見出しの[外貨]オプションがオンになります。
グリッド行に[外貨金額]フィールドが表示されます。

このフィールドをblankにすると、最初の仕訳行で指定された勘定科目の通貨が使用されます。

4. スポット・レートを使用する場合、次のフィールドに値を入力します。

- 為替レート

このフィールドをblankにすると、為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが自動的に取り込まれます。

5. グリッドのフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述 通貨	<p>用語解説</p> <p>取引通貨を示すコード。〈通貨コードの指定〉フォームで設定されているすべての通貨を使用することができます。</p> <p>注: 通貨別の転記が実行可能な場合、AA および CA 元帳タイプのみに影響します。</p>
為替レート	<p>外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。</p> <p>このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。</p>

外貨建て仕訳の関連タスク

通貨コードおよび為替レートの変更	<p>既存の仕訳の通貨コードまたは為替レートを変更することはできません。代わりに、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕訳が未転記の場合、〈仕訳の処理〉フォームでその仕訳を削除し、正しい通貨コードと為替レートで新しい仕訳を入力する 仕訳が転記済みの場合、それを無効にしてから正しい通貨コードと為替レートで新しい仕訳を入力する
外貨建て仕訳を無効にする	<p>外貨建て仕訳を無効にすると、元帳タイプ AA (実績金額) と CA (外貨金額) に逆仕訳が作成されます。</p>
外貨建て仕訳の入力	<p>元帳タイプが外貨(CA)のモデル仕訳を入力することはできません。モデルには元帳日付が含まれていないため、システムが CA 元帳を作成できません。元帳日付は為替レートを取り込むのに必要です。</p> <p>モデル仕訳は国内通貨のみで入力できます。</p>
税付き外貨建て仕訳の入力	<p>税付きの外貨建て仕訳を入力するには、〈税付き仕訳入力〉プログラム(P09106)を使用します。P09106 プログラムの多通貨フィールドは、〈仕訳入力〉プログラム(P09111)と同じです。</p>

参照

- 〈税付き仕訳入力〉フォームの通貨以外の情報については『Tax Reference (税リファレンス)』ガイドの「Entering Journal Entries (税付き仕訳入力)」

PeopleSoft®

仕訳入力

OK

削除

キャンセル

フォーム

ロー

ツール

バッチNo.

5903

モデル

%

逆仕訳

伝票タイプ/No./会社

JE

3771

00001

元帳日付

05/06/30

摘要

Record rent adjustment

元帳タイプ

CA

EUR

通貨

EUR

為替レート

1.1820331

基本通貨

USD

☒ 外貨

Grid Format Name1

	<input checked="" type="checkbox"/>	勘定科目No.	外貨金額	勘定科目名	補助元帳	補助元帳タイプ	補助元帳名	備考
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1.1110.BEAR	50.00	Bear Creek National Bank				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	3.8350	50.00	Rent Expense				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

差異

仕訳入力

バッチNo.
☐ モデル
 ☐ %
 ☐ 逐仕訳

伝票タイプ/No./会社
 元帳日付

摘要
 元帳タイプ

通貨 為替レート
 基本通貨 ☐ 外貨

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	勘定科目No.	金額	勘定科目名	補助元帳	補助元帳 タイプ	補助元帳名	備考
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1.1110.BEAR	42.30	Bear Creek National Bank				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	3.8350		42.30 Rent Expense				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

差異

多通貨バッチ仕訳処理

多通貨バッチ仕訳を処理するには、〈仕訳バッチ処理〉プログラム(R09110Z)が仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)から取り込む情報のタイプを理解する必要があります。通貨モードと通貨金額フィールドの関係と金額の計算方法は、入力する取引のタイプによって異なります。

バッチ仕訳処理に加えて、オフライン処理や PC 仕訳アップロード処理を使用しても仕訳バッチを処理できます。

バッチ仕訳用の金額、為替レートおよび通貨モード・フィールドのガイドライン

多通貨環境でバッチ仕訳を処理する際、国内通貨および外貨建て取引の金額、為替レート、通貨モードの入力については次のガイドラインに従ってください。

取引タイプ	記述
国内通貨	取引の通貨コード(最初の仕訳行の通貨コード(VNCRCD)の値)が会社の通貨コードと同じ場合は、その取引は国内通貨建て取引です。 金額フィールド(VNAA)に取引金額を入力し、通貨モード・フィールド(VNCRRM)に"D"と入力します。為替レートは入力しないでください。
外貨	取引の通貨コード(最初の仕訳行の通貨コード(VNCRCD)の値によって識別)が会社の通貨コードと異なる場合は、その取引は外貨建て取引です。 通貨金額フィールド(VNACR)に取引金額を入力し、通貨モード・フィールド(VNCRRM)に"F"と入力します。国内通貨金額は、為替レート(VNCRR)に基づいて計算されます。
外貨建て取引の国内通貨側	取引の通貨コード(最初の仕訳行の VNCRCD の値によって識別)が会社の通貨コードと異なるが、金額フィールド(VNAA)に金額が含まれている場合は、その取引は外貨建て取引です。 通貨モード・フィールド(VNCRRM)に"F"と入力します。外貨金額は、為替レート(VNCRR)に基づいて計算されます。
通貨モード 3 を使用した外貨および国内通貨建て取引	外貨金額と国内通貨金額の両方がわかっている場合は、通貨モード・フィールド(VNCRRM)に"3"と入力し、金額フィールド(VNAA)と通貨金額フィールド(VNACR)の両方に金額を入力することで、システムによる計算をバイパスできます。為替レート・フィールド(VNCRR)が空白の場合、為替レートはこの 2 つの金額に基づいて計算されます。

参照

- F0911Z1 テーブルの通貨以外の必須フィールドを含む、バッチ仕訳処理の詳細については『一般会計』ガイドの「バッチ仕訳処理」
- バッチ仕訳のその他の処理方法については『一般会計』ガイドの「仕訳のオフライン処理」

F0911Z1 テーブルで必須の多通貨フィールド

バッチ仕訳を処理する前に、仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)で必須の多通貨フィールドを次の表で確認してください。

フィールドによっては、ブランクが有効な値となることもあります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
通貨コード	VNCRCD	文字	3	<p>通貨コード・テーブル(F0013)に存在する値を入力する必要があります。</p> <p>値を入力すると、取引のすべての行の最初の仕訳行の値が使用されます。後続行の値は無視されます。たとえば、行 1 の VNCRCD フィールドが CAD であり、行 2 の VNCRCD フィールドが EUR である場合、EUR は無視され、取引全体に CAD が使用されます。</p> <p>ブランクの場合は、最初の仕訳行に割り当てられている会社の通貨コードが使用されます。</p> <p>注: 仕訳に含まれる行数に関係なく、1 件の仕訳に割り当てられるのは 1 つの通貨コードのみです。</p>
通貨モード	VNCRRM	文字	1	<p>取引が国内通貨であるか、外貨建てであるかを示すコード。このフィールドは、通貨コード(VNCRCD)、金額(VNAA)、通貨金額(VNACR)、為替レート(VNCRRL)の各フィールドと組み合わせて、取引に必要な情報を計算するために使用されます。</p> <p>取引のその他の情報に応じて、“D”(国内通貨)、“F”(外貨)、“3”(国内通貨および外貨)を入力します。3を入力する場合は、国内通貨と外貨の両方を入力する必要があります。システムによる計算は行われません。</p> <p>このフィールドがブランクの場合、値は取引のその他の情報によって決定され、フィールドは仕訳の処理時に更新されます。</p> <p>注: 仕訳に含まれる行数に関係なく、1 件の仕訳に割り当てられるのは 1 つの通貨モードのみです。</p>
外貨金額	VNACR	数字	15	<p>通貨コード(VNCRCD)が会社固定情報テーブル(F0010)に定義されていて、会社に割り当てられた通貨コードと異なる場合は、このフィールドにのみ取引金額を入力します。データベースと同じ形式で金額を入力します。データベースによって、小数点以下桁数が指定できる場合とできない場合があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	記述
為替レート	VNCRR	数字	15	<p>提供されている情報に応じて、国内通貨または外貨建ての金額を計算するために使用されます。</p> <p>このフィールドがblankで、通貨モード(VNCRRM)が3でない場合は、為替レート・テーブル(F0015)の為替レートが使用されます。このテーブルに設定されているレートを一時変更するか、またはテーブルに為替レートがない場合は、このフィールドに値を入力します。</p> <p>〈仕訳入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P0900049)の処理オプションで許容度チェックをオンにした場合、入力した為替レートがシステムによって検証されます。オンにしていない場合は為替レートは検証されません。</p> <p>注: 仕訳に含まれる行数に関係なく、1 件の仕訳に割り当てられるのは 1 つの為替レートのみです。</p>
元帳タイプ	VNLT	文字	2	<p>このフィールドはblankにするか、AA またはユーザー定義コード 00/LT で設定されている CA 以外の元帳タイプを入力することができます。このフィールドには CA は入力しないでください。</p> <p>通貨コード、通貨モード、金額の各フィールドに基づいて、取引が外貨建てであるかどうかは判別されます。</p> <p>注: 仕訳に含まれる行数に関係なく、1 件の仕訳に割り当てられるのは 1 つの元帳タイプのみです。</p>

多通貨仕訳の転記

〈仕訳入力、レポート、照会〉メニュー(G0911)から〈仕訳の転記〉を選択します。

多通貨仕訳を入力、検討、承認した後、総勘定元帳に転記します。転記プログラムは、取引明細テーブル(F0911)から未転記仕訳を選択して勘定残高テーブル(F0902)に転記し、F0911 テーブルの取引の転記コードを P に更新します。

次の表は転記プログラムで実行される処理の一覧です(多通貨処理を使用しない場合も同様)。多通貨環境における会計取引の転記独自の情報については、[多通貨に関する考慮事項]の下を参照してください。

転記によって実行される処理	多通貨に関する考慮事項
転記データの選択	CA(外貨)元帳の外貨建て金額を選択して転記します。
情報の確認とエラー処理の実行	<p>バッチに会社間仕訳が含まれているかどうかにかかわらず、会社間決済が多通貨環境用に正しく設定されていることを確認します。</p> <p>必要に応じて、詳細再換算の設定も確認してください。</p>
自動仕訳の作成	<p>会社間決済に必須である自動仕訳の取引を作成します。</p> <p>会社間決済が必須である元帳の決定には、元帳タイプ・マスター(F0025)が使用されます。</p>

転記によって実行される処理	多通貨に関する考慮事項
転記済みコードの更新	
税テーブル(F0018)の更新	
バッチ状況の更新	
F0911 テーブルのフィールドの更新	多通貨会社間調整仕訳の場合、取引明細テーブル(F0911)の行拡張コード・フィールドがAMに更新されます。
処理オプションで指定されたプログラムの実行	<p>実行を指定した場合、〈詳細再換算〉プログラム(R11411)を実行して、XA 元帳、および該当する場合は YA と ZA 元帳を更新します。</p> <p>処理オプションで〈詳細再換算〉プログラムのバージョンを指定してください。</p>

転記プログラムにより生成されるレポートは次のとおりです。

レポート	記述
転記詳細エラー・レポート	外貨建て取引について、貸借が一致していない AA および CA 元帳金額が記載されます。AA 金額は、仕訳の金額を国内金額で表したものです。CA 金額は、仕訳の金額を外貨で表したものです。AA 元帳、CA 元帳ともに貸借が一致している必要があります。
転記レポート	<p>外貨建て取引について、CA 元帳金額および換算済みの AA 元帳金額が記載されます。さらに、CA 元帳金額に対する通貨コードと、AA 元帳金額に対する会社の国内通貨もリストされます。</p> <p>詳細再換算を使用している場合は、〈仕訳の転記〉レポートが個別に作成されます。</p>

勘定残高テーブルでの残高の保存方法

勘定残高テーブル(F0902)での金額の保存方法は、次の条件によって異なります。

- 通貨別に勘定残高を転記するのか、集計残高を転記するのか
- 転記先の勘定科目が通貨勘定(通貨指定)か非通貨勘定か

次の例はその違いを示しています。この例では、会社 100 の基本通貨は米ドル(USD)です。

例:通貨別残高

勘定科目	会社	元帳タイプ	金額	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
1.1210	100	AA	4,502.00	EUR	USD
1.1210	100	CA	5,000.00	EUR	EUR
1.1210	100	AA	1,917.00	CAD	USD
1.1210	100	CA	3,000.00	CAD	CAD
1.1210	100	AA	3,500.00	USD	USD
1.1210	100	CA			

注:

AA レコードが基本(会社)通貨建ての場合、対応する CA レコードは存在しません。

例:集計残高

勘定科目	会社	元帳タイプ	金額	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
1.1210	100	AA	6,419.00	blank	USD
1.1210	100	CA	8,000.00	blank	USD

例:通貨勘定

勘定科目	会社	元帳タイプ	金額	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
1.1110	100	AA	4,502.00	EUR	USD
1.1110	100	CA	5,000.00	EUR	EUR

例:非通貨勘定

勘定科目	会社	元帳タイプ	金額	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
1.1210	100	AA	4,502.00	blank	USD
1.1210	100	CA	5,000.00	blank	USD

多通貨会社間決済

基本通貨の異なる同じ傘下の会社間で取引を行っている場合、会社間の残高を一致させる仕訳を作成して転記しないと、会社間で貸借不一致が起こります。この貸借一致仕訳により、各会社の残高がゼロ(借方と貸方が一致)になります。

たとえば、フランス、カナダ、米国に会社がある企業を例にとります。各会社の基本通貨はそれぞれユーロ(EUR)、カナダ・ドル(CAD)、米ドル(USD)だとします。米ドル建ての取引を作成して、フランスの会社(EUR)およびカナダの会社(CAD)の勘定科目に配賦します。仕訳は会社や通貨を無視して配賦されるため、多通貨会社間決済に対して貸借一致仕訳を作成する必要があります。

これにより、基本通貨が異なるさまざまな会社の請求書、伝票、仕訳を入力することができます。転記プログラムによって、通貨調整と会社間決済自動仕訳が作成されます。

基本通貨の異なる会社間で会社間決済を行う場合、詳細方式(2)または構成ハブ方式(3)を使用し、〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)で多通貨会社間決済を許可するためのオプションをオンにする必要があります。方式 3 の場合、共通通貨を使用する構成ハブ内に基本通貨の異なる会社を持つことができます。

入金および支払

売掛管理の入金プログラムと買掛管理の支払プログラムでは、多通貨会社間決済を使用できません。多通貨による会社間入金または支払を入力すると、エラー・メッセージが表示されます。仕訳は転記できません。

参照

- 会社間決済方式 2 および 3 については『多通貨処理』ガイドの「多通貨固定情報の設定」
- 会社間決済方式の通貨以外の情報については『一般会計』ガイドの「会社間決済」

多通貨会社間決済のAAI

会社間決済用の AAI には、ICCC と ICH の 2 つがあります。AAI 項目 ICCC は、多通貨処理で利用できる会社間決済方式 2(詳細)および 3(構成ハブ)に使用される唯一の AAI です。

AAI項目 ICCC は、会社間仕訳を持つ会社間の自動仕訳を作成するのに使う勘定科目を定義します。

AAI 項目 ICCC には次のような特徴があります。

- 会社間決済用の仕訳を転記する際、ICCC に割り当てられた勘定科目を使用して自動仕訳が作成されます。
- 会社が会社間決済に関係しているかどうかにかかわらず、各会社に対して個別に AAI 項目 ICCC を設定する必要があります。
- 勘定科目の会社は、AAI で指定した会社と同じです。
- ビジネスユニットと主科目は必須です。

多通貨による会社間仕訳

会社間仕訳の基本通貨は、伝票の最初の行の勘定科目と関連付けられた会社の通貨によって通常決まります。仕訳の取引通貨と会社通貨を比較して、国内通貨と外貨建てのどちらの仕訳であるか判断されます。他の仕訳とは異なり、売掛金取引および買掛金取引の通貨は取引の見出しに入力された会社によって決まります。

会社間仕訳には、国内通貨または外貨のいずれかで金額を入力することができます。国内通貨建ての金額を入力すると、会社の基本通貨と同じ小数点以下桁数で金額が作成されます。外貨建ての金額を入力すると、取引通貨と同じ小数点以下桁数で金額が作成されます。各通貨の表示小数点以下桁数は通貨コード・テーブル(F0013)に保管されています。複数の通貨で会社間仕訳を入力すると、取引明細テーブル(F0911)の GLALT1 フィールドが 1 に更新されます。

会社間仕訳を転記すると、非基本通貨勘定の国内通貨金額(AA 元帳)の貸借を一致させるために、転記プログラムによって F0911 テーブルに調整仕訳が作成されます。通常、非通貨勘定は仕訳の 2 行目以降にあり、基本通貨勘定は最初の行にあります。調整仕訳は AA 元帳レコードと同じものですが、次の点で異なります。

- 調整金額は、借方または貸方です。
- [行拡張コード]フィールド(GLEXTL)が AM に更新されるため固有なレコードとなります。こうしないと、重複キーの問題が生じます。この AM レコードは、転記レポートとユニバーサル・テーブル・ブラウザ(UTB)を使って F0911 でのみ見ることができます。

当初仕訳および関連する調整仕訳を合わせた金額は、非基本通貨勘定を実際の基本通貨で表わした正しい金額と一致します。

多通貨を含む会社間仕訳の改訂

複数の通貨を使用する会社に対して会社間仕訳のバッチを転記した後、その仕訳を改訂することはできませんが、バッチに仕訳を追加することはできます。

複数の通貨を含む会社間仕訳バッチを最初に入力する場合、伝票の最初の行にある勘定科目と関連付けられた会社の通貨によって伝票の基本通貨が決まります。基本通貨は、取引明細テーブル(F0911)に保管されています。転記済みバッチに仕訳を追加すると、F0911 に保管されている伝票の基本通貨と追加した仕訳の通貨が比較され、仕訳が複数の通貨を使用する会社用の会社間仕訳かどうか決定されます。

例: 多通貨会社間決済

次の例では、米国の会社(会社 1)からフランスの会社(会社 70)に資金を振り替えるため、1,000.00 ドルの仕訳を作成します。為替レートは、1 ドル = 1.08596 ユーロです。

仕訳入力

会社 1 および 70 の両方に対して取引金額を米ドル建てで入力します。通貨は USD でモードは D (国内通貨)です。仕訳の通貨が最初の明細行に入力された勘定科目の会社の通貨と同じであるため、取引は国内通貨建てと見なされます。

AA(実績金額)元帳に次の仕訳が作成されます。

勘定科目	金額	元帳タイプ
1.1110.BEAR	- 1,000.00	AA
70.1110.FRANCE	1,000.00	AA

システムでは、この仕訳が基本通貨の異なる2つの会社間の会社間取引と判断して為替レート1を使用します。為替レートが1の場合、CA(外貨)元帳にも仕訳が作成されます。

CA元帳では、会社70(フランスの会社)の金額は取引通貨の米ドル(外貨)建てになります。会社1の値により、CA元帳の貸借は一致しています。

CA元帳に次の仕訳が作成されます。

勘定科目	金額	元帳タイプ
1.1110.BEAR	- 1,000.00	CA
70.1110.FRANCE	1,000.00	CA

調整仕訳と転記

仕訳を転記すると、非基本通貨のAA金額を訂正するための85.96ユーロの調整仕訳が作成されます。調整仕訳の行拡張コードはAMです。このAMレコードは、転記レポートとユニバーサル・テーブル・ブラウザ(UTB)を使ってF0911でのみ見ることができます。

勘定科目	金額	元帳タイプ
1.1110.BEAR	-1,000.00 USD	AA
70.1110.FRANCE	1,000.00 EUR	AA
70.1110.FRANCE	85.96 EUR	AA
1.1110.BEAR	-1,000.00 USD	CA
70.1110.FRANCE	1,000.00 USD	CA

調整仕訳の85.96ユーロは、次のように算出されます。

(取引の外貨建て金額 x 為替レート) - 転記済み取引の金額

$(1,000.00 \times 1.08596) - 1,000.00 = 85.96 \text{ EUR}$

ユーロの合計金額は1,085.96 $(1,000.00 \times 1.08596)$ です。

仕訳入力フォームには、調整仕訳は表示されません。ただし、当初の仕訳と調整仕訳は合算され、〈取引明細照会〉フォームおよびすべての仕訳帳や総勘定元帳関連のレポートに表示されます。

会社間決済と転記

最終仕訳が作成されると、会社間決済は完了し、会社 1 および 70 は貸借が一致します。

勘定科目	金額	元帳タイプ
1.1291	1,000.00 USD	AA
70.1291	-1,085.96 EUR	AA
1.1291	1,000.00 EUR	CA
70.1291	-1,000.00 USD	CA

例：多通貨会社間決済の T 勘定

この T 勘定は「例：多通貨会社間決済」に基づいています。この例では、米国の会社（会社 1）からフランスの会社（会社 70）に資金を振り替えるため、1,000 ドルの仕訳を作成します。

仕訳入力

会社 1 に現金勘定の仕訳（貸方）を作成し、会社 70 に現金勘定の仕訳（借方）を作成します。これらの仕訳を入力すると、実績金額(AA)と外貨(CA)元帳の両方に米ドル(USD)で計上されます。

1.1110.BEAR	70.1110.FRANCE
1,000.00 AA	1,000.00 AA
1,000.00 CA	1,000.00 CA

調整仕訳と転記

仕訳を転記すると、米ドル建ての金額を会社 70 の基本通貨ユーロに換算する調整仕訳が AA 元帳に作成されます。為替レートは、1 ドル=1.08596 ユーロです。既に 1,000.00 が会社 70 の借方に計上されているため、85.96 が借方に追加計上されます。

1.1110.BEAR	70.1110.FRANCE
1,000.00 AA	1,000.00 AA
1,000.00 CA	1,000.00 CA
	85.96 AA

会社間決済と転記

システムは、会社間の資金移動を記録するためにこれ以外にも自動仕訳を作成します。会社間売掛金勘定は 1291 です。

1.1291	70.1291
1,000.00 CA	1,085.96 AA
1,000.00 AA	1,000.00 CA

貸借一致の会社間勘定レポート

〈貸借一致の会社間勘定〉整合性レポート(R097011)では、取引明細テーブル(F0902)からの情報を使用して 1 つの会社内のさまざまな会社間決済勘定の残高を比較します。これらの勘定科目の貸借は一致していなければなりません。一致していない場合は、レポートに勘定科目、その残高、そして各勘定科目の残高を一致させるのに必要な金額の一覧が表示されます。

異なる基本通貨を持つ複数の会社がある場合は、この整合性レポートは実行しないでください。この整合性レポートは、異なる基本通貨が使用されている場合には適用できません。

たとえば、会社 70 がその会社間決済勘定に 50,000 ユーロ(EUR)の残高を持つとします。会社 71 は会社間決済勘定に 69,624 カナダ・ドル(CAD)の残高を持つとします。EUR と CAD の為替レート(1.39248)を使用すると、50,000.00 EUR の残高は 69,624.00 CAD と一致します。ただしこの整合性レポートは、異なる基本通貨に対応しないため、2 つの会社は貸借不一致として表示されます。

注:

会社内のバッチの貸借が一致していないかどうかを判断するには、〈バッチ別貸借不一致の会社〉整合性レポート(R09706)を実行します。

参照

- 『一般会計ガイド』ガイドの「バッチ別貸借不一致の会社レポートの実行」

一般会計システムの未実現為替差損益

外貨を扱っている場合は、〈通貨勘定評価〉プログラム(R09415)を実行して通貨勘定を再評価し、現行の為替レートを反映させる必要があります。通貨勘定は通常、銀行勘定であり、特定の通貨による取引のみ入力することができます。

〈通貨勘定評価〉プログラムでは、為替レートの変動による未実現為替差損益が計算されます。通常、期末処理時に行います。

売掛金および買掛金の未実現為替差損益

次のレポートでは、未決済の請求書と伝票についての月次評価を出しますが、未実現為替差損益は算出されません。

- 未決済売掛金明細(P03B429)
- 未決済買掛金明細(P04427)

詳しくは『多通貨処理』ガイドの「多通貨用未決済売掛金明細レポート」および「多通貨用未決済買掛金明細レポート」を参照してください。

次のレポートでは、未決済の外貨建て請求書および伝票の未実現為替差損益が計算されます。

- 売掛金未実現為替差損益レポート(R03B426)
- 買掛金未実現為替差損益レポート(R04425)

詳しくは『多通貨処理』ガイドの「売掛金未実現為替差損益レポートの実行」および「買掛金未実現為替差損益レポートの実行」を参照してください。

通貨勘定評価

〈通貨勘定評価〉プログラム(R09415)を使用して、外貨建て金額の現在の国内通貨による評価額を計算し、為替変動による未実現為替差損益を算出します。外貨建ての残高を国内通貨に換算した場合の為替差損益が計算されます。通常、外貨建ての銀行勘定残高に対してこのプログラムを実行します。

〈通貨勘定評価〉プログラムでは、次のように未実現為替差損益が計算されます。

1. 選択した勘定科目の通貨コードとその勘定科目に関連付けられた会社の通貨コードを比較する。つまり、外貨(CA)元帳の外貨建て残高と実績金額(AA)元帳の国内通貨建て残高を比較する。
2. 処理オプションで指定された日付に基づいて為替レート・テーブル(F0015)から為替レートを取り込む。
3. 取引の外貨建て残高と為替レートを乗算または除算して、新しい国内通貨建て残高を計算する。

4. 新しい国内通貨建て残高と取引の国内通貨建て残高を比較して、未実現為替差損益を計算する。

〈通貨勘定評価〉プログラムでは、次のように未実現為替差損益を記録する仕訳が作成されます。

- 仕訳の伝票タイプは JX(外貨再評価)です。この伝票タイプでは、国内通貨の通貨勘定 (AA 元帳) のみが調整され、外貨の通貨勘定 (CA 元帳) は変更されません。

伝票タイプ	伝票 No.	伝票会社	元帳日付	摘要	元帳タイプ1 金額	元帳タイプ1 借方	転記コード	LT2 転記	元帳タイプ1 貸方	元帳タイプ2 借方	元帳タイプ2 貸方
JX	3584 00001		05/06/30	Unrealized Gain/Loss	0.01-				0.01-		
JX	3774 00001		05/06/30	Unrealized Gain	8,451.75-				8,451.75-		
				カラム合計	8,451.76-				8,451.76-		
				元帳合計	8,451.76-				8,451.76-		
				転記済み合計							
				未転記合計	8,451.76-				8,451.76-		

- 仕訳には会社の通貨コードが含まれます。
- 為替差損益は実際には発生していないため、逆仕訳を作成します。これは、期末にのみ適用されます。

多くの国の会計規則では、未実現為替差益は報告せず、未実現為替差損のみ報告するよう定められています。為替差損の仕訳のみ作成するように〈通貨勘定評価〉プログラムの処理オプションを設定することができます。または、為替差益のみ、もしくは為替差損益両方の仕訳を作成するように処理オプションを設定することもできます。

米国の会計処理規則(SFAS 52)では、未実現為替差益と未実現為替差損の両方を報告するよう定められています。

例:通貨勘定評価

この例では、会社は英国にあり、基本通貨は英国ポンド(GBP)です。複数の仕入先に香港ドル(HKD)で支払う必要があるため、香港ドル建ての通貨勘定を開設します。

月末時点で、香港の銀行口座には 1,000,000.00 香港ドルの預金があります。実績金額(AA)元帳の勘定残高は 80,268.00 ポンド(GBP)です。この勘定残高は、AA 元帳の各取引の為替レートに基づいています。月末日付の為替レート(1 HKD = 0.078996 GBP)を使用して、外貨建ての銀行口座残高を会社の通貨で再評価する必要があります。

〈通貨勘定評価〉プログラムを実行すると、1,272.00 GBP の未実現為替差損に対して逆仕訳が作成されます。AA 元帳の現在の勘定残高は 78,996.00 GBP です。翌月の 1 日に逆仕訳が行われると、勘定残高は 80,268 GBP に戻ります。

通貨勘定の未実現為替差損益の計算

〈月次評価〉メニュー(G1121)から〈通貨勘定評価〉を選択します。

通常、会計期間末に〈通貨勘定評価〉プログラム(R09415)を実行して、財務諸表を実行する前に未実現為替差損益を計算します。未実現為替差損益に対して伝票タイプ JX(外貨再評価)の仕訳が作成されます。

〈通貨勘定評価〉プログラムにより、次の項目を記載したレポートが印刷されます。

- 取引日付を基準とした国内通貨(AA)および外貨(CA)元帳の残高
- 処理オプションで指定した基準日における元帳残高の国内通貨建て金額
- 未実現為替差損益

処理オプションで詳細レベルを設定してから、外貨と国内通貨の両方の金額を表示する試算表としてこのレポートを使用できます。レポートに複数の通貨が含まれている場合、外貨元帳残高カラムには合計が表示されないことに注意してください。これは、複数の通貨の合計金額が意味をなさないためです。

〈通貨勘定評価〉プログラムでは、処理オプションでエラー・メッセージをレポートに印刷するよう指定しない限り、エラー・メッセージは従業員ワークセンターに送信されます。

通貨勘定で通貨勘定評価を実行する際は、バージョン XJDE0001 を使用します。(バージョン XJDE0002 は、通貨別に残高を転記する際に非通貨勘定に対して使用します)

注意:

〈通貨勘定評価〉プログラムを再実行する場合は、プログラムによって作成された仕訳が転記済みであることを確認してください。仕訳が重複して作成される可能性があります。

はじめる前に

- 〈為替レートの改訂〉フォームで新しい為替レートを入力します。『多通貨処理』ガイドの「逆換算方式用為替レートの設定」または「逆換算禁止方式用為替レートの設定」を参照してください。
- AAI 項目 GV、GW、GR が正しく設定されていることを確認します。『多通貨処理』ガイドの「通貨銀行勘定の未実現為替差損益 AAI の設定」を参照してください。
- 通貨勘定が正しく設定されていることを確認します。『多通貨処理』ガイドの「通貨勘定への通貨コードの割当て」を参照してください。

処理オプション: 通貨勘定評価(R09415)

詳細レベル・タブ

1. 詳細レベル

ブランク = すべての詳細レベルを印刷

レポートに印刷する最も詳細な詳細レベルを指定します。次の選択肢があります。

- ・3 から 9 の間で詳細レベルを指定する(例:3)
- ・ブランクにしてすべての詳細レベル(3〜9)を印刷する

たとえば 7 と指定すると、勘定科目表に詳細レベル 8 と 9 の勘定科目がある場合、それらの勘定科目は詳細レベル 7 の勘定科目に集計され、各勘定科目は印刷されません。

レベル 1 は会社レベル、レベル 2 はビジネスユニットレベルを示します。

レベル 1 と 2 は常にレポートに印刷されます。

勘定科目表を設定する時に詳細レベルの数字を連続して設定しないと詳細レベルの積上げ計算が正しく行われないう可能性があります。

期間タブ

1. 会計年度

ブランク = 現行会計年度を使用

通貨勘定評価を行う会計年度(下 2 桁)を指定します。たとえば 2005 年の場合は“05”と入力します。

この処理オプションを設定した場合、[期間]オプションで期間も指定する必要があります。

この処理オプションを空白にすると、〈会社の設定〉フォームで処理する各勘定科目の会社の一般会計システムに定義されている会社固定情報テーブル(F0010)の会計年度が使用されます。

2. 期間

空白 = 現行期間を使用

通貨勘定評価を行う期間を指定します。

この処理オプションを設定した場合、[会計年度]オプションで会計年度も指定する必要があります。

この処理オプションを空白にすると、〈会社の設定〉フォームで処理する各勘定科目の会社の一般会計システムに定義されている会社固定情報テーブル(F0010)の会計年度が使用されます。

印刷タブ

1. 勘定科目コード形式

1 = 標準勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目)

2 = 略式 ID

3 = 自由形式(第 3 勘定科目コード)

空白の場合、標準勘定科目コードがデフォルトとなります。

印刷する勘定科目コードの形式を指定します。有効な値は次のとおりです。

1 標準勘定科目コード形式(ビジネスユニット.主科目.補助科目)

2 略式 ID(勘定科目入力時にシステムが割り当てる番号)

3 第 3 勘定科目コード(旧システムから移行した勘定科目など自由形式の任意コード)

空白の場合、標準勘定科目コードが使用されます。

2. ゼロ残高勘定の非表示

ブランク = すべての勘定を印刷
1 = 残高ゼロの勘定は印刷しない

残高がゼロの勘定科目を印刷しないよう指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク すべての勘定科目を印刷する
1 残高がゼロの勘定科目を印刷しない

注: この処理オプションの設定にかかわらず、通貨コードが設定されている勘定科目のみ印刷されます。

補助元帳タブ

1. 補助元帳

補助元帳番号 = この補助元帳がある勘定のみ処理

* = すべての勘定を処理

ブランク = 補助元帳のない勘定のみ処理

通貨勘定科目の評価を行うために、補助元帳を使用する勘定科目を指定します。有効な値は次のとおりです。

特定の補助元帳番号

この補助元帳を使用しているすべての勘定科目が処理されます。

*

アスタリスク(*)を入力すると、すべての勘定科目が処理されます。

ブランク

補助元帳を使用していない勘定科目のみ処理されます。

[補助元帳]オプションを指定して[補助元帳タイプ]オプションを指定しない場合、[補助元帳]オプションでアスタリスクを指定しない限りこの処理オプションの値は無視されます。[補助元帳]オプションにアスタリスクを入力した場合は、すべての勘定科目と補助元帳が処理されます。

[補助元帳]と[補助元帳タイプ]の両方の処理オプションを設定した場合でも、入力した補助元帳に対して正しい補助元帳タイプではない場合は入力した値は無視され、補助元帳を使用していない勘定科目のみ処理されます。

2. 補助元帳タイプ

補助元帳番号が保存されているテーブルのユーザー定義コード(00/ST)を指定します。たとえば、補助元帳タイプ A は住所録マスター(F0101)を示します。ビジュアルアシストを使用して補助元帳タイプを選択することができます。

補助元帳を入力せずに補助元帳タイプを入力した場合、入力した値は無視され補助元帳を使用しない勘定科目のみ処理されます。

補助元帳と補助元帳タイプ両方を入力しても、補助元帳に対して有効な補助元帳タイプではない場合、入力した値は無視され補助元帳を使用しない勘定科目のみ処理されます。

基準日タブ

1. 基準日

blank = [期間]タブで指定された期間の最終日
(期間フィールドがblankの場合は現行期間の最終日を使用されます)

処理する各勘定科目が属する会社の通貨勘定評価を行うための為替レート日付を指定します。

指定した日付の為替レートが為替レートテーブル(F0015)から取り込まれます。通貨勘定に 1 つ以上の通貨コードを割り当てている場合、各通貨それぞれの為替レートが使用されます。

blank の場合、[期間]タブの[期間]オプションに入力した期間の最終日付の為替レートが使用されます。この[期間]オプションがblankの場合は、〈会社の設定〉フォームで一般会計システムの現行期間に設定されている期間の最終日付が使用されます。会社固定情報テーブル(F0010)には、各勘定科目の会社ごとに期間が保管されています。

仕訳タブ

1. 損益

1 = 計算済み損益の仕訳を作成
2 = 計算済み損失のみ仕訳を作成
3 = 計算済み利益のみ仕訳を作成
blank = 仕訳を作成しない

通貨勘定評価で計算された損益の仕訳を自動的に作成するかどうかを指定します。AAI 項目 GVxxx は計算された収益に対する仕訳に使用する勘定科目、GWxxx は損失に対する仕訳に使用する勘定科目を決定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 損益両方の仕訳を作成する
- 2 損失の仕訳のみ作成する
- 3 収益の仕訳のみ作成する
- blank 仕訳を作成しない

逆仕訳

blank = 逆仕訳を作成する

- 1 = 逆仕訳を作成しない

計算された損益勘定科目に対して逆仕訳を自動的に作成するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 逆仕訳を作成する

- 1 逆仕訳を作成しない

このフィールドをblank(逆仕訳を作成する)にしても、上の[損益]オプションがblank(仕訳を作成しない)の場合は逆仕訳は作成されません。

3. 元帳日付

blank = [期間]タブで指定された期間の最終日

(期間フィールドがblankの場合は現行期間の最終日を使用されます)

通貨勘定評価によって作成される仕訳の日付を指定します。blankの場合、期間フィールドに入力した期間の最終日付が使用されます。期間フィールドがblankの場合、〈会社の設定〉フォームで一般会計システムの現行期間に設定されている期間の最終日付が使用されます。会社固定情報テーブル(F0010)には、各勘定科目の会社ごとに期間が保管されています。

[損益]オプションがblankの場合は、元帳日付を入力しても逆仕訳は作成されません。

4. 承認済み仕訳バッチ

- 1 = 承認済みの仕訳のみバッチを作成する
-

ブランク = 固定情報の[管理者承認必須]を使用

〈一般会計固定情報〉フォームの管理者承認必須の設定に関わらず、作成した仕訳のバッチの状況を承認済みにします。この処理オプションをブランクにすると、固定情報の設定によってバッチ状況が決まります。有効な値は次のとおりです。

1 承認済み

ブランク 固定情報

[損益]オプションで仕訳を作成するようにした場合、この処理オプションを“1”に設定すると、作成したバッチを自動的に承認済みにすることができます。それ以外の場合、このフィールドは無視されます。

エラー・タブ

1. エラーメッセージの印刷

1 = レポートに印刷

ブランク = 従業員ワークセンターに送信

レポートにエラー・メッセージを印刷するようにします。ブランクの場合、従業員ワークセンターにエラー・メッセージが送信されます。有効な値は次のとおりです。

1 レポートにエラー・メッセージを印刷する

ブランク 従業員ワークセンターにエラー・メッセージを送信する

通貨勘定評価のデータ選択

バージョン XJDE0001 のデータ選択で指定された条件([通貨コード - 換算元]がブランクではない)を使用することをお勧めします。

銀行残高照合表処理における実現為替差損益

入金または支払を入力すると、取引の現行為替レートが記録されます。後でその入金または支払が銀行で決済される際は、銀行は異なる為替レートを記録します。為替レートの差異を計上するには、〈銀行取引明細処理〉プログラム(R09170)を実行して為替差損益レコードを作成します。為替差損益レコードは、決済済みの入金(取引コード CR)および支払(取引コード CK)に対してのみ作成されます。

為替差損益を作成する際、銀行残高照合表明細テーブル(F0917)の CA 元帳金額と取引明細テーブル(F0911)の CA 元帳金額が比較されます。これらの CA 金額が同じ場合は、AA 元帳金額に基づいて為替差損益が作成されます。これらの CA 金額が異なる場合は、AA 元帳金額に基づく為替差損益に加えて、許容限度額の差異仕訳が作成されます。

CA 元帳金額が同じ場合

CA 元帳金額が同じ場合、F0911 テーブルと F0917 テーブルの AA 元帳金額が比較されます。この金額が異なる場合、実現為替差損益が作成されます。

次は、CA 元帳金額が同じ場合の例です。

テーブル	CA 元帳	AA 元帳
F0911	1,000.00 EUR	1,560.00 CAD
F0917	1,000.00 EUR	1,550.95 CAD

標準の為替差損益は+9.05 カナダ・ドルです。

計算: AA (F0911) - AA (F0917) = AA 差異

$$1,560.00 - 1,550.95 = +9.05 \text{ CAD}$$

為替差損	銀行勘定科目
9.05 CAD	9.05 CAD

CA 元帳金額が異なる場合

CA 元帳金額が異なる場合、その差異が計算されます。次に、CA 元帳金額を F0917 の AA 元帳金額で除算して為替レートを算出します。今度は、CA 差異をその為替レートで乗算して AA 金額の差異が計算されます。この CA と AA の差異を使用して、2 つの許容限度額差異仕訳が作成されます。

最後に、F0911 テーブルの AA 元帳金額から AA 差異を差し引いて、F0911 テーブルに調整済み AA 金額が作成されます。そして、この AA 金額から F0917 テーブルの AA 金額を差し引くことによって為替差損益が算出されます。

次は、CA 元帳金額が異なる場合の例です。

テーブル	CA 元帳	AA 元帳
F0911	2,015.00 EUR	3,125.16 CAD
F0911	2,000.00 EUR	3,120.00 CAD

差異許容仕訳の計算は次のとおりです。

計算: CA (F0911) - CA (F0917) = CA 差異

$$2,015.00 - 2,000.00 = 15.00 \text{ EUR}$$

計算: AA (F0917) / CA (F0917) = 為替レート

$$3,120.00 / 2,000.00 = 1.56$$

計算: CA 差異 x 為替レート = AA 差異

$$15.00 \times 1.56 = 23.40 \text{ CAD}$$

差異勘定科目		銀行勘定科目	
15.00 EUR (CA)			15.00 EUR (CA)
23.40 CAD(AA)			23.40 CAD(AA)

為替差損益仕訳の計算は次のとおりです。

計算: AA (F0911) - AA 差異 = 調整済み AA 金額(F0911)

$$3,125.16 - 23.40 = 3,101.76 \text{ CAD}$$

計算: 調整済み AA 金額(F0911) - AA (F0917) = 為替差損益

$$3,101.76 - 3,120.00 = -18.24 \text{ CAD}$$

為替差益		銀行勘定科目	
	18.24 CAD	18.24 CAD	

参照

- 銀行残高照合表処理の通貨以外の情報については『一般会計』ガイドの「銀行残高照合表処理」

銀行残高照合表処理の多通貨に関する考慮事項

銀行振込や手形など、すべての銀行取引をトラッキングするには、〈銀行残高照合表の入力〉プログラム(P09160)を使用します。次の情報は、多通貨による銀行残高照合表処理にのみ適用されます。

PeopleSoft. 銀行残高照合表の入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

銀行勘定科目 1.1110.BEAR バッチNo. 6305

銀行残高照合表日付 05/06/30 入力日付 3

計算書No. 6237862 未完了取引数 3

デフォルト元帳日付 05/06/30 引出し合計

開始残高 預入れ合計 7,556.27

最終残高 25,556.27 差額 18,000.00

☐ 未完了取引のみ

レコード 1-4 グリッドのカスタマイズ

	取引コード	金額	決済日付	元帳日付	支払入金No.	タイプ	通貨コード	外貨金額	備考	順序
<input type="checkbox"/>	JE	1,306.27	05/06/10	05/06/30		JE	CAD			1.00
<input type="checkbox"/>	CK	1,250.00	05/06/10	05/06/30		PV	EUR			2.00
<input type="checkbox"/>	CR	5,000.00	05/06/10	05/06/30		RC	EUR			3.00
<input checked="" type="checkbox"/>										

多通貨環境では、銀行残高照合表の各取引行に対して最高3つまで異なる通貨を入力できます。

〈銀行残高照合表の入力〉フォームの各取引行には、[金額]、[通貨コード]、[外貨金額]フィールドが含まれています。各フィールドに入力する値は、次のように、銀行勘定、会社、取引それぞれの通貨によって異なります。

- 金額。金額は次のように入力します。
 - 通貨銀行勘定の場合、取引通貨と銀行勘定通貨が同じであれば金額を入力します。
 - 非通貨銀行勘定の場合、取引通貨と銀行勘定に関連付けられている会社通貨が同じであれば金額を入力します。
- 通貨コード。取引の通貨コードを入力します。[金額]フィールドに金額を入力した場合、デフォルトの通貨コードは通貨銀行勘定、または非通貨銀行勘定に関連付けられた会社から取り込まれます。
- 外貨金額。次の条件が両方当てはまる場合にのみ、このフィールドに金額を入力します。
 - 銀行勘定が非通貨勘定である。(銀行勘定が通貨勘定の場合は空白にします)
 - 取引通貨が、非通貨銀行勘定と関連付けられている会社の通貨とは異なる。

外貨建て金額を入力する場合、[金額]フィールドに国内通貨建て金額(銀行で換算して残高照合表に表示されている金額)も入力する必要があります。

支払および入金

会社、銀行勘定、支払(取引コード CK)または入金(取引コード CR)の通貨が異なる場合、その取引に非通貨仮勘定を割り当てる必要があります。会社、支払または入金の通貨は同じで、銀行勘定通貨のみ異なる場合もそうしてください。

〈銀行残高照合表の入力〉フォームの各取引行の勘定科目では、小数点以下桁数が次のように使用されます。

- 通貨銀行勘定では、銀行勘定の通貨で小数点以下桁数が表示されます。
- 非通貨銀行勘定と国内通貨建て取引では、会社通貨で小数点以下桁数が表示されます。
- 非通貨銀行勘定と外貨建て取引では、取引通貨で小数点以下表数が表示されます。

次の例で、〈銀行残高照合表の入力〉の[金額]、[通貨コード]、[外貨金額]フィールドが会社、銀行勘定、取引の各通貨とどのように関連しているかを理解してください。

例: 会社通貨が異なる場合

この例では、通貨銀行勘定と取引の通貨は同じで、会社通貨(CAD)のみが異なります。非通貨仮勘定の入力は任意です。

〈銀行残高照合表の入力〉で、次の表を参照しながらフィールドに値を入力します。

フィールド	値	説明
金額	USD	通貨銀行勘定と同じ通貨による取引金額。
通貨コード	USD	取引の通貨コード。デフォルトは、通貨銀行勘定の通貨コード(USD)です。
外貨金額	ブランク	–

〈銀行取引明細処理〉プログラム(R09170)を実行すると、取引タイプに応じて次のレコードが作成されます。

- AA 元帳レコード(会社通貨の CAD)
- CA 元帳レコード(取引通貨の USD)

例: 銀行勘定通貨が異なる場合

この例では、会社と取引の通貨は同じで、通貨銀行勘定の通貨(USD)のみが異なります。非通貨仮勘定の入力必須です。

〈銀行残高照合表の入力〉で、次の表を参照しながらフィールドに値を入力します。

フィールド	値	説明
金額	USD	銀行により通貨銀行勘定の通貨に換算された取引金額。
通貨コード	CAD	当初取引の通貨コード。
外貨金額	CAD	通貨銀行勘定とは異なる通貨による当初取引金額。

〈銀行取引明細処理〉プログラムを実行すると、取引タイプに応じて次のレコードが作成されます。

- AA 元帳レコード(会社通貨の CAD)
- CA 元帳レコード(取引通貨の CAD)

例: 取引通貨が異なる場合

この例では、銀行勘定が非通貨銀行勘定で、会社通貨はカナダ・ドル(CAD)、取引通貨は米ドル(USD)です。非通貨仮勘定の入力は任意です。

〈銀行残高照合表の入力〉で、次の表を参照しながらフィールドに値を入力します。

フィールド	値	説明
金額	CAD	銀行により非通貨銀行勘定に関連付けられている会社の通貨に換算された取引金額。
通貨コード	USD	当初取引の通貨コード。
外貨金額	USD	非通貨銀行勘定と関連付けられている会社とは異なる通貨による当初取引金額。

〈銀行取引明細処理〉プログラムを実行すると、取引タイプに応じて次のレコードが作成されます。

- AA 元帳レコード(会社通貨の CAD)
- CA 元帳レコード(取引通貨の USD)

例:会社、銀行勘定、取引の各通貨が異なる場合

この例では、会社と取引の通貨(CAD)、通貨銀行勘定の通貨(USD)、取引通貨(EUR)がすべて異なります。非通貨仮勘定の入力必須です。

〈銀行残高照合表の入力〉で、次の表を参照しながらフィールドに値を入力します。

フィールド	値	説明
金額	USD	銀行により通貨銀行勘定の通貨に換算された取引金額。
通貨コード	EUR	当初取引の通貨コード。
外貨金額	EUR	通貨銀行勘定とは異なる通貨による当初取引金額。

〈銀行取引明細処理〉プログラムを実行すると、取引タイプに応じて次のレコードが作成されます。

- AA 元帳レコード(会社通貨の CAD)
- CA 元帳レコード(取引通貨の EUR)

参照

- 『一般会計ガイド』ガイドの「決済済み入金取引の入力」
- 『一般会計ガイド』ガイドの「決済済み支払取引の入力」

通貨再換算

多通貨を使用している企業では、通常、各会計期間末に何らかの方法で通貨の再換算処理を行います。通貨再換算は、通常、連結処理およびレポート作成の目的で会計情報を親会社の通貨または安定通貨に換算するのに使用します。通貨再換算を使用すると、金額を次のように再計算できます。

- 取引レベルで別の通貨に換算。これは詳細再換算と呼ばれ、レポート作成用に安定通貨による第 2 帳簿で取引を管理できるため、高インフレ経済下でビジネスを行う会社に役立ちます。
- 残高レベルで別の通貨に換算。これは残高再換算と呼ばれ、残高を別の通貨に換算してレポートを作成するのに便利です。
- 特定の日付の為替レートを使ってすべての取引を同じ通貨に換算。これは仮定再換算と呼ばれ、別の期間や年度と比較する際の為替レートの変動を排除することができます。

インデックス配賦

インデックス配賦では、連結財務諸表用に 1 つの通貨から別の通貨へ再換算できます。ただし、配賦ではなく通貨再換算法方法の 1 つを使用することをお勧めします。インデックス配賦を使用すると、金額の換算および再換算時に四捨五入の問題が発生します。

通貨再換算方法

会社を通貨再換算用に設定する前に、どの方法が会計基準や法令およびレポート作成の要件を満たしているかを確認してください。

通貨再換算には、ある通貨から別の通貨への金額の再計算が含まれます。これは主に、多通貨を使用する会社間の連結決算や財務報告のために使用します。連結財務諸表を作成する必要がある場合、通貨再換算のためのセットアップは必要ない場合もあります。

通貨の再換算には次のような方法があります。1つの会社に対して、これらの方法からいくつでも使用できます。

詳細再換算	<p>この方法は、次のどちらの条件にもあてはまらない場合に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">高インフレの経済環境でビジネスを行っている場合。この方法では、レポート作成用に安定通貨による第2帳簿で取引を管理できます。たとえば、コロンビアのペソ(COP)から米ドル(USD)に取引を再換算することで、コロンビアの会社は、安定した米ドルを使って現行金額と実績情報を比較できます。勘定科目のすべてまたは勘定科目のある範囲に対して、取引明細テーブル(F0911)で2つの基本通貨で取引を管理する必要がある場合。つまり、すべての国内通貨取引に対して代替通貨による取引が存在する場合です。 <p>詳細再換算レコードは F0911 テーブルに転記されます。詳細再換算を使用する場合、F0911 テーブルにレコードを追加するためのディスク・スペースが必要です。</p> <p>詳細再換算方法を使用するかどうかは、〈会社名および番号〉プログラム(P0010)で指定します。</p>
残高再換算	<p>この方法は、勘定残高テーブル(F0902)の残高に基づいて連結財務諸表を作成する場合に使用します。残高再換算レコードは F0902 テーブルで更新されます。</p> <p>この方法では、複数通貨の残高を1つの通貨の残高に再換算します。たとえば、米ドルをカナダ・ドルに再換算することで、カナダの他の会社とレポートを連結できます。</p> <p>各会社に対して残高再換算用の計算 ID は、〈会社名および番号〉プログラムで指定するか、または〈再換算残高の計算〉プログラム(R11414)の処理オプションで指定します。処理オプションに計算 ID を入力すると、〈会社名および番号〉プログラムで設定した ID は一時変更されます。</p>
仮定再換算	<p>比較を目的に、一定期間、為替の変動を無視して金額を比較する場合に、この方法を使用します。</p> <p>仮定再換算では、1つの為替レートを使用して勘定残高が再換算されます。たとえば、フランスでプロジェクトを行っているカナダの会社は、米ドルでの取引を1つの通貨に再換算することによって実際の収益と費用を1年前の予算と比較することができます。</p> <p>連結のために仮定再換算を使用することはできません。</p>

例:通貨再換算

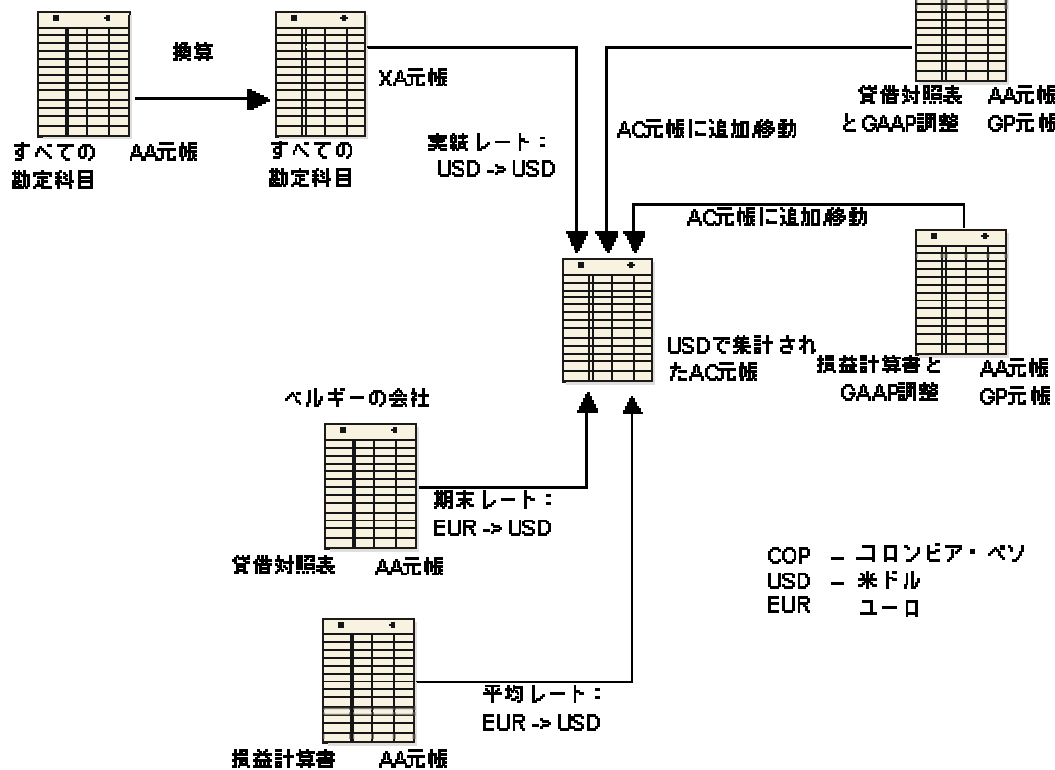
次の例は、3つの国にある会社の連結を示しています。コロンビアの会社は、インフレのため詳細再換算を使用しています。米国とベルギーの会社では、残高再換算を使用しています。この例では、GPはGAAP(一般に認められた会計原則)のための調整に使うユーザー定義の元帳タイプです。

例:多通貨による通貨再換算

コロンビアの会社

高インフレ経済

米国の会社



詳細再換算

詳細再換算を使用すると、取引明細テーブル(F0911)に代替(安定)通貨による第2帳簿を管理できます。〈会社名および番号〉プログラム(P0010)で会社に詳細再換算方法を設定します。通常、次のような場合に詳細再換算を使用します。

- 会社が高インフレ経済下で経営しており、財務分析やレポート作成の目的で代替(安定)通貨による第2帳簿を管理する必要がある。
- 現地通貨と親会社の通貨の両方で取引レベルの最終業績をレポートする必要がある。
- 会計基準に準拠するため、固定資産や棚卸資産、資本勘定などの特定の科目について2通りのレポートを管理する必要がある。

通常、〈詳細再換算〉プログラム(R11411)では、国内通貨元帳(AA)の金額を使用して代替通貨元帳(XA)に再換算します。ただし、外貨元帳(CA)の金額の通貨がXA元帳と同じ場合は、CA元帳金額がXA元帳にコピーされ、AA元帳金額は再換算されません。

〈詳細再換算〉プログラムでは、AAI(自動仕訳)で指定した勘定科目範囲内の国内通貨建て取引すべてに対して、代替通貨建てで対応する取引がXA元帳に作成されます。まれではありますが、元帳タイプYA(国内通貨当初)およびZA(外貨当初)が詳細再換算に使用されるケースもあります。

詳細再換算は、一般会計システム、売掛管理システム、買掛管理システム、固定資産管理システムと連動しています。詳細再換算方法には、無効、逆仕訳、為替差損益計算といった特別な機能が含まれています。

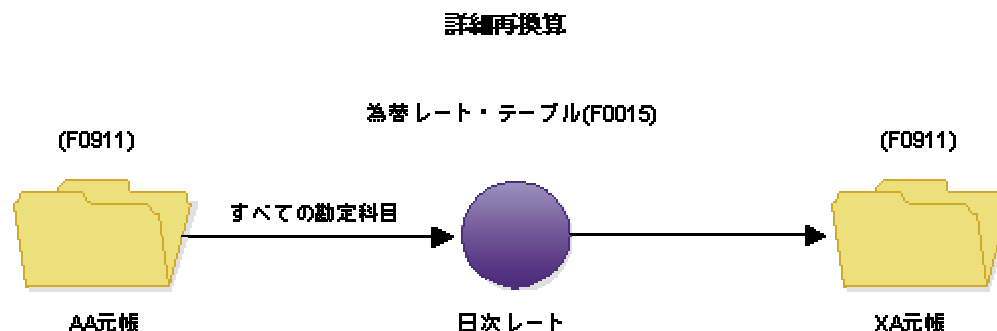
注:

基本通貨建て金額を別の通貨で再換算する前に、明細レベルで再換算を行う必要が本当にあるかどうかを判断してください。詳細レベルで再換算を行う場合、テーブル容量を考慮する必要があります。たとえば、毎月2000件のレコードを入力すると、詳細再換算の実行後は4000件になります。ディスク容量にかなりの影響を与えることが予想されます。

詳細再換算および使用する元帳

詳細再換算には代替通貨(XA)元帳を設定する必要があります。国内通貨当初(YA)および外貨当初(ZA)元帳の設定は任意です。詳細再換算プログラムは、これらの元帳にのみ使用できるように設計されています。

次の図は詳細再換算に使用される XA 元帳およびテーブルを示しています。



XA、YA、ZA 元帳はハードコード化されており、次のような特徴があります。

元帳タイプ	記述
XA(代替通貨)	<p>この元帳は必須であり、取引を計上する勘定科目の一部またはすべてが代替通貨で記録されます。XA 元帳の代替通貨には、会社の国内通貨と比べてあまり変動のない通貨が使われるのが普通です。実績金額(AA)元帳の各取引は、取引日付の為替レートを使って代替通貨(XA)建ての金額に換算されます。ただし、外貨元帳(CA)と XA 元帳の通貨が同じ場合は例外です。この場合は、CA 元帳金額が XA 元帳にコピーされ、AA 金額は再換算されません。</p> <p>代替(安定)通貨の通貨コードを元帳タイプ XA に割り当ててください。これは会社 00000 の通貨コードと同じである必要があります。</p> <p>この元帳を設定せずに〈詳細再換算〉プログラム(R11411)を実行すると、レコードは未処理のままプログラムが終了します。</p>
YA(国内通貨当初)	<p>この元帳は任意であり、国内通貨(AA 元帳)建ての取引で代替通貨元帳(XA)に換算される一部の勘定科目が含まれます。</p> <p>この元帳タイプには通貨コードを割り当てないでください。取引の会社の国内通貨が使用されます。</p> <p>この元帳は通常、分析のために使用され、当初国内通貨建て取引で作成された XA 元帳の金額が表示されます。</p>
ZA(外貨当初)	<p>この元帳は任意であり、外貨(CA 元帳)建ての取引で代替通貨元帳(XA)に換算される一部の勘定科目が含まれます。</p> <p>代替通貨の通貨コードを元帳タイプ YA に割り当ててください。(XA 元帳に割り当てたのと同じ通貨コードです)</p> <p>この元帳は通常、分析のために使用され、当初外貨建て取引で作成された XA 元帳の金額が表示されます。</p>

これらの元帳は、ユーザー定義コード 09/LT および〈元帳タイプ規則の設定〉フォームで設定します。

〈詳細再換算〉プログラムを使用して国内通貨当初および外貨当初による取引を記録すると、当初の仕訳に基づいて YA 元帳と ZA 元帳が更新されます。当初仕訳が国内通貨建て取引の場合、YA 元帳が更新されます。当初仕訳が国内通貨建て取引の場合、YA 元帳が更新されます。詳しくは、次の表を参照してください。

当初仕訳	更新される代替通貨元帳
AA 通貨による国内通貨取引	<p>外貨(CA)レコードは存在しません。システムによって次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> XA 元帳で AA 金額を換算する AA 金額を YA 元帳にコピーする
XA 通貨による外貨建て取引	<p>外貨(CA)建て金額が XA 元帳と ZA 元帳の両方にコピーされます。</p>
XA 以外の通貨による外貨建て取引	<p>システムによって次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> XA 元帳で AA 金額を換算する XA 金額を ZA 元帳にコピーする

例：詳細再換算および使用する元帳

この例では、コロンビアの会社が安定通貨である米ドル(USD)で財務諸表が作成できるよう、コロンビア・ペソ(COP)から米ドルへの換算を行います。通貨コード USD は、代替通貨元帳(XA)に割り当てられています。この会社は YA 元帳と ZA 元帳も使用します。

〈詳細再換算〉プログラムにより、当初仕訳に基づいて XA、YA、ZA の各元帳で次の表のように金額が更新されます。

当初仕訳	更新される代替通貨元帳
国内通貨建て取引(COP)	<p>取引通貨は会社通貨と同じです。システムによって次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> AA 元帳金額(COP)を XA 元帳(USD)に換算する AA 元帳金額(COP)を YA 元帳(通貨指定なし)にコピーする
外貨建て取引(USD)	<p>取引通貨は XA 元帳の通貨です。システムは CA 元帳金額(USD)を XA 元帳と ZA 元帳(USD)の両方にコピーします。</p>
外貨建て取引(CAD)	<p>取引通貨は、XA 元帳通貨以外のものが使用されます。システムによって次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> AA 元帳金額(COP)を XA 元帳(USD)に換算する XA 元帳金額(USD)を ZA 元帳(USD)にコピーする

国内通貨建て取引の詳細再換算による為替差損益

入金や支払の通貨が国内通貨と外貨のどちらであるかによって、取引転記時に作成される詳細再換算為替差損益の計算方法が異なります。

国内通貨の場合、AA(国内通貨)およびXA(代替通貨)の通貨間で為替差損益が計算され、伝票タイプRG(入金為替差損益)またはPG(支払為替差損益)の為替差損益レコードが作成されます。この金額は、請求書日付と入金日付または伝票日付と支払日付の為替レートの変動によるもので、XA元帳に書き込まれます。次のような処理が実行されます。

- 転記プログラムにより、AA元帳には国内通貨建て入金または支払金額のレコードが、XA元帳には代替通貨建ての為替差損益金額のレコードが作成されます。
- 〈詳細再換算〉プログラムにより、XA元帳に代替通貨建ての入金または支払金額のレコードが作成されます。

例: 国内通貨建て取引の為替差損益の詳細再換算

この例では、コロンビアの会社(COP)は伝票および支払を国内通貨で入力しています。この会社は詳細再換算を使用して金額を米ドル(USD)に換算します。各元帳の通貨は次のとおりです。

- AA = コロンビア・ペソ(COP)
- XA = 米ドル(USD)

この例では、次の情報に基づいて為替差損益金額が代替通貨元帳(XA)に対してどのように計算されるかを示しています。

日付	記述	AA元帳 (COP)	為替レート(除数)	XA元帳(USD)
6/01/05	伝票	85,000	850	100.00
6/30/05	支払	85,000	860	98.84

XA元帳の為替差損益金額は-1.16です。

次のT勘定は、AAおよびXA元帳がどのように伝票と支払に配賦されるかを示しています。

伝票仕訳

費用勘定	買掛金
85,000 AA	85,000 AA
100.00 XA	100.00 XA

支払仕訳

買掛金	現金	実現為替差益
85,000 AA	85,000 AA	
100.00 XA	98.84 XA	1.16 XA

外貨建て取引の詳細再換算による為替差損益

入金や支払の通貨が国内通貨と外貨のどちらであるかによって、取引転記時に作成される詳細再換算為替差損益の計算方法が異なります。

外貨建て取引の場合は、直接 CA(外貨)と XA(代替通貨)元帳間で為替差損益は計算されません。その代わりに次の計算が行われます。

- 転記プログラムにより、CA 元帳と AA 元帳の間の為替差損益が計算される。この金額は、請求書日付と入金日付または伝票日付と支払日付の為替レートの変動によるもので、AA 元帳に書き込まれます。転記レポートには、AA 元帳の仕訳と XA 元帳の為替差損益仕訳が併記されます。
- 転記プログラムにより、AA 元帳と XA 元帳の間の為替差損益が計算される。この金額は、請求書日付と入金日付または伝票日付と支払日付の為替レートの変動によるもので、XA 元帳に書き込まれます。転記レポートには、AA および CA 元帳の仕訳と XA 元帳の為替差損益仕訳が併記されます。

注:

前の 2 つの計算から算出された正味金額は、CA と XA 元帳の通貨間で直接計算した為替差損益の金額と同じになります。

- 〈詳細再換算〉プログラムでは、入金または支払日付の為替レートを使って入金または支払の外貨建て金額(CA)が換算されます。

例: 外貨建て取引の詳細再換算による為替差損益

この例では、コロンビアの会社(COP)は外貨建て伝票および支払をチリ・ペソ(CLP)で入力しています。この会社は詳細再換算を使用して金額を米ドル(USD)に換算します。各元帳の通貨は次のとおりです。

- AA = コロンビア・ペソ(COP)
- CA = チリ・ペソ(CLP)
- XA = 米ドル(USD)

まず CA 元帳(CLP)と AA 元帳(COP)間の為替差損益が計算され、次に AA 元帳と XA 元帳(USD)間の為替差損益が計算されます。為替差損益は、CA 元帳と XA 元帳の間で直接は計算されません。代わりに、CA 元帳と AA 元帳の差異、および AA 元帳と XA 元帳の差異に基づいて為替差損益が計算されます。

XA 元帳の為替差損益は、次の情報に基づいて計算されます。

日付	記述	CA 元帳(CLP)	為替レート (乗数)	AA 元帳(COP)	為替レート(除数)	XA 元帳(USD)
6/01/05	伝票	100,000.00	0.75	75,000	750	100.00
6/30/05	支払	100,000.00	0.76	76,000	800	93.75

XA 元帳の為替差損益金額は+ 5.00 です。この正味金額は次のようにして算出されます。

1. CA 元帳と AA 元帳の間の為替差損益-1.25 を算出する。

計算:- 1,000 COP/ 800 = - 1.25

為替差損益は AA 元帳に記録され、AA 元帳の伝票および支払金額の差異(-1,000)に基づきます。この差異は、コロンビア・ペソ(COP)から米ドル(USD)への支払日付における為替レート(800)を使用して換算されます。

2. AA 元帳と XA 元帳の間の為替差損益+6.25 を算出する。

計算: 100.00 - 93.75 = + 6.25

為替差損益は XA 元帳に記録され、伝票日付の為替レートで換算された伝票金額(100.00)と支払日付の為替レートで換算された伝票金額(93.75)の差異に基づきます。

詳細再換算の設定

詳細再換算を使用する前に、処理に必要な情報を設定してください。これには次の設定が含まれます。

- 固定情報
- 会社
- 元帳タイプおよび規則
- AAI
- 為替レート

〈詳細再換算の設定〉プログラム(P11410)を使って必要な設定を行うことができます。

初期設定後の詳細再換算の基本ステップは次のとおりです。

1. 為替レートを毎日更新する。
2. 〈詳細再換算〉プログラム(R11411)を実行する
3. 詳細通貨取引を検討、承認する
4. 詳細通貨取引を転記する

▶ 固定情報で詳細再換算を設定するには

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈詳細通貨設定〉を選択します。

1. 〈詳細通貨の設定〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 会社間決済
2. 詳細再換算を指定する 2(詳細)または 3(構成ハブ)を入力します。その他の方法は有効ではありません。
 3. 次のフィールドに同じ値を入力します。
 - 買掛金勘定の集計方式
 - 売掛金勘定の集計方式詳細再換算の場合は Y(取引ごとに 1 件)を入力します。その他の方法は有効ではありません。
 4. [OK]をクリックします。

参照

- 会社間決済および集計方式については『多通貨処理』ガイドの「多通貨固定情報の設定」

▶ 会社を詳細再換算用に設定するには

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈詳細通貨設定〉を選択します。

1. 〈詳細通貨の設定〉で、[会社の設定]をクリックします。
2. 〈会社の処理〉で、会社 00000 をハイライトして[選択]をクリックします。
3. 〈会社の設定〉で、[通貨]タブをクリックします。

The screenshot shows the 'PeopleSoft' application window titled '会社の設定' (Company Settings). At the top, there are buttons for 'OK', 'キャンセル' (Cancel), 'フォーム' (Form), and 'ツール' (Tools). Below these, there are input fields for '会社' (Company) with the value '00070' and '名称' (Name) with the value 'Luxe de France'. The main area has three tabs: '会社の設定' (Company Settings), '会計期間処理' (Accounting Period Processing), and '通貨' (Currency). The '通貨' tab is selected. Inside this tab, there is a section for '国内通貨' (Domestic Currency) with a dropdown menu showing 'EUR' and the text 'Euro'. Below this, there are three input fields: '再換算' (Reconversion) which is empty, '詳細通貨再換算' (Detailed Currency Reconversion) which contains the value '1', and '通貨別勘定科目の表記' (Currency-specific account name notation) which has a small icon next to it.

4. [通貨]タブで、次のフィールドに"1"、"Y"、"Z"のいずれかを入力します。
 - 詳細再換算
5. [OK]をクリックします。
6. 詳細再換算を使用する各会社について、ステップ 2～5 を実行します。

フィールド記述

記述	用語解説
詳細再換算	<p>会社が詳細再換算を許可するかどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 許可しない。</p> <p>1 許可する。Y(乗数)かZ(除算)のどちらを使用するかを自動的に決定します。この方法は、一般会計固定情報で設定された多通貨換算方法とは逆になります。</p> <p>Y 許可する。一般会計固定情報の多通貨換算方法がZ(除算)の場合、Y(乗数)を入力してください。</p> <p>Z 許可する。一般会計固定情報の多通貨換算方法がY(乗数)の場合、Z(除算)を入力してください。</p> <p>注: 1、Y、Z はすべて詳細再換算を許可します。基本的な違いは、1 を選択するとシステムによって自動的に値が決定されるのに対し、Y または Z を選択すると値を手動で入力する必要があります。</p>

はじめる前に

- 元帳タイプ XA(代替通貨元帳)、および必要に応じて YA(国内通貨当初)および ZA(外貨当初)がユーザー定義コード 09/LT に設定されていることを確認してください。

▶ 詳細再換算の元帳タイプ規則を設定するには

詳細再換算には代替通貨(XA)元帳を設定する必要があります。国内通貨当初(YA)および外貨当初(ZA)元帳の設定は任意です。

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈詳細通貨設定〉を選択します。

1. 〈詳細通貨の設定〉で、[元帳タイプの設定]をクリックします。
2. 〈元帳タイプの処理〉で、該当する元帳タイプをハイライトして[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

元帳タイプ規則の設定

OK キャンセル フォーム ツール

元帳タイプ Alternate Ledger
数量元帳タイプ* 🔍

会計規則

<input checked="" type="checkbox"/> 繰越利益の計算	<input type="checkbox"/> 当初予算の次年度繰越
<input type="checkbox"/> 元帳の貸借一致必須	<input type="checkbox"/> DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更
<input type="checkbox"/> 会社間決済の作成	<input checked="" type="checkbox"/> 換算先元帳として使用
<input type="checkbox"/> 残高を直接更新しない	<input type="checkbox"/> 仕訳を作成しない

元帳比較カラム・タイトル

上

下

元帳通貨

指定通貨コード U.S. Dollar

3. <元帳タイプ規則の設定>で、勘定科目表全体を再換算する場合にのみ元帳タイプ XA について次のオプションをオンにします。

- 繰越利益の計算
- 元帳の貸借一致必須

注:

[換算先元帳として使用]オプションは、元帳タイプ XA、YA、ZA には適用されません。詳細再換算プログラムでは元帳タイプ XA、YA、ZA がハードコード化されているため、このオプションは無視されます。

4. 元帳タイプ XA および ZA についてののみ、次のフィールドに値を入力します。

- 指定通貨コード

元帳タイプ XA および ZA(該当する場合)の金額の再換算に使用する通貨を入力します。元帳タイプに対する通貨コードの指定は、その元帳を使用するすべての会社に適用されます。

元帳タイプ ZA を使用している場合は、元帳タイプ XA と同じ通貨コードを割り当てる必要があります。元帳タイプ ZA には XA 元帳に換算した外貨建て仕訳が含まれるためです。

金額は AA 元帳の通貨(国内通貨)で換算されるため、元帳タイプ YA はこのフィールドを使用しません。

注意:

元帳の整合性を保つため、詳細再換算の使用開始後は、元帳に割り当てられた通貨コードを変更しないでください。

5. [OK]をクリックします。

詳細再換算 AAI

詳細再換算に使用される勘定科目範囲は、AAI 項目 CRxx によって定義されます。再換算は AA 元帳から XA 元帳、そして任意で YA 元帳および ZA 元帳に対して行われます。

AAI 項目 CR は任意で、貸借を一致させる勘定科目を定義します。

AAI 項目 CRxx(必須)

AAI 項目 CRxx には次のような特徴があります。

- AAI 項目 CRxx に割り当てられた勘定科目範囲は、金額を他の通貨で再換算するのに使用されます。
- xx は対で使用され範囲の開始と終了勘定を表します。たとえば、CR01 は範囲の開始勘定を、CR02 は範囲の終了勘定を示します。
- ビジネスユニットは任意です。空白にすると、取引の勘定科目コードのビジネスユニットが使用されます。
- AAI の範囲をスキップすることはできません。次のように数字の小さい順にしてください。
 - 01 - 02: 勘定科目の最初の範囲
 - 03 - 04: 勘定科目の 2 番目の範囲
- 範囲は最高 48 まで定義することができます。
- 勘定科目表全体を再換算する際は 1 組のみ使用してください。
 - CR01 = 主科目 1000
 - CR02 = 主科目 999999.99999999 または 999999.ZZZZZZZZ (オペレーティング・システムにより異なる)
- AAI 項目 CRxx の順序番号は 11.620 および 11.630 で、一般会計システム(09)の順序番号範囲には含まれていません。

AAI 項目 CR(任意)

AAI 項目 CR には次のような特徴があります。

- AAI 項目 CR に割り当てられた勘定科目は、四捨五入差異を記録して貸借一致仕訳を作成するために使用されます。
- この AAI 項目は、勘定科目表全体を XA 元帳(必要に応じて YA および ZA 元帳)に換算し、貸借一致させる必要がある場合にのみ設定します。この AAI 項目に割り当てた勘定科目により、通貨再換算元帳の貸借を一致させるために作成された仕訳がトラッキングされます。

- このAAI項目は、〈詳細再換算〉プログラムの実行時に貸借一致仕訳を作成するよう処理オプションを設定した場合のみ設定します。処理オプションが貸借一致仕訳を作成するように設定され、この AAI 項目が存在しない場合は、〈詳細再換算〉プログラムを実行するとエラー・レポートが生成されます。
- ビジネスユニット・主科目・補助科目は必須です。
- AAI 項目 CR の順序番号は 11.610 で、一般会計システム(09)の順序番号範囲には含まれていません。

詳細再換算による為替差損益

代替通貨元帳(XA)で為替差損益を計算して金額を再換算するために、次の AAI 項目が使用されます。

- RG(外貨建て入金の実現為替差益)
 - RL(外貨建て入金の実現為替差損)
 - PG(外貨建て支払の実現為替差益)
 - PL(外貨建て支払の実現為替差損)
-

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「外貨建て入金の実現為替差損益 AAI」および「外貨建て支払の実現為替差損益 AAI」

▶ 詳細再換算の為替レートを設定するには

AA 元帳の国内通貨建て金額から XA 元帳の代替通貨建て金額への換算には、為替レートが使用されます。特定の有効日付で為替レートを設定しない場合、〈詳細再換算〉プログラム(R11411)では最新の有効日付における為替レートが使用されます。

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈詳細通貨設定〉を選択します。

1. 〈詳細通貨の設定〉で、[為替レートの設定]をクリックします。
2. 〈為替レートの処理〉で、[追加]をクリックします。

3. 〈為替レートの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 換算元通貨コード
このフィールドには換算元の会社通貨を入力します。
 - 換算先通貨コード
このフィールドには代替(安定)通貨を入力します。
 - 有効開始日付
このフィールドには、金額の再換算に使用する日付を入力します。
4. 他のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

詳細再換算仕訳の処理

場合によっては、〈詳細再換算〉プログラム(R11411)の前に次の処理を実行する必要があります。

- 仕訳の為替レートを一時変更する。為替レートを一時変更しないと、〈詳細再換算〉プログラムを実行する際、実績金額(AA)から代替通貨建て金額(XA)への換算に為替レート・テーブル(F0015)の為替レートが使用されます。
- 特定の仕訳に対して代替通貨(XA)レコードが作成されないようにする。

▶ 詳細再換算仕訳を処理するには

〈仕訳入力、レポート、照会〉メニュー(G0911)から〈仕訳入力〉を選択します。

1. 〈仕訳入力の処理〉で、[検索]をクリックしてすべての仕訳を表示するか、見出しまたは QBE のフィールドに検索対象を絞り込む値を入力してから[検索]をクリックします。
2. 仕訳をハイライトして[選択]をクリックします。
3. 〈仕訳入力〉で、[フォーム]メニューから[実績レート]を選択します。

取引が転記済みの場合、このメニューはグレー表示され、為替レートを変更することはできません。

4. 〈詳細再換算レート〉で、次のうちいずれかを実行します。
 - 仕訳に対して為替レートを一時変更するには、ステップ 5 に進みます。
 - 〈詳細再換算〉プログラムの実行時に代替通貨レコードが作成されないようにするには、ステップ 6 に進みます。
5. 為替レート・テーブル(F0015)で AA 元帳と XA 元帳の通貨コード間の為替レートを一時変更するには、次のフィールドに値を入力してから[OK]をクリックします。
 - 実績為替レート
6. 代替通貨レコードを作成しないようにするには、[実績為替レート]フィールドをブランクにし、次のオプションをオンにして[OK]をクリックします。
 - XA 元帳を作成しない

フィールド記述

記述	用語解説
実績為替レート	仕訳入力時に入力した為替レート。多通貨処理では、為替レートテーブル (F0015) のレートの代わりにこのレートが使用されます。平均レートまたは実績レートを入力することができます。
	--- フォーム固有 --- デフォルトの為替レートを一時変更する詳細再換算用の換算レート。 換算元通貨は AA 元帳にある会社通貨、換算先通貨は XA 元帳の通貨を使用してください。
	代替通貨(XA)元帳に取引を作成しないようにするには、実績為替レートフィールドを空白にし、[XA 元帳を作成しない]オプションをチェックしてください。

詳細再換算の計算

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈詳細再換算〉を選択します。

〈詳細再換算〉プログラム(R11411)を実行して、通貨間で換算を行う際の取引に最新の為替レートを適用します。プログラムでは、代替通貨元帳(XA)に対してのみ、または XA と YA (国内通貨当初) および ZA (外貨当初) 元帳に対して取引の第 2 の再換算元帳が作成されます。

〈詳細再換算〉プログラムにより、為替レートを使用して AA (実績金額) 元帳の国内通貨建て金額が取引明細テーブル(F0911)の XA 元帳の代替通貨建て金額へ換算されます。ただし、外貨元帳(CA)と XA 元帳の通貨が同じ場合は例外です。この場合は、CA 元帳金額が XA 元帳にコピーされ、AA 金額は再換算されません。

為替レートが更新済みであり、有効日付が再換算を行う日付と対応していることを確認してください。再換算を行う日付の為替レートが見つからない場合は、前回の有効日付の為替レートが使用されます。

為替レート計算方法に逆換算禁止および間接為替を使用するように通貨を設定している場合、〈詳細再換算〉プログラムでも再換算にその方法が使用されます。最新の有効日付の為替レートが、〈為替レートの改訂〉フォームで指定された一時変更換算方法とともに使用されます。

処理を実行する前にエラーが見つかった場合、エラー・レポートが作成され、その会社について XA 元帳は更新されません。エラーを訂正して、もう一度プログラムを実行してください。

注:

転記の際に管理者の承認を必須にしていない場合、〈詳細再換算〉プログラムの処理オプションを使用して、XA 元帳で金額を再換算した後すぐに転記プログラムを実行するように設定できます。ただし、転記プログラムを実行すると処理時間が長くなることに注意してください。

はじめる前に

- 為替レートを入力または変更してください。『多通貨処理』ガイドの「詳細再換算の為替レートを設定するには」を参照してください。

詳細再換算によって処理される取引

〈詳細再換算〉プログラム(R11411)は、取引明細テーブル(F0911)の実績金額(AA)元帳にあり、次の基準を満たすすべての転記済み取引を処理します。

- 取引の会社が詳細再換算用に設定されている。〈会社名および番号〉プログラム(P0010)で、[詳細再換算]フィールドが1に設定されている。
- 元帳タイプ XA(代替通貨)、および任意で YA(国内通貨当初)および ZA(外貨当初)がユーザー定義コード 09/LT と〈元帳タイプ規則の設定〉フォームに設定されている。
- 取引の勘定科目が、AAI 項目 CRxx に設定された範囲内にある。
- F0911 テーブルの ALT9(通貨更新)フィールドで、取引の値がブランク(未処理)になっている。

〈詳細再換算〉プログラムにより、上記の条件を満たす AA 元帳の各取引について、F0911 テーブルの XA 元帳に当初取引と同じバッチ番号とバッチ・タイプ XX の取引が新規作成されます。たとえば、各仕訳(バッチ・タイプ G)には代替通貨仕訳(バッチ・タイプ XX)が作成されます。XX バッチ・タイプのレコードは〈バッチの処理〉フォームで検討できます。外貨元帳(CA)の金額の通貨が XA 元帳と同じ場合は、〈詳細再換算〉プログラムにより CA 元帳金額が XA 元帳にコピーされ、AA 元帳金額は再換算されません。

各取引について、AA 元帳の ALT9(通貨更新)フィールドがブランク(未処理)から次のうちいずれかの値に更新されます。

- P(処理済み) - 取引は〈詳細再換算〉プログラムにより処理されました。XA 元帳に対応するレコードが作成され、当初 AA 元帳レコードが P(処理済み)に更新されます。レポートに、「エラーはありません。バッチは転記されます。」というメッセージが印刷されます。
- N(該当しない) - 取引は〈詳細再換算〉プログラムにより処理されましたが、無視されました。XA 元帳に対応するレコードは作成されないが、次のいずれかの理由により AA 元帳が N(該当しない)に更新されます。
 - 会社が詳細再換算用に設定されていない。
 - 勘定科目が、AAI 項目 CRxx の範囲内でない。
- Y - 〈詳細再換算〉プログラムにより処理される際、当初仕訳は XA 元帳に対応するレコードを作成しないように指定されている。
- X - 〈詳細再換算〉プログラムにより処理される際、当初仕訳は XA 元帳に対応するレコードを作成しないように指定されているため、無効になる。

ALT9 フィールドはAA元帳でのみこれらの値により更新されます。XA 元帳で更新されることはありません。

注意:

〈詳細再換算〉プログラムを初めて実行する場合、取引明細テーブル(F0911)にある条件を満たすレコードすべての ALT9 フィールドが更新されるため、処理に時間がかかることがあります。このため、新規の取引のみが更新対象となります。

一般的なエラー・メッセージとその原因

次の表は、〈詳細再換算〉プログラム(R11411)の実行時にエラー・レポートに表示されるエラー・メッセージと、その原因の一覧です。

エラー・メッセージ	原因
為替レートが未設定	国内通貨から代替通貨への換算に使用する為替レートと有効日付が設定されていません。
AAI 項目 CRxx が未設定	AAI 項目 CRxx の範囲が設定されていないか、設定が正しくありません。
CR の勘定科目が正しくないか未設定	AAI 項目 CRxx に対する勘定科目コードが会社の勘定科目表にありません。
指定した転記プログラムのバージョンが正しくない	〈詳細再換算〉プログラムの処理オプションで指定した転記プログラムのバージョンが正しくありません。
XA 元帳が未定義	XA 元帳がユーザー定義コード(09/LT)に設定されていません。
XA または ZA 元帳の通貨が正しくない	〈元帳タイプ規則の設定〉フォームで XA または ZA 元帳に対して指定された通貨コードが正しくありません。(YA 元帳には通貨コードが割り当てられません)
YA または ZA 元帳が未定義	処理オプションで YA 元帳と ZA 元帳を作成するよう設定されていますが、これらの元帳がユーザー定義コード(09/LT)に設定されていません。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「詳細再換算の為替レートを設定するには」
- 『多通貨処理』ガイドの「詳細再換算 AAI」
- 『多通貨処理』ガイドの「詳細再換算の元帳タイプ規則を設定するには」

処理オプション: 詳細再換算(R11411)

元帳タブ

1. 追加元帳

1 = XA(代替通貨)、YA(国内通貨当初)、ZA(外貨当初)元帳の金額を再計算
 ブランク = XA 元帳の金額のみ再計算

再計算を実行する元帳を選択します。有効な値は次のとおりです。

1 XA(代替通貨)、YA(国内通貨当初)、ZA(外貨当初)元帳の金額を再計算
 ブランク XA 元帳の金額のみ再計算

2. 数量元帳

1 = 数量元帳に仕訳を作成しない
blank = 数量元帳に仕訳を作成する

XA(代替通貨)、YA(国内通貨当初)、ZA(外貨当初)元帳に対応する数量元帳(XI、YU、ZU)に仕訳を作成するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

1 数量元帳に仕訳を作成しない
blank 数量元帳に仕訳を作成する

転記タブ

1. 転記バージョン

このプログラムで作成された仕訳を転記するのに使用する転記プログラムのバージョンを指定します。バージョン ZJDE0041 を使用することをお勧めします。このバージョンはバッチタイプ XX (詳細再換算)用です。

このフィールドをblankにすると、仕訳は転記されません。

自動仕訳タブ

1. 自動仕訳

1 = 貸借一致仕訳を自動作成する
blank = 貸借一致仕訳を作成しない

AAI 項目 CR で指定された勘定科目を使用して、再換算元帳を貸借一致させる仕訳を自動的に作成するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

1 作成する
blank 作成しない

[元帳]タブの[追加元帳]オプションで指定した元帳にのみ貸借一致仕訳(伝票タイプ AE)が作成されます。

為替レート・タブ

1. 為替レート

1 = サービス/税日付における為替レートを使用

ブランク = 元帳日付における為替レートを使用

為替レートの日付を指定します。有効な値は次のとおりです。

1 サービス/税日付

ブランク 元帳日付

サービス/税日付は商品およびサービスの購入日、または税が発生した日付です。

為替レートテーブル(F0015)から指定した日付の為替レートが取り込まれます。

詳細再換算のデータ選択およびデータ順序

データ選択およびデータ順序は使用しないでください。データ選択またはデータ順序を入力しても無視されます。

詳細通貨取引の検討と承認

〈詳細再換算〉プログラム(R11411)を実行した後、総勘定元帳へ転記する前に詳細通貨取引が正しいかどうかを確認し、必要な場合は取引を承認します。

詳細通貨取引を転記する前に、次の処理を実行できます。

- 詳細通貨バッチ一覧の検討
- 明細情報の検討

〈詳細再換算〉プログラムで作成される取引のバッチ番号は、当初 AA 取引のバッチ番号と同じです。バッチ・タイプは XX です。

▶ 詳細通貨取引を検討および承認するには

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈詳細再換算の検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、[検索]をクリックしてすべての XX(詳細通貨)バッチを表示するか、見出しまたは QBE のフィールドまたはオプションを使って検索対象を絞り込んでから[検索]をクリックします。

バッチに管理者の承認が必要な場合は、〈バッチの処理〉フォームでバッチ状況は保留となります。

- 特定のバッチの取引明細を検討するには、そのバッチをハイライトして[選択]をクリックします。
- 〈仕訳の検討〉で、検討する伝票をハイライトして[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

仕訳入力

OK 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

バッチNo. 2122 モデル % 逆仕訳

伝票タイプ/No./会社 UE 1066 00080 元帳日付 05/06/30

摘要 Brazil Expenses 元帳タイプ AA COP

通貨 COP 為替レート 基本通貨 COP 外貨

	勘定科目No.	金額	勘定科目名	補助元帳	補助元帳タイプ	補助元帳名	備考
<input checked="" type="checkbox"/>	8001.8710	300,000	Moving Expense				
<input type="checkbox"/>	8001.8720	500,000	Office Supplies Expense				
<input type="checkbox"/>	8001.8730	600,000	Postage and Freight				
<input type="checkbox"/>	80.1110.BEAR	1,400,000	Bear Creek National Bank				

差異

- 〈仕訳入力〉で、[キャンセル]をクリックします。
- 〈仕訳の検討〉で、[閉じる]をクリックします。
- 〈バッチの処理〉でバッチをハイライトした状態で、バッチを承認するために残りのステップを実行します。
- [ロー]メニューから[バッチ承認]を選択します。
- 〈バッチ承認〉で、[承認済み - 転記準備完了]オプションをクリックしてから[OK]をクリックします。

詳細再換算取引の検討の関連タスク

元帳金額の検討	〈取引明細照会の処理〉フォームで、当初実績金額元帳(AA)とともに代替通貨元帳(XA)を検討できます。
---------	---

詳細通貨取引の転記

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈詳細再換算の転記〉を選択します。〈使用可能なバージョン〉で、バージョン ZJDE0041 (General Ledger Post - Detail Currency Restatement (総勘定元帳への転記 - 詳細再換算))を選択します。

〈詳細再換算〉プログラム(R11411)の実行後、作成された XX バッチを転記する必要があります。〈詳細再換算〉プログラムと転記プログラムを個別に実行する代わりに、次のいずれかを実行することもできます。

- 会計取引を転記すると同時に詳細通貨取引を自動作成する。

転記プログラムを実行して、処理オプションで〈詳細再換算〉プログラムのバージョン (ZJDE0001 または XX バッチ・タイプを作成する他のバージョン)を指定します。これにより、総勘定元帳バッチ(G)が自動的に転記され、詳細再換算バッチ(XX)が作成されます。または、他のバッチ・タイプに対して転記プログラムを実行するときに XX バッチを作成することもできます。XX バッチは XA 元帳に対して個別に転記する必要があります。

- 詳細通貨取引を作成すると同時に自動的に転記する。

〈詳細再換算〉プログラムを実行して、処理オプションで転記プログラムのバージョン (ZJDE0041 または XX バッチ・タイプを転記する他のバージョン)を指定します。これにより、詳細再換算バッチ(XX)が自動作成され、XA 元帳に転記されます。

転記レポートで、XA 元帳の取引が取引明細テーブル(F0911)に転記されたことを確認します。

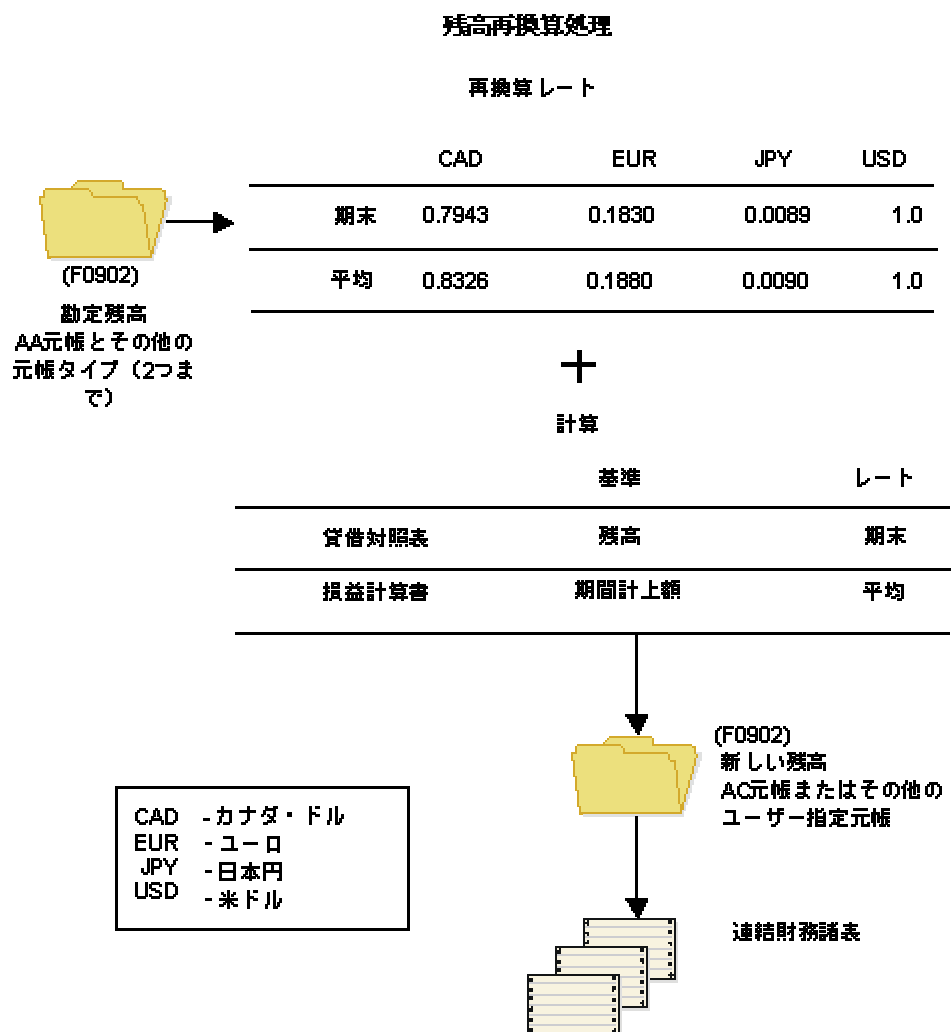
残高再換算

海外に子会社があるなど、連結財務諸表等の作成が必要な場合があります。財務報告書を連結するには、各会社の残高を 1 つの共通の通貨に換算する必要があります。これには詳細再換算および残高再換算を使用することができます。ただし、残高再換算の場合、残高レベルでは、連結元帳 (AC)またはその他のユーザー指定の元帳タイプに金額が再換算されるため、作成するレコードは少なくなります。

残高再換算は、次のような場合に使用します。

- 連結財務諸表を作成する前に、貸借対照表勘定を期末レートで、損益計算書勘定を平均レートで再換算する。たとえば、子会社の勘定科目を親会社の通貨に換算できます。
- 最高 3 つの元帳の金額を 1 つの元帳に集計する。たとえば、AA(実績金額)元帳と GP (GAAP 調整)元帳の金額を AC(連結)元帳に換算できます。
- 仮予算を分析するために換算を行う。たとえば、予算を社内で検討するために、通常の帳簿で使っている以外の通貨を指定することができます。

次の図は、連結財務諸表を作成する前に、残高再換算を使用して貸借対照表勘定を期末レートで、損益計算書勘定を平均レートで再換算する方法を示しています。

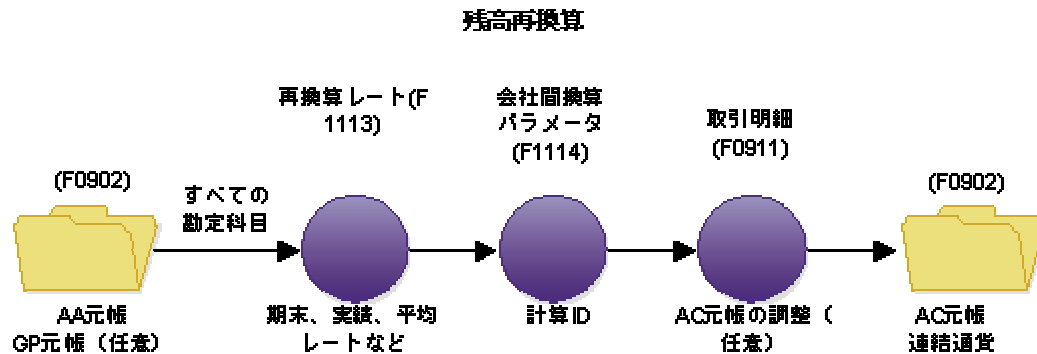


残高再換算および使用する元帳

残高再換算用に、元帳タイプ AC(連結)またはその他のユーザー定義元帳タイプを設定できます。元帳タイプ AC を詳細再換算または仮定通貨再転記に使用することはできません。

元帳タイプ	記述
AC(連結元帳)	<p>この元帳には、取引を計上する勘定科目の一部またはすべてが財務報告用の通貨で記録されます。</p> <p>連結財務報告用の通貨コードを元帳タイプ AC に割り当ててください。よく使用される元帳タイプは AC ですが、それ以外の元帳タイプを定義して連結元帳タイプとして使用することもできます。</p>

次の図は残高再換算に使用される AC 元帳およびテーブルを示しています。



調整目的で AC 元帳に仕訳を手入力する場合、残高再換算では取引明細テーブル(F0911)が使用されます。〈残高再換算の計算〉プログラム(R11414)の実行時に F0911 調整を含むかどうかは、処理オプションで指定することができます。

残高再換算の設定

残高再換算を使用すると、連結財務報告用以外の通貨で既存の会社残高を再換算できます。再換算は総勘定元帳残高レベルで行われ、勘定残高テーブル(F0902)の金額に基づきます。

残高再換算を使用する前に、処理に必要な情報を設定してください。これには次の設定が含まれます。

- 元帳タイプおよび規則
- 再換算レート
- 計算

初期設定後の残高再換算の基本ステップは次のとおりです。

1. 再換算レートを更新する
2. 新しい計算方法を設定する(必要な場合)
3. 〈再換算残高の計算〉プログラム(R11414)を実行する

はじめる前に

- 残高再換算用に元帳タイプ AC(連結元帳)、またはそれ以外に独自に定義した元帳タイプがユーザー定義コード 09/LT と 11/TL の両方に設定されていることを確認してください。

▶ 残高再換算の元帳タイプ規則を設定するには

〈一般会計システム・セットアップ〉メニュー(G0941)から〈元帳タイプ・マスターの設定〉を選択します。

1. 〈元帳タイプの処理〉で、元帳タイプ AC(またはその他のユーザー指定の元帳タイプ)をハイライトして[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

元帳タイプ規則の設定

OK キャンセル フォーム ツール

元帳タイプ AC Consolidations Ledger

数量元帳タイプ

会計規則

☒ 繰越利益の計算 ☐ 当初予算の次年度繰越

☒ 元帳の貸借一致必須 ☐ DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更

☐ 会社間決済の作成 ☒ 換算先元帳として使用

☐ 残高を直接更新しない ☐ 仕訳を作成しない

元帳比較カラム・タイトル

上 Consolidations

下 Ledger

元帳通貨

指定通貨コード USD U.S. Dollar

2. 〈元帳タイプ規則の設定〉で、元帳タイプ AC について勘定科目表全体を再換算する場合は次のオプションをオンにします。
 - 繰越利益の計算

3. 次のオプションをオンにします。

- 換算先元帳として使用

4. 次のオプションをオフにします。

- 仕訳を作成しない

5. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 指定通貨コード

このフィールドには、金額の再換算に使用する通貨コードを入力します。元帳タイプに対する通貨コードの指定は、その元帳を使用するすべての会社に適用されます。

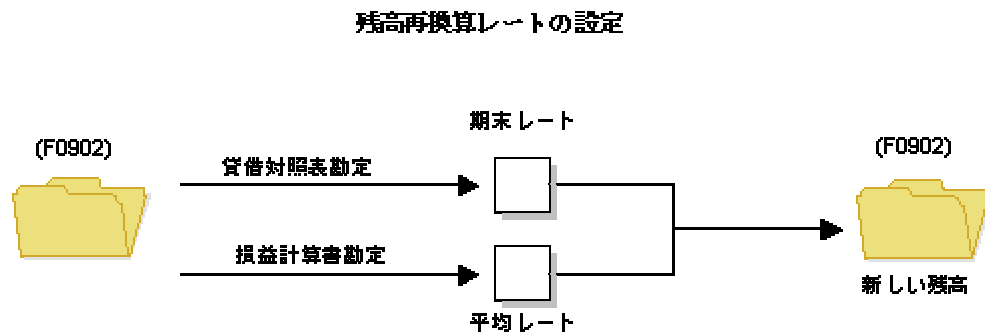
指定した通貨でのみ再換算が行われ、金額の小数点以下桁数が正しくなるように、元帳タイプ AC には通貨コードが必須です。

注意:

AC 元帳の整合性を保つため、残高再換算を使用開始後は、元帳に割り当てられている通貨コードを変更しないでください。

残高再換算のための再換算レートの設定

通常、残高再換算では各勘定科目範囲に対してそれぞれ異なる為替レートを使用する必要があります。たとえば、貸借対照表の残高の再換算には期末為替レートを使用し、損益計算書の残高には期間平均為替レートを使用する場合などです。次の例を参照してください。



通貨の換算に使用するレートを指定してください。換算元の各通貨の期間平均レートと期末レートの両方を入力することができます。毎月(各期間)最新の為替レートとその有効日付、タイプでテーブルを更新してください。

残高再換算レートは、再換算レート・テーブル(F1113)に保管されています。

はじめる前に

- 残高再換算用の換算レートを設定する前に、各フィールドに入力する値をメモしておくことをお勧めします。

▶ 残高再換算のための為替レートを設定するには

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈残高再換算レート〉を選択します。

1. 〈換算レートの処理〉で、[追加]をクリックします。

乗数	除数	有効日付	換算先	換算元	換算元通貨名	レートタイプ	
<input checked="" type="checkbox"/>	0.0008260		05/07/01	USD	COP		<input checked="" type="checkbox"/>

2. 〈通貨再換算レート〉で、グリッドの次のフィールドのうち 1 つに値を入力します。

- 乗数
- 除数

入力後、システムにより逆算レートが計算されます。

3. グリッドの残りのフィールドに値を入力します。

- 有効日付
- 換算先通貨
- 換算元通貨
- レート・タイプ

4. 各通貨関係について以上のステップを実行して[OK]をクリックします。

5. 〈通貨再換算レート〉で、[キャンセル]をクリックします。

6. 〈換算レートの処理〉で、次の QBE フィールド(複数可)に値を入力し、入力した換算レートを
確認して[検索]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
換算先通貨	通貨を表すコードです。

	フォーム固有 --- 勘定残高の換算先の通貨コード。〈通貨コードの指定〉フォームで定義されている通貨コードを使用できます。見出し域の[換算先通貨]には検索する為替レートの通貨コードを入力します。*(アスタリスク)を使用するとすべての通貨コードを表示することができます。
換算元通貨	通貨を示すコード

	フォーム固有 --- 勘定残高の換算元通貨コード。為替レートの参照/改訂に使用する通貨を指定するには、フォーム見出し部分の換算元通貨フィールドを使用します。アスタリスク(*)を使用すると、すべての通貨コードが指定されます。
有効日付	為替レートがある通貨関係で有効になる最初の日。

	フォーム固有 --- 表示する為替レートを見出しのフィールドに入力してください。*(アスタリスク)を入力すると、すべての有効日付の為替レートが表示されます。グリッドのフィールドは、通貨再換算に使用する為替レートを示します。
レート・タイプ	月次平均、月末、予算などの為替レートタイプを指定するユーザー定義コード(11/RT)。

	フォーム固有 --- 特定の為替レート・タイプを表示するにはこのフィールドに値を入力します。*はすべてのレート・タイプを表示します。
乗数	外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。
	このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。

	フォーム固有 --- 通貨換算に使用される乗数。[多通貨換算]オプションが Y の場合はこの乗数が使用されます。為替レートを入力または変更する際、乗数と除数のいずれかを入力してください。もう一方は自動的に計算されます。

除数

外貨建ての金額をこの除数で割って国内通貨建て金額を計算します。

--- フォーム固有 ---

通貨の再換算に使用される為替レート。一般会計固定情報の[多通貨換算]オプションが2に設定されている場合、除数レートが使用されます。換算元勘定残高がこの除数レートで割られて、換算先通貨での勘定残高が算出されます。為替レートを入力/変更する際には、除数/乗数のいずれかを入力してください。入力しなかった方は自動的に計算されます。

処理オプション: 残高再換算レート(P1113)

制限

急激なレート変更の際に警告を出す許容限度を指定してください(たとえば、10 は、10%となります)。

許容限度パーセント

残高再換算のための計算の設定

会社通貨を別の通貨に再換算する前に、〈残高再換算〉プログラムで使用する計算を設定する必要があります。これらの計算には次の情報が含まれます。

- 会社
- 勘定科目の範囲
- 換算先通貨
- 換算元と換算先の元帳タイプ

計算の設定時には、次の点に注意してください。

- 1つの会社に対して2通り以上の計算を設定できます。たとえば、異なる元帳タイプを使用して仮定分析を実行する場合には2通り以上の計算が必要となります。
- 計算の設定で、勘定科目範囲の換算元の元帳タイプを一時変更できます。これは、以前特定の元帳に再換算された勘定科目範囲の金額を別の元帳に移動または再換算する場合に特に役に立ちます。
- 最高3つの換算元元帳からの金額を1つの換算先元帳(連結元帳=AC)に再換算するよう計算を設定できます。換算元の元帳の通貨はすべて同じである必要があります。

この情報は会社換算パラメータ・テーブル(F1114)に保管されています。

計算に使用される基本情報

残高再換算用に計算を設定する際、次の基本情報を入力してください。

- レート・タイプ
- 計算方法
- 換算調整勘定

残高再換算用に計算を設定する前に、これらの情報がどのように使用されるかを理解しておく必要があります。

レート・タイプ

レート・タイプによって残高の計算に使うレートが決まります。勘定科目の各範囲について、ユーザー定義のレート・タイプを入力できます。次にいくつかの例を挙げます。

A(期間平均)	その月の平均レート。これは通常、損益計算書勘定とともに使用されます。
M(月末)	期末レート。これは通常、貸借対照表勘定とともに使用されます。
H(実績)	実績レート。固定資産勘定に使用することがあります。他のシステムから移行する際に引き続き同じ計算を行う場合もこのレートを使用できます。
ユーザー定義のレート・タイプ	ユーザー定義のレート・タイプ。たとえば、B は仮予算と比較するための予算用のレート（会計処理で使う為替レートとは異なります）として使用できます。

レート・タイプはユーザー定義コード 11/RT に入力してください。入力できるレート・タイプの数に制限はありません。

レート・タイプおよび計算方法についての注意

通常、レート・タイプと計算方法には次の組合せが使われます。

- 貸借対照表勘定にはレート・タイプ M(月末)と計算方法 1(残高)
($M + 1$ = 貸借対照表)
- 損益計算書勘定にはレート・タイプ A(期間平均)と計算方法 0(期間)
($A + 0$ = 損益計算書)

法的要件に基づいてこれ以外の組合せを使用する場合もあります。

計算方法

勘定科目の各範囲について計算方法を指定します。この計算方法によって、通貨換算に使う計算式が決まります。計算方法には次のようなものがあります。

- 1(残高方法)。残高計算に使用します。この方法では、年累計金額が使用されます。
- 0(期間残高)。期間計算に使用します。この方法では、期間転記金額が使用されます。

次の例は、計算方法 1 と 0 の結果を示しています。

例:方法 1(残高計算)

この例では、期間 3 の AC 元帳の残高は 1,120 になります。

換算元元帳会計 期間	期末レート	計算	換算先元帳の期 間転記額	換算先元帳の 期末残高	換算先元帳の 年累計残高
開始残高	1,000	0.90	$1,000 \times 0.90$	900	900
期間 1	100	1.10	$(1,000 + 100) \times 1.10 - 900$	310	1,210
期間 2	200	1.05	$(1,300 \times 1.05) - (900 + 310)$	155	1,365
期間 3	100	0.80	$(1,400 \times 0.80) - (1,210 + 155)$	- 245	1,120

例:方法 0(期間計算)

この例では、期間 3 の AC 元帳の残高は 80 になります。

会計期間	期間金額	平均レート	計算	換算先元帳期間残高
期間 1	100	1.10	100×1.10	110
期間 2	200	1.05	200×1.05	210
期間 3	100	0.80	100×0.80	80

換算調整勘定

計算を設定する際、換算調整用に貸借対照表勘定を指定できます。換算調整はレート・タイプと為替レートの差異により発生し、換算調整勘定でトラッキングされます。トラッキングする換算調整のタイプにより、〈会社通貨換算の改訂〉フォームで次のように勘定科目を入力します。

- レポート全体に対して為替換算差損益金額を入力するには、フォームの見出し部分にある[換算調整勘定]フィールドに勘定科目を入力してください。レート・タイプが異なる場合(平均と月末など)に必要な貸借一致仕訳が作成されます。換算調整勘定を入力しないと、調整仕訳は作成されません。
- 1 期間内の為替レート変動による為替換算差損益金額を入力するには、フォームのグリッドにある[換算調整勘定]フィールドに勘定科目を入力してください。この仕訳は分析用のみ使用され、貸借一致仕訳ではありません。計算方法 1 に割り当てた各勘定科目範囲に対してこの金額が計算されます。計算方法 0 については変換調整勘定を入力することはできません。

計算方法が 1(残高計算)の場合、換算差損益の計算式は次のようになります。

$$(\text{前期残高} \times \text{前期末レート}) - (\text{前期残高} \times \text{現行期末レート}) + (\text{現行期間転記額} \times \text{現行月平均レート}) - (\text{現行期間転記額} \times \text{現行月末レート}) = \text{換算調整金額}$$

〈会社通貨換算の改訂〉フィールドの[換算調整勘定]フィールドは任意フィールドです。これらのフィールドのいずれかまたは両方がブランクでもエラー・メッセージは表示されません。このため、勘定科目表を部分的に再換算することもできます。勘定科目表全体を再換算する場合は、フォームの見出し部分にある[換算調整勘定]フィールドに勘定科目を入力しないと、ほとんどの場合 AC 元帳タイプの貸借は一致しないことに注意してください。

はじめる前に

- 為替レートを入力または変更してください。『多通貨処理』ガイドの「残高再換算の換算レートを設定するには」を参照してください。

▶ 残高再換算のための計算を設定するには

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈計算の検討〉を選択します。

1. 〈会社通貨の換算処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft.
会社通貨換算の改訂

OK 削除 キャンセル ツール

計算ID: [] 元帳タイプ1(換算元): AA
会社: 00070 Luxe de France 元帳タイプ2(換算元): []
元帳タイプ(換算先): AC Consolidation Lcv 元帳タイプ3(換算元): []
換算先通貨コード: USD U.S. Dollar
換算調整勘定: []

レコード 1-5

レコードID	開始日	終了日	備考	レートタイプ	計算方法	換算元	換算レート	開始ビジネスユニット
1000	4979.99999999	4979.99999999	Balance Sheet	M	1			
4980	4980	4980	Retained Earnings	A	0	AC		
4981	4999.99999999	4999.99999999	Balance Sheet	M	1			
5000	9999.99999999	9999.99999999	Income Statement	A	0			

2. 〈会社通貨換算の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 計算 ID
- 会社
- 元帳タイプ(換算先)

残高再換算の場合、これは元帳タイプ AC(連結元帳)またはその他のユーザー指定の元帳タイプです。入力できるのは、ユーザー定義コード 11/RT にある元帳タイプのみです。

- 換算先通貨コード

3. 次のフィールドに AA(実績金額)を入力します。
 - 元帳タイプ 1(換算元)
最初の元帳タイプ(元帳タイプ 1)は常に AA です。
4. 次のフィールドに値を入力します(任意)。
 - 元帳タイプ 2(換算元)
 - 元帳タイプ 3(換算元)
5. 必要に応じて、次のフィールドに勘定科目を入力します。
 - 換算調整勘定
レート・タイプが異なる場合は、このフィールドの勘定科目を使用して貸借一致仕訳が作成されます。この勘定科目は、グリッドに入力した勘定科目範囲から除外するようにしてください。この計算 ID の勘定科目範囲で貸借が一致する必要がない場合は、このフィールドをブランクにします。
6. 勘定科目範囲に関する次のフィールドに値を入力します。
 - 開始勘定科目
 - 終了勘定科目
システムにより、開始勘定科目が終了勘定科目より小さいことが検証されます。すべての補助科目が勘定科目範囲に含まれるよう、終了勘定科目には補助科目 9999999 または ZZZZZZZ(使用するオペレーティング・システムによって異なる)を入力することをお勧めします。
 - 備考
 - レートタイプ
 - CM
勘定科目範囲に対して換算調整計算を実行する場合は、[C M(計算方法)]フィールドの値が1である必要があります。[計算方法]フィールドの値が0(期間計算)の場合、換算調整計算は行われません。
7. 次のフィールドに値を入力します(任意)。
 - 換算元元帳タイプ
 - 一時変更レート
このフィールドには、為替レートが長期的に変動しないと予測できる場合にのみ入力します。一時変更為替レートを入力した後に為替レートが変動すると、予期せぬ結果になる場合があります。
 - 開始
 - 終了
8. 必要に応じて[換算調整勘定]フィールドに値を入力します。
換算調整計算は貸借一致仕訳の作成に使われ、貸借対照表勘定にのみ入力できます。このフィールドは[C M(計算方法)]フィールドと連動しています。[計算方法]フィールドの値により、[換算調整勘定]フィールドの値が入力可能かどうかが決まります。

9. 勘定科目範囲が正しいことを確認します。

システムにより、勘定科目範囲が重複していないことが確認されます。

10. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
計算 ID 会社	残高再換算用の計算を識別する文字もしくは数字。 再計算する残高を持つ会社の番号。 --- フォーム固有 --- 企業や組織などを識別するコード。この会社コードは、貸借対照表を作成する対象の組織である必要があります。会社間取引はこのレベルで行うことができます。 会社コードと計算 ID によってレコードが識別されます。
元帳タイプ(換算先)	換算金額を保管する元帳タイプ。この元帳タイプは、再計算用にユーザー定義コードリスト 11/TL と総勘定元帳タイプリスト 09/LT に定義してください。
換算先通貨コード	通貨を表すコードです。 --- フォーム固有 --- 残高の換算先の通貨コード。〈通貨コードの指定〉フォームで定義されている通貨コードを使用できます。
元帳タイプ 1(換算元)	元帳タイプを示すユーザー定義コード(システム 09/タイプ LT)。 --- フォーム固有 --- 再換算処理で使用される 3 つの元帳タイプのうち 1 番目を入力してください。システムは換算レートを適用する前に、これらの元帳の残高を換算し、それらを合計します。 注: 3 つの元帳の通貨はすべて同じにする必要があります。
元帳タイプ 2(換算元)	元帳タイプを示すユーザー定義コード(システム 09/タイプ LT)。 --- フォーム固有 --- 再換算処理で使用される 3 つの元帳タイプのうち 2 番目を入力してください。システムは換算レートを適用する前に、これらの元帳の残高を換算し、それらを合計します。

元帳タイプ 3(換算元)

元帳タイプを示すユーザー定義コード(システム 09/タイプ LT)。

--- フォーム固有 ---

再換算処理で使用される 3 つの元帳タイプのうち 3 番目を入力してください。
システムは換算レートを適用する前に、これらの元帳の残高を換算し、それらを合計します。

換算調整勘定

為替差損益の計算に使用する勘定科目。次のような勘定科目コード形式があります。

- 0 標準勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目)
- 0 第 3 勘定科目コード(最大 25 桁)
- 0 8 桁の略式 ID
- 0 スピードコード

勘定科目の最初の文字は、勘定科目コードの形式を示します。
勘定科目形式は一般会計固定情報で定義します。

--- フォーム固有 ---

見出しまたは明細行で勘定科目が指定されていない場合、換算調整計算は行われません。この勘定科目を使って換算先の元帳で貸借が一致するようにしてください。

見出しのフィールドで換算調整勘定を指定すると、計算での四捨五入などによって生じた貸借不一致の誤差を計上するためにのみ使用されます。明細行で指定すると、その明細行で指定した勘定科目範囲内の誤差にのみ使用されます。

開始勘定科目

為替差損益の計算に使用する勘定科目。次のような勘定科目コード形式があります。

- 0 標準勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目)
- 0 第 3 勘定科目コード(最大 25 桁)
- 0 8 桁の略式 ID
- 0 スピードコード

勘定科目の最初の文字は、勘定科目コードの形式を示します。
勘定科目形式は一般会計固定情報で定義します。

--- フォーム固有 ---

見出しまたは明細行で勘定科目が指定されていない場合、換算調整計算は行われません。この勘定科目を使って換算先の元帳で貸借が一致するようにしてください。

見出しのフィールドで換算調整勘定を指定すると、計算での四捨五入などによって生じた貸借不一致の誤差を計上するためにのみ使用されます。明細行で指定すると、その明細行で指定した勘定科目範囲内の誤差にのみ使用されます。

終了勘定科目	<p>為替差損益の計算に使用する勘定科目。次のような勘定科目コード形式があります。</p> <p>0 標準勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目) 0 第3 勘定科目コード(最大 25 桁) 0 8 桁の略式 ID 0 スピードコード</p> <p>勘定科目の最初の文字は、勘定科目コードの形式を示します。 勘定科目形式は一般会計固定情報で定義します。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>見出しまたは明細行で勘定科目が指定されていない場合、換算調整計算は行われません。この勘定科目を使って換算先の元帳で貸借が一致するようにしてください。</p> <p>見出しのフィールドで換算調整勘定を指定すると、計算での四捨五入などによって生じた貸借不一致の誤差を計上するためにのみ使用されます。明細行で指定すると、その明細行で指定した勘定科目範囲内の誤差にのみ使用されます。</p>
CM	<p>残高の通貨再換算に使用する計算方法。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 期間計算。この方法では、指定された期間に正味転記額を使用し、通常は損益勘定科目および資本勘定の再計算に使用されます。</p> <p>1 残高計算。この方法では、年累計勘定残高を使用し、通常は貸借対照表勘定の再計算に使用されます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p>
換算元元帳タイプ	<p>このフィールドを空白にすると、データ辞書のデフォルト計算方法が使用されます。</p> <p>残高の通貨換算を行う元になる元帳。元帳タイプ AA(実績金額)が通常使用されます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>ビジネスユニット/勘定科目の範囲選択のこの明細行で使用する一時変更用元帳タイプを入力してください。画面の見出しに表示されている換算元元帳タイプの代わりにこの明細行用の元帳タイプが使用されます。たとえば、通貨勘定には CA 元帳タイプ、固定資産といった会社の代替元帳タイプの実績残高には XA 元帳タイプを使用することができます。</p>

一時変更レート

外貨を国内通貨に換算する際に使用される換算レート。

このフィールドは、小数点以下最大 7 桁まで入力できます。それ以上の桁数を入力した場合、最も近い 7 桁の数に調整されます。

--- フォーム固有 ---

通貨再計算処理を行うために、活動為替レートの代わりに使用する一時変更為替レート。このフィールドがブランクの場合は、通貨再計算レート・テーブル (F1113) の為替レートが使用されます。

長期にわたり為替レートが変化しないことが予測できる場合にのみ、一時変更為替レートを使用してください。レートの変化が予測される場合は、通貨再計算レートテーブルを使用してレートを定義してください。長期にわたり一時変更為替レートを使用していて、レートが変化した場合、レートの変化に関する監査履歴が消失します。監査履歴が使用不可のため、残高通貨再計算プログラムは再計算された残高を正確には計算できません。

残高再換算のための計算の検討

残高再換算用に計算を設定したら、正確な情報が入力されていることを確認します。

- 勘定科目の範囲が連続していない場合、それが意図的に設定されていることを確認してください。範囲に含まれていない勘定科目に対しては再換算が実行されません。範囲に含まれていない勘定科目の残高は、〈計算の改訂〉フォームで指定した換算調整勘定に入力できます。
- 勘定科目範囲に関連付けられているレート・タイプと計算方法が正しいことを確認してください。
- 勘定科目やビジネスユニット範囲が重複していないことを確認してください。
- 繰越利益勘定 (AAI 項目 GLG4 によって指定) が、〈会社通貨換算の改訂〉フォームで別の行に入力されていることを確認してください。

計算 ID の会社への割当て

残高再換算を検討して正しいことを確認した後、残高再換算を使用する各会社計算 ID を割り当てます。

▶ 会社計算 ID を割り当てるには

〈組織と勘定科目の設定〉メニュー (G09411) から〈会社名および番号〉を選択します。

- 〈会社の処理〉で、会社 00000 をハイライトして [選択] をクリックします。
- 〈会社の設定〉で、[通貨] タブをクリックします。

PeopleSoft

会社の設定

OK キャンセル フォーム ツール

会社 00000 名称 J.D. Edwards & Company

会社の設定 総期間会計処理 通貨

国内通貨 USD U.S. Dollar

再換算 J

詳細通貨再換算 1

通貨勘定残高の転記 []

3. [通貨]タブで、次のフィールドに計算 ID を入力して[OK]をクリックします。

- 再換算

このフィールドを空白にする場合、この会社に対して〈再換算残高の計算〉プログラム(R11414)の実行時に処理オプションで正しい計算 ID を指定したかどうかを確認してください。

特定の会社に対して複数の計算 ID を割り当てた場合、このフィールドを空白にし、その会社の各計算 ID について〈再換算残高の計算〉プログラムを実行します。

4. 残高再換算を使用する各会社について、以上のステップを実行します。

残高再換算のための計算

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈再換算残高の計算〉を選択します。

〈再換算残高の計算〉プログラム(R11414)により、残高が換算元元帳から連結元帳(AC)に再換算されます。設定した為替レートと計算に基づいて、〈再換算残高の計算〉プログラムでは次の処理を行います。

- 処理オプションでの指定に従って、選択した期間または現行期間までの全期間(年累計)について再換算を行う。
- 再換算する各期間に異なるレートを適用したり、すべての期間に同じレートを適用する。

- 特定の勘定科目範囲にのみ異なる為替レートを適用する。換算レート・ファイル・テーブル(F1113)に為替レートが存在しない場合、印刷されたレポートの為替レートと再換算残高カラムはブランクになります。残高がゼロの勘定科目を印刷しないよう指定した場合、その範囲内のすべての勘定科目がレポートから除外されます。
- 最高 3 つの換算元元帳タイプを 1 つの換算先元帳タイプに再換算する。通貨の小数点以下桁数は、換算先元帳タイプの通貨コードに基づきます。

〈再換算残高の計算〉プログラムでは、勘定残高(F0902)、換算レート(F1113)、会社換算パラメータ(F1114)の各テーブルの情報が使用されます。通貨間の四捨五入差異に対する仕訳など、再換算した元帳から直接作成された調整仕訳については、取引明細テーブル(F0911)の情報が使用されます。

〈再換算残高の計算〉プログラムは必要に応じて何度でも実行できます。処理オプションで別の換算先元帳タイプを指定しない限り、プログラムを実行するたびに既存の残高が上書きされます。このプログラムは次の 3 つのモードで実行できます。

テスト・モード - レポート付き	レポートは印刷されますが、換算先元帳に残高は作成されません。
最終モード - レポート付き	換算先元帳に残高が作成され、詳しい監査証跡が印刷されます。
最終モード - レポートなし	換算先元帳に残高が作成されますが、監査証跡は印刷されません。

レポートを検討する際に、次の点を確認してください。

- 各 AA 元帳金額に AC 元帳金額が使われている
- 換算調整勘定または繰越利益勘定に AC 元帳の手入力仕訳が存在しない

残高再換算プログラムの処理内容

〈再換算残高の計算〉プログラム(R11414)では、残高を再換算するために次の処理が実行されます。

- 勘定残高テーブル(F0902)の実績金額(AA)元帳を検索して、指定された会社の勘定科目範囲にある各勘定科目の開始残高と期間金額を取り込む。
- 計算方法に基づいて計算を行う。具体的には次のとおりです。
 - 期間 1 の残高計算。期首残高を更新し、期間 1 の残高を再換算し、それより後の期間の残高をクリアします。
 - 選択された期間(期間 1 以外)の残高計算。現行期間より前の残高はそのまま残し、現行期間の残高を再換算し、それより後の期間の残高をクリアします。
 - 選択された期間の年累計残高計算。選択された期間の残高を再換算し、それより後の期間の残高をクリアします。

注意:

残高再換算の対象となる期間に、該当する月より後の月を含めないように注意してください。現行会計期間が 6 月の場合、年累計残高の再換算の対象は 1 月から 6 月までとなります。

- 通貨勘定科目の金額。換算先元帳タイプの通貨が勘定科目の通貨と一致する場合は、AA 元帳から再換算する代わりに外貨(CA)元帳の金額を使用します。

- 勘定残高テーブル(F0902)に換算先元帳タイプ(通常は AC=連結元帳)を作成または更新する。

注:

AC 元帳に年度締めを実行すると、その時点で AC 元帳の APYC と APYN フィールドが更新されます。〈元帳タイプ規則の設定〉フォームで[繰越利益の計算]オプションが AC 元帳に対してオンになっている場合、繰越利益が計算されます。

AC 元帳の手入力仕訳

〈再換算残高の計算〉プログラム(R11414)により AC 元帳(またはその他のユーザー定義連結元帳)にレコードが自動的に作成されますが、〈仕訳入力〉フォームで元帳タイプ AC の仕訳を手入力することもできます。これらの手入力仕訳は、取引明細テーブル(F0911)に対する調整用です。

たとえば、通貨間の四捨五入処理により発生する差異を調整する仕訳が必要な場合があります。または、会社残高を連結する際に発生する金額を相殺するための仕訳を入力する場合があります。

元帳タイプ AC に対して仕訳を入力する場合、同じ期間、会計年度、勘定科目に対して AA 元帳にレコードが存在する必要があります。必要であれば、元帳タイプ AA に 1 セントの仕訳を入力します。残高再換算処理では、AA 元帳にレコードがない場合、手入力された AC 仕訳は認識されません。換算調整勘定または繰越利益勘定に対して AC 元帳に仕訳を手で入力しないように注意してください。

〈再換算残高の計算〉プログラムの実行時に、F0911 テーブルの調整についてチェックするかどうかを処理オプションで指定できます。AC 元帳に手入力で仕訳を入力しないか、手入力仕訳の処理をスキップする場合、この処理オプションを適切に設定することにより処理時間を短縮できます。

他の期間に対して〈再換算残高の計算〉プログラムを再実行しても、AC 元帳に入力した仕訳は保持されます。

はじめる前に

- 元帳タイプ・マスター(F0025)で元帳タイプ AC の会計処理規則を設定します。『多通貨処理』ガイドの「残高再換算の元帳タイプ規則を設定するには」を参照してください。
- 勘定科目範囲に関連付けられているレート・タイプと計算方法が正しいことを確認します。『多通貨処理』ガイドの「残高再換算のための計算を設定するには」を参照してください。
- 〈会社の設定〉フォームの[再換算]フィールドに、特定の会社に使用する計算 ID を割り当てます。『多通貨処理』ガイドの「会社に計算 ID を割り当てるには」を参照してください。

処理オプション:再換算残高の計算(R11414)

処理モード・タブ

この処理オプションでは、テスト・モードと最終モードのどちらでプログラムを実行するかを指定します。最終モードで実行する場合、レポートを印刷するかどうかを指定できます。

1. 処理モード

0 = テスト・モード

1 = 最終モードでレポートを出力

2 = 最終モードでファイル更新のみ

このプログラムを実行するモードを指定します。有効な値は次のとおりです。

1

テストモードで実行。勘定残高テーブル(F0902)は更新されず、会計年度および期間の変更を示すレポートが印刷されます。

2

最終モードで実行してレポートを印刷。勘定残高テーブル(F0902)の会計年度および期間が更新されます。変更を示すレポートも印刷されます。

3

レポートを印刷せず、最終モードで実行。勘定残高テーブル(F0902)の会計年度および期間が更新されます。レポートは印刷されません。

期間/年累計タブ

この処理オプションでは、通貨再換算の期間を指定します。[期間または年累計処理]フィールドを使用して、特定の期間について再換算を行うのか、特定の年で現行期間までの期間すべてについて再換算を行うのかを指定します。

特定の期間について再換算を行う場合、[再換算期間]フィールドを使用して期間を指定します。特定の期間に対して再換算を行う場合に[再換算期間]フィールドを空白にすると、〈会社の設定〉フォームで一般会計システムに定義されている会社固定情報テーブル(F0010)の現行期間が換算されます。

年累計の期間について再換算を行う場合、[再換算年度]フィールドを使用して年度を指定します。年度に対して再換算を行う場合に[再換算年度]フィールドを空白にすると、〈会社の設定〉フォームで一般会計システムに定義されている会社固定情報テーブル(F0010)の現行期間までの年累計金額が換算されます。

1. 期間または年累計処理

空白 = 期間処理

1 = 年累計処理

特定の期間に対して再換算を行うか、特定の年累計の期間すべての再換算を行うかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白

特定の期間のみ再換算する。[再換算期間]フィールドに期間を指定することができます。[再換

[期間]フィールドで期間を指定しない場合は現行会計期間が再換算されます。

1

特定の年累計期間すべてを再換算する。[再換算年度]フィールドで年度を指定することができます。[再換算年度]フィールドで年度を指定しない場合は現行年度が再換算されます。

2. 再換算期間

[期間]または[年累計]フィールドを空白にした場合、この処理オプションを使用して再換算する期間を指定します。たとえば、会計年度の第 8 期間を処理するには“8”を入力することができます。

このフィールドを空白にすると、〈会社の設定〉フォームで一般会計システムに対して定義され、会社固定情報テーブル(F0010)に記録された現行会計期間が再換算されます。

3. 再換算年度

[期間]または[年累計]フィールドに“1”を入力した場合、この処理オプションを使用して再換算する年度を指定します。再換算する会計年度の下 2 桁を入力してください。たとえば、2005 年の場合には“05”を入力します。

このフィールドを空白にすると、〈会社設定〉フォームで一般会計システムに対して定義され、会社固定情報テーブル(F0010)に記録された現行年度が再換算されます。

ゼロ残高タブ

この処理オプションでは、再換算する期間の計上額がゼロのレコードを印刷するかどうかを指定します。

1. ゼロ残高の非表示

空白 = すべてのレコードを印刷

1 = 金額が変動したレコードのみ印刷

再換算中の期間にデータがないレコードを非表示にします。有効な値は次のとおりです。

空白

この期間のすべてのレコードを印刷する

1

この期間でデータのないレコードを印刷しない

計算 ID タブ

この処理オプションでは、データ選択で選択した会社に対してシステムが使用する計算 ID を指定します。この処理オプションで計算 ID を指定しない場合は、会社固定情報テーブル(F0010)で割り当てられている計算 ID が使用されます。

1. 計算 ID の指定

データ選択に対する計算 ID を指定します。この処理オプションにより会社固定情報(F0010)のデフォルトの計算 ID が一時変更されます。計算 ID を入力した場合、データ選択で選択したすべての会社に対して、この計算 ID が使用されます。

このフィールドを空白にすると、デフォルトの計算 ID が使用されます。

元帳タブ

この処理オプションでは、残高を換算する元帳の元帳タイプを指定します。[換算先元帳タイプ]フィールドを空白のままにすると、すべての換算先元帳の残高が換算されます。換算先元帳は、ソフトウェア上で「TO 元帳」と表示されている場合もあります。

1. 換算先元帳

金額を換算する先の元帳タイプを指定します。このフィールドを空白にすると、すべての換算先元帳が処理されます。たとえば、会社 70 に対して 3 つの換算を設定することができます。それぞれの換算によって異なる換算先元帳タイプが更新されます。

このフィールドを空白にした場合、3 つの計算が実行され、各換算先元帳タイプの残高レコードが作成されます。

このフィールドに元帳タイプを入力した場合は、入力した元帳タイプに対してのみ計算が行われます。

為替レート・タブ

この処理オプションでは、残高再換算時にプログラムが使用する為替レートを指定します。使用できるのは、現行会計期間か再換算する期間の為替レートです。

1. 為替レート

空白 = 現行期間のレートを使用

1 = 再換算する期間のレートを使用

有効為替レートを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank

現行会計期間の為替レートを使用する

1

再計算中の期間の為替レートを使用する

注: 年累計残高を再計算する際は、1を入力して選択した期間の為替レートを使用してすべての期間を再計算します。デフォルト(blank)の場合は、再計算中の各特定の期間の為替レートが使用されます。

調整タブ

1. 調整チェック

blank = チェックする

1 = チェックしない

再計算残高に取引明細テーブル(F0911)の手作業の仕訳調整を含めるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank

手作業の仕訳調整を含める。

1

手作業の仕訳調整を含めない。手作業の仕訳調整を入力していない場合にのみこの値を入力します。プログラムは、処理中に調整の検索をバイパスします。

再換算残高の計算のデータ選択

データ選択で、処理オプションに入力した計算 ID を使用する会社のみを選択します。

連結元帳での繰越利益の計算

年度末処理の一環として、連結元帳(通常は AC)に対して繰越利益を計算する必要があります。これは残高再換算に使用されます。

AC 元帳の貸借が一致していることと、繰越利益の計算金額が正しいことを確認するために決められたステップを実行することをお勧めします。このステップを実行すると、連結元帳の繰越利益を手作業で計算する代わりに、〈年度締め〉プログラム(R098201)によってさまざまな通貨の金額から正しい繰越利益が計算されます。次に説明する確認のステップは、グローバル・サポート・サービスによってサポートされています。

AC 元帳に対する繰越利益計算のステップ

1. 繰越利益勘定に対して自動仕訳(AAI)項目が設定されていることを確認します。
2. 〈会社通貨換算の改訂〉フォームで、繰越利益勘定(AAI 項目 GLG4 で指定)に対して別の行を作成し、次の値を入力します。
 - 繰越利益勘定(〔開始勘定科目〕および〔終了勘定科目〕フィールド)
 - 有効なレート・タイプ(〔レート・タイプ〕フィールド)
 - 有効な計算方法(〔計算方法〕フィールド)
 - AC またはユーザーが指定した連結元帳(〔換算元〕フィールド)
 - 1.0000000(〔一時変更レート〕フィールド)
3. 〈再換算残高の計算〉プログラム(R11414)を実行します。
4. AC 元帳に対して〈年度締め〉プログラムを実行し、再換算した元帳の貸借を一致させます。

参照

- ステップ 1 の詳細については『一般会計の』ガイドの「繰越利益に関する考慮事項」
- ステップ 3 の詳細については『多通貨処理』ガイドの「残高再換算のための計算」

仮定再換算

多通貨の取引を入力すると、最新の為替レートを使用して外貨から国内通貨へ換算されます。為替レートは変動するため、換算金額は比較には適さないことがあります。

すべての取引を同じ日付の為替レートに換算して転記すると、為替変動に影響されずに各取引を見ることができます。この方法で残高を再転記すると、次の処理を実行できます。

- 特定の日付の為替レートを使って残高を再換算する。
- 仮定再換算に使用された元帳タイプの新しい残高を記録する。これには、AD(仮定再換算)元帳タイプまたはその他のユーザー指定の元帳タイプを使用できます。

次に、この再換算残高を実績残高または予算残高と比較することができます。たとえば、建設会社などでプロジェクトが数年にわたる場合に、実績を予算が作成された時点の為替レートに換算して予算と比較することができます。または、世界各地に販売員を抱える会社が、安定通貨で各地の売上を把握してコミッションを計算することもできます。

仮定再換算および使用する元帳

仮定再換算に設定する元帳タイプは次のとおりです。この元帳タイプを、詳細再換算または残高再換算に使用することはできません。

元帳タイプ	記述
AD(仮定再換算元帳)	<p>この元帳タイプには、特定の日付の為替レートを使用して外貨建て金額に再換算された国内通貨建て取引(AA 元帳)の完全な勘定科目表が含まれます。</p> <p>この元帳タイプには通貨コードを割り当てないでください。取引の会社の国内通貨が使用されます。</p>

はじめる前に

- 残高再換算用に元帳タイプ AD(仮定再換算元帳)がユーザー定義コード 09/LT と 11/TL の両方に設定されていることを確認してください。

▶ 仮定再換算の元帳タイプ規則を設定するには

〈一般会計システム・セットアップ〉メニュー(G0941)から〈元帳タイプ・マスターの設定〉を選択します。

1. 〈元帳タイプの処理〉で、元帳タイプ AD を選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

元帳タイプ規則の設定

OK キャンセル フォーム ツール

元帳タイプ AD "As if" Restatement Ledger

数量元帳タイプ

会計規則

☐ 繰越利益の計算
 ☐ 当初予算の次年度繰越

☐ 元帳の貸借一致必須
 ☐ DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更

☐ 会社間決済の作成
 ☒ 換算先元帳として使用

☐ 残高を直接更新しない
 ☐ 仕訳を作成しない

元帳比較カラム・タイトル

上 Alt Restatement

下 Ledger

元帳通貨

指定通貨コード EUR Euro

2. 〈元帳タイプ規則の設定〉で、次のオプションをオンにします。

- 換算先元帳として使用

3. 次のオプションをオフにします。

- 仕訳を作成しない

4. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 指定通貨コード

このフィールドには、金額の再換算に使用する通貨を入力します。元帳タイプに対する通貨コードの指定は、その元帳を使用するすべての会社に適用されます。

元帳タイプ AD には、指定した通貨でのみ再換算し適切な小数点以下表示桁数を使用する通貨コードが必要です。

注意：

元帳の整合性を保つため、仮定再換算を使用し始めた後は、AD 元帳に割り当てられた通貨コードを変更しないでください。

仮定再換算のための計算

〈再換算〉メニュー(G1122)から〈仮定日の再転記〉を選択します。

〈仮定日の再転記〉プログラム(R11415)を使って、国内通貨建ての勘定残高を別の通貨に換算することができます。このプログラムでは次の処理が行われます。

- 取引明細テーブル(F0911)の外貨(CA)元帳から転記済みの外貨建て取引を選択する
- CA 元帳に新しい為替レートを適用する
- 再換算した国内通貨建て金額のレコードを作成し、勘定残高テーブル(F0902)の仮定再換算元帳(AD)に保管する通常、仮定再換算用の元帳タイプには AD 元帳を使用しますが、AA、CA、XA、YA、ZA、AZ 以外であればユーザー指定の元帳タイプを使用することもできます。

〈仮定日の再転記〉プログラムは必要に応じて何度でも実行できます。処理オプションで別の換算先元帳タイプを指定しない限り、プログラムを実行するたびに AD 元帳の残高が上書きされます。このプログラムは次の 3 つのモードで実行できます。

テスト・モード - レポート付き	レポートは印刷されますが、換算先元帳に残高は作成されません。
最終モード - レポート付き	換算先元帳タイプに残高が作成され、詳しい監査証跡が印刷されます。
最終モード - レポートなし	換算先元帳に残高が作成されますが、監査証跡は印刷されません。

取引が国内通貨で当初入力された場合、レポートには当初または仮定の為替レートは表示されません。これは換算元と換算先の金額が同じためです。

〈仮定日の再転記〉プログラムのデモ・バージョンでは、選択した勘定科目範囲の国内通貨と外貨建ての取引が処理されます。このバージョンを使用して、AA(実績金額)元帳の取引すべてが AD(仮定通貨再換算)元帳に転送されたことを確認してください。

はじめる前に

- 〈元帳タイプ規則の設定〉フォームで元帳タイプ AC の会計処理規則を設定します。『多通貨処理』ガイドの「残高再換算の元帳タイプ規則を設定するには」を参照してください。
- 〈為替レートの改訂〉フォームで、再換算日付以前の有効日付を持つ為替レートを入力してください。

処理オプション: 仮定日の再転記(R11415)

換算日付

1. 当初取引の換算に使用する仮定為替レート日付を入力してください。この日付における為替レートが為替レート・テーブル(F0015)に設定されている必要があります。
-

モード

2. 計算および更新の処理モードを入力してください。

0 = テストモードでレポート出力

1 = 最終モードでレポート出力

2 = 最終モードでレポートなし

元帳タイプ

3. 再計算された取引金額を保存する元帳タイプを入力してください。このオプションにはデフォルトがないため、プログラムが正しく機能するには必ず入力する必要があります。ユーザー定義コード(11/TL)で定義されている元帳タイプを入力してください。
-

仮定日の再転記のデータ選択

〈仮定日の再転記〉プログラム(R11415)のデモ・バージョンのプログラム・ロジックは、データ選択によって次のように異なります。変更はしないでください。

- 伝票タイプが BF と等しくない。集計されていない取引レコードのみが選択されます。取引が集計されている場合、使用された当初為替レートが判別できません。
- 転記コードが P と等しくない。勘定残高テーブル(F0902)に転記されていない取引に対しては、換算が行われません。

多通貨の複数サイト集計

複数サイト集計を使用することにより、複数のロケーション(サイト)から中央のロケーションへ勘定残高を送ることができます。中央のロケーションでは、法定および管理レポートに集計勘定残高を使用できます。

複数サイトの集計には、次の2種類のサイトが関連します。

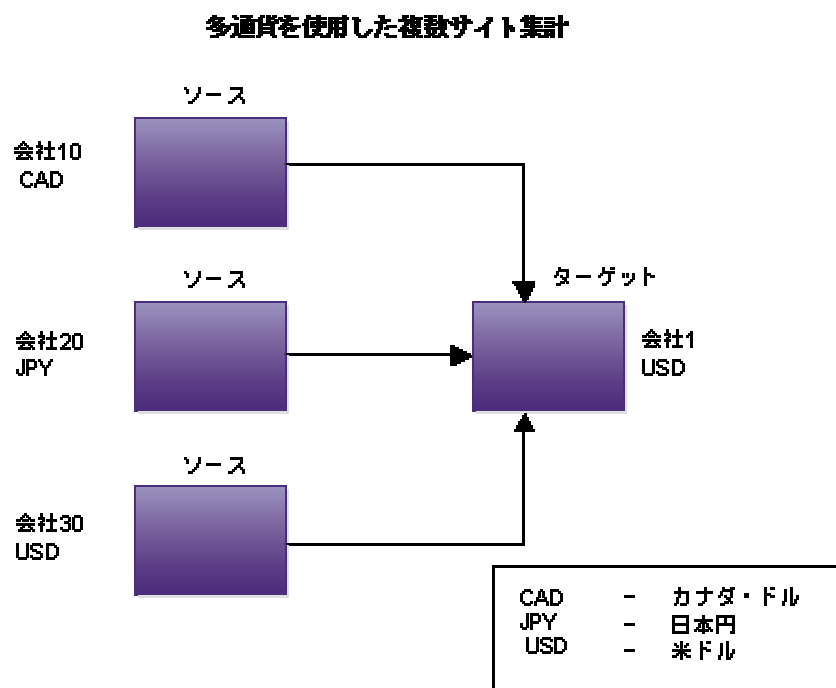
- ソース - 残高の作成元となるすべてのロケーション
- ターゲット - 残高を受け取る中央のロケーション(本社)

ターゲット・サイトとソース・サイトが異なる通貨を持つ場合は、ターゲット・サイト側が J.D. Edwards の多通貨処理システムを使用する必要があります。ソース・サイトはターゲット・サイトにデータを提供するだけで、多通貨処理システムは必要ありません。

多通貨環境で複数サイト集計を処理する前に、ソース・サイトとターゲット・サイトの残高には共通通貨が使われている必要があります。ソース・サイトの会社通貨をターゲット会社の通貨に換算するには、〈再換算残高の計算〉プログラム(R11414)を実行します。

例: 多通貨を使用した複数サイト集計

この例では、ターゲット・サイトでは米ドル(USD)を使用し、3つのソース・サイトのうち2つが異なる通貨を使用しています。ソース・サイトは会社 10(カナダ・ドル)、会社 20(日本円)、会社 30(米ドル)です。



会社 10 および 20 の残高はターゲット会社の通貨(米ドル)に換算されます。会社 30 の残高はすでにターゲット会社の通貨建てであるため、換算の必要はありません。次に、ソース・サイトの換算済み残高が集計されターゲット・サイトに送られます。ターゲット・サイトでは、複数サイト集計レポート用に集計残高の仕訳が作成、処理され、取引明細テーブル(F0911)と勘定残高テーブル(F0902)に転記されます。

参照

- 複数サイト集計を実行する前に必要な設定など、複数サイト集計に関する通貨以外の情報については『一般会計』ガイドの「複数サイト集計」

多通貨を使用した複数サイト集計の基本ステップ

ターゲット・サイトとソース・サイトの通貨が異なるかどうかにかかわらず、複数サイト集計の基本ステップはほとんど同じです。主な違いは、複数サイト集計処理を開始する前にソース・サイトの残高を共通通貨(ターゲット・サイト会社の通貨)に換算する必要がある点です。

例: 多通貨を使用した複数サイト集計の基本ステップ

次の例は、多通貨を使用する場合の複数サイト集計の基本ステップを示しています。この例では、ソース・サイトの会社すべてで J.D. Edwards の多通貨処理システムを使用しており、ソース会社がターゲット・サイトにデータを送る前に会社残高を共通通貨に換算済みであると仮定します。

次のステップで使うプログラムの多くは、〈複数サイトの集計〉メニュー(G1021)からアクセスできます。

ソース・サイト

1. ターゲット・サイトで集計に使用する通貨以外の通貨を持つソース会社について〈再換算残高の計算〉プログラム(R11414)を実行します。

このプログラムにより、AA 元帳の国内通貨建て金額が連結元帳(AC)またはその他のユーザー指定元帳の通貨に換算されます。AC 元帳の通貨は、ターゲット・サイトで集計に使われる通貨と同じです。

次のフォームでは、残高再換算用に設定された 4 つのソース会社が表示されています。

ID	会社	会社名	換算元 元帳 1	換算元 元帳 2	換算元 元帳 3	換算先 通貨
<input type="checkbox"/>	00001	Financial Distribution Company	AA		AC	USD
<input type="checkbox"/>	00070	Luxe de France	AA		AC	USD
<input type="checkbox"/>	H 00080	Colombian ECS Company	AA		AC	USD
<input type="checkbox"/>	J 00075	Cascades, Ltd	AA		AC	USD

2. 〈集計処理〉プログラム(R10550)を実行して、勘定残高テーブル(F0902)から換算済み金額を読み込み、次のテーブルに各ソース・サイトの集計残高を作成します。

- 複数サイト集計の転送ファイル見出し(F1001)
- 複数サイト集計の転送ファイル(F1002)
- 複数サイト集計の転送ファイル - カテゴリ・コード(F1003)

注:

ソース会社で J.D. Edwards の多通貨処理システムを使用している場合、〈集計処理〉プログラムの処理オプションに通貨コードを入力しないでください。システムは処理オプションを無視します。

ソース会社で多通貨処理システムを使用していない場合は、会社の通貨コードを入力してください。この通貨コードはソース会社の勘定残高に割り当てられますが、換算は行われません。

3. 整合性レポートを実行し、ターゲット・サイトにデータを送信する前に潜在的な貸借不一致やデータの矛盾を見つけることができます。

4. 〈集計データ送信〉プログラム(R10610)または〈集計コンソール〉プログラム(P10610)を使用して、F1001、F1002、F1003 の各テーブルの集計残高をソース・サイトからターゲット・サイトに送信します。

このステップでは、基本的に 1 つのソースライブラリから別のソースライブラリへデータがコピーされます。

ターゲット・サイト

5. 〈残高集計仕訳〉プログラム(R10480)を実行して、ソース・サイトから受信した集計残高の仕訳を作成します。

このプログラムでは、仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)にレコードが作成されます。

6. 整合性レポートを実行して、前のステップの結果を確認します。

7. 〈バッチ仕訳処理〉プログラム(R09110Z)を実行し、バッチ仕訳を処理してから取引明細テーブル(F0911)に転記します。

このプログラムにより、監査証跡の明細が記載されたレポートが印刷されます。

8. 〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を実行して、F0911 の仕訳を勘定残高テーブル(F0902)に転記します。

9. F0902 テーブルの残高情報を取り込む照会プログラムまたはレポートを使用して、複数サイト集計残高を検討します。

▶ 多通貨環境で集計規則を定義するには

ステップ 4 にある例外を除き、ソース・サイトの集計勘定残高の規則を定義するステップは、多通貨処理を使用するかどうかにかかわらず同じです。

〈複数サイトの集計〉メニュー(G1021)から〈集計の設定〉を選択します。

1. 〈集計設定の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈集計設定の改訂〉で、集計規則を定義します。
3. [追加設定]タブをクリックします。

PeopleSoft

集計設定の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

集計名 FIN Financial Rollup

ビジネスユニット構造 勘定科目構造 追加設定

開始元帳タイプ 1 CA General Ledger

開始元帳タイプ 2 AA

開始元帳タイプ 3

四捨五入する位

☐ 補助元帳明細

☐ 通貨別残高

4. 各勘定で通貨明細別に残高を保持するには、次のオプションをオンにします。
 - 通貨別残高このオプションをオフにすると、各勘定について 1 つの集計レコードが作成されます。

参照

- 〈集計設定の改訂〉プログラムの通貨以外の情報については『一般会計』ガイドの「集計規則を定義するには」を参照してください。

一般会計システムの多通貨用照会プログラムおよびレポート

このソフトウェアのほとんどの照会プログラムとレポートは、多通貨で取引を処理する会社を想定して国内通貨と外貨に対応しています。一般会計システムで選択した照会プログラムまたはレポートによって、取引明細テーブル(F0911)の詳細取引と勘定残高テーブル(F0902)の転記済み残高のいずれかが印刷されます。

照会プログラムおよびレポートは次のメニューからアクセスできます。

- 仕訳入力、レポート、照会(G0911)
- レポートおよびオンライン照会(G0912)

外貨建て取引について、AA(国内通貨)とCA(外貨)金額の両方がレポートに印刷されます。通貨の異なる複数の会社に対してレポートを実行すると、複数の通貨の金額が合計されるため、合計金額は意味をなしません。CA金額に複数の通貨が含まれる照会プログラムの場合も同様です。これを避けるために、レポートに異なるバッチ・バージョンを設定し、その処理オプションとデータ選択で1つのレポートには1つの通貨のみ使用するように指定してください。

また、実際に入力された以外の通貨で取引金額を表示できる照会プログラムやレポートもあります。

参照

- データの問題および不整合を見つける方法については、『一般会計』ガイドの「整合性レポート」。整合性レポートは、多通貨を使用しているかどうかにかかわらず便利なレポートです。

仮定通貨処理について

次の照会プログラムおよびレポートには、仮定通貨処理を使用して勘定科目を検討できる処理オプションが備わっています。

- 取引明細の照会(P09200)
- 勘定科目の照会(主科目別)(P09201)
- 勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)(P09202)
- 取引明細の印刷(P09200P)
- 総勘定元帳(主科目別)(R09421)
- 総勘定元帳(カテゴリ・コード別)(R09470)

国内通貨元帳(AA)またはその他の元帳に関連付けられている仮定金額を検討することができます。ただし、外貨元帳(CA)を検討する場合は、通貨を指定しない限りその合計は意味をなさないことに注意してください。これは、CA元帳に複数の通貨が含まれており、仮定処理は一度に1つの通貨のみ換算するように設計されているためです。

仮定通貨処理の利点の1つは、ディスク・スペースを必要としないことです。仮定通貨で表示したり印刷される金額はテーブルには書き込まれませんが、一時メモリに保存されます。

注:

仮定通貨による取引の検討は、残高再換算によって作成された取引を検討する場合とは異なります。仮定通貨処理は、残高再換算の目的で作られたものではありません。

国内通貨、外貨、仮定通貨建て金額の検討

勘定科目の金額は、国内通貨、外貨だけではなく、実際に金額入力に使った通貨以外の通貨でも検討することができます。たとえば、円建ての金額を米ドルで入力されたと仮定して検討することや、ユーロ建ての金額をカナダ・ドルで入力されたと仮定して検討することができます。

外貨、国内通貨、仮定通貨で金額を検討するには、次の照会プログラムを使用します。

- 取引明細の照会(P09200)
- 勘定科目の照会(主科目別) (P09201)
- 勘定科目の照会(カテゴリ・コード別) (P09202)

これらの照会プログラムを使用すると、取引明細テーブル(F0911)からの金額を、国内通貨(AA)と外貨(CA)などの2つの元帳で同時に検討することができます。詳細再換算処理を使用する場合は、AA元帳とともにレポートに使用される代替通貨元帳(XA)を検討できます。

処理オプションの設定により、次のいずれかのフォーマットで金額を検討できます。

単一元帳フォーマット	1つの元帳についてのみ金額を表示します。このフォーマットでは次の項目を検討します。 <ul style="list-style-type: none">• 国内通貨(AA)または外貨(CA)金額のみ。• 国内通貨または外貨の仮定通貨建て金額。国内通貨または外貨と仮定通貨間で金額を切り替えることができるメニュー・オプションを選択します。
二重元帳フォーマット	2つの元帳について金額を表示します。このフォーマットでは次の項目を検討します。 <ul style="list-style-type: none">• 国内通貨建て金額と外貨建て金額の両方。• 国内通貨建て金額と仮定通貨建て金額の両方。元帳タイプ1と関連付けられた仮定通貨金額のみ表示できます。

▶ 国内通貨および外貨で勘定科目を検討するには

国内通貨建て金額と外貨建て金額を同時に検討するには、処理オプションで2つの元帳を表示するように設定します。

〈仕訳入力、レポート、照会〉メニュー(G0911)から〈取引明細の照会〉を選択します。

1. 〈取引明細の処理〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 勘定科目 No.

2. 次のフィールドに値を入力します。

- 開始日付
- 終了日付

処理オプションで設定した場合は、これらのフィールドにデフォルト日付が自動入力されます。

3. 次のフィールドに“AA”と“CA”を順に入力して、[検索]をクリックします。

- 元帳タイプ 1
- 元帳タイプ 2

PeopleSoft. 取引明細の処理

選択 検索 開く フォーム ロー レポート ツール

勘定科目No. 7501.8001 Expense
元帳タイプ 1 AA CAD General Ledger 開始日付 05/01/01
元帳タイプ 2 CA 終了日付 05/06/30
補助元帳タイプ * 通貨コード *

転記済み 未転記 年累計 496,356.04

グリッドのカスタマイズ Grid Format Name1

	伝票タイプ	伝票No.	伝票会社	元帳日付	摘要	元帳タイプ1 金額	元帳タイプ1 借方	転記コード	L12 転記	元帳タイプ1 貸方	元帳タイプ2 借方	元帳タイプ2 貸方
<input type="checkbox"/>	PV	3174 00075		05/01/20	Aluminium de Rhone	78,500.00	78,500.00 P					
<input type="checkbox"/>	PV	3181 00075		05/01/30	Aluminium de Rhone	88,565.51	88,565.51 P	P			65,000.00	
<input type="checkbox"/>	PV	3175 00075		05/02/25	Farrhad Gemeinschaft	59,660.52	59,660.52 P	P				42,500.00
<input type="checkbox"/>	PV	3179 00075		05/02/25	Aluminium de Rhone	120,163.31	120,163.31 P	P				85,600.00
<input type="checkbox"/>	PV	3180 00075		05/03/25	Aluminium de Rhone	63,825.47	63,825.47 P	P				45,000.00
<input type="checkbox"/>	PV	3176 00075		05/06/30	Aluminium de Rhone	85,841.23	85,841.23 P	P				65,800.00
<input type="checkbox"/>					カラム合計	496,356.04	496,356.04					303,900.00
<input type="checkbox"/>					元帳合計	496,356.04	496,356.04					303,900.00
<input type="checkbox"/>					転記済み合計	496,356.04	496,356.04					303,900.00
<input type="checkbox"/>					未転記合計							

次のことに注意してください。

- グリッドの[元帳タイプ 1 金額]カラムには国内通貨建て金額が、[元帳タイプ 2 金額]カラムには外貨建て金額が表示されます。([元帳タイプ 2 金額]カラムを表示するには、必要に応じてグリッドを右にスクロールしてください。)
 - 見出しの[通貨コード]フィールドに*(全通貨)が入力されている場合、複数の通貨が混在するため、[元帳タイプ 2 金額]カラムの最後に表示される[カラム合計]および[元帳合計]の金額は意味をなしません。
4. 特定の外貨で[カラム合計]と[元帳合計]金額を表示するには、見出しにある次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
- 通貨コード

PeopleSoft

取引明細の処理

選択 検索 開く フォーム ロー レポート ツール

勘定科目 No. 7501.8001 Expense
 元帳タイプ 1 AA CAD General Ledger 開始日付 05/01/01
 元帳タイプ 2 CA 終了日付 05/06/30
 補助元帳タイプ * 通貨コード
☐ 未転記 ☒ 年累計 496,356.04
 転記済み すべて

伝票 タイプ	伝票 No.	伝票 会社	元帳 日付	摘要	元帳タイプ1 金額	元帳タイプ1 信方	転記 コード	LT2 転記	元帳タイプ1 貸方	元帳タイプ2 信方	元帳タイプ2 貸方
<input type="checkbox"/>	PV	3174 00075	05/01/20	Aluminium de Rhone	78,500.00	78,500.00	P				
<input type="checkbox"/>	PV	3181 00075	05/01/30	Aluminium de Rhone	88,565.51	88,565.51	P	P		65,000.00	
<input type="checkbox"/>	PV	3175 00075	05/02/25	Farhad Gemeinschaft	59,860.52	59,860.52	P	P		42,500.00	
<input type="checkbox"/>	PV	3179 00075	05/02/25	Aluminium de Rhone	120,163.31	120,163.31	P	P		85,600.00	
<input type="checkbox"/>	PV	3180 00075	05/03/25	Aluminium de Rhone	63,825.47	63,825.47	P	P		45,000.00	
<input type="checkbox"/>	PV	3176 00075	05/06/30	Aluminium de Rhone	85,641.23	85,641.23	P	P		65,800.00	
<input type="checkbox"/>				カラム合計	496,356.04	496,356.04				303,900.00	
<input type="checkbox"/>				元帳合計	496,356.04	496,356.04				303,900.00	
<input type="checkbox"/>				転記済み合計	496,356.04	496,356.04				303,900.00	
<input type="checkbox"/>				未転記合計							

▶ 国内通貨建て金額および仮定通貨建て金額を持つ勘定科目を検討するには

国内通貨建て金額と仮定通貨建て金額を同時に検討するには、処理オプションで2つの元帳を表示するように設定し、為替レート日付とデフォルト仮定通貨コード(任意)を入力します。

〈仕訳入力、レポート、照会〉メニュー(G0911)から〈取引明細の照会〉を選択します。

1. 〈取引明細の処理〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 勘定科目 No.
- 開始日付
- 終了日付

処理オプションで設定した場合は、これらのフィールドにデフォルト日付が自動入力されます。

2. 次のフィールドの両方に“AA”を入力して、[検索]をクリックします。

- 元帳タイプ 1
- 元帳タイプ 2

3. [フォーム]メニューから[仮定通貨]を選択します。

PeopleSoft

取引明細の処理

選択 検索 開く フォーム ロー レポート ツール

勘定科目 No. 70.5010 Store Sales 仮定 CAD

元帳タイプ 1 AA EUR General Ledger 開始日付 05/06/01

元帳タイプ 2 AA EUR 終了日付 05/06/30

補助元帳タイプ * 通貨コード *

☐ 未転記 ☒ 年累計 5,498.56-

転記済み すべて

元帳タイプ1 金額	元帳タイプ1 借方	転記 コード	LT2 転記	元帳タイプ1 貸方	元帳タイプ2 借方	元帳タイプ2 貸方
3,525.09-		P	P	3,525.09-		2,500
1,692.04-		P	P	1,692.04-		1,200
281.43-		P	P	281.43-		199
カラム合計	5,498.56-			5,498.56-		3,899
元帳合計	5,498.56-			5,498.56-		3,899
転記済み合計	5,498.56-			5,498.56-		3,899
未転記合計						

仮定通貨金額は[元帳タイプ 1 金額]カラムに、国内通貨金額は[元帳タイプ 2 金額]のカラムに表示されます。

▶ 国内通貨建て金額を持つ勘定科目を代替通貨で検討するには

国内通貨建て金額を仮定通貨で検討するには、処理オプションで 1 つの元帳を表示するように設定し、為替レート日付とデフォルト仮定通貨コード(任意)を入力します。

〈仕訳入力、レポート、照会〉メニュー(G0911)から〈取引明細の照会〉を選択します。

1. 〈取引明細の処理〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 勘定科目 No.
- 開始日付
- 終了日付

処理オプションで設定した場合は、これらのフィールドにデフォルト日付が自動入力されます。

2. 次のフィールドに“AA”を入力して、[検索]をクリックします。

- 元帳タイプ 1

3. [フォーム]メニューから[仮定通貨]を選択します。

[仮定通貨]メニュー・オプションによって、国内通貨と仮定通貨間で金額を切り替えることができます。

PeopleSoft

取引明細の処理

選択 検索 開く フォーム ロー レポート ツール

勘定科目 No. 70.5010 Store Sales 仮定 CAD

元帳タイプ 1 AA EUR General Ledger 開始日付 05/06/01

補助元帳タイプ * 終了日付 05/06/30

通貨コード *

年累計 5,498.56-

転記済み すべて

元帳タイプ1	元帳タイプ1	転記	LT2	元帳タイプ1	元帳タイプ2	元帳タイプ2
金額	信方	コード	転記	貸方	信方	貸方
3,525.09-		P		3,525.09-		
1,692.04-		P		1,692.04-		
281.43-		P		281.43-		
5,498.56-				5,498.56-		
5,498.56-				5,498.56-		
5,498.56-				5,498.56-		
5,498.56-				5,498.56-		

[仮定]フィールドがフォームの右上に表示されている場合は、金額を仮定通貨で表示しています。このフィールドが表示されていない場合は、金額は国内通貨で表示されています。

- 勘定科目の仮定通貨建て金額を印刷するには、仮定金額を表示している状態で[レポート]メニューから[元帳印刷]を選択します。

▶ 外貨建て金額を持つ勘定科目を代替通貨で検討するには

外貨建て金額を仮定通貨で検討するには、処理オプションで1つの元帳を表示するように設定し、為替レート日付とデフォルト仮定通貨コード(任意)を入力します。

〈仕訳入力、レポート、照会〉メニュー(G0911)から〈取引明細の照会〉を選択します。

- 〈取引明細の処理〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 勘定科目 No.
- 開始日付
- 終了日付

処理オプションで設定した場合は、これらのフィールドにデフォルト日付が自動入力されます。

- 次のフィールドに"CA"を入力します。

- 元帳タイプ 1

- 次のフィールドに値を入力し[検索]をクリックします。

- 通貨コード

CA 元帳には複数の通貨が含まれているため、通貨コードを入力しないと表示される金額は意味をなしません。仮定通貨処理は、一度に1つの通貨のみ換算するように設計されているためです。

4. [フォーム]メニューから[仮定通貨]を選択します。

[仮定通貨]メニュー・オプションによって、外貨と仮定通貨間で金額を切り替えることができます。

元帳タイプ1	元帳タイプ2	元帳タイプ3
AE	3181 00075	05/01/30 Offset By DocumentPV 311
AE	3175 00075	05/02/25 Offset By DocumentPV 311
AE	3179 00075	05/02/25 Offset By DocumentPV 311
		カラム合計
		元帳合計
		転記済み合計
		未転記合計

[仮定]フィールドがフォームの右上に表示されている場合は、金額を仮定通貨で表示しています。このフィールドが表示されていない場合は、金額は外貨で表示されています。

5. 勘定科目の仮定通貨建て金額を印刷するには、仮定金額を表示している状態で[レポート]メニューから[元帳印刷]を選択します。

▶ 通貨別に勘定残高を検討するには

取引を通貨別に勘定残高テーブル(F0902)に転記した場合、〈通貨別勘定残高〉フォームで AA 元帳と CA 元帳の勘定残高を特定の通貨で表示することができます。

〈仕訳入力、レポート、照会〉メニュー(G0911)から〈取引明細の照会〉を選択します。

1. 〈取引明細の処理〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 勘定科目 No.
- 開始日付
- 終了日付

処理オプションで設定した場合は、これらのフィールドにデフォルト日付が自動入力されます。

2. 次のフィールドに“AA”と“CA”を順に入力します。
 - 元帳タイプ 1
 - 元帳タイプ 2
3. 次のフィールドに CA 元帳金額を検討する特定の通貨を入力して、[検索]をクリックします。
 - 通貨コード

PeopleSoft®

取引明細の処理

選択 検索 開く フォーム ロー レポート ツール

勘定科目 No. 75.4110 A/P Trade Account
 元帳タイプ 1 AA CAD 開始日付 05/06/01
 元帳タイプ 2 CA 終了日付 05/06/30
 補助元帳タイプ * 通貨コード

☐ 転記済み ☒ 未転記 年累計 496,356.04- 累計 496,356.04-

Grid Format Name1

伝票 タイプ	伝票 No.	伝票 会社	元帳 日付	摘要	元帳タイプ1 金額	元帳タイプ1 信方	転記 コード	LT2 転記	元帳タイプ1 貸方	元帳タイプ2 信方	元帳タイプ2 貸方
<input type="checkbox"/>	AE	3176	00075	05/06/30 Offset By DocumentPV 31;	85,641.23-		P	P	85,641.23-		65,800
<input type="checkbox"/>				カラム合計	85,641.23-				85,641.23-		65,800
<input type="checkbox"/>				元帳合計	85,641.23-				85,641.23-		65,800
<input type="checkbox"/>				転記済み合計	85,641.23-				85,641.23-		65,800
<input type="checkbox"/>				未転記合計							

〈取引明細の処理〉に表示される取引は、取引明細テーブル(F0911)から取り込まれたものです。

4. [フォーム]メニューから[通貨残高]を選択します。

PeopleSoft®

通貨別勘定残高

選択 検索 開く フォーム ロー ツール

勘定科目コード 75,4110 A/P Trade Account

終了日付 05/06/30 ☐ 期間/日付

補助元帳タイプ *

元帳タイプ AA CAD General Ledger

累計金額	外貨累計額	期間金額	外貨期間金額	当初通貨	元帳タイプ指定通貨	外貨元帳指定通貨
496,356.04-	303,900.00-	85,641.23-	65,800.00-	***	CAD	CAD
496,356.04-		85,641.23-				

グリッドのカスタマイズ

5. 〈通貨別勘定残高〉で、グリッドの金額を検討します。

〈通貨コード別勘定残高〉フォームに表示される金額は、勘定残高テーブル(F0902)から取り込まれた転記済み金額です。

通貨別勘定残高の検討の関連タスク

<p>ビジネスユニット別 試算表の検討</p>	<p>通貨別に勘定残高を転記する場合、〈試算表/元帳比較〉フォームのビジネスユニットに関連付けられた会社について特定の通貨で勘定残高を検討することができます。</p> <p>このフォームにアクセスするには、〈レポートおよびオンライン照会〉メニュー(F0912)で〈試算表と元帳の比較〉を選択します。</p> <p>〈試算表/元帳比較〉フォームで、[勘定科目]フィールドに値を入力し、[元帳タイプ 2]フィールドに"CA"を入力してから[検索]をクリックします。[通貨コード]フィールドを*(全通貨)から特定の通貨コードに変更して再度[検索]をクリックします。</p>
------------------------------------	---

外貨建て勘定残高レポート

〈整合性レポートおよび更新〉メニュー(G0922)から〈外貨建て勘定残高〉を選択します。

〈外貨建て勘定残高〉レポート(R09707)では、勘定残高テーブル(F0902)の勘定科目情報を見ることができ、次のような理由で発生する勘定科目設定のエラーについて整合性レポートが印刷されます。

- 勘定科目が変更された。

外貨建て取引の転記後に勘定科目を非通貨勘定から通貨勘定へ変更した場合、「通貨勘定の取引(CRCD)または会社通貨コード(CRCX)が正しくありません」というエラー・メッセージがレポートに印刷されます。

外貨建て取引の転記後に勘定科目を通貨勘定から非通貨勘定へ変更した場合、「取引通貨(CRCD)が入力されましたが、PBC の AAI 範囲または通貨勘定にありません」というエラー・メッセージがレポートに印刷されます。

- AAI 項目が変更された。AAI 項目 PBCxx は、通貨別に勘定科目を転記するのに使用されます。

外貨建て取引の転記後に AAI 項目 PBCxx に勘定科目範囲を追加した場合、「PBC の AAI 範囲内の勘定科目について取引通貨フィールドに通貨が指定されていません」というエラー・メッセージがレポートに印刷されます。

AAI項目 PBCxx から勘定科目範囲を削除した場合、「取引通貨(CRCD)が入力されましたが、PBC の AAI 範囲または通貨勘定にありません」というエラー・メッセージがレポートに印刷されます。

AAI 項目 PBCxx は、通貨別に勘定科目を転記するのに使用されます。

〈外貨建て勘定残高〉レポートをテスト・モードで実行すると、エラーのある勘定科目の一覧が印刷されます。レポートに印刷された勘定科目の設定が正しく、不注意により変更されていないことを確認してください。必要に応じてエラーを修正し、レポートをテスト・モードで再実行します。

〈外貨建て勘定残高〉レポートを最終モードで実行すると、CA レコードが削除されます。最終モードで実行する際は、次の処理も行う必要があります。

- 〈取引明細の再転記〉プログラム(R099102)を実行して、正しい CA および AA レコードを作成する。
- F0902 テーブルで問題のある AA レコードを削除する(外貨建て勘定残高テーブルで CA レコードを削除する際にはこの処理は実行されません)。この処理は必ずデータベース管理者が行うようにしてください。
- 〈外貨建て勘定残高〉レポートをテスト・モードで再実行して、エラー・メッセージが印刷されないことを確認する。

処理オプション: 外貨建て勘定残高(R09707)

モード・タブ

処理

1. 対応する AA 元帳タイプのレコードがない CA 元帳タイプのレコードを削除するかどうかを指定してください。

1 = 削除する

ブランク = 削除しない

参照

- 通貨以外の情報については『Tax Reference (税リファレンス)』ガイドの「Tax Summary Report (税集計レポート)」
- 通貨以外の情報については『Tax Reference (税リファレンス)』ガイドの「Vat Exception Report by Tax Area (税域別税例外レポート)」

